

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（140）

南九州西回り自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（X X IX）

（伊集院IC～市来IC間）

いち の はら
市ノ原遺跡

（第3地点）

（鹿児島県日置市東市来町）

（第Ⅲ分冊）

2009年3月
鹿児島県立埋蔵文化財センター

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書
（140）

市ノ原遺跡
（第3地点）

第Ⅲ分冊

二〇〇九年三月
鹿児島県立埋蔵文化財センター



鹿児島県

目 次 (第Ⅲ分冊)

第 章 弥生時代の調査	5	第 2 節 古代の遺物	110
第 1 節 遺構	5	第 3 節 中世の遺物	124
第 2 節 遺物	24	第 4 節 土坑・ピット群の調査	135
第 章 古墳時代の調査	52	第 章 近世の調査	163
第 1 節 遺構	52	第 1 節 遺物	163
第 2 節 遺物	63	第 章 科学分析	173
第 章 古代から中世の調査	88	遺物観察表	192
第 1 節 遺構	88	第 章 発掘調査のまとめ	256

挿 図 目 次

第 1 図 弥生時代住居跡位置図	6	第 25 図 弥生時代甕形土器 (5)	32
第 2 図 弥生時代 1 号住居跡	7	第 26 図 弥生時代甕形土器 (6)	33
第 3 図 弥生時代 1 号住居跡遺物出土状況	8	第 27 図 弥生時代甕形土器 (7)	34
第 4 図 弥生時代 1 号住居跡内遺物 (1)	9	第 28 図 弥生時代甕形土器 (8)	35
第 5 図 弥生時代 1 号住居跡内遺物 (2)	10	第 29 図 弥生時代甕形土器 (9)	36
第 6 図 弥生時代 1 号住居跡内遺物 (3)	11	第 30 図 弥生時代甕形土器 (10)	37
第 7 図 弥生時代 1 号住居跡内遺物 (4)	12	第 31 図 弥生時代甕形土器 (11)	38
第 8 図 弥生時代 2 号住居跡	13	第 32 図 弥生時代甕形土器 (12)	39
第 9 図 弥生時代 2 号住居跡遺物出土状況	14	第 33 図 弥生時代甕形土器 (13)	40
第 10 図 弥生時代 2 号住居跡内遺物	14	第 34 図 弥生時代甕形土器 (14)	41
第 11 図 弥生時代 3 号住居跡	15	第 35 図 弥生時代甕形土器 (15)	42
第 12 図 弥生時代 3 号住居跡周辺ピット	16	第 36 図 弥生時代甕形土器 (16)	43
第 13 図 弥生時代 3 号住居跡内遺物 (1)	17	第 37 図 弥生時代甕形土器 (17)	44
第 14 図 弥生時代 3 号住居跡内遺物 (2)	18	第 38 図 弥生時代壺形土器 (1)	45
第 15 図 弥生時代 4 号住居跡	19	第 39 図 弥生時代壺形土器 (2)	46
第 16 図 弥生時代 4 号住居跡内遺物 (1)	20	第 40 図 弥生時代壺形土器等 (3)	47
第 17 図 弥生時代 4 号住居跡内遺物 (2)	21	第 41 図 弥生時代土器底部 (1)	48
第 18 図 弥生時代貝層を含む土坑位置図	22	第 42 図 弥生時代土器底部 (2)	49
第 19 図 貝層を含む土坑及び遺構内遺物	23	第 43 図 弥生時代土器底部 (3)	50
第 20 図 弥生土器出土状況	25	第 44 図 古墳時代住居跡位置図	51
第 21 図 弥生時代甕形土器 (1)	28	第 45 図 古墳時代 1 号住居跡	52
第 22 図 弥生時代甕形土器 (2)	29	第 46 図 古墳時代 1 号住居跡遺物出土状況	53
第 23 図 弥生時代甕形土器 (3)	30	第 47 図 古墳時代 1 号住居跡内遺物	54
第 24 図 弥生時代甕形土器 (4)	31	第 48 図 古墳時代 2 号住居跡	55

第 49 図	古墳時代 2 号住居跡内遺物	56	第 86 図	溝及び硬化面位置図	100
第 50 図	古墳時代 3 号住居跡	57	第 87 図	溝内遺物 (1)	101
第 5 図	古墳時代 3 号住居跡内遺物	58	第 88 図	溝内遺物 (2)	102
第 52 図	古墳時代 3・4 号住居跡内遺物	59	第 89 図	道跡 1, 2	103
第 53 図	古墳時代 4 号住居跡	60	第 90 図	道跡出土遺物	104
第 54 図	貝層を含む土坑及び散布域位置図	61	第 91 図	焼土跡位置図	105
第 55 図	貝層を含む土坑及び遺構内遺物	62	第 92 図	焼土跡 1 ~ 4	106
第 56 図	古墳時代甕形土器 (1)	63	第 93 図	焼土跡 5, 6	107
第 57 図	古墳時代土器出土状況	64	第 94 図	焼土跡 5 出土遺物	107
第 58 図	古墳時代甕形土器 (2)	66	第 95 図	焼土跡 7 及び出土遺物	108
第 59 図	古墳時代甕形土器 (3)	67	第 96 図	焼土跡 8 ~ 10	109
第 60 図	古墳時代甕形土器 (4)	68	第 97 図	土師器埋納土坑及び遺物	109
第 61 図	古墳時代甕形土器 (5)	69	第 98 図	古代土師器 (1) 鉢, 埴	110
第 62 図	古墳時代甕形土器 (6)	71	第 99 図	古代遺物出土状況	111
第 63 図	古墳時代甕形土器 (7)	72	第 100 図	古代土師器 (2) 埴	112
第 64 図	古墳時代甕形土器 (8)	73	第 101 図	古代土師器 (3) 埴	113
第 65 図	古墳時代甕形土器 (9)	74	第 102 図	古代土師器 (4) 埴	114
第 66 図	古墳時代甕形土器 (10)	75	第 103 図	古代土師器 (5) 坏	115
第 67 図	古墳時代甕形土器 (11)	76	第 104 図	古代土師器 (6) 鉢	116
第 68 図	古墳時代壺形土器 (1)	77	第 105 図	古代土師器 (7) 甕	117
第 69 図	古墳時代壺形土器 (2)	79	第 106 図	古代土師器 (8) 甕	118
第 70 図	古墳時代壺形土器 (3)	80	第 107 図	古代土師器 (9) 甕	119
第 71 図	古墳時代壺形土器 (4)	81	第 108 図	古代墨書, 籠書土器	120
第 72 図	古墳時代壺形土器 (5)	82	第 109 図	古代須惠器 (1) 皿, 蓋, 甕	121
第 73 図	古墳時代壺形土器 (6)	83	第 110 図	古代須惠器 (2) 甕	122
第 74 図	古墳時代小形土器, 匙形土器	84	第 111 図	古代須惠器 (3) 甕, 鉢, 壺	123
第 75 図	古墳時代鉢形土器	85	第 112 図	中世遺物出土状況	125
第 76 図	古墳時代高坏形土器	86	第 113 図	中世土師器 (1) 埴, 坏	126
第 77 図	古墳時代小形土器等	87	第 114 図	中世土師器 (2) 坏, 皿	127
第 78 図	掘立柱建物跡位置図	89	第 115 図	中世土師器 (3) 皿	128
第 79 図	掘立柱建物跡位置図 1 ~ 6 号	90	第 116 図	中世須惠器	129
第 80 図	掘立柱建物跡 1, 2 号	91	第 117 図	瓦質土器 (1)	130
第 81 図	掘立柱建物跡 3, 4 号	92	第 118 図	瓦質土器 (2)	131
第 82 図	掘立柱建物跡 5, 6 号	93	第 119 図	備前焼・青磁	132
第 83 図	掘立柱建物跡位置図 7 ~ 17 号	94	第 120 図	青磁, 白磁, 青花	133
第 84 図	掘立柱建物跡位置図 18, 19 号	95	第 121 図	土製品, 石製品	134
第 85 図	溝位置図	99	第 122 図	層土坑位置図	136

第12図	層土坑位置図	137	第14図	層土坑位置図	153
第12図	層土坑位置図	138	第14図	全ビット群位置図	154
第12図	層土坑位置図	139	第14図	ビット群位置図(1)	155
第12図	層土坑	140	第14図	ビット群位置図(2)	156
第12図	層土坑	141	第14図	ビット群位置図(3)	157
第12図	E - 39 h層土坑位置図	142	第14図	ビット群位置図(4)	158
第12図	h層土坑(1)	142	第14図	ビット群位置図(5)	159
第13図	h層土坑(2)	143	第14図	ビット群位置図(6)	160
第13図	h層土坑(3)	144	第15図	ビット群位置図(7)	161
第13図	h層土坑(4)	145	第15図	ビット群位置図(8)	162
第13図	h層土坑(1)	146	第15図	近世遺物(1)陶器	164
第13図	h層土坑(2)	147	第15図	近世遺物(2)陶器	165
第13図	h層土坑(3)	148	第15図	近世遺物(3)陶器	166
第13図	E - 29 層土坑位置図	149	第15図	近世遺物(4)陶器	167
第13図	層土坑(1)	149	第15図	近世遺物(5)陶器	168
第13図	層土坑(2)	150	第15図	近世遺物(6)陶器等	169
第13図	層土坑(3)	151	第15図	近世遺物(7)陶製品	170
第14図	層土坑(4)	152	第15図	近世遺物(8)陶製品	171
第14図	層土坑及び遺構内遺物	152	第16図	近世遺物(9)銭貨	172

表 目 次

第1表	掘立柱建物跡計測表(1)	97	第16表	縄文時代土器観察表(5)	204
第2表	掘立柱建物跡計測表(2)	98	第17表	縄文時代土器観察表(6)	205
第3表	旧石器時代石器観察表(1)	192	第18表	縄文時代土器観察表(7)	206
第4表	旧石器時代石器観察表(2)	193	第19表	縄文時代土器観察表(8)	207
第5表	旧石器時代石器観察表(3)	194	第20表	縄文時代土器観察表(9)	208
第6表	旧石器時代石器観察表(4)	195	第21表	縄文時代土器観察表(10)	209
第7表	旧石器時代石器観察表(5)	196	第22表	縄文時代土器観察表(11)	210
第8表	旧石器時代石器観察表(6)	197	第23表	縄文時代土器観察表(12)	211
第9表	旧石器時代石器観察表(7)	198	第24表	縄文時代土器観察表(13)	212
第10表	旧石器時代石器観察表(8)	199	第25表	縄文時代土器観察表(14)	213
第11表	縄文時代遺構内遺物観察表	200	第26表	出土石器観察表(1)	214
第12表	縄文時代土器観察表(1)	200	第27表	出土石器観察表(2)	215
第13表	縄文時代土器観察表(2)	201	第28表	出土石器観察表(3)	216
第14表	縄文時代土器観察表(3)	202	第29表	出土石器観察表(4)	217
第15表	縄文時代土器観察表(4)	203	第30表	出土石器観察表(5)	218

第 3 表	出土石器觀察表 (6)	219	第 5 表	弥生時代土器觀察表 (1)	241
第 3 表	出土石器觀察表 (7)	220	第 5 表	弥生時代土器觀察表 (2)	242
第 3 表	出土石器觀察表 (8)	221	第 5 表	弥生時代土器觀察表 (3)	243
第 3 表	出土石器觀察表 (9)	222	第 5 表	弥生時代土器觀察表 (4)	244
第 3 表	出土石器觀察表 (10)	223	第 5 表	弥生時代土器觀察表 (5)	245
第 3 表	出土石器觀察表 (11)	224	第 5 表	古墳時代遺構内土器觀察表	246
第 3 表	出土石器觀察表 (12)	225	第 6 表	古墳時代遺構内石器觀察表	246
第 3 表	出土石器觀察表 (13)	226	第 6 表	古墳時代土器觀察表 (1)	246
第 3 表	出土石器觀察表 (14)	227	第 6 表	古墳時代土器觀察表 (2)	247
第 4 表	出土石器觀察表 (15)	228	第 6 表	古墳時代土器觀察表 (3)	248
第 4 表	出土石器觀察表 (16)	229	第 6 表	古代・中世遺構内遺物觀察表	249
第 4 表	出土石器觀察表 (17)	230	第 6 表	古代土器觀察表 (1)	250
第 4 表	出土石器觀察表 (18)	231	第 6 表	古代土器觀察表 (2)	251
第 4 表	出土石器觀察表 (19)	232	第 6 表	古代土器觀察表 (3)	252
第 4 表	出土石器觀察表 (20)	233	第 6 表	中世土器觀察表 (1)	252
第 4 表	出土石器觀察表 (21)	234	第 6 表	中世土器觀察表 (2)	253
第 4 表	出土石器觀察表 (22)	235	第 7 表	中世磁器觀察表	254
第 4 表	出土石器觀察表 (23)	236	第 7 表	中世土製品觀察表	254
第 4 表	出土石器觀察表 (24)	237	第 7 表	中世石製品觀察表	254
第 5 表	出土石器觀察表 (25)	238	第 7 表	近世陶磁器觀察表	255
第 5 表	出土石器觀察表 (26)	239	第 7 表	近世陶製品觀察表	255
第 5 表	弥生時代遺構内土器觀察表	240	第 7 表	近世錢貨觀察表	255
第 5 表	弥生時代遺構内石器觀察表	240			

第Ⅵ章 弥生時代の調査

弥生時代の調査は層の堆積に安定性を欠くため、一層にかけて土器を中心に石器等の遺物の出土が見られたが、中心となる包含層は a・b層で、遺構は b層で検出されている。確認された遺構は竪穴住居跡 4軒と貝溜り土坑 1基である。

第1節 遺構

1 竪穴住居跡（第1図）

調査区内で4軒検出された。検出区域はある程度まとまっており、E-H・30-34区で確認された。

1号住居跡（第2・3図）

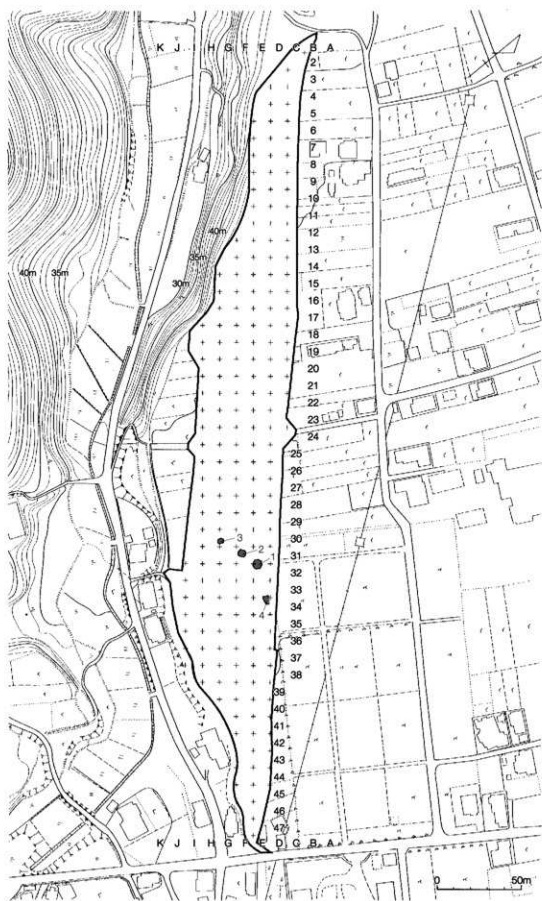
E・31・3区の b層で検出された。長軸5.5m短軸5.3mの円形に近いプランで、4軒検出された竪穴住居跡のなかで最も面積が広い。検出面からほぼフラットな床面まで約40-46cmを測る。床面にピットが1基検出された。主柱穴ははっきりしないが、ほぼ中央部に深さ約25cmのP1があり、周辺にP2とP3がある。P3は検出面より65cmの深さを測る。その他のピット7基は壁際に位置する。埋土は細かい軽石が混ざる暗茶褐色土の単一層で細かい粒子で粘性が見られず、鬼界カルデラ起源の通称アカホヤ火山灰の腐植土と考えられる。

1号住居跡出土遺物（第4-7図）

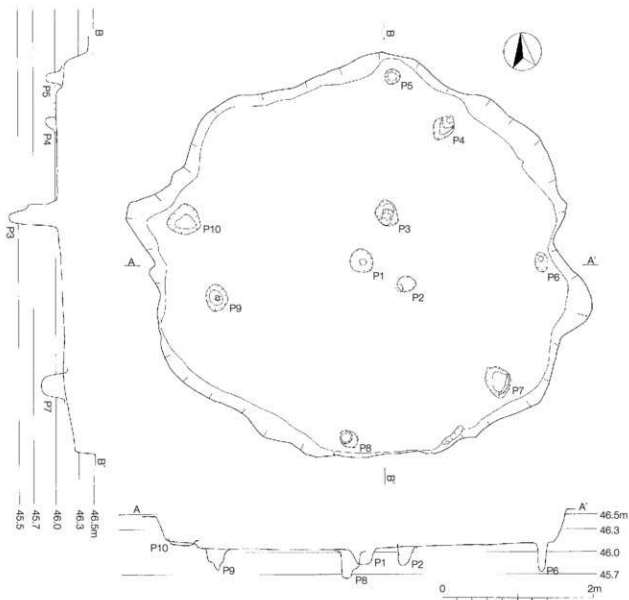
1-16は甕形土器である。1は完形に復元できた資料である。口唇部外面に小振りな刻目のある断面三角形の突帯を貼り付ける。胴部はやや丸みをおび、外面に概ね縦方向のハケ目調整を施す。2-5・12は口唇部外側に断面が台形の突帯を貼り付け、胴部は緩やかに張る。突帯の先端は2-4・12は凹んでおり、5は刻目を有する。6・7・10は口唇部外側の突帯が斜上方に傾き、口縁内端部が張り出す。14は緩やかに張る胴部の上位に、断面三角形の握みあげた絡縄状の突帯を4本貼り付ける。胴部の最大径は突帯の下位で求められる。15・16は脚部である。外面はヘラミガキで仕上げられ、底面は上げ底である。17・18は高坏の口縁部である。共に器壁は薄く丁寧なナデ調整で仕上げる。口縁内端部が強く張り出し、外へ張り出した口唇部が凹む。18の口縁部はやや垂れ下がる。19は広口壺の口縁部である。18の口縁部と同様にやや垂れ下がり、口唇部が凹む。20・21は壺形土器の肩部である。外面は共に丹塗りであり、同一個体であるかもしれない。24・25は安山岩製の石皿である。24は被熱により赤化し、ひび割れが見られる。25は半分近くを欠損する。敲打による痘痕状の凹みを有するので台石として使われていたと考えられる。

2号住居跡（第8・9図）

F・3区の b層で検出された。後世の芋穴と削平により北西と南西側の一部が切られるが、直径が4.2-4.5mの円形に近いプランであると考えられる。検出面から床面まで約10-20cmを測る。床面にピットが5基検出された。P1-P4は床面にほぼ四角形に並び主柱穴であると考えられる。これらのピットの検出面からの深さは平均で約74cmである。中央に焼土域があり、その脇にP3がある。この形状から床面中央に炉があり、その両脇にピットを有するいわゆる松菊里タイプの住居である可能性が考えられる。埋土は暗茶褐色土の単一層で細かい粒子で粘性が見られず、鬼界カル



第1圖 弥生時代住居跡位置圖



第2図 弥生時代1号住居跡

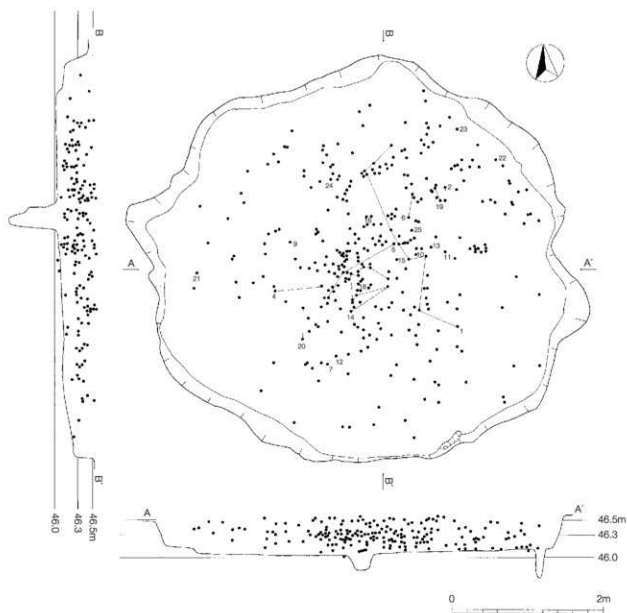
テラ起源の通称アカホヤ火山灰の腐植土と考えられる。2号住居跡の南東側にピットが4基検出されたがこの遺構との関係は不明である。

2号住居跡出土遺物（第10図）

26・27は壺形土器の口縁部である。26は外に張り出した断面台形の突帯の先端が凹む。27は2号住居跡のすぐ横で出土した資料であるが遺構内遺物として掲載した。口縁部上面には管状の工具で刺突した連点文を有し、在地の壺形土器にはあまり見られないものである。26は壺形土器の底部である。外面はヘラミガキで調整される。内面は痘痕状の剝離が見られる。

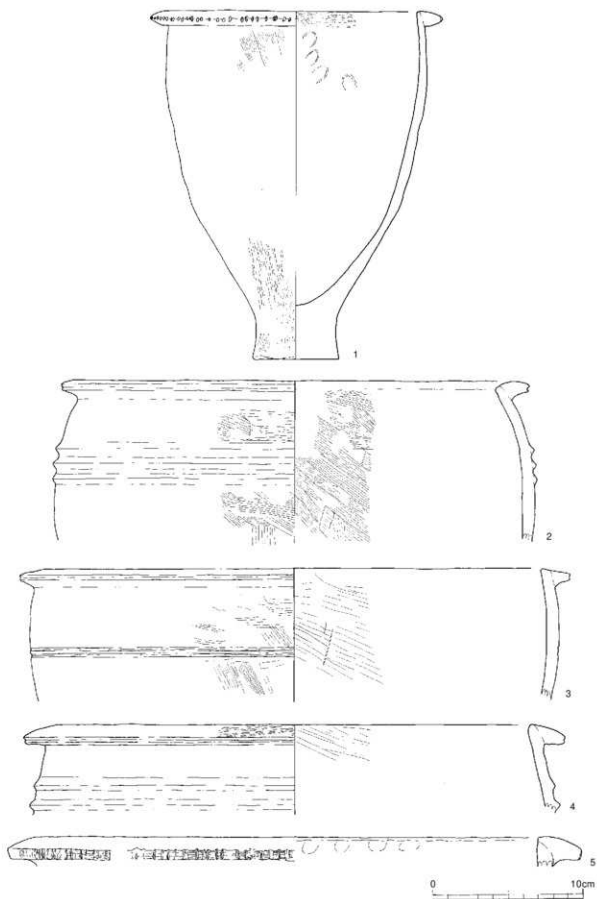
3号住居跡（第11・12図）

G・H・3区の 4層で検出された。後世の芋穴により南西側の一部が切られるが、直径が33-

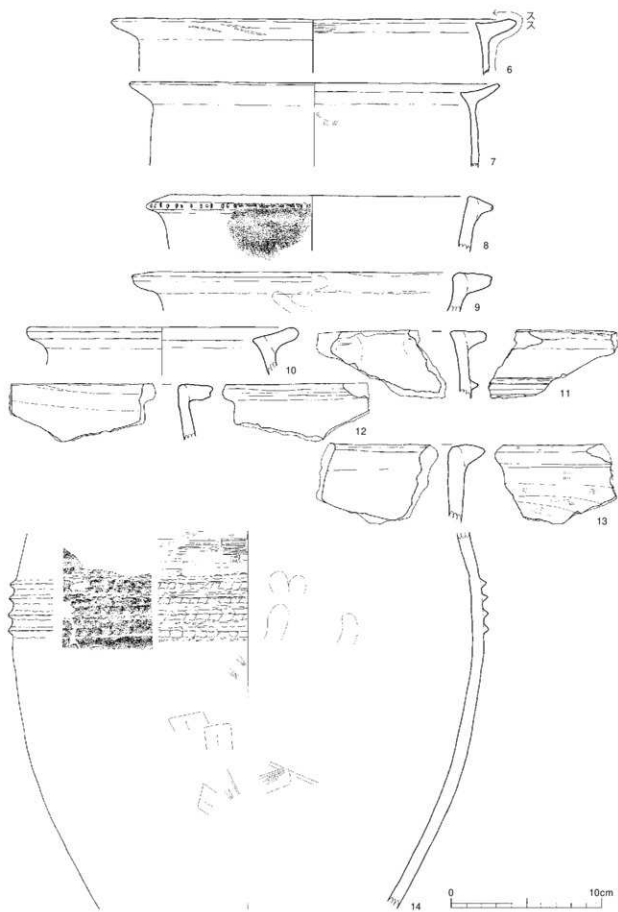


第3図 弥生時代1号住居跡遺物出土状況

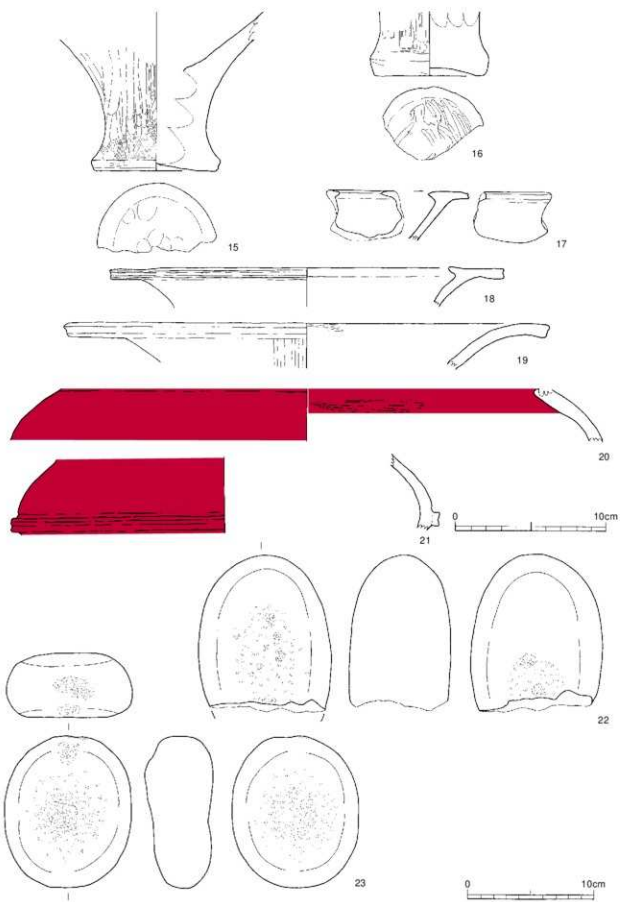
35mの円形に近いプランであると考えられる。検出面から床面まで約20～25mを測る。床面にピットが9基検出された。主柱穴ははっきりしないが、床面のほぼ中央部に深さ約50cmのP2があり、その北西方向に焼土域が隣接する。この形状から2号住居跡と同様に松菊里タイプの住居である可能性が考えられる。このP2と焼土域の北側には硬化面が囲むように広がる。他の8基のピットは南東側床面を除く周囲に位置する。埋土は暗茶褐色土の単一層で細かい粒子で粘性が見られず、鬼界カルデラ起源の通称アカホヤ火山灰の腐植土と考えられる。また本遺構は周囲を取り囲むように18基のピットがあるという特徴がある。垂木用のピットであると考えられるが、深さは18～12cmと様々である。いくつかは樹根の可能性も排除できないが、他の住居跡の周囲には見られないことから、本遺構の性格や機能、あるいは時期の差として捉えることができるかもしれない。



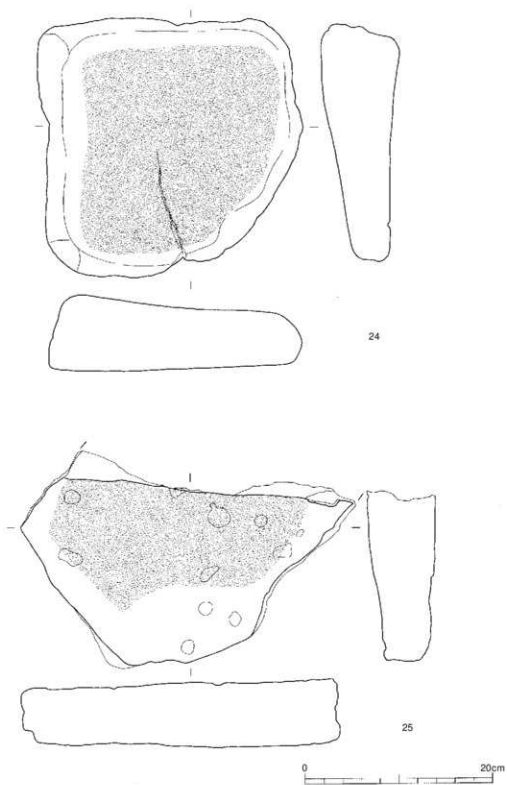
第4図 弥生時代1号住居跡内遺物(1)



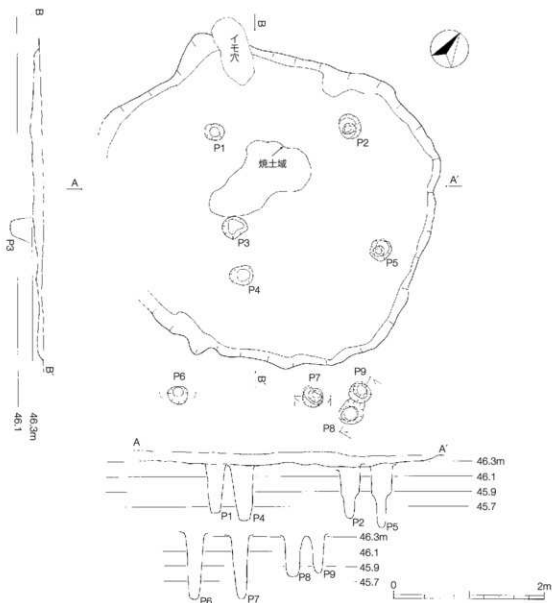
第5図 弥生時代1号住居跡内遺物(2)



第6図 弥生時代1号住居跡内遺物(3)



第7図 弥生時代1号住居跡内遺物(4)



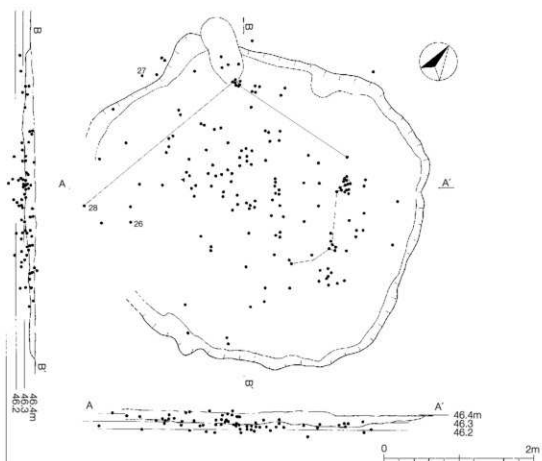
第8図 弥生時代2号住居跡

3号住居跡出土遺物(第13・14図)

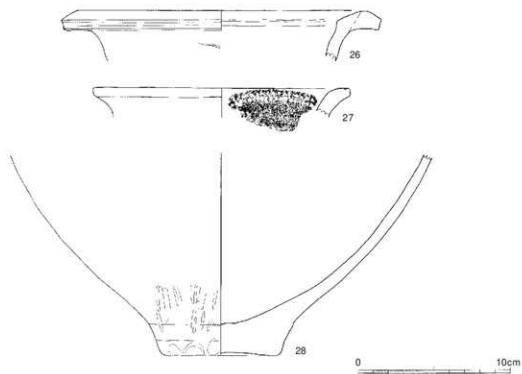
29・31は焼形土器である。29・31・34は僅かに垂れ下がる断面台形の突帯の先端に刻み目を有する。29・34は胴部上位に沈線が施され、31は刻目突帯を2条有する。30・32は口縁部の断面台形の突帯の先端が凹み、胴部上位に断面三角形の突帯を1条有する。37は3号住居跡の北側に位置するP17より出土した資料で頁岩製の磨製石鏃である。表裏面共に主に斜め方向に丁寧に研磨されており、断面はレンズ状を呈する。基部は縦方向の研磨により浅い抉りが見られる。

4号住居跡(第15図)

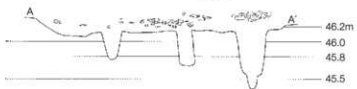
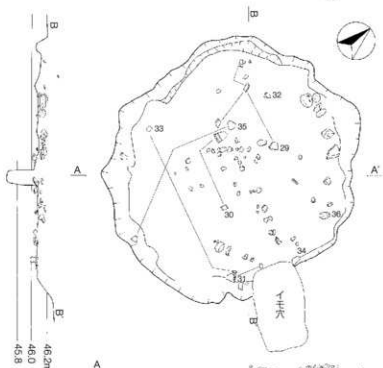
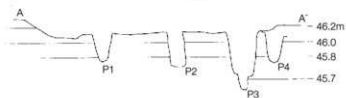
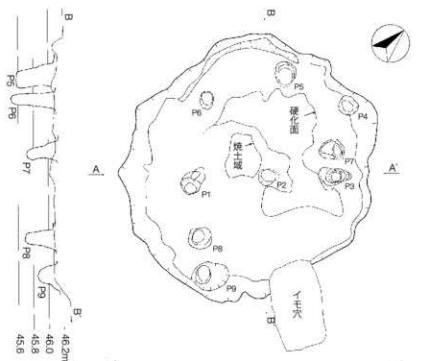
E - 33・3区のb層で検出された。4軒のなかで最も東側に位置するのが本遺構である。後世の攪乱により北西部部分と北東部分が切られるが、長軸3.8m短軸3.4mのほぼ方形に近いプランであり、円形に近いプランである他の3軒とは様相が異なるがこれは本遺構の性格や機能、あるいは時



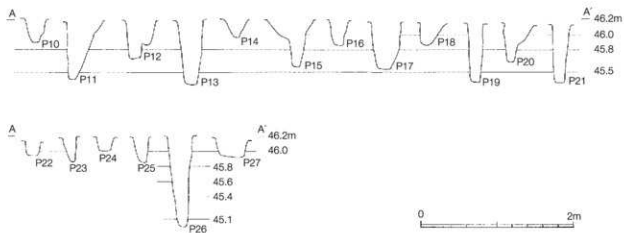
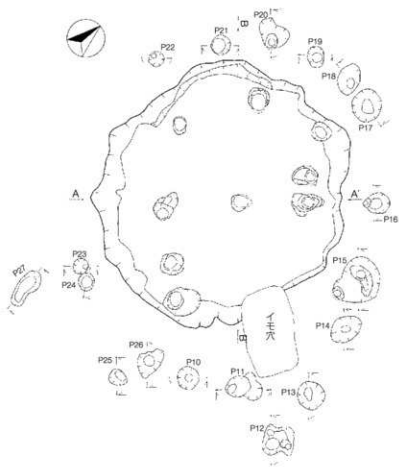
第9図 弥生時代2号住居跡遺物出土状況



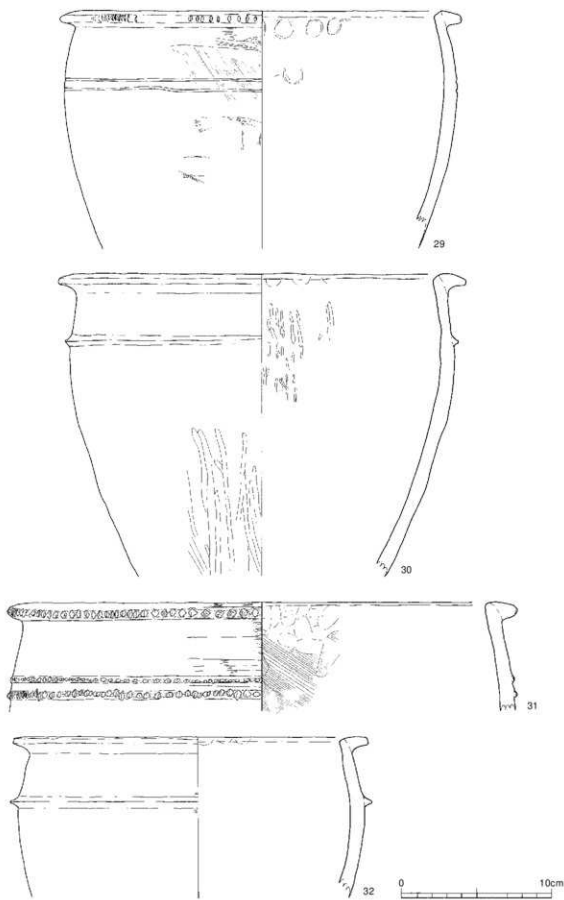
第10図 弥生時代2号住居跡内遺物



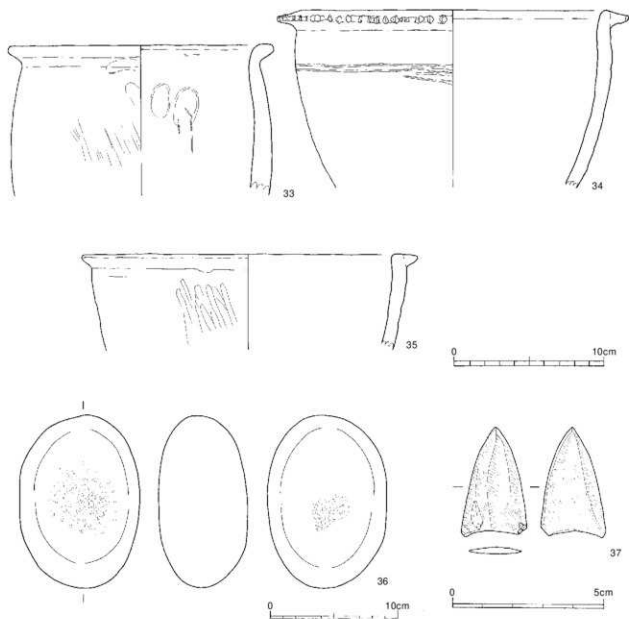
第1図 弥生時代3号住居跡



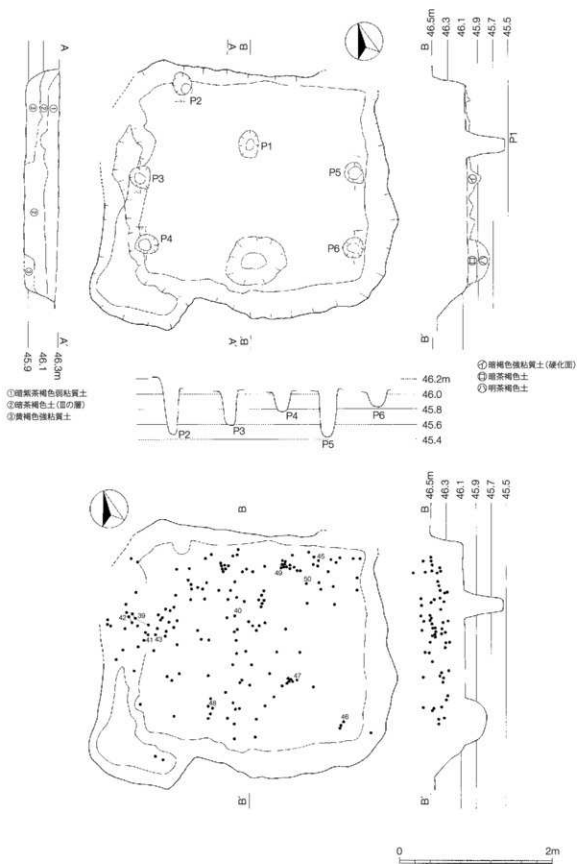
第14図 弥生時代3号住居跡周辺ビット



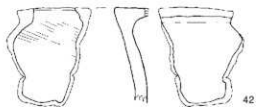
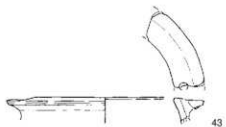
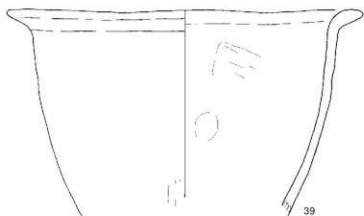
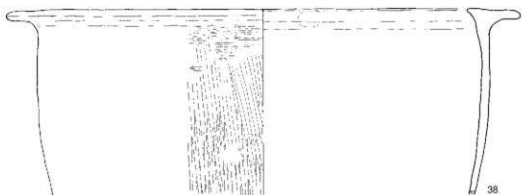
第1図 弥生時代3号住居跡内遺物(1)



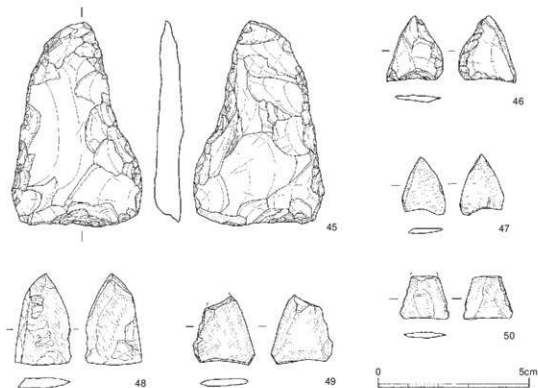
第14図 弥生時代3号住居跡内遺物(2)



第1図 弥生時代4号住居跡



第16図 弥生時代4号住居跡内遺物(1)

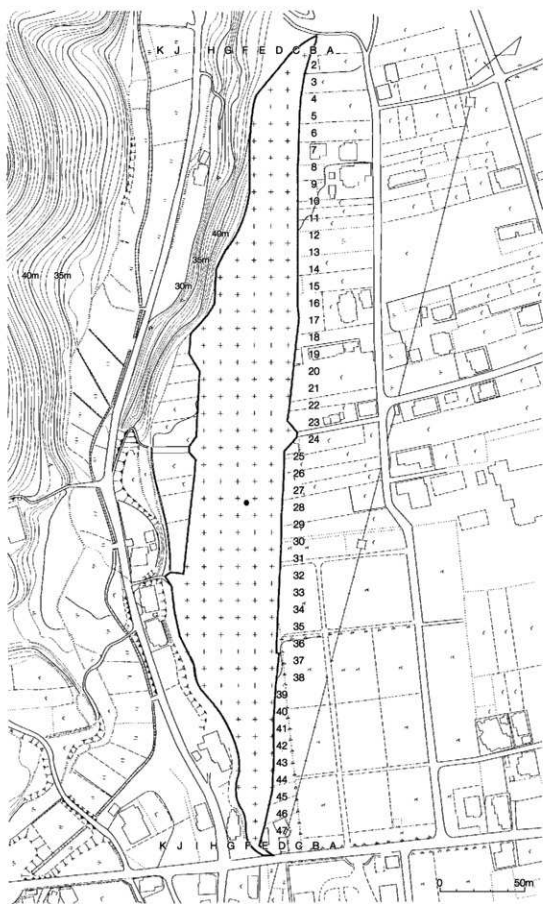


第17図 弥生時代4号住居跡内遺物(2)

期の差として捉えることができるかもしれない。検出面から床面まで約45～50cmを測り、床面はほぼ全面で硬化している。これは当時の生活面であると考えられる。南西側と西側に2箇所張り出し部を有すると考えられるが後世の攪乱により形状は不明である。床面にビット6基と土坑1基が検出された。P1以外のビットはいずれも壁際に位置する。特にP3～P6は東西の壁際に対比して位置するため、柱穴であると考えられる。土坑は南側に位置し、長軸80cm短軸64cm深さ28cmである。詳しい用途については不明であるが貯蔵の可能性も考えられる。住居跡内の埋土は4層に分かれ、概ねレンズ状の堆積を見る。

4号住居跡出土遺物(第16・17図)

38～44は甕形土器である。38は口唇部外側の突帯が逆L字状を呈し、口縁内端部が尖り気味に突出する。器壁は薄く外面は顕著なハケメ調整が施される。43・44は口径が11cm未満の小型の甕で、突帯の先端が凹む。43は口縁部に穿孔がある。45・46は磨製石鏃の未製品である。剥離で縁辺調整をおこなっている。47～50は磨製石鏃である。45～49は赤色頁岩製で50は頁岩製である。46の左側面は研磨で成形され、右側面と下面は剥離で成形される。48は平基である。49・50は先端部を欠損している。



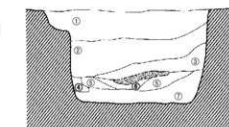
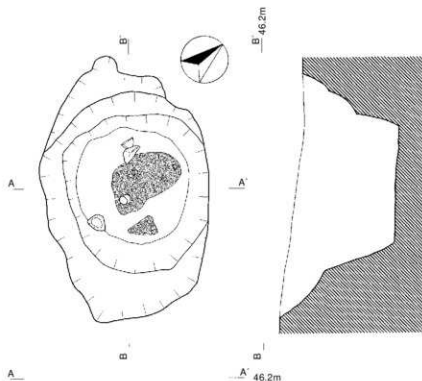
第18図 弥生時代貝層を含む土坑位置図

2 貝層を含む土坑 (第19図)

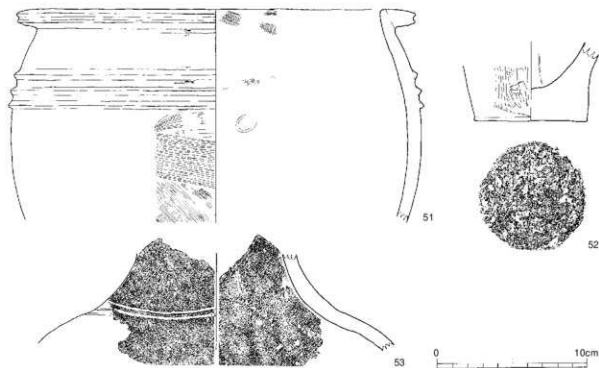
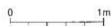
F・28区のb層で検出された。28.18mの長円形の掘込みで、検出面からの深さは約1mを測る。二段掘りになっており、床面はほぼフラットである。床面から20~30cmの高さに貝層があり、貝殻約136kgが検出された。貝層の上面に弥生時代の甕(51・52)と壺(53)が出土したため弥生時代の遺構として掲載した。

下記の4科5種が確認された。

ウミナナ科クロヘタナリ
タマガイ科ソメワケツメタ
イガイ科シロインコガイ
マルスダレガイ科イオウハマグリ
イタボガキ科ノコギリガキ



- ① 暗茶褐色土
- ② 薄黄褐色土(含炭化物)
- ③ 黒褐色土(含炭化物)
- ④ 乳白色土
- ⑤ 暗黄褐色土(含炭化物)
- ⑥ 黒褐色土
- ⑦ 薄黄褐色土(含炭化物/ミス)



第19図 貝層を含む土坑及び遺構内遺物

第2節 遺物

主な包含層は a・b層である。礫石器等は明確な時代の特定は困難であったため、別章で類別に掲載しているため、ここでは土器の掲載に留めたい。分布状況は調査区東側で比較的多く出土している。器種は甕形土器、鉢形土器、壺形土器、高坏で、小片で器種不明のものが数点見られた。

甕形土器（第2図54～38図199）

甕形土器の全体形状が不明のものが多いが、口縁部の形状で分類を行い1～10類に分類した。

1類（第2図）

胴部上位が「く」の字状に内側に屈曲する。口唇部からわずかに下がったところと屈曲部に刻目の入った断面三角形の突帯を貼り付ける。屈曲部に突帯を有しないものもある。

53の器壁は内外面共に剥落している。56の突帯は横に大きく張り出す。58は屈曲部に突帯を有しない。60は丁寧なナデを行い、口縁部はわずかに外反する。

2類（第2図～第2図）

胴部上位が「く」の字状に内側に屈曲する。口唇部の外側と胴部の屈曲部付近に刻目の入った断面三角形の突帯を貼り付ける。比較的大振りの刻目を有するものをA類。小振りな刻目または刻目を有しないものをB類とした。胴部に沈線紋を有するものや、口縁部や胴部に数条の刻目突帯を有するものもある。

2-A類（第2図～第2図）

62の胴部上位には煤が付着する。63の内面器壁は痕跡状に剥落する。61と63は同一個体の可能性がある。64の口縁部は外反する。65の口縁部は波状になる可能性がある。68の突帯は特に上向きで、胴部は屈曲が無く緩やかに張るものである。70と71の外面には数条の沈線が山形や斜位に施される。72は口縁部に2条の刻目突帯を有する。73～75の全体形状は明らかでないが、胴部に数条の刻目突帯を有する。

2-B類（第2図）

76～80は刻目のない断面三角形の突帯を口縁部に有する。77の口唇部の突帯は貼り付けずに摘みだしたものである。81と82の口縁部は外反し、口唇部に沈線を有する。

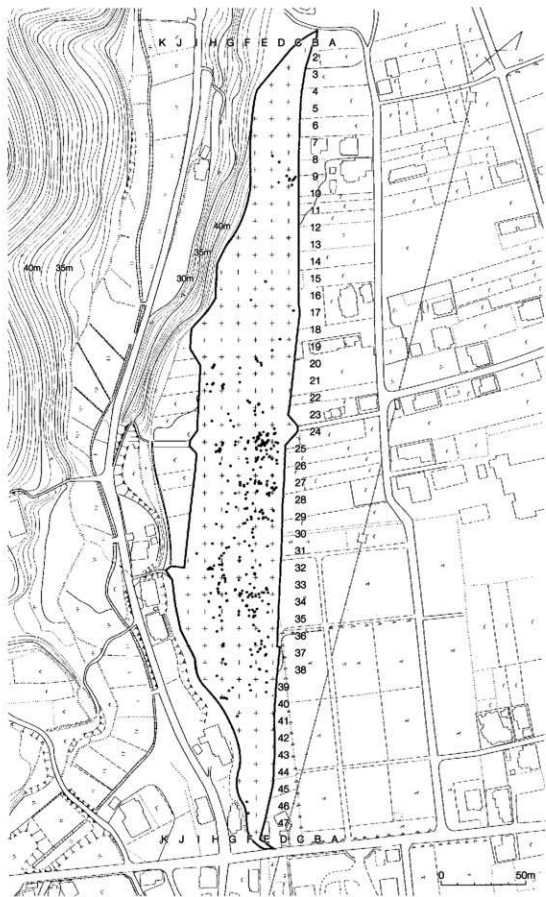
3類（第2図～第2図）

胴部はあまり張らずに底部に向かって砲弾形にすぼまるものや、緩やかに膨らむものがある。口唇部の外側と胴部に刻目の入った断面三角形の突帯を貼り付ける。口縁部内に弱い張り出しを有するものもある。

84～88は口唇部に丁寧なナデを施し、平坦にしている。88と89は口縁部から底部に向かってすぼまる形状を呈し、胴部には突帯を施さない。98は未貫通の補修孔と貫通した補修孔を有する。107～109は摘みだした突帯を有し、口縁部内面に弱い張り出し部を有する。他の類土器と時期差があるのかもしれない。111は胴部に張りが無く砲弾形を呈すると考えられる器形である。痕跡状に内面器壁が剥落する。

4類（第3図～第3図）

口縁部は外側に緩やかに外反する。断面は如意形を呈し、刻目を有する。胴部はあまり張らずに底部に向かって砲弾形にすぼまるものや、緩やかに膨らむものがある。胴部に刻目の入った断面三



第20図 弥生土器出土状況

角形の突帯を貼り付けるものもある。119は小さい刻目を密に施す。118は外面に指頭痕が明瞭に残る。125・126・137の外面は器面調整用の工具痕が残る。

5類(第33図～第35図)

口唇部外側に断面が三角形あるいは台形の突帯を貼り付ける。突帯の先端に刻目を施すものと凹んでいるものがある。胴部は緩やかに張り、沈線や刻目突帯を有するものがある。口唇部外側の突帯が水平に外反しているものをA類。下方に向かってやや垂れ下がっているものをB類とした。

5 - A類(第33図～第34図 152)

140の外面は斜位にハケメ調整痕が残る。142・143の突帯の下面接合部分には指頭痕が明瞭に残る。147は胴部が大きく張る。149の突帯は先端部が凹んでいる。

5 - B類(第34図 153～第35図 164)

156は痘痕状に内面器壁が剥落する。160は胴部に2本以上の突帯を有する。161・163の突帯の下面接合部分には指頭痕が残る。164は胴部下位が最大径となる。

6類(第35図 165・166)

口唇部外側に断面が台形の突帯を貼り付ける。突帯の先端は凹みがある。胴部は緩やかに張り、断面が三角形の小さな突帯を数本貼り付ける。

7類(第35図 167)

口唇部外側に厚く断面が概ね三角形の突帯を貼り付ける。胴部は緩やかに張り、断面三角形の積みあげた絡縄状の突帯を胴部上位に4本貼り付ける。胴部は突帯の下位に最大径を有し、内外面を丁寧にヘラミガキで調整する。

8類(第36図)

口唇部外側の突帯が逆L字状を呈する。突帯が水平に張り出すものとやや垂れ気味に張り出すものがある。口縁内端部が尖り気味に突出する。胎土は精緻で器壁が薄い。

168はやや内側に張り出した平坦な逆L字状の口縁を持つ。口縁外端部は凹んでいる。胴部はあまり張らず、底部に向かってゆるやかにくびれていく。内外面共にハケ目調整が施される。171～173の外端部はやや肥厚する。174～176の口縁外端部はやや垂れる。

9類(第37図 177～190)

口唇部外側の突帯が斜上方に傾き、上面がわずかに凹んでいるものも見られる。口縁内端部の張り出しが8類より大きくなる。胎土は精緻で器壁が薄い。内外面共に丁寧に調整で仕上げられる。177の突帯は短く、断面は三角形を呈する。178の断面からは粘土を一旦斜上方に曲げ突帯を形成し、その後口縁内端部の方向に折り返しているのが観察できる。

10類(第37図 191～38図 199)

口唇部外側に貼り付けた断面楕円の突帯は概ね逆L字状を呈する。胴部はやや丸みを帯び器壁はやや厚めで小形の甕である。口縁部付近が内傾するものもある。

191は口縁部内面に弱い張り出しを持ち、内面には指頭痕が明瞭に残る。196と199は口縁部が内傾する。

鉢形土器(第38図 200～204)

出土個数が少なく全体形状は不明であるが台付きのものと台無しのもがあると思われる。5点

を図化した。200は口縁部断面が如意形を呈する。201は胴部上位が「く」の字状に内側に屈曲する。202も同様の形状と考えられる。203は口縁部外面に刻目突帯を有する。204は口縁直径11.2mを測る小型のものである。

壺形土器（第3図 205～4図 232）

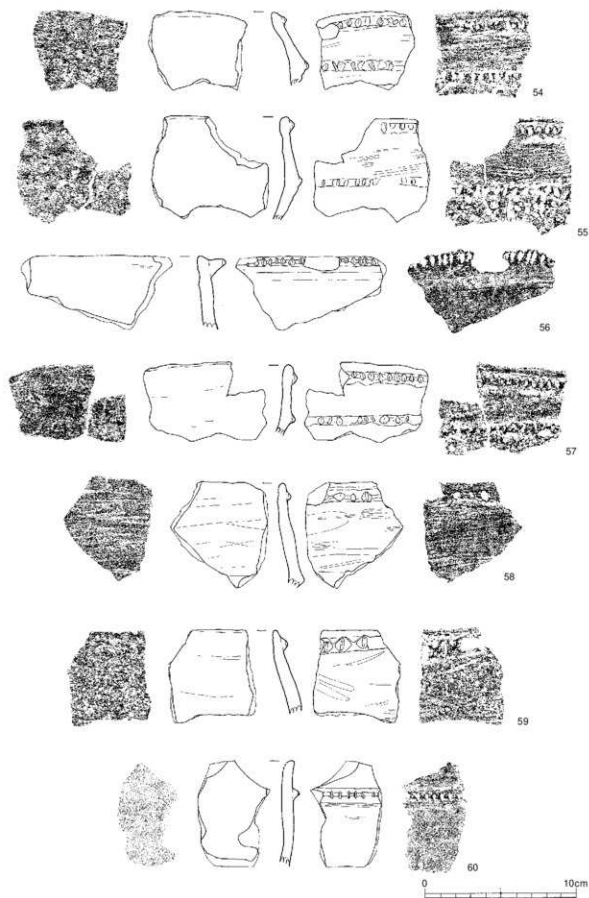
いずれも全体形状は不明である。205, 206, 208, 210～212は頸部からゆるやかに外反する口縁部である。肩が張り安定した底になると考えられる。205の外面と口縁部内面は丹塗りである。208は口縁部が強く反り、頸部に沈線が数条巡る。209は頸部が直に立ち上がり、そこから強く外反し、内面に突帯が二条貼り付けられている。口縁上面には沈線を二本施し、口径は17mを測る。213は外反する口縁部の内外面に断面三角形の突帯を有し、内外面を丁寧にミガキで調整する大型の壺の口縁部で、口径は36mを測る。214, 219は痘痕状に内面器壁が剥落する。反転復元できなかったため径が不明であるが、概ね21と同程度になると思われる。209, 212, 213～219は弥生時代中期の壺である。216～222は肩部である。216～226は沈線が施される資料である。220は二条のヘラ描き沈線の上下に四条～数条のヘラ描き鋸歯文を有する。221は三条のヘラ描き沈線の下位に四条のヘラ描き重弧文を有する。224は二条のヘラ描き沈線の間には竹筴様施文具で連点文を施す。228は5字条の沈線を有する。229・231・232は肩部に断面三角形の突帯を巡らす。

高坏形土器（第4図 233）

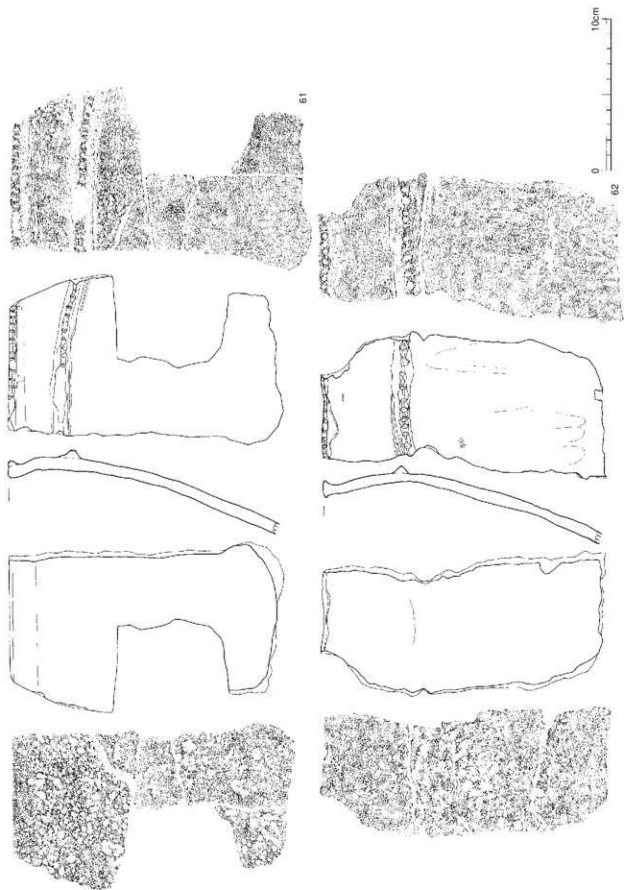
高坏形土器の坏部である。器壁は薄く丁寧なナデ調整で仕上げる。口縁内端部がわずかに張り出し、外へ張り出した口唇部がわずかに凹む。内面に赤色顔料のようなものがみられたが、剥離により詳しく確認できなかった。

底部（第4図～43図）

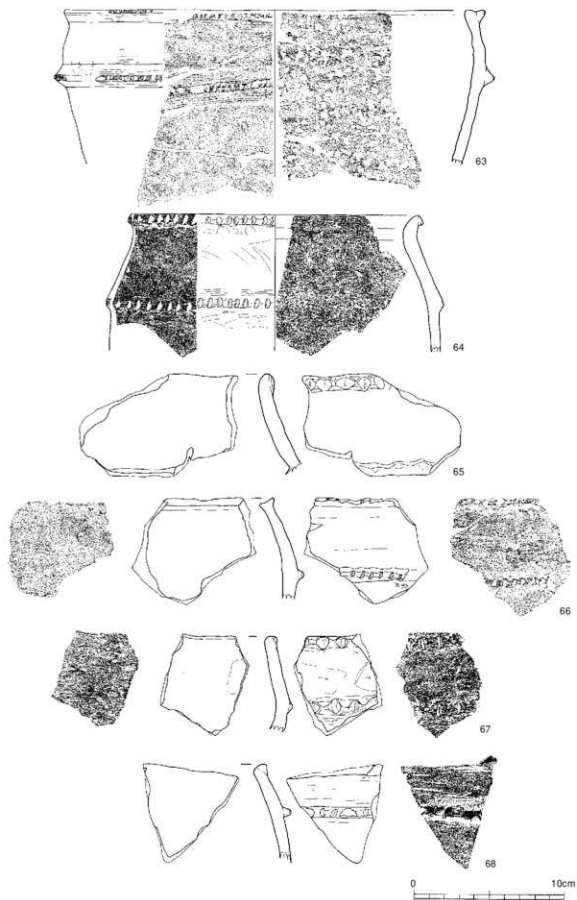
底部は胴部との接合ができなかったため形状により4種類に分類した。234～253は横に張り出した後立ち上がる形状のものである。254～268は張り出し部を持たずにまっすぐに立ち上がり緩やかに開く形状のものである。260～278は充実脚台を有するものである。279～288は横へ大きく開く形状のものである。概ね234～278は椀形土器または鉢形土器、279～288は鉢形土器または壺形土器の底部であるだろうと考えられる。



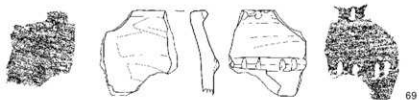
第2圖 弥生時代甌形土器(1)



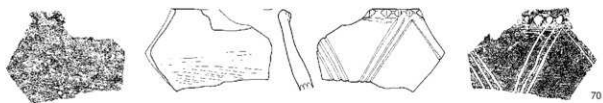
第 24 圖 弥生時代甕形土器 (2)



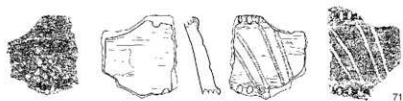
第2図 弥生時代鏡形土器(3)



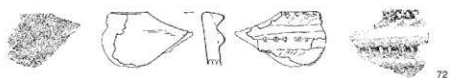
69



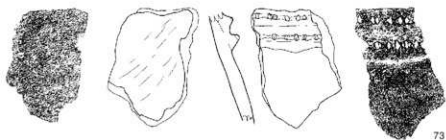
70



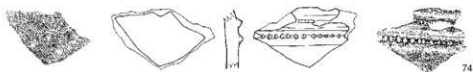
71



72



73



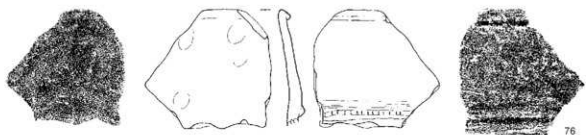
74



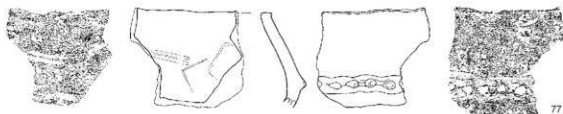
75



第24図 弥生時代埴形土器(4)



76



77



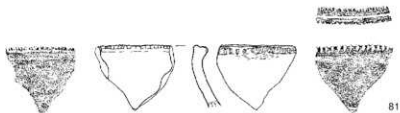
78



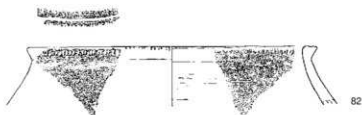
79



80



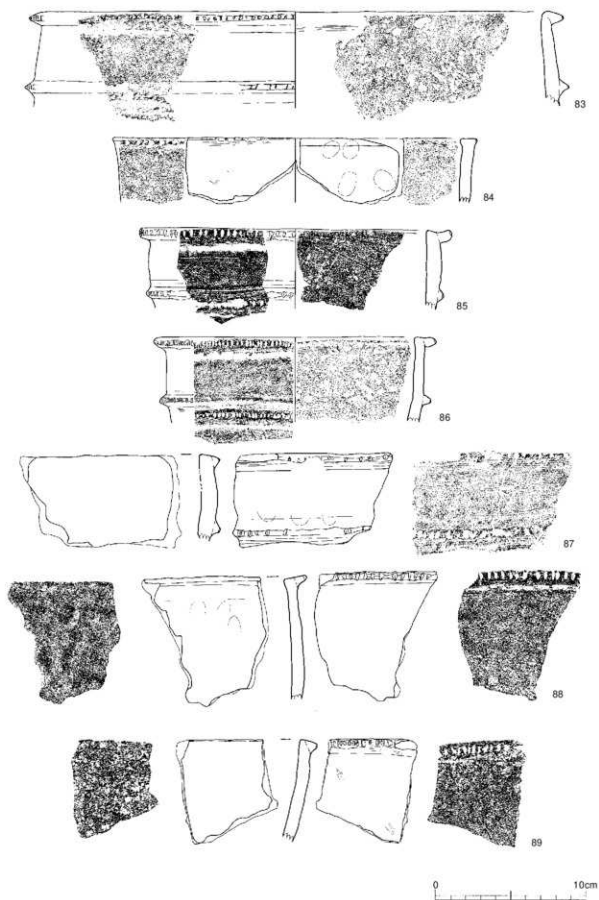
81



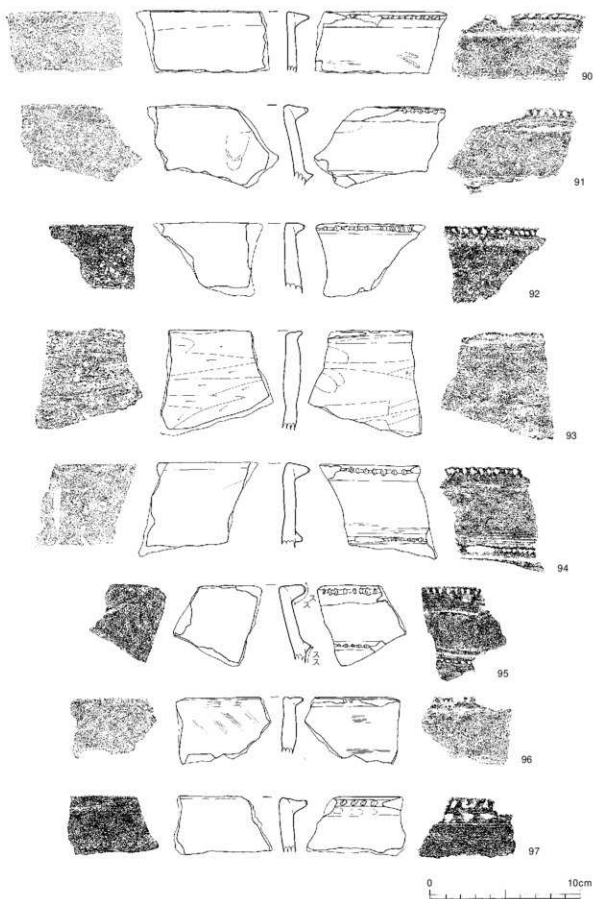
82



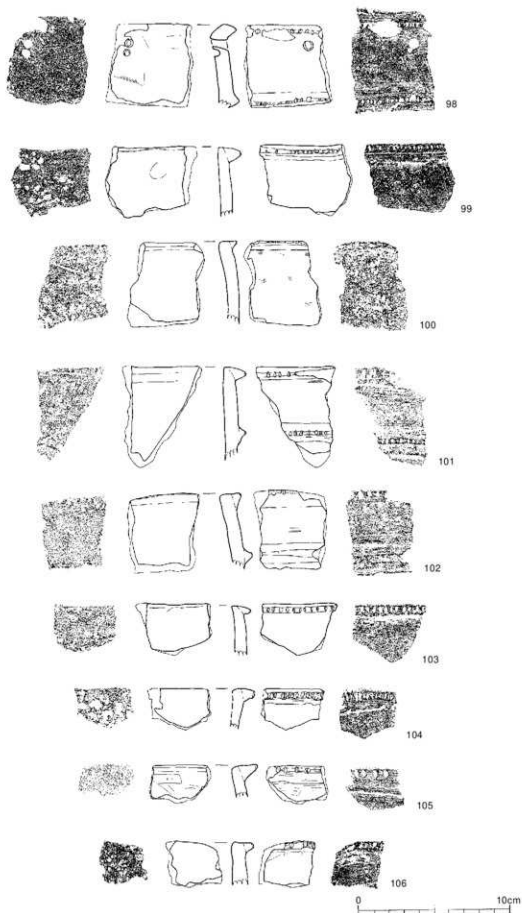
第2図 弥生時代埴形土器(5)



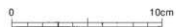
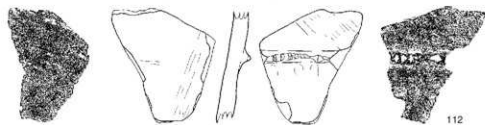
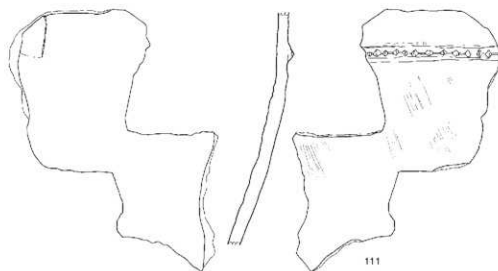
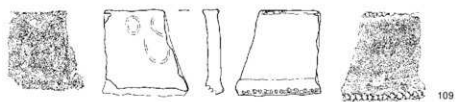
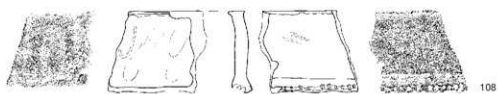
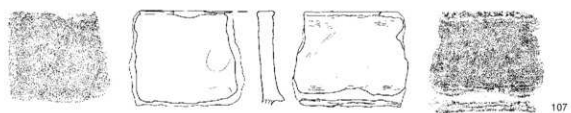
第26図 弥生時代甕形土器(6)



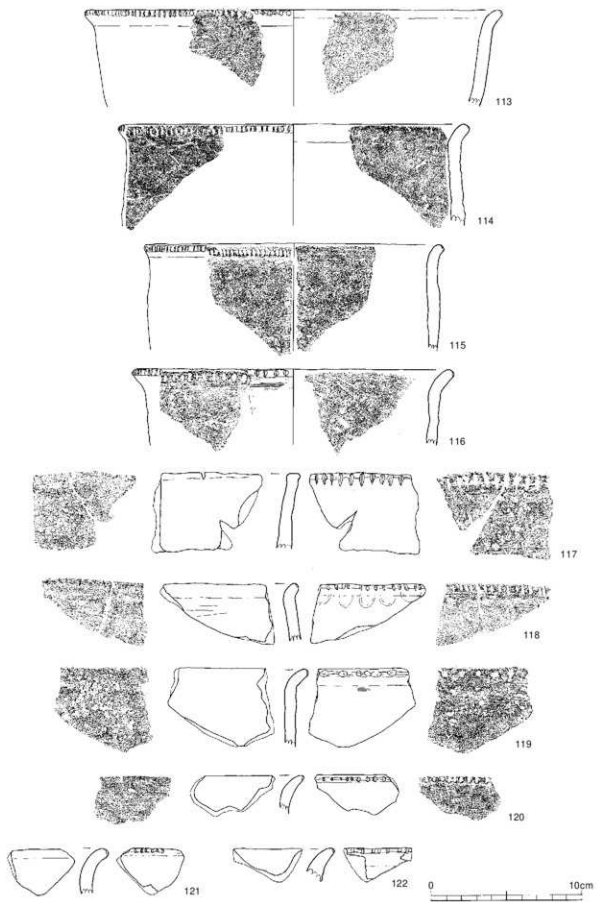
第2圖 弥生時代甕形土器（7）



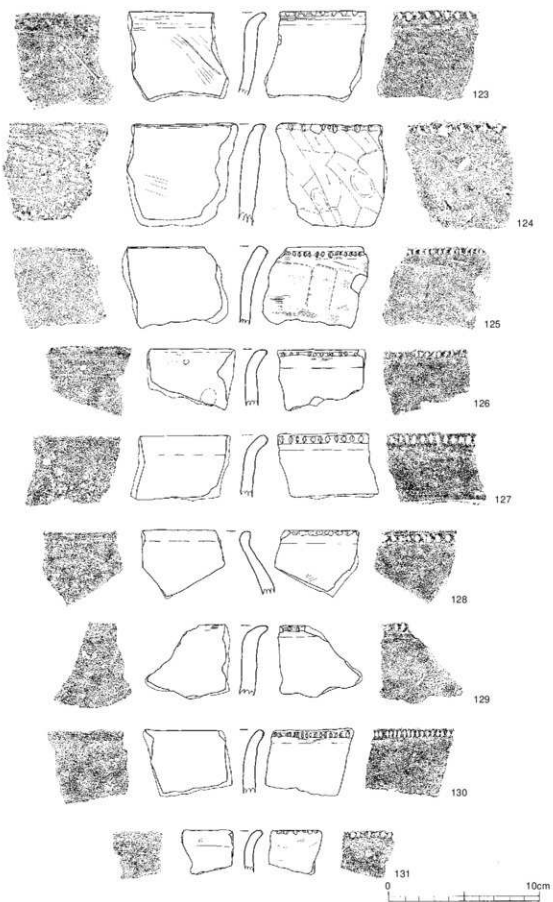
第28図 弥生時代甕形土器(8)



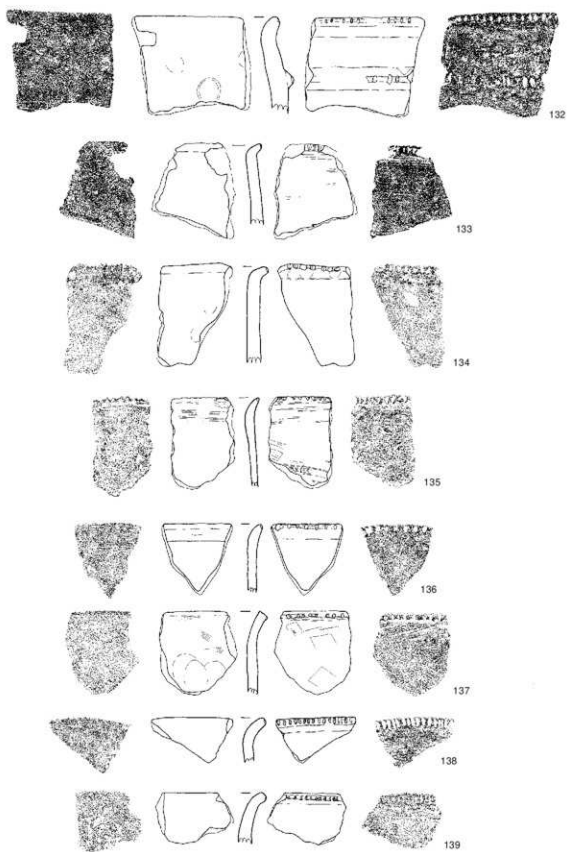
第29圖 弥生時代甕形土器(9)



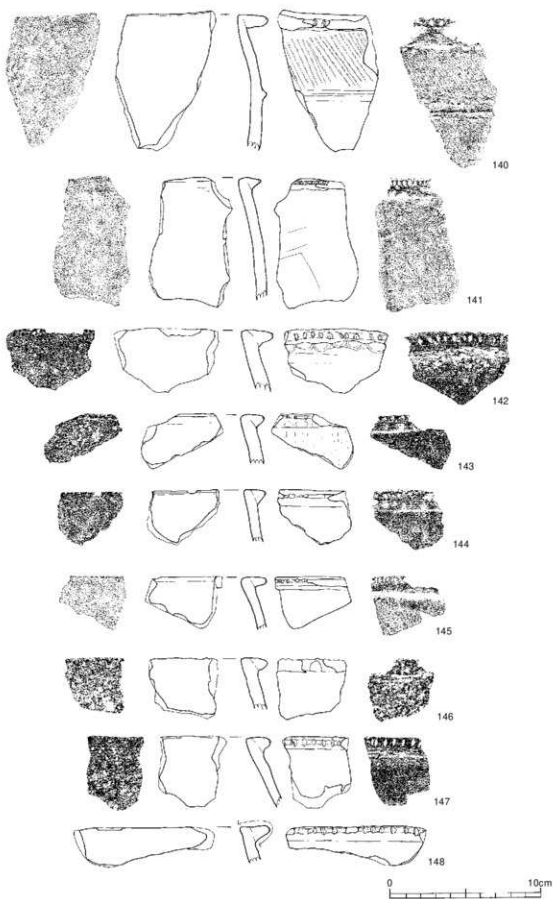
第30圖 弥生時代甕形土器（10）



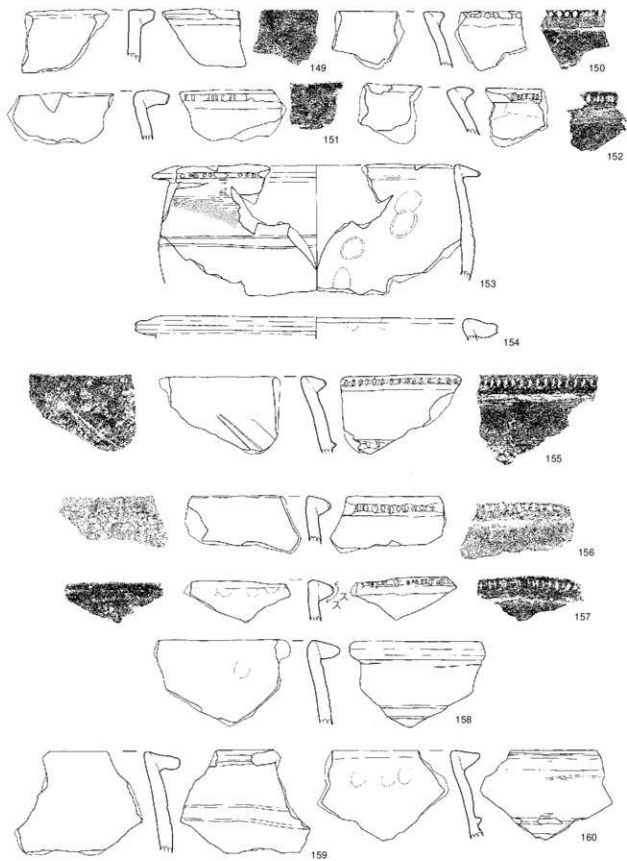
第31圖 弥生時代甌形土器（11）



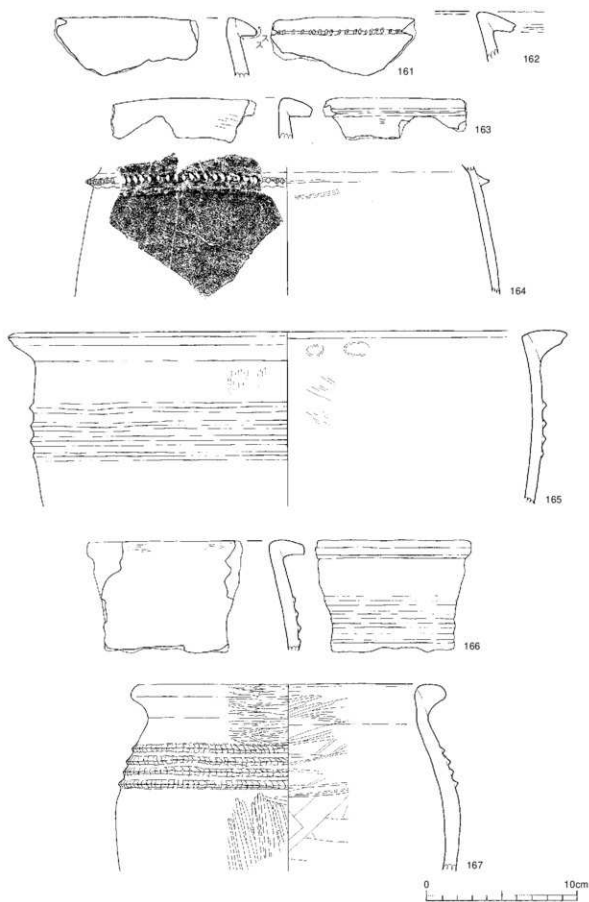
第34圖 弥生時代甌形土器（12）



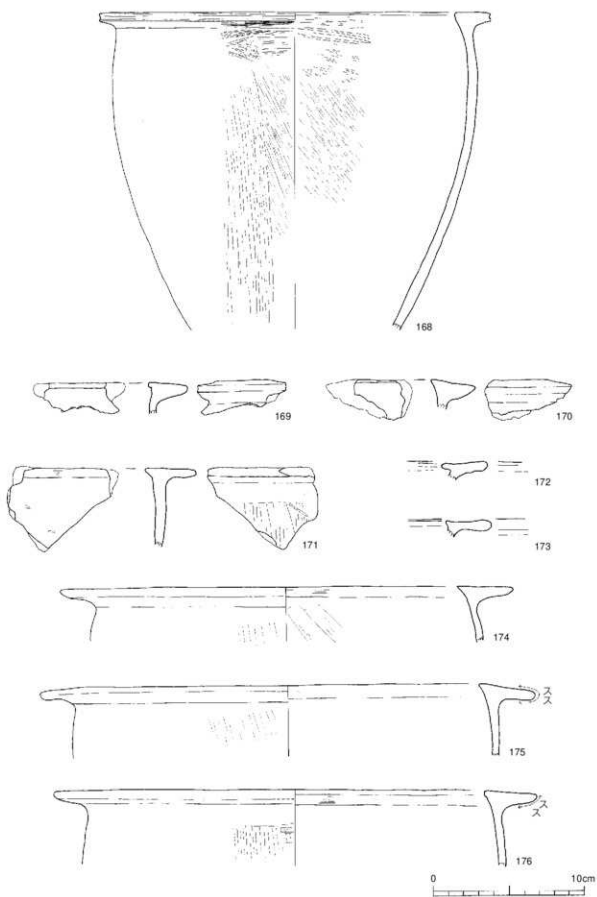
第33圖 弥生時代甕形土器（13）



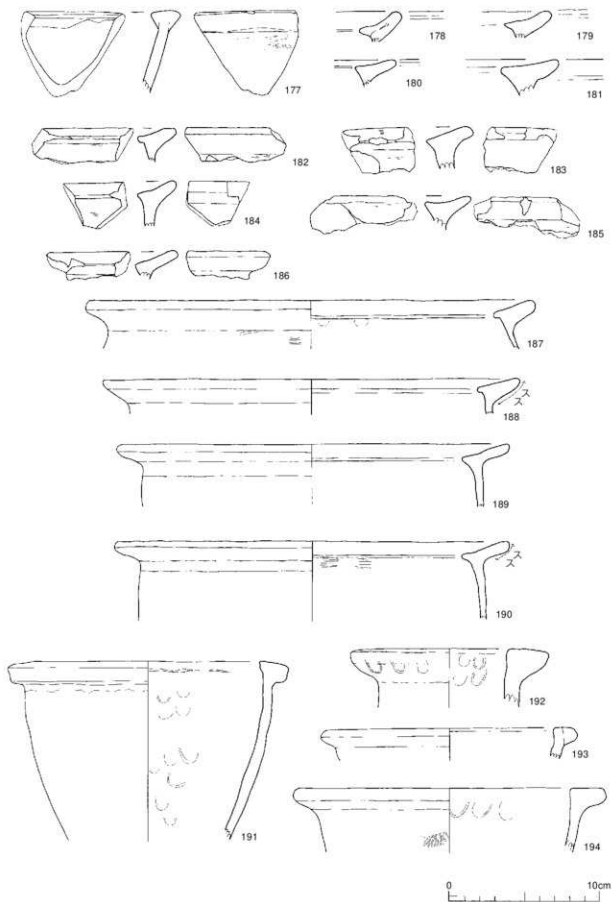
第34圖 弥生時代甕形土器（14）



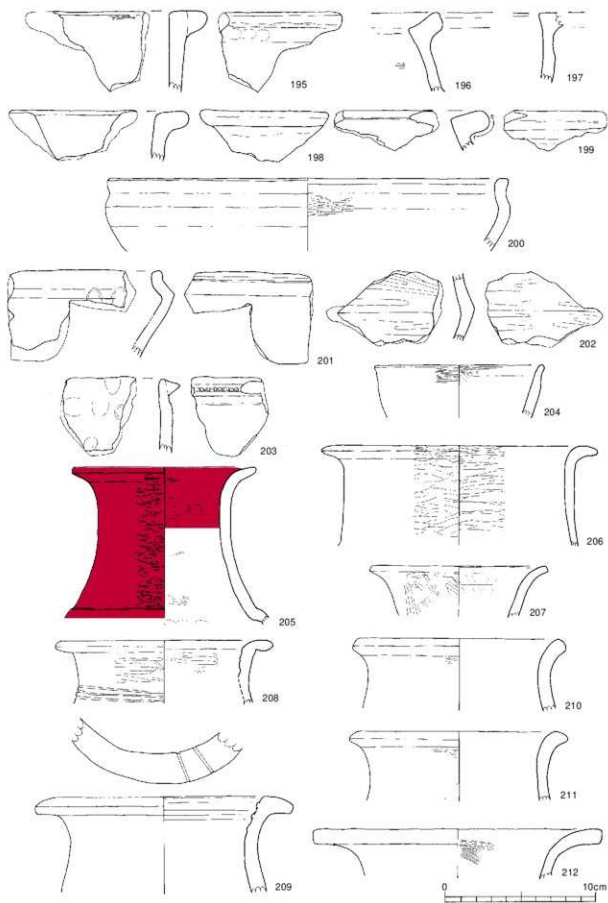
第35圖 弥生時代甕形土器(15)



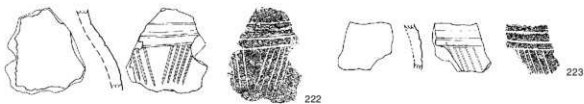
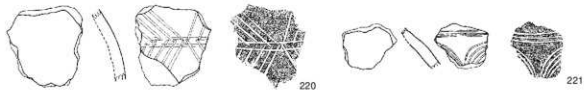
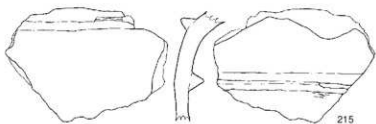
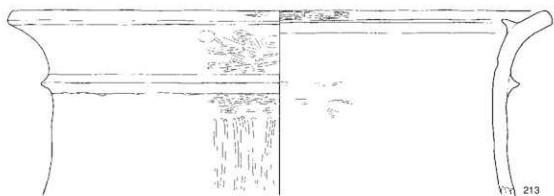
第36図 弥生時代甌形土器(16)



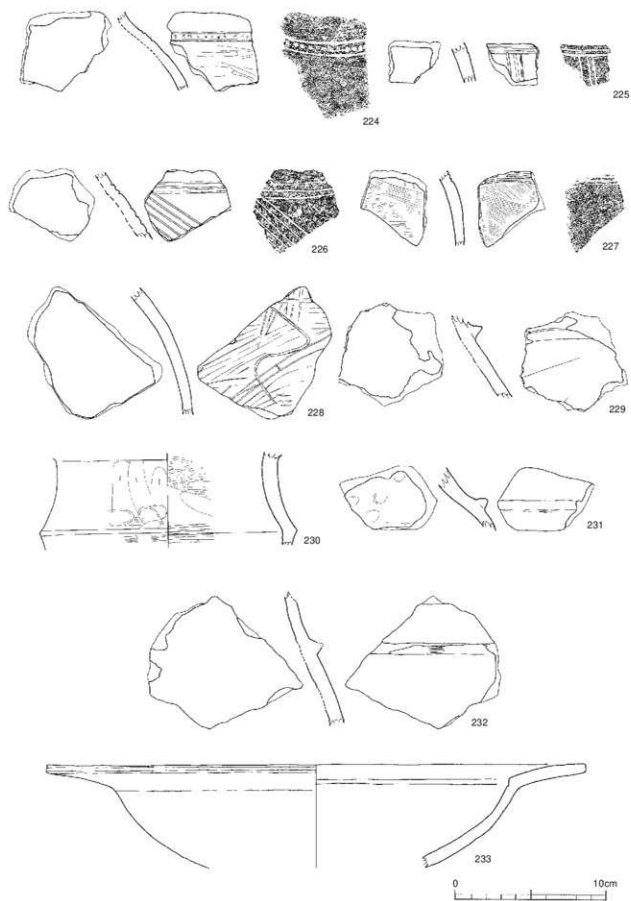
第37圖 弥生時代甕形土器(17)



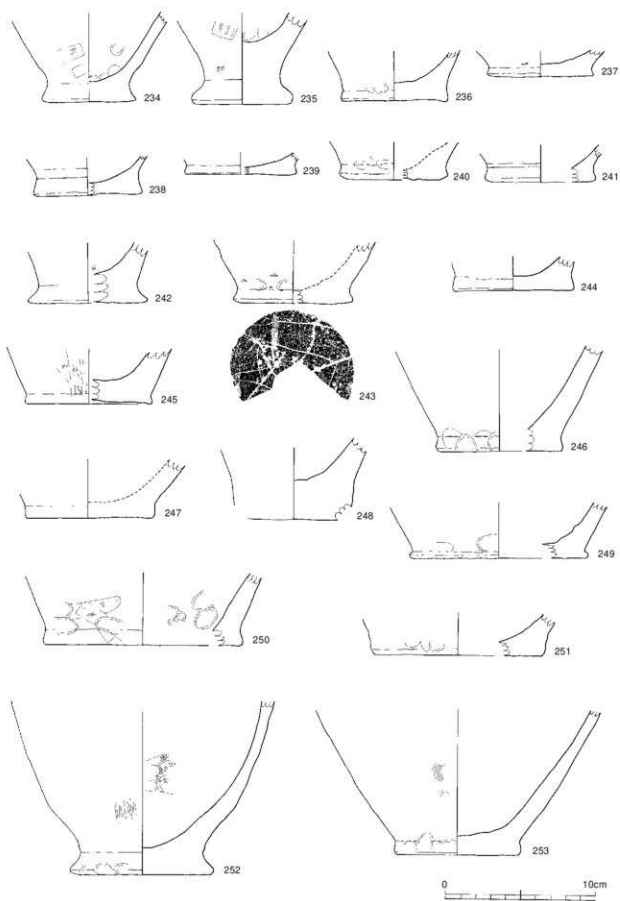
第 38 図 弥生時代壺形土器 (1)



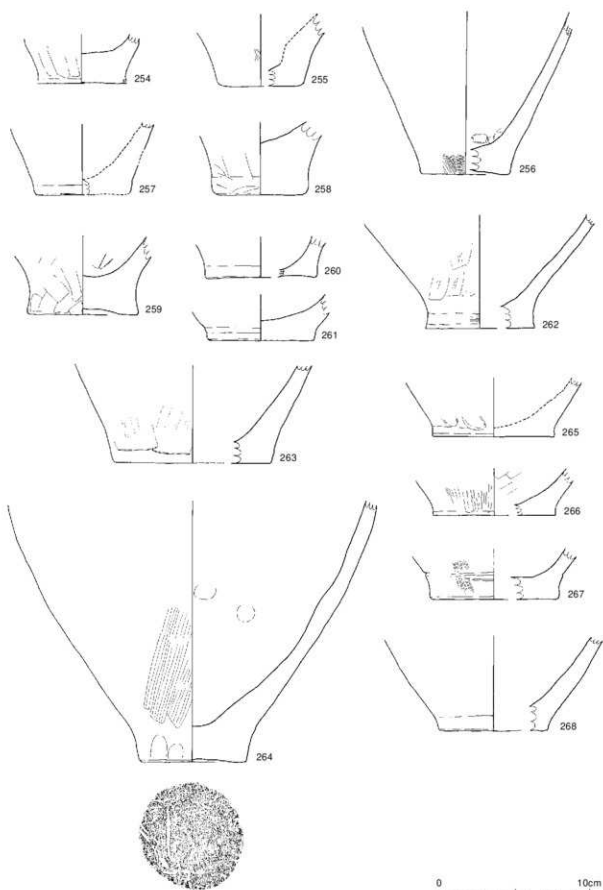
第 39 圖 弥生時代壺形土器 (2)



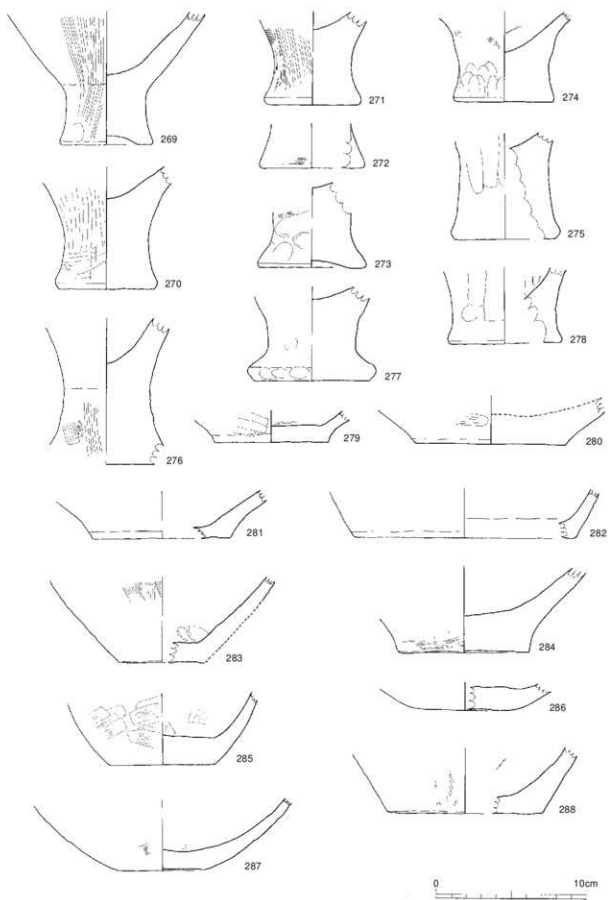
第40図 弥生時代壺形土器等(3)



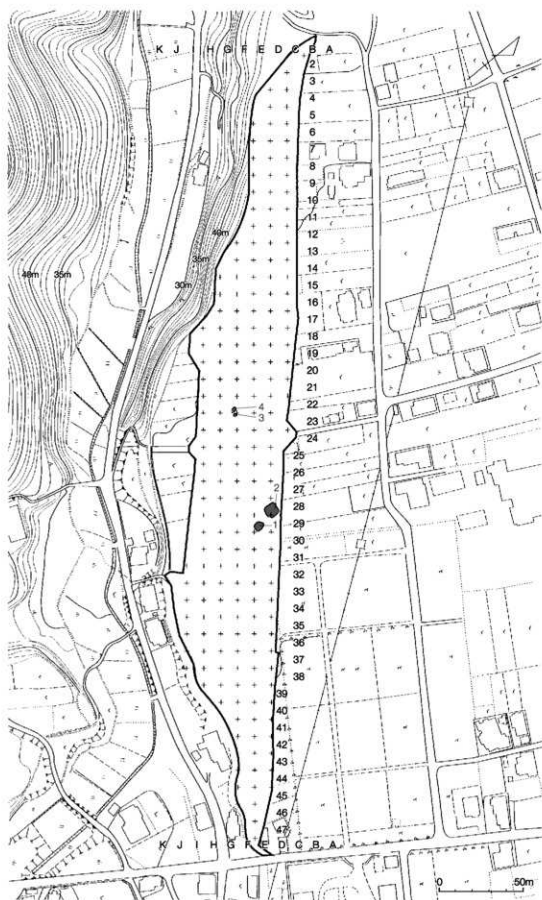
第4圖 弥生時代土器底部(1)



第42図 弥生時代土器底部(2)



第43圖 弥生時代土器底部(3)



第44図 古墳時代住居跡位置図

第Ⅶ章 古墳時代の調査

古墳時代の調査は層の堆積に安定性を欠くため、一層にかけて土器を中心に石器等の遺物の出土が見られたが、中心となる包含層は a・b 層で、遺構は b 層で検出されている。確認された遺構は竪穴住居跡 4 軒と貝溜り土坑 1 基である。

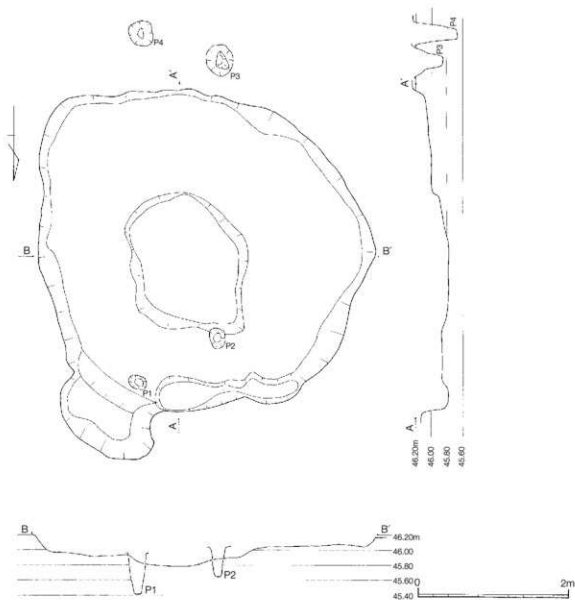
第 1 節 遺構

1 竪穴住居跡

調査区内で 4 軒検出された。検出区域はある程度まとまっており、E～H・30～34区で確認された。

1号住居跡(第45・46図)

1号住居跡は、4基の住居跡の中では、最も南側に位置するものである。その規模は、長径約



第45図 古墳時代1号住居跡

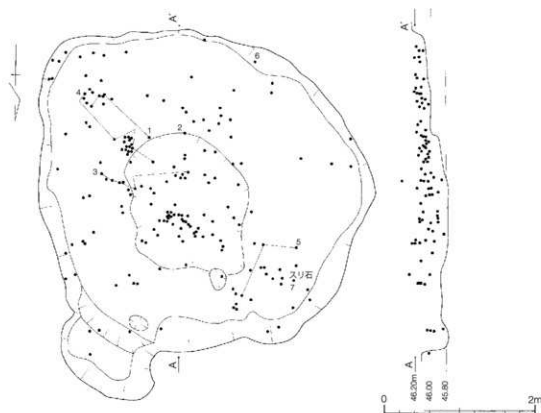
4.8m、短径約4mで、形態は円形に近い形をし、北東部に張出しを有するもので、検出面からの深さは最深部で約40mである。

北東部の張出しは、階段状であり出入り口の可能性があるものでもある。また、その横には、検出面より約0.4m、床面より約5cmの壁帯溝状の溝が存在する。住居跡の中央部には、長径2m、短径0.8mの楕円形の窪みがあり、その埋土には若干の炭化物が含まれていた。柱穴は、住居跡内に2個、住居外南側に2個検出された。住居内の2個の柱穴については、その埋土等から、住居に関するものであると思われる。外部の2個については後世のものの可能性が高い。

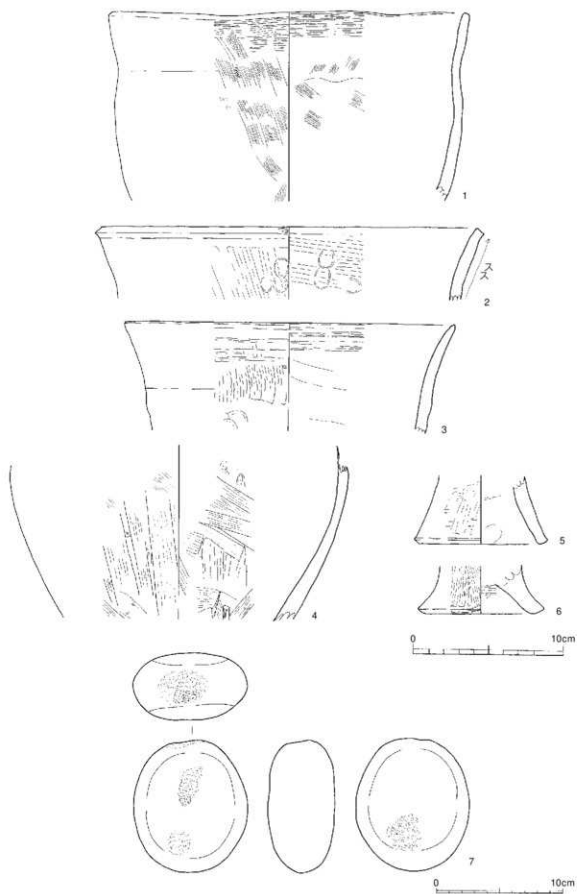
1～7までは、住居跡の埋土から出土した遺物で、床着で住居跡の時期を示す資料は、得られなかったが、住居跡に近い時期の遺物と考えられる。

1は、甕形土器の胴部から口縁部の破片である。復元口縁径が23m、胴部部がやや張り、頸部で絞まりながら外反する口縁部を持つものである。造りは粗く、器壁の厚さにも差が見られる。調整は、内外共に口縁部が横ナデ、以下は、ハケ後ナデである。2は、外反する甕形土器の口縁部片である。復元口縁径が26m、頸部と口縁部の接合面の部分で破損したものであることから、頸部径は22m程度と思われる。調整は内外面ともにハケ及びナデであり、所々に指頭圧痕が観察される。

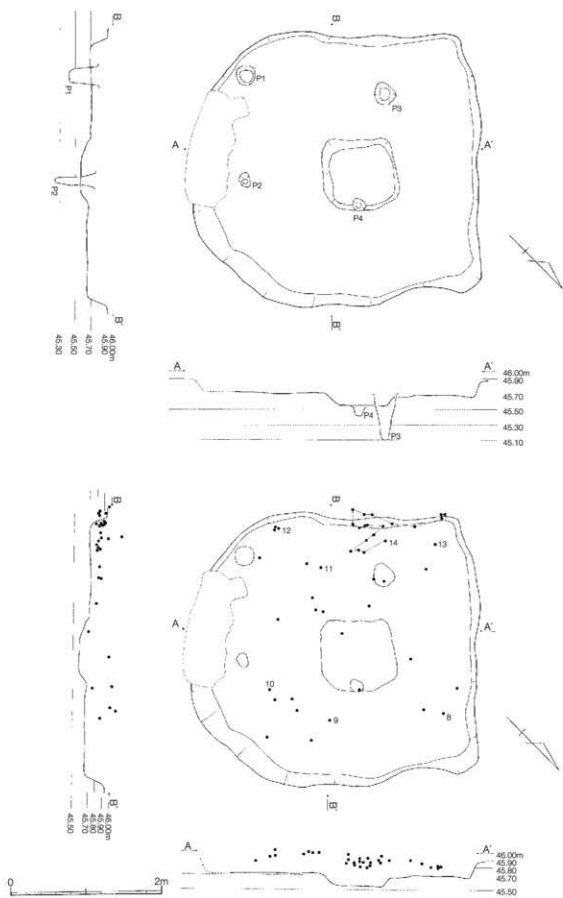
3は、1・2と同様に甕形土器の口縁部の破片である。頸部から外湾しながら口縁部へと至る。口縁部は、鋭く収めるものである。調整は外面は頸部から板状工具によるかき上げ及びナデ、内面は口縁部が横ナデ、胴部は斜位のハケ及びナデを主とするものである。4は、甕形土器の胴部片で、造りや調整は粗く、胎土も砂礫などが多い。色調は黒茶褐色である。



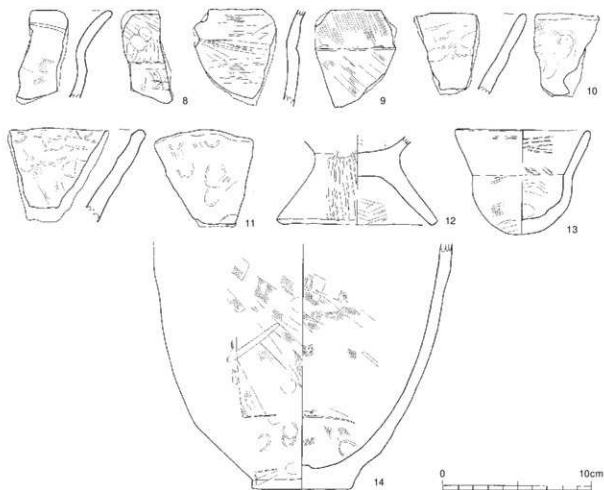
第46図 古墳時代1号住居跡遺物出土状況



第4図 古墳時代1号住居跡内遺物



第48図 古墳時代2号住居跡



第4図 古墳時代2号住居跡内遺物

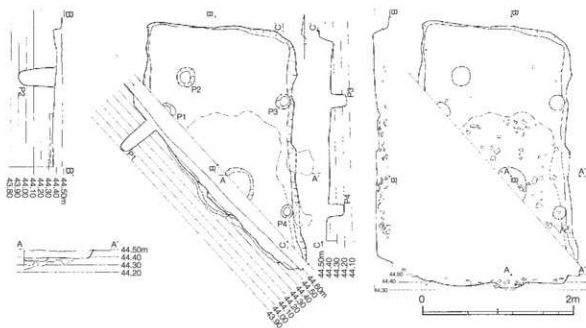
5・6は甕形土器の中空の脚台部分で、調整は両方とも、ハケ及びナデである。7は、敲石で、図の上部はかなり使い込まれている。また、磨石としても用いられていたようである。

2号住居跡（第4図）

2号住居跡は、1号住居跡より北へ10mに位置する。その規模は、長径約4.2m、短径約4mで、形態は南東部が攪乱を受けているが円形と隅丸方形の中間形態に近い形をしていたものと思われる。検出面からの深さは、平均2.0m、最深部で約4.0mである。住居跡の中央部には、約1mの隅丸方形の窪みがあり、その埋土には1号住居跡同様に若干の炭化物を含んでいた。

柱穴は、住居跡内の南側よりに4個の柱穴が確認された。P1～P3は、その深さが約40cm～60cmであり、この住居跡に関係があると思われるものである。P4は、中央の窪みと重なっていることや深さも浅いことから、他の柱穴とは性格を異にするものであると思われる。住居内及びその周辺において、他にも柱穴がないかの精査を行ったが、柱穴は検出されなかった。

8～14は、出土遺物である。遺物の数も少なく、断面図でも分かるように床着の遺物はなかったが、1号住居跡と同様にこの住居跡に近い時期のものであると思われる。8～11は甕形土器の口縁部片である。8は外湾する口縁部で、外面にハケによるかき上げ調整が観察される。9は、胴部上位から口縁部下端にかけての破片で、頸部で屈曲して外反するものである。8と同じように外面に



第50図 古墳時代3号住居跡

は、ハケによるかき上げ調整が観察される。

10は直線的に外反する口縁部片で、内外面に指頭によるナデと指頭圧痕が観察される。11とほぼ同様であるが、胎土に多くの砂粒を含み、器壁の厚さも一定でなく、その造りは粗いものである。12は、甕形土器の中空の脚台である。逆「八」の字状に張出した脚を有し、内外面にハケによる調整が見られる。底部径は、約10cmである。13は、埴形土器である。胴部は半球状を呈し、頸部から直線的に外反するものである。内外にハケ及びナデによる丁寧な調整が見られ、胎土も他の土器よりも精製された粘土を用いている。また、そのためか色調も明黄色に近いものである。

14は、鉢形土器の胴部から底部にかけての破片である。口縁部の形状については、定かでないが、平底の底部からゆるやかに内湾しながら立ち上がり、口縁部もそのまま内湾気味に収めるものではないかと思われる。造りは、1と同様に粗いもので、色調も胎土によるものであろうか、内外ともに黒褐色を呈する。

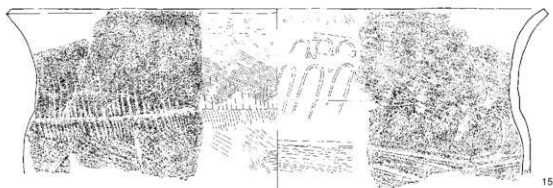
3号住居跡(第50図)

3・4号住居跡は、G-22・2区において、近接して検出されたものである。

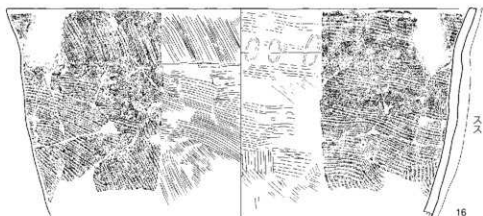
3号住居跡は、ほぼ半分が削平されている。残存部分から推測すると、本来は長軸を南北とし、2・4m程度の方形であったものと考えられる。残存部分からは、西側壁近くに2mの間隔で柱穴が検出された。また、北西部には西側の柱穴よりもやや大きめのものが2個検出されている。

中央部には、1・2号住居跡と同様に窪みが検出された。図の鎖線部分は、貼床状の硬化面が見られる部分であり、この部分を中心に甕形土器の破片が多く出土した。

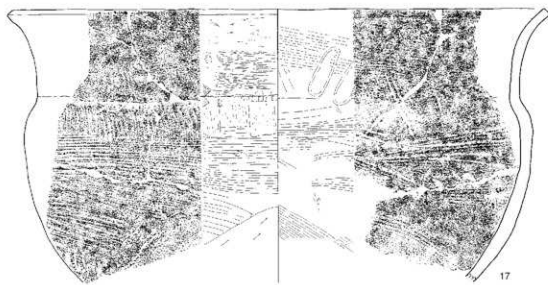
15~19は甕形土器の破片である。15, 17, 18は、頸部でゆるやかに彎曲し、外反しながら口縁部へといたるものである。また、頸部を境にして、上下へしっかりとした板状工具を用いてかき上げ、かき下げの調整を行い、その後ナデによる調整を行っている。内面は、指頭ナデ及び外面と



15



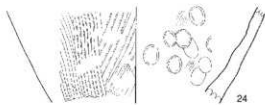
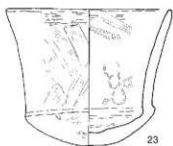
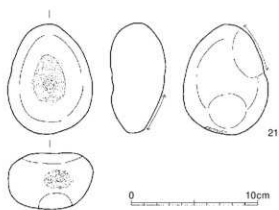
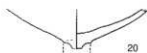
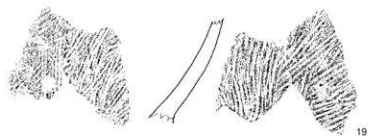
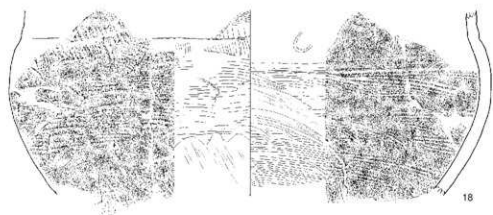
16



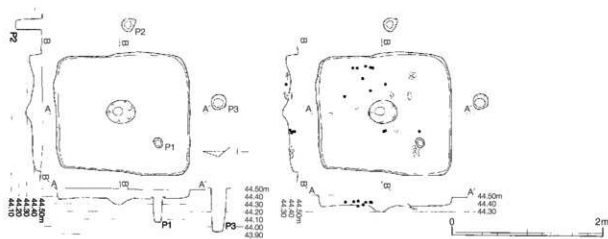
17

0 10cm

第5図 古墳時代3号住居跡内遺物



第5図 古墳時代3・4号住居跡内遺物



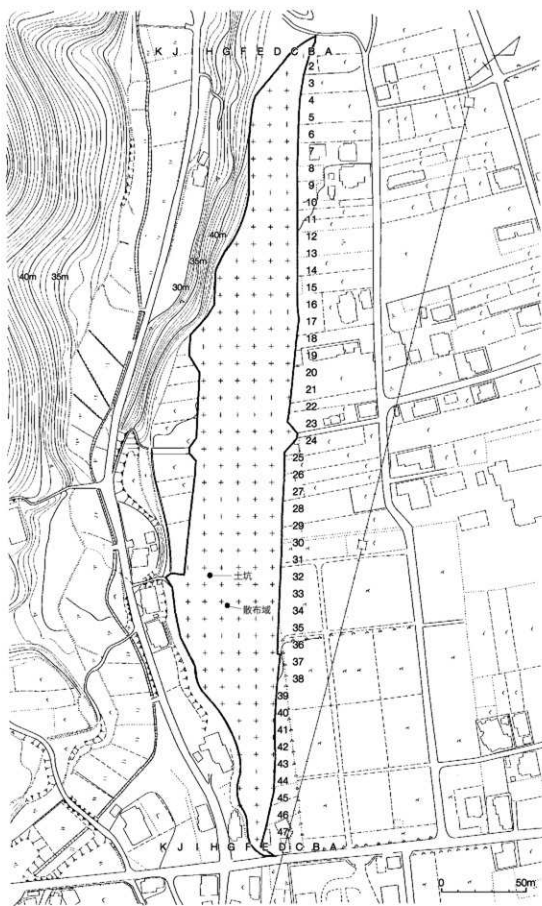
第5図 古墳時代4号住居跡

同じ板状工具による調整であるがやや粗い。1dは頸部からやや外反する甕形土器で、他の甕形土器と同じような工具による調整と思われるが、その調整はやや粗い。19は、甕形土器の底部近くの破片、2dは高坏の坏部の破片である。21は砂岩製の凹石で、磨石・叩石としても用いている。

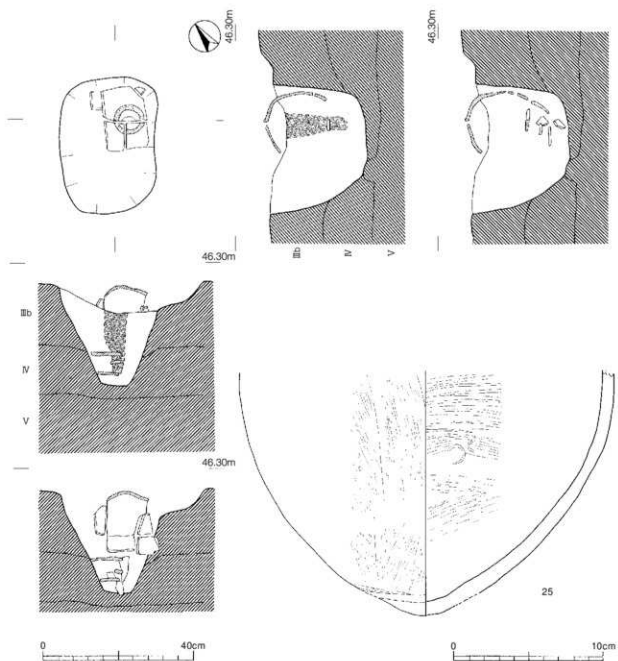
4号住居跡(第5図)

4号住居跡は、3号住居跡の北西数メートルの位置で検出されたもので、南北を軸とする約2.2mの方形に近い形状である。検出面から床面までの深さは、10~15cmと安定している。また、中央部には約20~30cmの皿状の窪みが検出された。柱穴は、住居跡内の南西部に1個と住居跡外の西側と南側に各1個ずつ検出された。住居跡内の柱穴は、床面で検出されたもので、その深さは約35cmである。住居跡外の柱穴は、東側のものが約35cm、南側のものが約55cmである。

出土遺物は、東側に集中しており、その数は多くないが、床着に近いものである。22は、鉢形土器で、復元口径12cm、底部径6cm、器高7cm程度のものであり、平底の底部からゆるやかに内湾しながらそのまま口縁端部へと至るものである。23は埴形土器で、浅い丸底の胴部から頸部でやや屈曲し、ゆるやかに外湾しながら長めの口縁から端部へと至るものである。内外面にハケ及びナデ調整が観察される。24は、甕形土器の底部近くから胴部へかけての破片で、外面には、しっかりとした板状工具による調整、内面にはナデ及び指頭圧痕が観察される。



第54図 貝層を含む土坑及び散布域位置図



第55図 貝層を含む土坑及び遺構内遺物

2 貝層を含む土坑（第55図）

H・3区のI層で検出された。36.25mの隅丸方形の掘り込みで、検出面からの深さは約26mを測る。脚台部分が接合部より破損した甕形土器の胴部が表面に覆い被さる様に投棄されている。その下に貝殻層が16mの深さで縦に長く堆積する。遺構内埋土は濁黄色の砂質でI層に似る。貝殻は約582gが検出された。下記の6科9種が確認された。

ニシキウスガイ科 コマキアゲエビス・スハダシタダミ・ヒナカゴサンショウガイモドキ、タマガイ科 ノメリスガイ、フジツガイ科 ヒメミツカドボラ、アクキガイ科 カスリボラ、スカシガイ科 ハブテスソキレ

この他、G・3区に小規模な貝の散布域がみられたが、図化しなかった。なおこれは弥生時代の遺構である可能性もある。

第2節 遺物

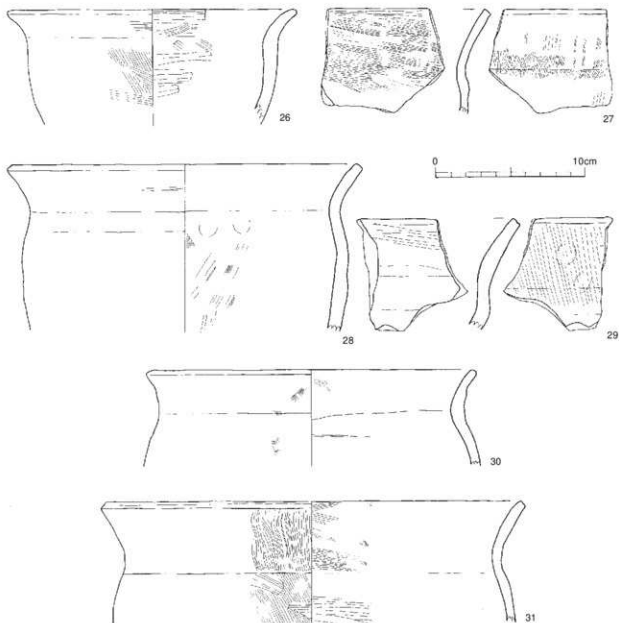
包含層で出土している古墳時代の遺物には、土師器と土製品・須恵器がある。

土師器

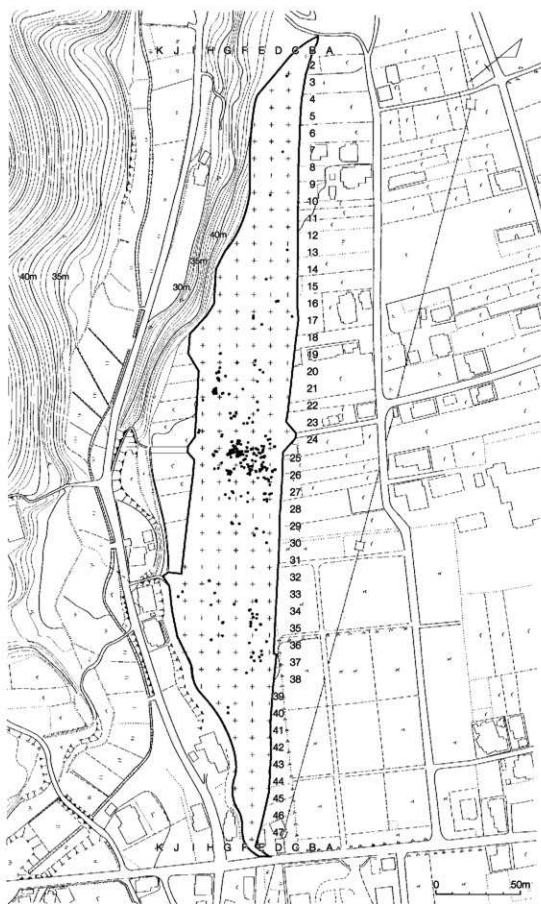
多くの土師器が出土しており、器種には甕形土器・壺形土器・小形壺形土器・甕形土器・鉢形土器・高坏形土器・小形土器などがある。

甕形土器（第56図・第58図～第67図）

大きく分けて、器壁が厚くて脚台が付くものと、薄くて丸底になるものに分かれるが、丸底のものは少量である。このほかに、器壁が厚い甕形土器で脚台が付かず、丸底になるものがある。脚台が付くものは、口縁部の形態によってくの字状に外反するものと、まっすぐ伸びるもの、内反するものの3種に分けられる。



第56図 古墳時代甕形土器（1）



第57図 古墳時代土器出土状況

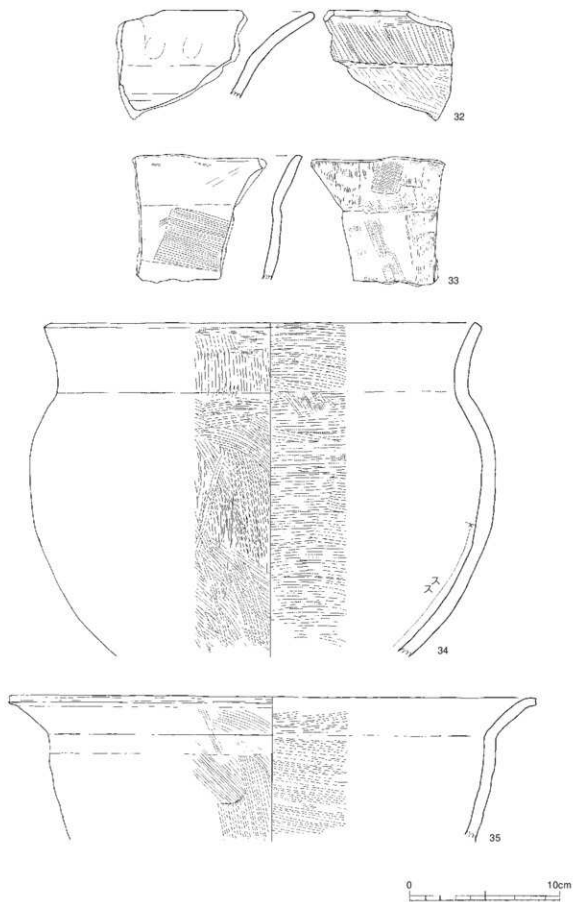
口縁部がくの字状に外反し、脚台が付くものも、頸部に突帯のないものとするもの、口縁部の外反度がやや強いものと、直に近いものがある。

26～46は頸部に突帯のないものだが、外反度がやや強いもの（26～39）と、直に近いもの（40～46）とがある。

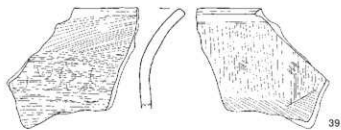
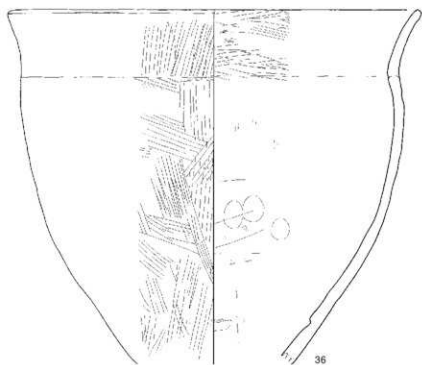
26は口縁直径が19.2mと小形のものである。内外ともハケナデで仕上げているが、胴部内面はヘラナデで仕上げている。口唇部は丸みをおび、外面に炭化物が付着している。27～29は口唇部がコの字形を呈し、いずれも外面に炭化物が付着している。27は頸部外面で段をもっており、内外ともハケナデで仕上げているが、ハケ幅が上下で異なり、上部は狭くて、下部は広い。28は口縁直径が22.8mで、やや強く外反しているが、内面の屈曲部はそれほど強くない。内外面ともヘラナデで仕上げているが、内面の下半部はケズリに近い。29は頸部でやや強く折れて、浅くなる形態をしている。30は口縁直径が21mほどで、頸部で折れ、胴部は丸みをおびている。内外面ともヘラナデで仕上げている。31は口縁直径が27.5mとやや大形のもので、ゆるやかな外反度であるが、外面の頸部は段をもつ。内外ともハケナデであり、口縁部はかき上げ整形となる。32は外へ強く反る口縁部で、外面はハケナデ、内面はヘラナデで仕上げている。外面はかき上げで、内面口縁の一部以外は黒く変色している。内蓋の可能性もある。33は口縁部外面をハケのかきナデで仕上げ、段となる。内面はハケナデのあと、ヘラナデで仕上げている。雑な作りである。34は口縁直径が2.8mと大形で、胴部の最大径も30.8mある。口縁部はゆるやかに外反しており、口唇部はコの字状を呈する。胴部は丸みをおびており、丸底の可能性もある。内外面ともハケナデ調整で、口縁外面は下からのかき上げである。内面下半部にはコゲが付着している。35は頸部から強く外反する口縁部で、直径が35mある。口唇部はコの字状を呈するが、中央部がややくぼんでいる。内外ともハケナデである。36は口縁直径が22mのゆるやかに外反する器形で、口唇部は丸みをおびている。なだらかな肩部から細くなって底部へ移っており、内外ともハケナデだが、内面胴部はヘラナデである。かき上げ口縁となる。外面に煤、内面にコゲが付着している。37は口縁部がやや強く外反しており、直径は24mある。内外面ともヘラナデで、外面に炭化物が付着している。38・39はなだらかに外反する口縁部で、38の直径は17mある。38はハケナデのあとヘラナデ、39はハケナデで仕上げ、ともにかき上げ口縁である。ともに外へ炭化物が付いている。

40～46は頸部に突帯のないもので、外反度の弱いものである。

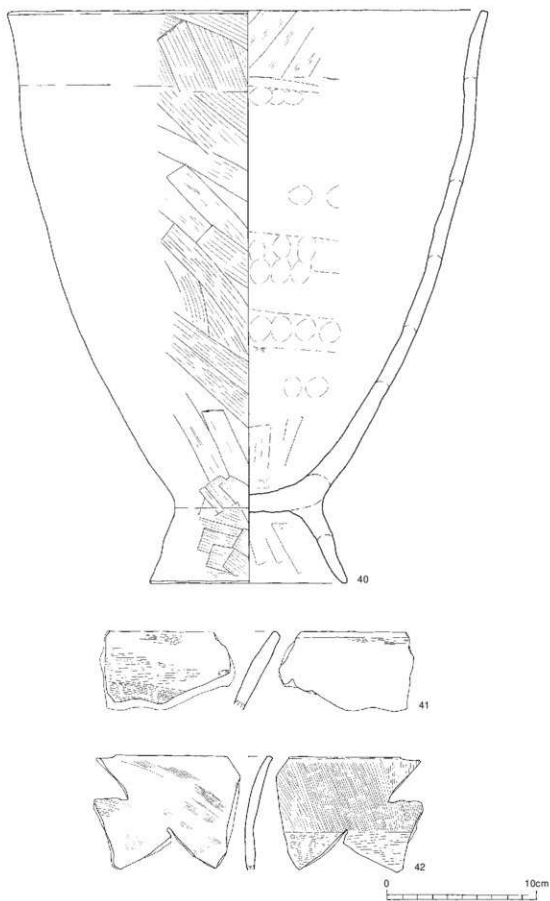
40は口縁部直径が31m、高さが38m、脚台直径が13mある。脚台の高さは5cmほどである。外面はハケナデ、内面はヘラナデで仕上げており、内面には指押さえ痕が残っている。外面には炭化物がみられる。41・42は外に開く口縁部で、口唇部はコの字状を呈している。42の外面はハケナデで、口縁部はかき上げている。41と42の内面はヘラナデで仕上げている。42の外面には炭化物が付着している。43は口縁直径が32mと大形で、底から外へ強く開いており、口縁部はゆるやかに外反している。外面の口縁部はハケのかき上げナデがされ、胴部との境を作っている。胴部は粗いハケナデである。内面の胴上半部から口縁部はハケナデ、胴下半部はケズリに近い粗いヘラナデで仕上げている。外面に炭化物が付着している。44は口縁直径が29mで、口唇部はコの字形を呈し、内外ともハケナデで、内面はそのあとヘラナデをしている。45も内外ハケナデで仕上げているが、外面は縦方向、内面は横方向である。外面口縁はかき上げで、口唇部はコの字状である。46は口縁直径が



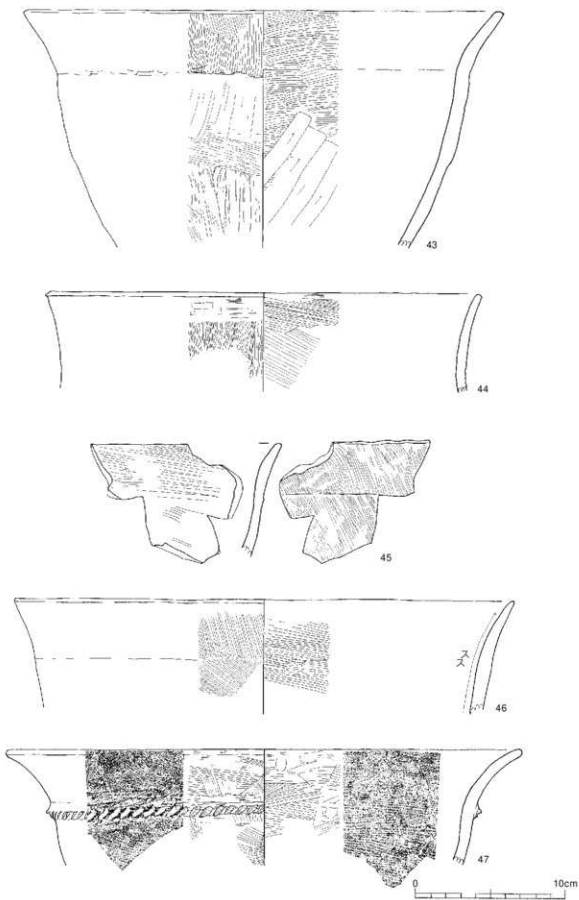
第58圖 古墳時代甕形土器(2)



第 59 図 古墳時代視形土器 (3)



第60圖 古墳時代甌形土器(4)



第6図 古墳時代視形土器(5)

33mと大形である。口縁端は細くなっており、口唇部は丸みをおびている。内外ともハケナデで仕上げているが、口縁部外面はかき上げである。内面にはコゲが付着しているが、口縁端近くないことから内蓋の可能性はある。

47～54は外反する口縁部に突帯の付くものである。47は口縁直径が34mあり、頸部から口縁部へ強く外反し、頸部のやや上部に三角突帯が貼り付けられている。三角突帯上に左下がりのヘラ押圧文が付されている。内外面ともハケナデのあとヘラナデが施され、内面には指頭圧痕もみられる。外面には炭化物が付着している。48は口縁直径が30mの薄い作りである。口唇部は細くなり、丸みをおびている。頸部に幅広の突帯が貼り付けられ、突帯に斜格子状のこまかいヘラ押圧が施されている。内外面ともハケナデで仕上げ、外面には炭化物が付着している。49はゆるやかな外反度で、頸部に丸みをおびた突帯が貼り付けられ、左下がりのヘラ押圧がみられる。外面がハケナデ、内面がヘラナデで仕上げている。外面には炭化物が付着している。50は口縁直径が27mあり、底部を欠いているが、高さが25m残っている。細めの作りだが、底部付近は分厚い。外反度が弱くほぼまっすぐ開いているが、口縁下にヘラ押圧のされた三角突帯が貼り付けられている。内外面とも粗いハケナデで仕上げているが、下半部はヘラでナデている。51は口縁直径が26.5mある外反度の弱いものである。頸部にやや幅広の突帯が貼り付けられ、その上に左下がりの幅広ヘラ押圧が付されている。突帯の内側はくぼんでいる。内外ともハケナデがされているが、部分的にヘラナデがされる。外面には炭化物が付着している。52は口縁直径が28.5mあり、頸部にやや幅の広い突帯が貼り付けられ、その上には幅の広い左下がりのヘラ押圧がされる。突帯の内側には指頭圧痕が残る。口唇部は丸みのあるコの字状を呈している。外面は粗いハケナデ、内面はヘラナデで仕上げている。外面に煤が付着している。53・54とも頸部に三角突帯が貼り付けられ、そこに左下がりヘラ刻みが施されている。内外ともハケナデを主とするが、そのあとヘラナデを施している。ともに口唇部は丸みをおび、53・54とも外面には炭化物が付着している。

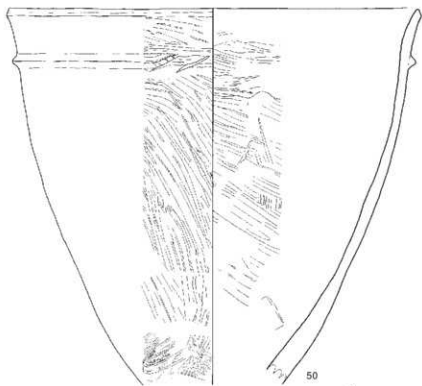
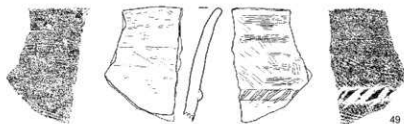
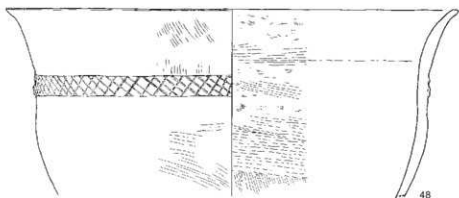
55～57は口縁部がやや丸みをもって立ち上がっている器形である。

55は口縁直径が27mほどあり、高さが24m残っている。口唇部は丸みをおび、雑な作りのため、口縁端はゆるい波状を呈している。口縁下部に幅広の突帯が貼り付けられ、その上に左下がりのヘラ押圧が施される。内外ともハケナデで仕上げているが、内面には指頭圧痕もみられる。外面に炭化物が付着している。56は口縁直径が30.5mあり、口唇部はコの字形を呈している。口縁下部に突帯が貼り付けられ、その上に左下がりのヘラ刻みが施されている。内外ともヘラナデで仕上げられ、外面には炭化物が付着している。57の口唇部はやや丸みをおび、口縁下部に三角突帯が貼り付けられ、そこにヘラ押圧がみられる。内外ともこまかいハケナデだが、内面はそのあと一部ヘラナデで仕上げている。外面には炭化物が付着している。

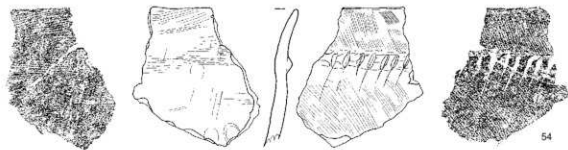
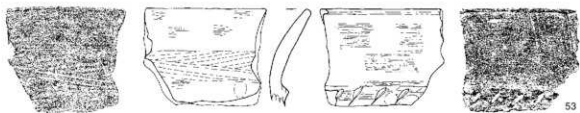
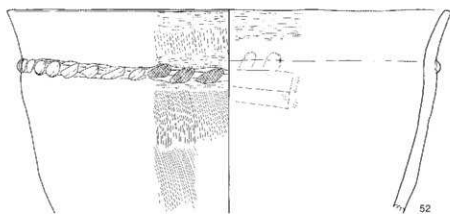
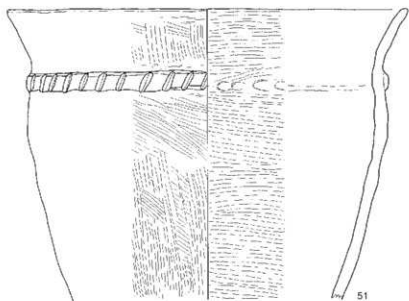
58～60は強く内反するものである。

58は口縁直径が18.2mあり、口縁部は粗い作りのため狭くなっている。内外面ともヘラナデである。59・60も内反し、口縁下に三角突帯が貼り付けられている。口唇部は丸みをおびており、内外面ともヘラナデ仕上げである。

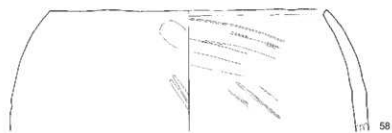
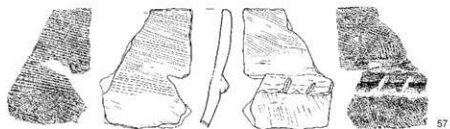
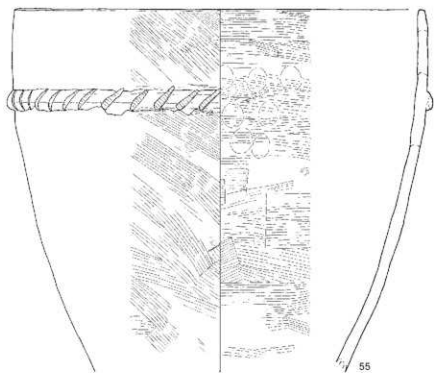
61～78は底部から脚台である。脚台には高いものと低いものがあり、概して手すくね風の粗い作りのものが多い。



第62図 古墳時代視形土器(6)

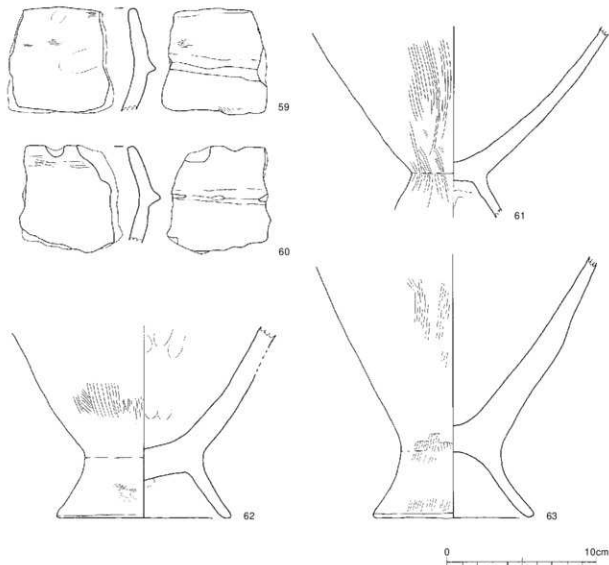


第63圖 古墳時代視形土器(7)

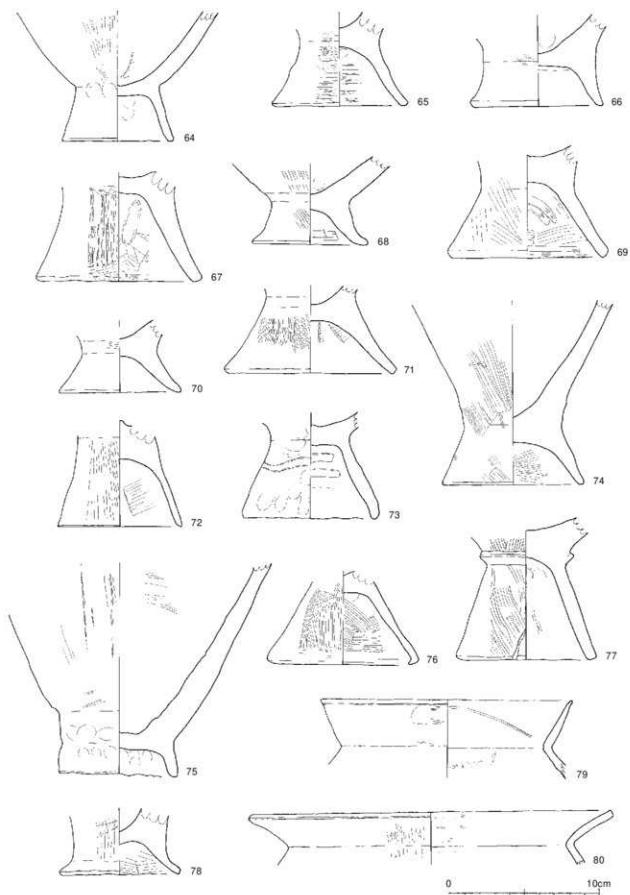


第64図 古墳時代視形土器(8)

61は胴下半部から脚台にかけての破片だが、脚台端は欠けている。接着部は直径が5cmある。外面は幅広のハケナデだが、内面はヘラナデをし、脚台内はヘラナデである。62-64は胴下半部から脚台の破片である。62は分厚い胴部に高さ3cmほどの低い脚台が付き、脚台の直径は11.5cmである。脚台はハの字状に広がっている。外面はハケナデのあとヘラナデ、内面はヘラナデである。63は細めの胴部だが、底部付近は分厚い作りである。脚台は高さが5cm不足で、直径が10cm余りある。外面はハケナデのあとヘラナデ、内面はヘラナデである。外面には炭化物が付着している。64は底部が丸みをおびており、脚台は直に近く立ち上がっている。脚台の高さは3cm余り、直径が7cm余りある。内・外面とも調整はヘラナデだが、指頭圧痕も残っている。65の脚台は高さが4cmほどと高く、直径が8.5cmある。66は分厚い底部に細い脚台が付いている。高さは3cmほどで、直径が8.5cmある。端がやや細くなっている。内面にコゲが付いている。67は脚台の高さが6cm余りと高く、ハの字状に開くがっしりした作りである。直径は10cmほどで、外面は幅広のハケナデ、内面はヘラナデである。68は脚台の裾がゆるやかに開く。高さが2.5cmほどと低く、直径が7.5cmある。69は高さが5cm余りあるもので、直径は10cmほどである。70は直径が8cm、高さが2.5cmある小さな脚台



第65図 古墳時代視形土器(9)

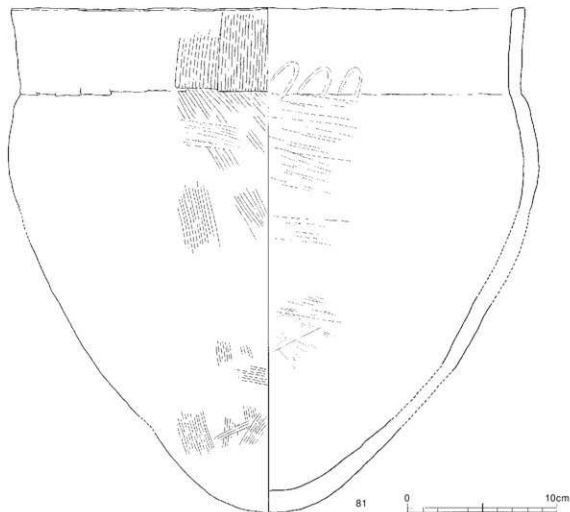


第66圖 古墳時代甌形土器（10）

である。71はハの字状に強く外反する脚台で、高さが4cm、直径が1cmほどである。端部はコの字状を呈する。72は高さが4.5cm、直径が8cmほどの直に近く立ち上がるスラリとした薄い脚台である。脚台と胴部間には土塊が挿入されている。73は高さが5cm、直径が8.5cmほどの高い脚台で、底部の厚さに比べると細い作りである。端部がやや内側に曲るような雑な作りである。74は胴部に高さ3cmほどのハの字状に開く脚台が付いている。脚台の高さは3cmほどである。75は開いて立ち上がる胴部の底に高さ2cmほどの低い脚台が付いている。胴部は分厚い作りである。脚台は指頭圧痕の目立つ雑な作りで、直径が7.5cmある。直に近く立ち上がっている。76は直径が10cm、高さが5cmほどのハの字状に開く薄い作り脚台である。内外ともハケナデで仕上げ、端部が内側へ屈曲している。77は分厚い底部に高さ7cm余り、直径7.8cmの直に近いハの字状の脚台が付いている。底と脚台の接合部に三角突帯が貼り付けられている。脚台端はコの字状を呈している。78は外へ強く反る低い脚台で、高さが2cm余り、直径が8cmほどである。

79・80は内面に稜を作るほど強く外へ屈曲する布留襷の口縁部で、在地の甕形土器に比べて薄い作りである。口縁直径は79が16.5cm、80が24cmで、80は頸部で強く屈曲している。口唇部は79が丸みをおびるのに対して、80はコの字形を呈している。内外ともヘラでナデている。

81は上半部が甕形で、底部が長胴形の壺形を呈する甕形土器である。口縁直径が34cm、高さが



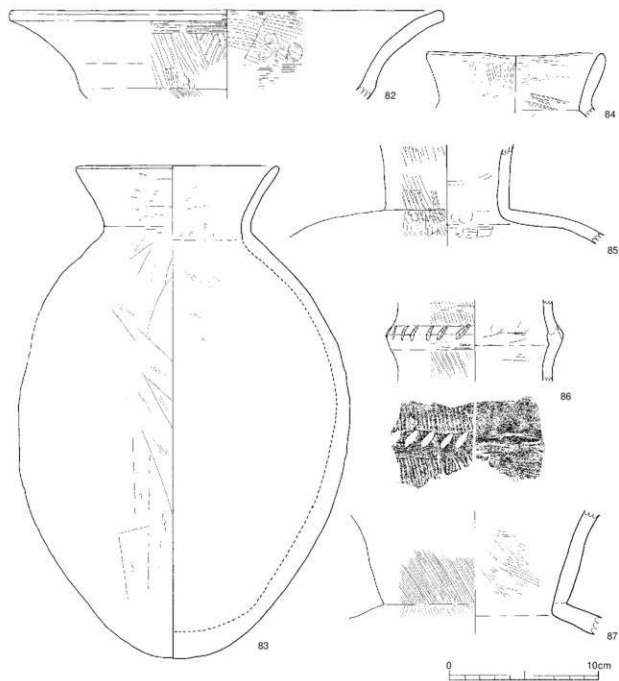
第6図 古墳時代甕形土器(11)

33.4cmで、口縁部は頸部からまっすぐ立ち上がり、口唇部はコの字状となる。肩が張り、そこからゆるやかに丸底の底部へ移る。外面は粗いハケナデで、口縁部はかき上げ状となる。ハケナデのあとヘラナデで仕上げている。内面はヘラナデで、頸部付近には指頭圧痕がみられる。外面は黄色っぽい淡茶褐色であるが、内面は口縁付近を除いて黒灰褐色を呈している。

壺形土器（第68図～第70図 82～105）

形態・大きさなど多様なものがあり、時期的にも長期にわたっている可能性がある。

口縁部には二重口縁となるもの、外へまっすぐ開くもの、直に立ち上がるものなどがある。82はくびれた頸部から外へまっすぐ伸び、さらに外へ強く反る二重口縁となるものである。口縁直径は



第68図 古墳時代壺形土器（1）

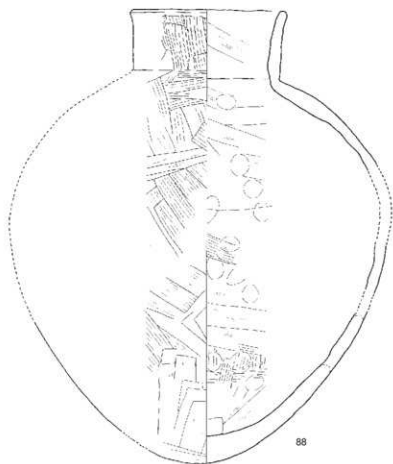
28cmと大きく、焼成度は良い。内外とも幅広いハケナデ、あるいはそのあとヘラナデで仕上げている。口唇部はコの字形を呈しているが、中央がやや突出している。83は口縁直径が13.5m、高さが31.6mある雑な作りをした丸底壺である。頸部は直径が10cm足らずとくびれており、ここから口縁部へは外へまっすぐ開いて伸び、口唇部は丸みをおびている。肩はナデ肩となる。外面は粗いヘラ縦ナデだが、胴下半部はさらに粗くヘラケズリに近い。内面はふつうのナデ整形で、底は分厚い。赤色の小石を多く含む粗い土を用いている。84は口縁直径が11.8m、頸部直径が10mの口縁部で、頸部からまっすぐ開いて口縁部へ至り、端部は丸みをおびている。内外面ともハケナデのあと、ていねいにヘラナデで仕上げている。85は口縁端を欠いているが、頸部からまっすぐ立ち上がる器形を呈し、肩部は強く張っている。頸部の直径は8cm強で、外面はハケナデ、内面はハケナデのあとヘラナデで仕上げている。86は頸部から外反して立ち上がり、中央で内反する二重口縁壺だが、口縁部・胴部とも欠けている。中央の最大径は12m足らずだが、この屈曲部は分厚くなっており、左下りのヘラ押圧痕がみられる。内面はヘラナデ、外面はハケ縦ナデで仕上げている。87は頸部直径が12mと大型で、口縁部はまっすぐ外へ開き、肩の張る器形である。分厚い作りとなっている。外面はハケナデのあと、端部近くをヘラナデで仕上げ、内面は剥離が目立つが、ヘラナデ整形をしている。88はややいびつな器形を呈し、83とよく似た器形であるが、長胴でなく丸みをおびている。口縁直径が10cm、高さが30mの丸底壺である。口縁はやや外へ開いているが、まっすぐ伸び、口唇部はコの字形を呈している。外面はハケナデだが、胴下部はヘラナデで仕上げ、一部は赤色化している。内面はヘラナデである。

胴部は器形に肩の張るものとナデ肩のもの、文様に凹線で文様をつけるものと突帯で文様をつけるものがある。

89～98は肩部や腹部に凹線の圏線や短絡線などによる文様がつけられるものである。89・94・95は5条ほどの横方向圏線に左下がりの斜線のあるもので、89は細線だが、94・95は太線である。95は地文のハケナデが深く、沈線間に筋が残っている。90・91・93・98は7～8条の浅い横方向圏線に縦方向のヘラ刻みのあるもので、圏線に比べて縦方向刻みは深い。92・96・97は4～5条の横方向圏線に八の字状の鋸歯文が描かれている。92・96は2条沈線だが、97は1条幅が広い沈線である。腹部直径は97が30m、98が29.5mある。調整は内外面ともハケナデのあとヘラナデのものが多いが、ハケナデで仕上げているもの、ヘラナデだけのものもある。内面が剥脱しているものもあり、92～94は外面に炭化物が附着している。

99～101は突帯が貼り付けられるものである。99は直径が27.5mの腹部のやや上部に半円形の突帯が貼り付けられ、突帯上には左下がりの板による押圧文がみられる。外面は縦方向のこまかいハケナデ、内面はヘラナデで仕上げている。100はかまぼこ形の突帯を貼り付けたあと、中央に横方向の凹線を一条巡らし、その上に左下がりのヘラ押圧文がみられる。101は直径34mの腹部に幅広いコの字状突帯を貼り付けているが、突帯上に浅い凹線がみられる。

底部はいずれも丸底である。102の調整は内・外面ともヘラナデだが、底部付近には内・外面とも指頭あるいはヘラ押圧痕が残っている。103は薄い作りで、外面がこまかいハケ縦ナデ、内面がヘラナデである。104・105は内・外面ともハケナデのあとヘラナデである。104の内面は剥離が目立つ。

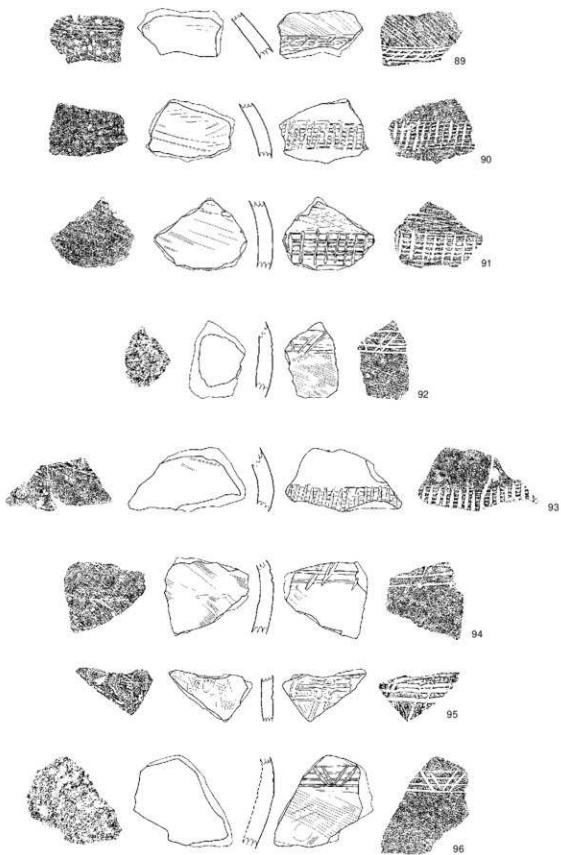


第69図 古墳時代壺形土器(2)

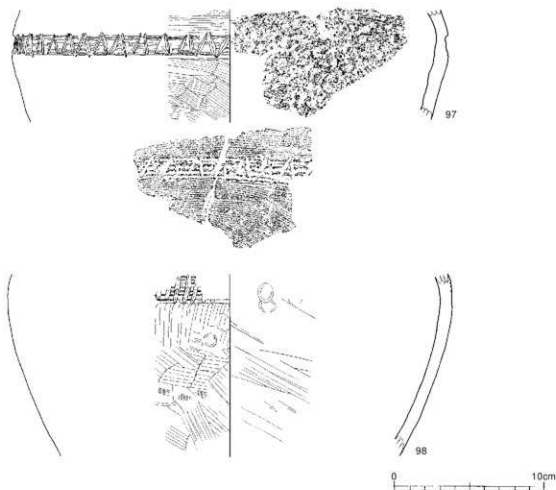
小形壺形土器(第74図106~116)

大きく分けて、小形丸底壺・中形丸底壺・小形平底壺の3種がある。

小形丸底壺(106~109・111)は口縁直径が6.5cmほどの小さいものから10cmほどのやや大きいものがあり、立ち上がりの角度も開くものと、まっすぐ立ち上がるものがある。106は底を欠いているが、口縁直径が9cm、高さが7cm足らずである。底部に比べて口縁部が長く、口縁部は直径5.5cmの頸部から外へ開きながらまっすぐ伸びている。口唇部は丸みをおびて細い。底部は頸部のすぐ下に最大径があり、底は薄い。内外ともヘラでいねいに磨いている。107は口縁上部を欠いているが、口縁近くの直径が6cm強、高さが5cm強ある。直径5.5cmの頸部からやや開きみだが、直に近く立ち上がっている。底部は106と同じく、頸部のすぐ下に最大径があり、やや安定した丸底となるが、分厚い。内外ともいねいなヘラナデである。108も口縁上部を欠いている。口縁直径が7cm強、高さは4cm以上ある。口縁部は直径7.5cmほどの頸部から、やや内傾きみだがほぼまっすぐ立ち上がっている。底は頸部で凹線ぎみに段をもつが、ふくらまずにやや分厚い丸底となる。底部内面はしぼりぎみだが、内外ともいねいなナデ仕上げとなる。109は底部のみで、底が乳首状にふくらんでいる。内外ともいねいにナデしている。111は口縁部のみで、直径10cmの頸部からやや内傾しているが、口縁端近くで逆に外反し、細く尖った口唇部へ至る。口縁直径は10cmある。内外ともいねいなナデ整形で、薄い作りのため軽い。



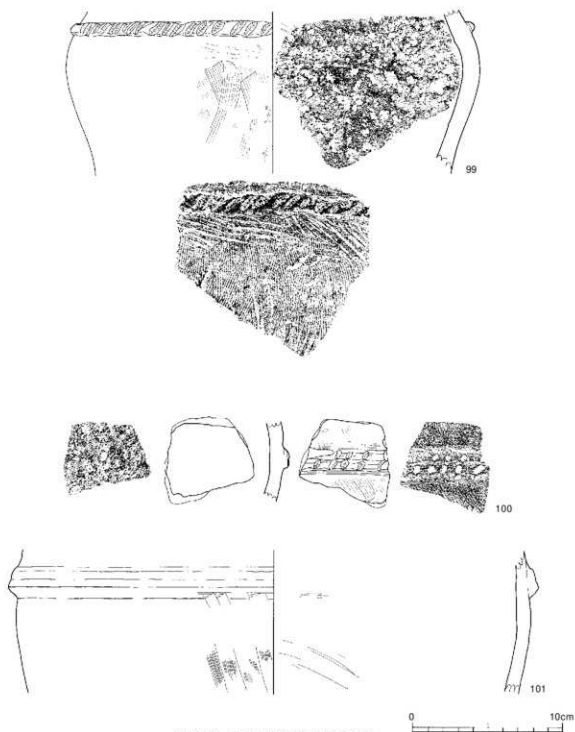
第70圖 古墳時代壺形土器(3)



第7図 古墳時代壺形土器(4)

中形丸底壺(110・112)は口縁部と胴部がある。口縁部(110)は、頸部の接合部が剥離している。頸部から丸みをおびて外へ立ち上がり、口縁端で外反している。口唇部は丸みをおびたコの字形を呈しており、分厚い。内外ともていねいな横方向のヘラナデである。胴部(112)はやや上半に直径14.5cmの最大径があり、頸部直径が10cm強ある。底は丸底で、頸部で積み上げている。外面は縦あるいは斜方向のハケナデだが、下半部はヘラで粗くナデている。内面はヘラでていねいにナデているが、部分的に指頭圧痕がみられる。

小形平底壺(113～116)は最大径が下半部にあるものと、中央部にあるものがある。113は最大径がやや下半部にあり、頸部直径が5cm、最大直径が7.5cmある。底部は直径が4.5cmの安定した平底で、内底部がしぼりでへこんでいる。内外ともていねいなナデで仕上げているが、内面には指頭圧痕が残っている。114は口縁直径が9cm、高さが10.5cm、頸部直径が7.2cm、底部直径が6cm足らずの平底をした埴である。口縁部は頸部からやや内湾ぎみに立ち上がり、最大直径は12.5cmで、胴部中央にある。底部はやや分厚くなり、胴部と頸部に貼り付けている。底部は分厚くなっており、内側はふくらみ、底の中央はややへこんでいる。内外ともハケナデで仕上げているが、内部には指頭圧痕が残っている。115は口縁部を欠いて胴部のみである。9.7cmある最大径は下半部にあり、底は分厚くどっしりとした底になっている。内外面ともていねいにナデているが、ほかの埴に比べて

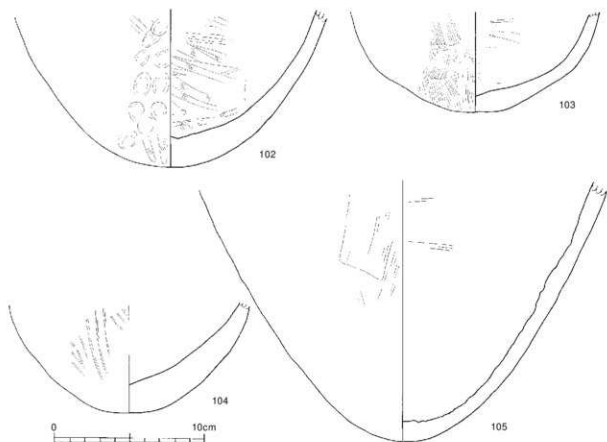


第74図 古墳時代壺形土器(5)

やや整形・作りとも粗い。116と同じような器形をしており、頸部直径が5cm、最大直径が8.5cmある。底は119ほど厚くなく、広いが、不安定な平底となる。口縁部は頸部から強く外へ開いて伸びている。胴部は最大径の部分で貼り付けている。内外ともていねいにナデているが、内面には指頭圧痕があり、内底部はしぼりとなっている。

甕形土器(第74図 117)

小形壺形土器の肩部に直径1cmほどの円孔が焼成前に穿たれている。胴下部に直径13.8cmの最大



第7図 古墳時代壺形土器(6)

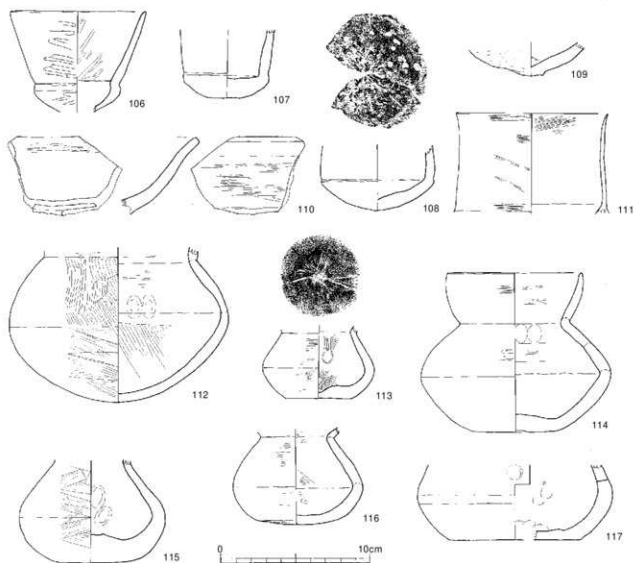
径があり、底は直径8.5cmの安定した平底である。内面は指ナデがみられ、外面はミガキに近いねいなへラナデである。

鉢形土器(第7図 118~126)

平底のもの、脚台付きのものなど多様な器形がある。

118は口縁直径が16.5cm、高さが10cm、底径が4.5cmの胴部が丸みをおびた平底の鉢である。口唇部はコの字形を呈し、分厚い作りである。内面調整はへら横ナデ、外面調整は上部がハケナデ、下部と底部がへらケズリである。119も丸みをおびた器形で、分厚く、口縁直径は11.5cmある。底部を欠いているため、平底か丸底か不明である。口唇部は丸みをおびており、内外ともへらナデ調整だが、指頭圧痕が全体に残る粗い作りである。120は口縁直径が17cmある外へ開く器形を呈しているが、底を欠いているため平底か丸底か不明である。内面とも指押さえて仕上げる雑な作りである。口縁部もでこぼこしており、口唇部は丸みをおびている。

121~126は台付鉢形土器である。121は口縁直径が17cm、高さが12.5cm、脚台直径が9.4cmである。鉢部はゆるやかなくの字状口縁で、口唇部は丸みをおびている。脚台は高さが3.5cmある。外面はハケナデのあとへらナデ、内面はへらナデで、部分的に指頭圧痕が残っている。122は大型台付鉢形土器の鉢部である。丸みをおびた底部と外反する口縁部から成り、口縁直径が27cmある深鉢状である。口縁部と底部の接合部は段となり、口唇部はコの字形を呈する。内外ともケズリのあとへらナデ整形をする粗い作りである。123~126は手づくね風の粗い作りの脚台で、端部は123・124が丸



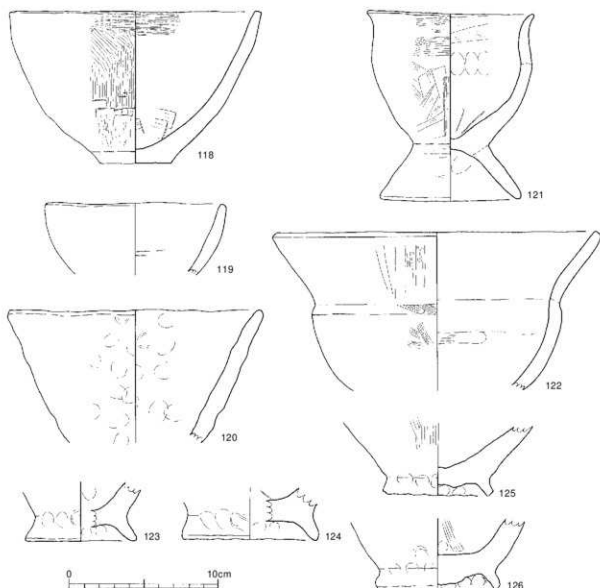
第7図 古墳時代小形土器，甕形土器

みをおびているのに対して、125・126はコの字状を呈しているが、いずれも低い。脚台の付着部は指頭圧痕が顕著で、脚台内面にも一部、指頭圧痕が残っている。鉢部の外面はハケナデのあと、ヘラナデで仕上げている。内面はヘラナデであるが、一部にはハケナデがある。

高坏形土器（第7図 127～138）

坏部は、口縁部が外反するもの（127）と、内湾するもの（128～131）とがある。

127は丸みをおびた底部と、外反する口縁部から成る坏部で、口縁直径が19.5cmある。底部と口縁部を貼り付け接合している部分から口唇部へ向かって薄くなり、口唇部はとがり気味となる。内外ともナデ調整であるが、剥離が目立つ。他の高坏形土器が乳茶褐色を呈するのに対し、これはやや赤みがかった茶褐色を呈している。128は平らな底部と、内湾する口縁部から成る坏部で、口縁直径は17.8cmある。口唇部は丸みをおび、底部と口縁部の接合部は段となる。底部の接合部には剥離を防ぐためのヘラナデがみられる。129～131は底部で、口縁部との接合部で剥がれている。口縁部との境が段をもつことから、いずれも内湾する坏部の底と思われる。接合部は内側に粘土を貼り



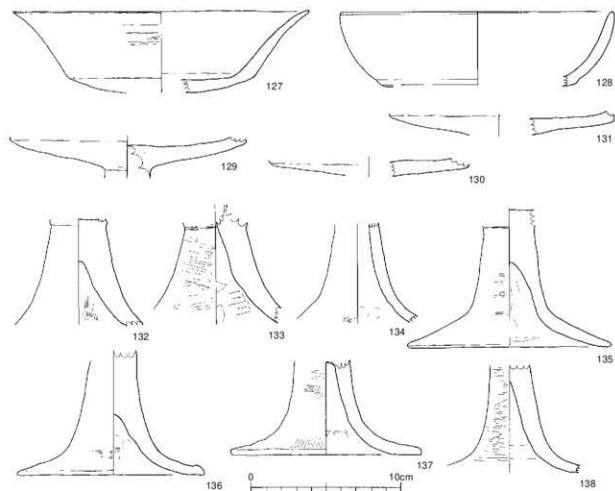
第75図 古墳時代鉢形土器

付けている。129は脚部へまっすぐおちており、中央に下から粘土塊を押し込んでいる。131は筒を坏部へ押し込むようになっており、一部に内外面とも筋状の高まりがあることから補充の可能性もある。調整はいずれも内外ともていねいなミガキに近いヘラナデとなっている。

脚台は132～134・137・138のように筒部をもたずにゆるやかに広がるものと、135・136のように短い筒部からゆるやかに広がって裾へいくものがある。坏部と脚台の接合は坏部に脚台を押し込んでいる。脚台直径は135が13.5m、136・137が12.5mである。端部は135のように丸みをおびるものと、136・137のようにコの字に近いものがある。筒部内面は空洞のものが多いが、13dは詰まっている。調整は内外面ともていねいなヘラナデだが、13dだけは丹塗りとなり、外面がヘラミガキである。

小形土器（第7図 139～150）

この種の土器には139・140のように普通の大きさを小さくしただけのものと、141～150のように



第76図 古墳時代高坏形土器

手づくねのものがある。

ミニチュア土器（第7図 139～150）

139は外へ開きながら直立する口縁部に脚台が付く甕形土器のミニチュア土器である。分厚い作りで、口縁直径は10.5cmあり、頸部付近に左下がり方向へラ押圧のある幅広突帯がみられる。外面がハケナデのあとへラナデ、内面がへラナデである。140は口縁直径が5.5cm、高さが5.6cm、底部直径が3.4cmある分厚い平底の鉢形土器のミニチュア土器で、内外面ともへラナデで仕上げ、特に外はいいである。

141～150は指頭押圧で形を整える手づくね土器で、丸底・平底・台付の鉢形がある。141・142は丸底の鉢形である。141は口縁直径8.4cm、高さが5cmで、やや内反ぎみに立ち上がり、口唇部は丸みをおびている。142は口縁直径が6cm、高さが3.2cmで胴部中央に段をもち、口縁へはまっすぐ伸びている。底は尖りぎみで、分厚く、口唇部は丸みをおびている。指で調整したあと、141の底は外をへラでケズったり、ナデたりしている。143・147は内湾ぎみに立ち上がり、胴部にへラ刻みのある幅広突帯が付着される甕形である。143の口縁直径は5.8cmで、口唇部は丸みをおびたコの字形である。144は口縁直径が5cm足らず、高さが5.5cmの不安定な平底をした器形で、突帯は両側から指でつまみあげて三角突帯風になっている。144は安定した分厚い平底で、底の直径は2cmほどで

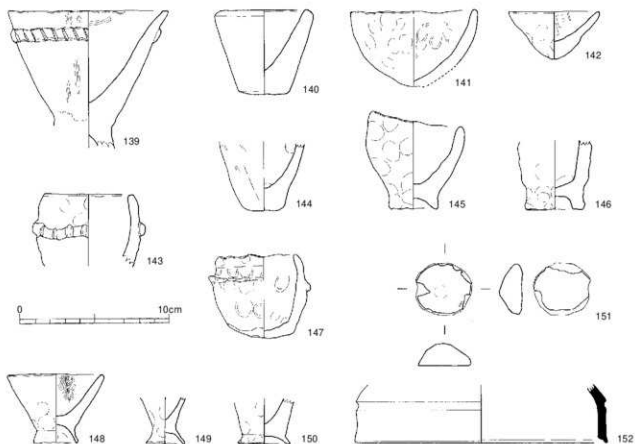
ある。やや外へ開いてまっすぐ伸びている。145・146は低い脚台の付くものである。149は口縁がひずんでやや内湾ぎみの器形をしたもので、口縁直径が6.5cm、高さが5.5～6.5cmの分厚い作りである。口唇部・脚台端とも丸みをおびており、脚台直径は3cm余りある。146は直径3.8cmのどっしりとした脚台をもち、胴部はやや開いてまっすぐ筒状に立ち上がっている。分厚い作りである。148～150は細い脚台が付くものである。148は口縁直径が6.4cm、高さが4.5cm、脚台直径が3cmで、外へまっすぐ伸びる分厚い鉢に、高さ1cm足らずの細い脚台が付く。149は脚台直径が2.5cmある細い作りのもので、脚台は八の字状に開いている。150は分厚い作りのまっすぐ立ち上がる鉢に、直径3.5cm、高さ0.5cmほどの低い脚台が付く。

土製品（第7図 151）

直径が3.5cm 3.7cmの略円形を呈し、下面が直になり、上面は円錐状を呈した土製品である。周辺は磨滅しているが、下面はていねいにヘラナデが施されている。上面は指頭によってていねいに整えられている。淡茶褐色を呈し、焼きは軟質である。白色石・石英などのこまかい土を用いている。用途は不明だが、図を上下逆にして高坏形土器の坏部と脚台の接合部分になる可能性もある。

須恵器（第7図 152）

直径が13.5cmある蓋で、受け部内面は凹線風となりやや上がっている。天井部は丸みをおびて高くなり、まっすぐ立ち上がる受け部との間に幅広の凹線がみられる。内・外面とも白灰色を呈し、焼成度は良い。1点のみ出土の古式須恵器である。



第7図 古墳時代小形土器等

第Ⅷ章 古代から中世の調査

古代から中世の調査は、本来は単独で古代の章、中世の章としなければならないものである。しかし、本遺跡では、包含層である 層がわずかしが残存せず、層位的な把握ができなかったこと、遺構についても遺構内に時期を判別する遺物に乏しかったことから、古代から中世かの判別に苦慮するものが多かったために、古代から中世の調査として報告する。

ただし、時期が判別できる遺構についてはその時期を本文中に記した。

第1節 遺構

1 掘立柱建物跡

古代から中世の遺構として、6棟の掘立柱建物跡（掘立柱建物跡1～6）が検出された。E～F・17～18区に集中している。桁行はいずれも磁南北の方向とほぼ一致する。切り合い関係にあるものはないが、それぞれが非常に接近し合っているため多少の時期差が考えられる。柱穴の深さが30m以下のものも見られることから幾分か削平を受けているものと考えられる。各建物の計測値は計測表を参考にされたい。

また、発掘調査中は認識できなかったが実測図の整理、トレース作業中に気付いた、図上で柱が並び建物跡と見なしうる1棟（掘立柱建物跡7～19）も併せて掲載した。そしてこれらのうち、桁行方向で共通する幾つかの建物跡をひとまとまりにして、4群に分類した。

建物跡1群（1～6号）

掘立柱建物跡1（第8図）

F・17・18区で検出された。建物の規格は2間 3間で床面積は約15㎡である。梁行柱間は平均33m、桁柱間は平均174m、最大梁間364m、最大桁行254mである。柱穴は検出面より深いもので78m、浅いもので24m、平均53.2mである。

掘立柱建物跡2（第8図）

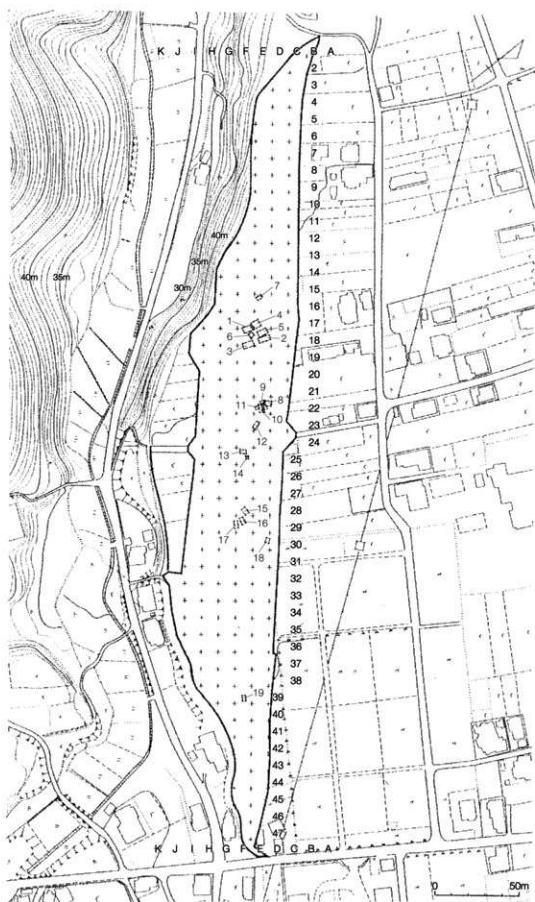
E・18区で検出された。建物の規格は2間 3間で桁行は683mで、6棟の中では最長である。床面積は約20㎡である。梁行柱間は平均274m、桁柱間は平均228mで、最大梁間285m、最大桁行252mである。柱穴は検出面より深いもので82m、浅いもので25m、平均57.5mである。南側の中間にある柱穴は2基からなっているが、添柱があった可能性が考えられる。

掘立柱建物跡3（第8図）

F・18・19区で検出された。建物の規格は2間 3間で床面積は約19㎡である。梁行柱間は平均324m、桁柱間は平均204mであり、最大梁間33m、最大桁行314mである。柱穴は検出面より深いもので62m、浅いもので22m、平均43.2mである。

掘立柱建物跡4（第8図）

E・17・F・17・18区で検出された。建物の規格は2間 3間で床面積は約19㎡である。梁行柱間は平均411m、桁柱間は平均15mで、最大梁間425m、最大桁行185mであり、6棟の中では最も桁行が短い。柱穴は検出面より深いもので72m、浅いもので19m、平均48.8mである。



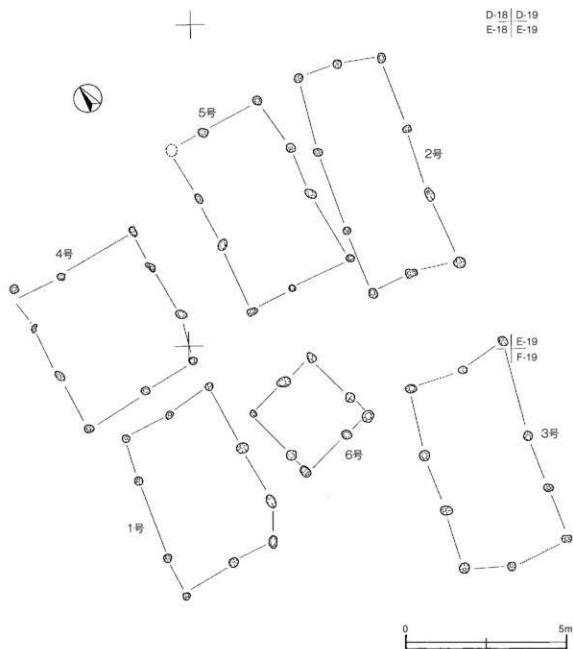
第78図 掘立柱建物跡位置図

掘立柱建物跡 5 (第 8 図)

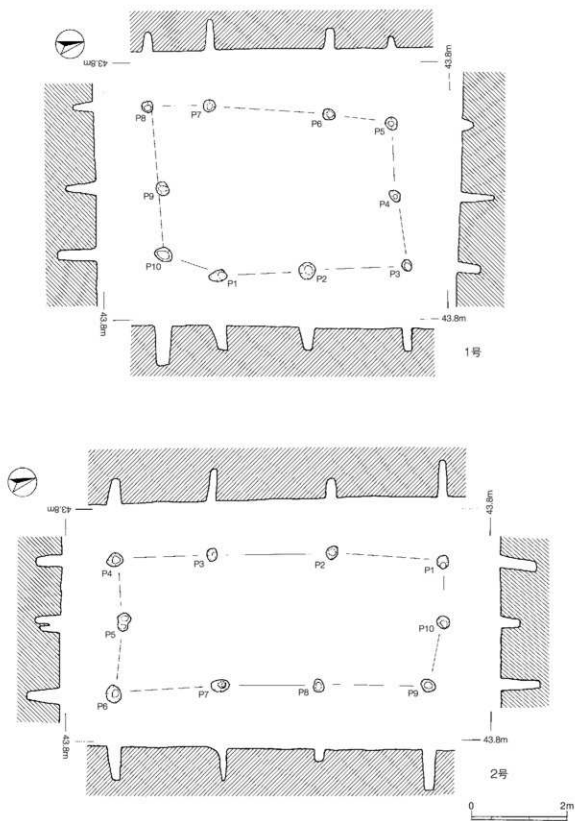
E - 17・18区で検出された。南東隅の柱穴は確認トレンチにより切られているが、本来の建物の規格は2間 3間で床面積は約 18㎡程度であると考えられる。梁行柱間は平均 3.3m, 桁行柱間は平均 1.89mで, 最大梁間 3.46m, 最大桁行 2.28mである。柱穴は検出面より深いもので 7.7m, 浅いもので 2.6m, 平均 4.8mである。

掘立柱建物跡 6 (第 8 図)

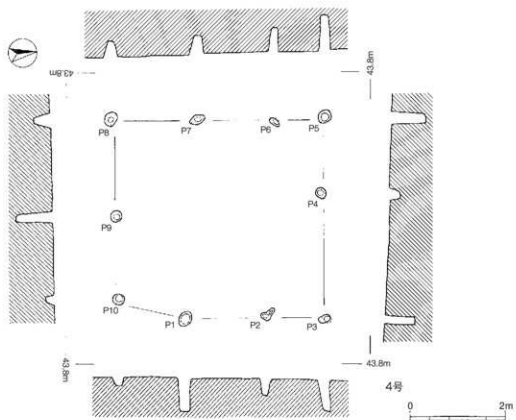
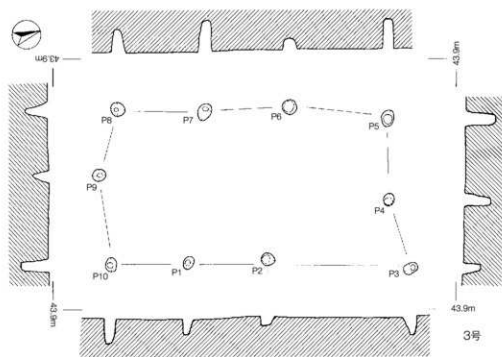
F - 18区で検出された。規格が最も小さく, 床面積は約 7㎡である。他の5棟と異なる用途の建物跡であると推定される。梁行柱間は平均 2.6m, 桁行柱間は平均 1.24mで最大梁間 2.8m, 最大桁行 1.8mである。柱穴は検出面より深いもので 9.4m, 浅いもので 2.2m, 平均 5.9mである。



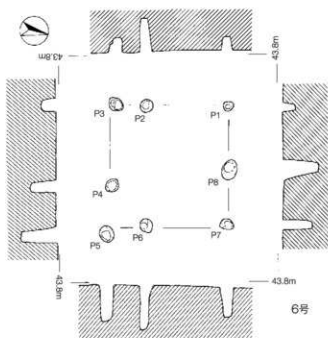
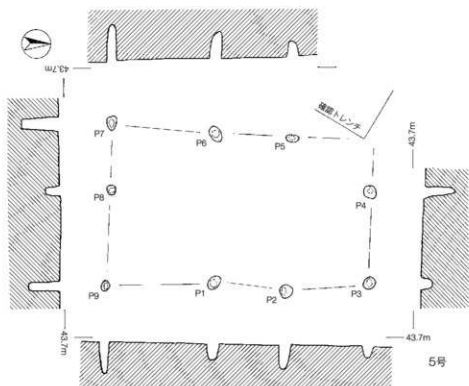
第 7 図 掘立柱建物跡位置図 1～6 号



第80图 掘立柱建物跡1, 2号

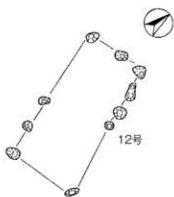
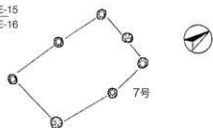


第81图 掘立柱建物跡3，4号

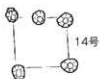
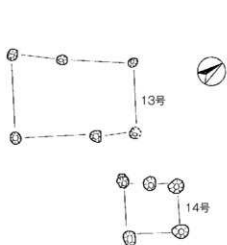


第8図 掘立柱建物跡 5, 6号

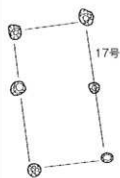
F-15 | E-15
F-16 | E-16



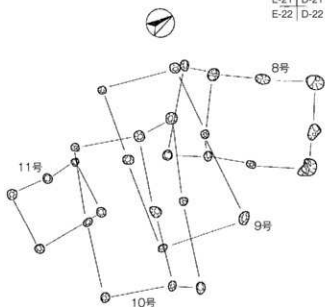
F-23 | E-23
F-24 | E-24



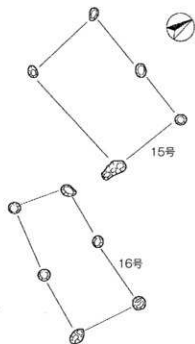
F-24 | E-24
F-25 | E-25



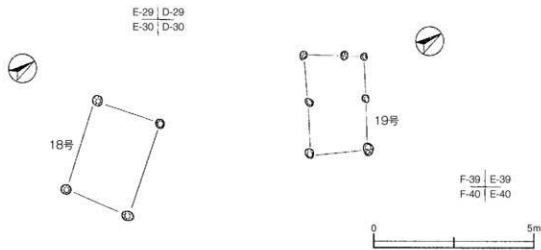
E-21 | D-21
E-22 | D-22



G-28 | F-28
G-29 | F-29



第8図 掘立柱建物跡位置図 7~17号



第84図 掘立柱建物跡位置図 18, 19号

掘立柱建物跡7(第8図)

E・16区で検出された。建物の規格は2間 3間であると考えられる。

建物跡2群(8～11号)

掘立柱建物跡8(第8図)

D・E・2区で検出された。南西側に庇を設け、柱穴の並びがやや不規則であるが、建物の規格は2間 1間あるいは2間 2間であると考えられる。

掘立柱建物跡9(第8図)

E・2区で検出された。建物の規格は2間 3間であると考えられる。

掘立柱建物跡10(第8図)

E・2区で検出された。北側に庇を設け、規格は2間 1間であると考えられる。

掘立柱建物跡11(第8図)

E・2区で検出された。桁行がほぼ南北方向である。建物の規格は2間 1間であると考えられる。

掘立柱建物跡12(第8図)

E・F・2区で検出された。規格は2間 1間であると考えられる。桁行の柱穴の間にビットが見られることから、添柱が建て替えがあった可能性が考えられる。

建物跡3群(13・14号)

掘立柱建物跡13(第8図)

F・2区で検出された。柱穴の並びがやや不規則であるが、建物の規格は2間 1間であると考えられる。

掘立柱建物跡14(第8図)

F・2区で検出された。建物の規格は1間 1間であると考えられる。

建物跡4群(15～17号)

掘立柱建物跡15(第8図)

F・2区で検出された。建物の規格は2間 1間であるが、桁行の1基の柱穴が何らかの理由で確認できなかったものと考えられる。

掘立柱建物跡 16(第8図)

F・2区で検出された。建物の規格は2間 1間であると考えられる。

掘立柱建物跡 17(第8図)

F・G・2区で検出された。建物の規格は2間 1間であると考えられる。

掘立柱建物跡 18(第8図)

D・E・3区で検出された。建物の規格は1間 1間であると考えられる。

掘立柱建物跡 19(第8図)

F・3区で検出された。建物の規格は2間 1間あるいは2間 2間であると考えられる。

2 溝(第8図)

古代から中世の溝は、溝1～5の5条がa層の上面で検出された。

溝1号(第8図)

C-I・15-2区で検出された。幅は約0.8～2mで、深さは約0.3～0.5m、検出された総延長は約150mである。南北に約30m、東西に約120mの長さで調査区外へとのびる。底面は平坦、もしくは丸みをもつものがあり、ゆるやかに立ち上がる。

出土遺物(第8図1, 2)

1は、土師器の埴である。内外共に横ナデの調整がなされている。2は白磁の丸碗である。型押し磁器で近世のものと考えられ、埋土に紛れ込んだものと推察される。

溝2号(第8図)

C-G・1区で検出された。南北方向にほぼ一直線上にのびる。幅は約0.9～2mで、深さは約0.3～0.4m、検出された総延長は約42mで、調査区を横断するものと考えられる。底面は平坦、もしくは丸みをもつものがあり、ゆるやかに立ち上がる。

出土遺物(第8図3～9)

3, 4はそれぞれ土師器の埴で、内外共に横ナデの調整がなされている。3の高台は「八」の字状に強く張り出し、また先端部は太く外へ大きく張り出す。4には内外面全体にケズリの調整もや見られる。5, 6, 7は内黒土師器の埴であり、7では、内面にヘラミガキの痕跡をみることができる。8は1世紀後半の白磁の碗であり、丸みを帯びながら内湾気味に立ち上がり、口縁部が反転し、先端部がやや外反する。胎土は堅緻である。9は唐銭の「開元通寶」であり、初鋳年は621年である。

溝3号(第8図)

D-I・19区で検出された。2号と並行するように南北方向にのびていて、幅は約1～1.5m、深さが約0.3～0.7m、総延長約47mと、2号に似通っている点が見られている。底面は平坦で、ゆるやかに立ち上がる。

出土遺物(第8図10, 11)

10は、東播磨系須恵器の埴である。内外横ナデの調整が見られ、粘土の接合痕も断面に見られる。11は瓦質埴鉢の胴部であり、外面が横ナデ、内面がハケメの調整が見られる。また、内面には6条の条線が施されている。

第1表 掘立柱建物跡計測表(1)

掘立柱建物跡1号 柱穴計測表・柱穴芯間計測表

柱穴番号	柱穴(単位:cm)		
	長径	短径	深さ
1	42	24	53
2	39	35	48
3	28	23	50
4	29	23	69
5	29	25	24
6	24	23	43
7	27	25	67
8	26	24	41
9	32	26	64
10	35	29	78
平均	31.1	25.7	53.7

柱穴番号	梁行柱間(m)	柱穴番号	桁行柱間(m)	桁行間(m)
P 3 ~ P 5	3.05	P 3 ~ P 2	2.1	5.27
P 2 ~ P 6	3.37	P 2 ~ P 1	1.83	
P 1 ~ P 7	3.64	P 1 ~ P 10	1.34	
P 8 ~ P 10	3.15	P 8 ~ P 7	1.32	5.19
		P 7 ~ P 6	2.54	
		P 6 ~ P 5	1.33	
平均	3.3		1.74	5.23

掘立柱建物跡2号 柱穴計測表・柱穴芯間計測表

柱穴番号	柱穴(単位:cm)		
	長径	短径	深さ
1	28	25	76
2	31	26	41
3	28	22	66
4	35	28	54
5	38	28	53
6	38	30	67
7	41	26	70
8	30	24	25
9	31	26	82
10	28	26	41
平均	32.8	26.1	57.5

柱穴番号	梁行柱間(m)	柱穴番号	桁行柱間(m)	桁行間(m)
P 1 ~ P 9	2.54	P 1 ~ P 2	2.4	6.99
P 2 ~ P 8	2.85	P 2 ~ P 3	2.52	
P 3 ~ P 7	2.76	P 3 ~ P 4	2.07	
P 4 ~ P 6	2.82	P 6 ~ P 7	2.3	6.68
		P 7 ~ P 8	2.05	
		P 8 ~ P 9	2.33	
平均	2.74		2.28	6.83

掘立柱建物跡3号 柱穴計測表・柱穴芯間計測表

柱穴番号	柱穴(単位:cm)		
	長径	短径	深さ
1	30	21	33
2	31	29	22
3	32	22	38
4	28	23	55
5	36	27	63
6	30	30	24
7	39	28	67
8	33	29	44
9	30	25	33
10	32	22	53
平均	32.1	25.6	43.2

柱穴番号	梁行柱間(m)	柱穴番号	桁行柱間(m)	桁行間(m)
P 3 ~ P 5	3.17	P 3 ~ P 2	3.14	6.46
P 2 ~ P 6	3.24	P 2 ~ P 1	1.68	
P 1 ~ P 7	3.26	P 1 ~ P 10	1.64	
P 8 ~ P 10	3.3	P 8 ~ P 7	1.9	5.76
		P 7 ~ P 6	1.76	
		P 6 ~ P 5	2.1	
平均	3.24		2.04	6.11

第2表 掘立柱建物跡計測表(2)

掘立柱建物跡4号 柱穴計測表・柱穴芯芯間計測表

柱穴番号	柱穴(単位:cm)		
	長径	短径	深さ
1	36	27	71
2	29	20	37
3	24	18	65
4	26	22	23
5	34	28	71
6	27	13	50
7	34	23	39
8	32	26	36
9	27	24	77
10	26	24	19
平均	29.5	22.5	48.8

柱穴番号	梁行柱間(m)	柱穴番号	桁行柱間(m)	桁行間(m)
P 3 ~ P 5	4.26	P 3 ~ P 2	1.3	4.5
P 2 ~ P 6	4.15	P 2 ~ P 1	1.72	
P 1 ~ P 7	4.25	P 1 ~ P 10	1.48	
P 8 ~ P 10	3.78	P 8 ~ P 7	1.85	4.51
		P 7 ~ P 6	1.6	
		P 6 ~ P 5	1.06	
平均	4.11		1.5	4.51

掘立柱建物跡5号 柱穴計測表・柱穴芯芯間計測表

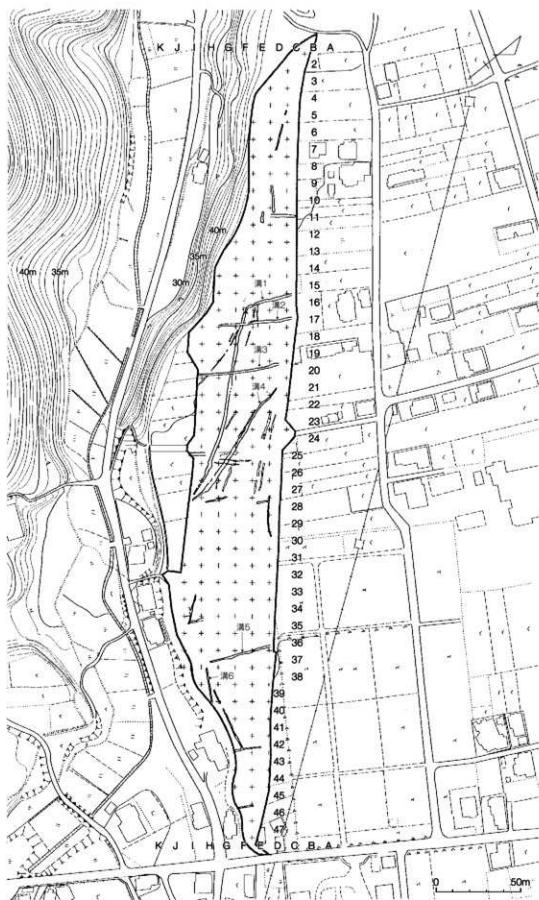
柱穴番号	柱穴(単位:cm)		
	長径	短径	深さ
1	36	23	35
2	32	27	52
3	27	25	26
4	31	27	62
5	29	16	38
6	38	24	55
7	32	23	77
8	22	18	30
9	25	18	64
平均	30.2	22.3	48.8

柱穴番号	梁行柱間(m)	柱穴番号	桁行柱間(m)	桁行間(m)
P 2 ~ P 5	3.25	P 3 ~ P 2	1.8	5.61
P 1 ~ P 6	3.18	P 2 ~ P 1	1.53	
P 7 ~ P 9	3.46	P 1 ~ P 9	2.28	
		P 7 ~ P 6	2.22	
		P 6 ~ P 5	1.61	
平均	3.3		1.88	

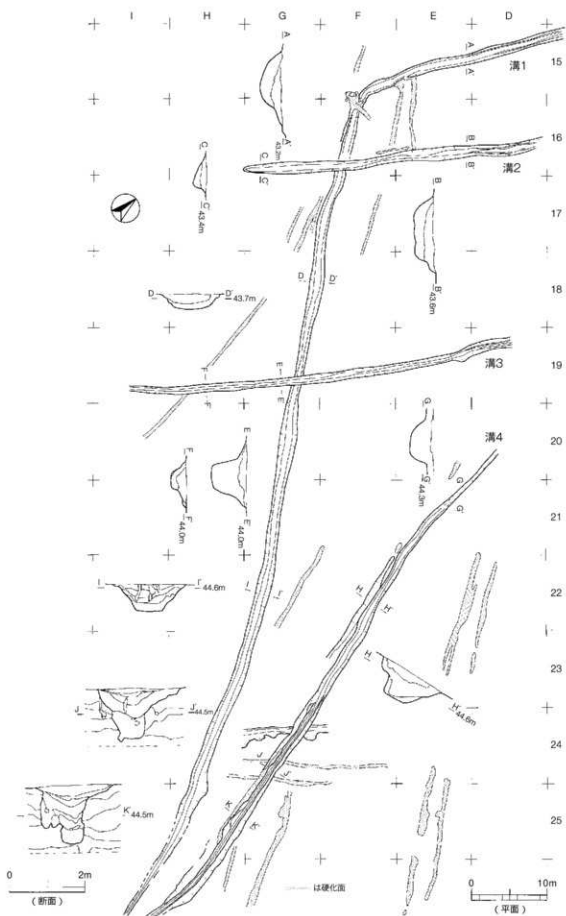
掘立柱建物跡6号 柱穴計測表・柱穴芯芯間計測表

柱穴番号	柱穴(単位:cm)		
	長径	短径	深さ
1	24	20	22
2	30	27	70
3	35	28	28
4	33	27	53
5	34	30	76
6	33	27	94
7	31	23	62
8	45	32	74
平均	33.1	26.8	59.9

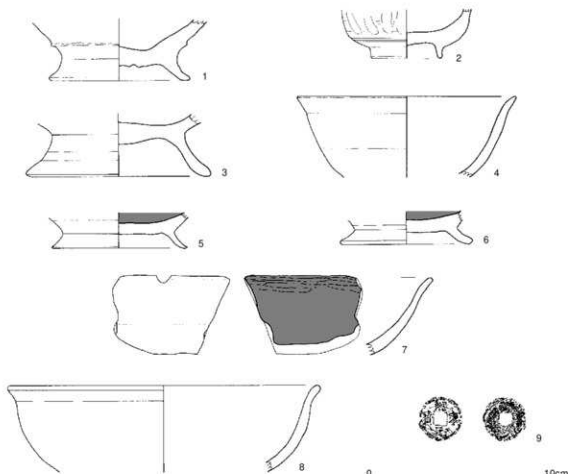
柱穴番号	梁行柱間(m)	柱穴番号	桁行柱間(m)	桁行間(m)
P 1 ~ P 7	2.5	P 7 ~ P 6	1.8	2.64
P 2 ~ P 6	2.52	P 6 ~ P 5	0.84	
P 3 ~ P 5	2.8	P 3 ~ P 2	0.57	2.33
		P 2 ~ P 1	1.76	
平均	2.61		1.24	2.49



第85図 溝位置図



第86図 溝及び硬化面位置図



第8図 溝内遺物(1)

溝4号(第8図)

D-I-20-2区で検出された。1号と重なり合うように南北にのび、硬化面も断続的に所々見られる。幅は約0.5-2m、深さは約0.3m-1.2mと幅広く点在し、総延長は約86mである。溝断面図から、断面によって埋土に違いがあり、崩落した後に入り込みがあったと考えられる。底面は、平坦なもの丸みを帯びたものに分かれ、段をもって立ち上がる箇所や、複雑な曲線を描きながら立ち上がる箇所などがみられる。

出土遺物(第8図)

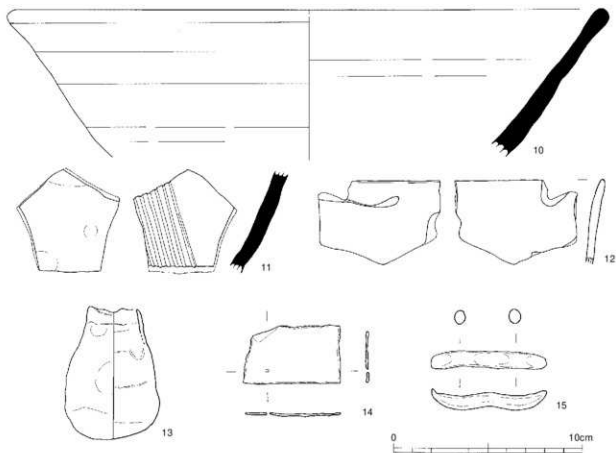
1は土師器の大型碗で、調整は内外共に横ナデである。13は弥生時代か古墳時代の手捏土器の蛸壺で、口径は2cmあり、輪積み痕が残っている。

溝5号(第8図)

H-37-3区で検出された。遺跡の南部に位置し、東西に直線状にのびている。総延長は、約22mである。

出土遺物(第8図)

14は、銅製品である。厚さ約0.5mm、縦約3cm、横約5cmの銅板に直径約1.5mmの孔が人工的に施されている。また同じ場所から、長さ6cm、太さ約7mmの銅製の棒(15)が検出された。双方共に家具の金具か、近世品の混入かとも考えられる。



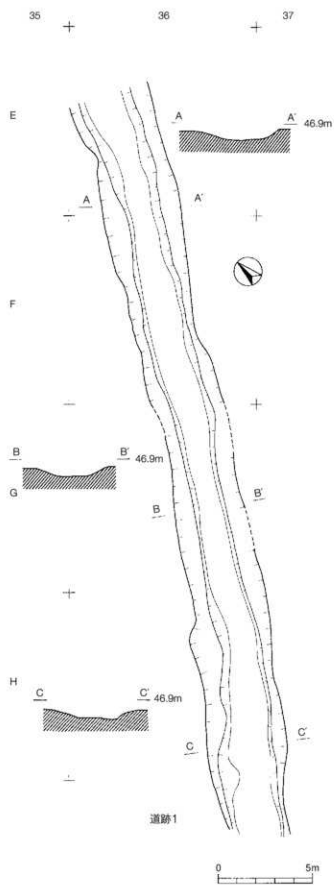
第88図 溝内遺物(2)

3 道跡(第88図)

道路状遺構が2条検出された。1号は、E-I-35-3区で検出された。断面がゆるやかな逆台形の形をしており、幅が約4mで、南北に直線状にのびている硬化面が所々に確認された。深さは約50cmと浅く、総延長は約40mである。2号は、E-F-27、2区で検出された。幅は約17~25mで、1号同様、南北に直線状にのびている硬化面が所々に確認された。道は全体的になだらかな平坦面で、深さはほとんど見られない。層位や埋土状況から判断して、古代から中世の時期に使用された道路跡と推定している。道路の建設と廃棄の時期は不明確であるが、近世以降には道路としての役割を終え、遺構が埋没したものとして考えている。埋土からは、土製品、土師器、土錘が出土した。

出土遺物(第90図)

16は、粗い土を用いた靴の羽口である。灰色を呈しているが被熱のため、外面に黒緑色のガラス状の物質が熔着している。17は円筒形の土錘で、最大長70mm、直径2cm、孔径09mmである。外面には、ケズリの調整が施されている。18は、底部切離しが糸切りの土師器の坏であり、調整は内外共に横ナデである。



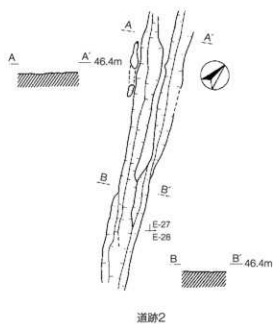
第8図 道跡1, 2

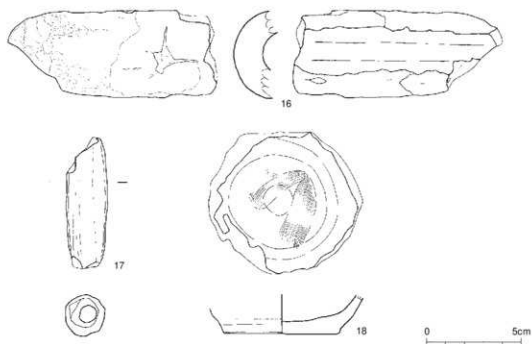
4 焼土跡(第9図)

調査区内の所々に焼土跡らしき箇所が残されていたが、確実に焼土跡と認識されるものは少なかった。そこでミニトレンチや半截を行い、a・b層で著しい痕跡があった10か所を掲載した。分布については、遺跡北部に4か所、中間部に4か所、南部に2か所、それぞれ点在している。

焼土跡1(第9図)

C-5区で検出された。約0.8m×0.7mの範囲に広がり、約12mほどの窪みになっている。底面はほぼ平坦でゆるやかに立ち上がり、赤褐色砂質土や暗紫褐色砂質土が堆積している。





第9図 道跡出土遺物

焼土跡2（第9図）

D - 7区で検出された。約1m 1mの範囲に広がり、約2cmほどの窪みになっている。底面はほぼ平坦で、ゆるやかに立ち上がる。暗紫褐色土、砂質土、茶褐色土、粘質土などに炭化物が多く含まれ、焼土は赤褐色で割れやすくなっている。

焼土跡3（第9図）

D - 8区で検出された。約16m 11mの範囲に広がり、約30cmの窪みが見られる。東西に細長く、底面はほぼ平坦でゆるやかに立ち上がり、黒褐色砂質土と暗褐色砂質土から炭化物が検出された。土器や石鏝、黒曜石の破片など数点が出土したが、小片のため図化しなかった。

焼土跡4（第9図）

D - 9区で検出された。他の焼土跡に比べて比較的大きいものであり、約2m 18mの範囲に広がり、約40cmの窪みがある。底面はほぼ平坦でゆるやかに立ち上がり、炭化物が多量に混じる焼土層が検出された。黒曜石の破片も数点出土したが、図化しなかった。

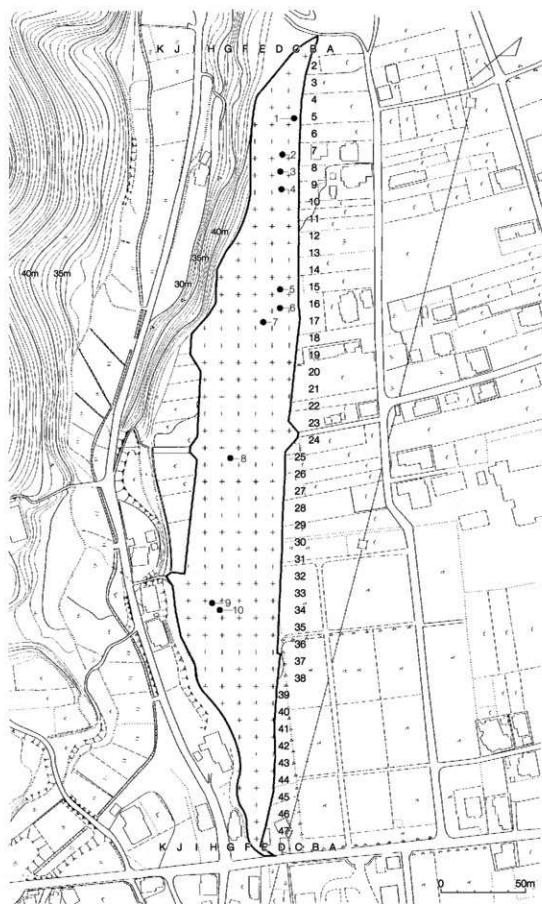
焼土跡5（第9図）

D - 15区で検出された。約09m 11mの範囲に広がり、約20cmの窪みが見られ、深さ約30cmの樹根が重なり合っている。底面は楕円形を呈し、暗褐色土が混入した形跡が見られ、灰の掻きだし部の可能性もあるが不明である。埋土からは、土師器が数点出土した。

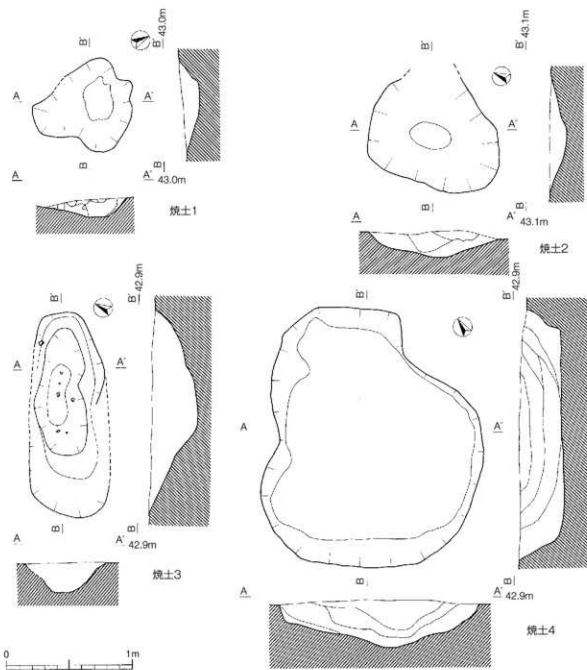
出土遺物（第9図）

19は、内黒土師器の埴もしくは坏の口縁部と考えられる。外面部に4条の稜線を有し、丸みを帯びながら内湾気味に立ち上がり、口縁部は反転しながら先端部は外反する。

20も埴もしくは坏の口縁部と考えられ、数条の稜線を有している。21は、土師器の埴底部で、内外面にナデ調整がなされている。



第9図 焼土跡位置図



第92図 焼土跡1～4

焼土跡6 (第93図)

D - 16区で検出された。約12m 09mの範囲に広がり、約30mの窪みに樹根が二本、食い込んだ形となっている。底面には段差がみられ、焼土は桃橙色土であり、土器破片が検出されたが図化しなかった。堆積した暗茶褐色土には炭化物が多量に点在していた。

焼土跡7 (第95図)

E - 17区で、検出された。約21m 14mの範囲に広がり、平均して約20mほどの窪みの中で、深さ約40cmのピットが樹根の食い込んだ形として検出されている。また、少し離れた箇所にも樹根の食い込みがみられている。底面は全体的になだらかであり、赤褐色砂質土である焼土から、土師器などが数点検出された。

出土遺物（第9図）

22は、内黒土師器の埴もしくは坏の口縁部である。1同様、丸みを帯びながら内湾気味に立ち上がり、先端部が外反している。23は土師器甕の口縁部であり、内外共にナデ調整がなされている。24は、土師器鉢の胴部から口縁部にわたるもので、薄手ではあるが、口径25cmで比較的、大型のものであるように思われる。内外共にナデ調整である。

焼土跡8（第9図）

G・25区で検出された。約0.7m 0.4mの範囲に広がり、窪みは約10cmほどと、比較的浅い。底面は平坦であり、焼土は赤茶色と黒茶色に分かれる。

焼土跡9（第9図）

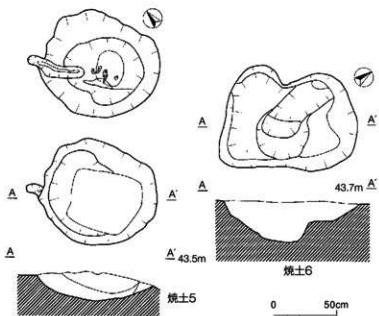
H・33・34区で検出された。約0.9m 0.6mの範囲に広がり、窪みは約20cmほどである。埋土には様々な質の土が混在していたが、そのうち多かったのが暗茶褐色土で、やや硬化で砂質であり、焼土粒を含んでいた。焼土は橙色を帯び、淡黒色土や赤色混じりの茶褐色土、黒色混じりの暗茶褐色土にも焼土粒や炭化物が多量に含まれていた。底面は楕円状を呈している。

焼土跡10（第9図）

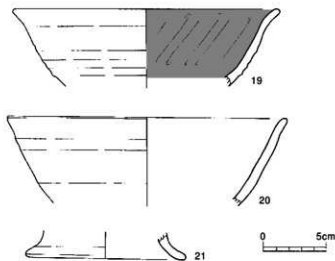
H・G・34区で、検出された。約0.5m 0.4mの範囲に広がり、窪みは、約20cmほどである。焼土塊は何か所かに点在し、赤色で炭化質を含んでおり、硬質であるのが特徴である。炭化物は黒色土や暗茶褐色土などに含まれていた。底面は、なだらかな楕円状を呈している。全体を通して、焼土跡から遺物が出土したのは5、7のみであり、その他の遺構からは遺物が見あたらなかった。

5 土師皿埋納土坑（第9図）

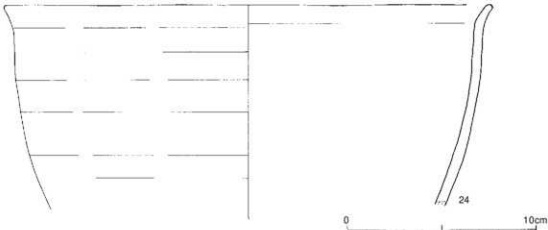
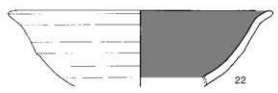
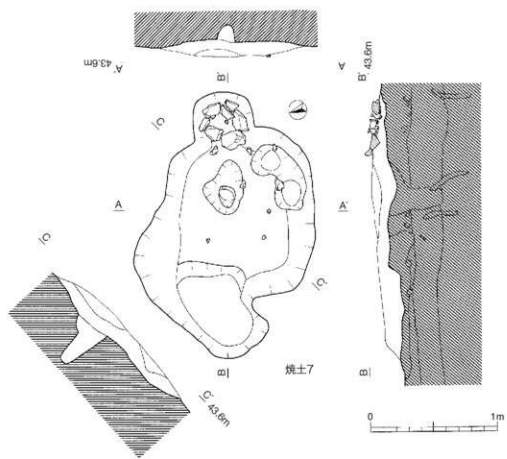
E・35区で検出された。長軸約86cmの層土を埋土とする楕円形の土坑の床面から約9.5m上の



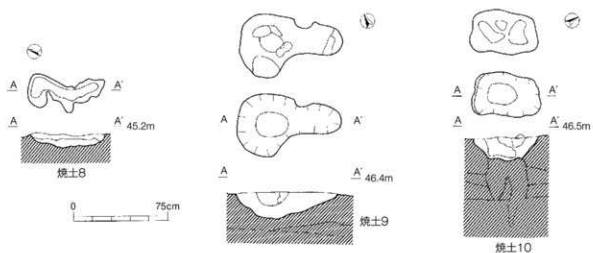
第9図 焼土跡5、6



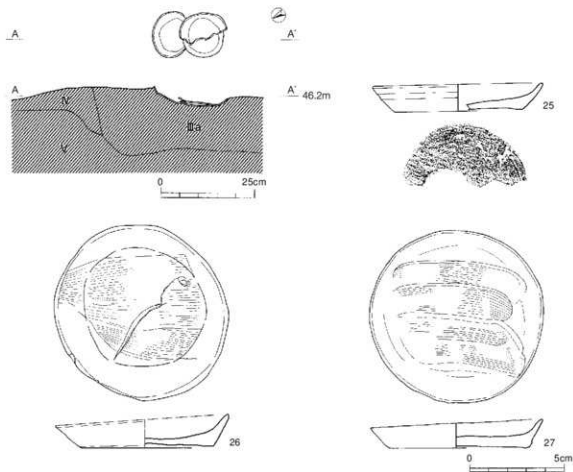
第9図 焼土跡5出土遺物



第9図 焼土跡7及び出土遺物

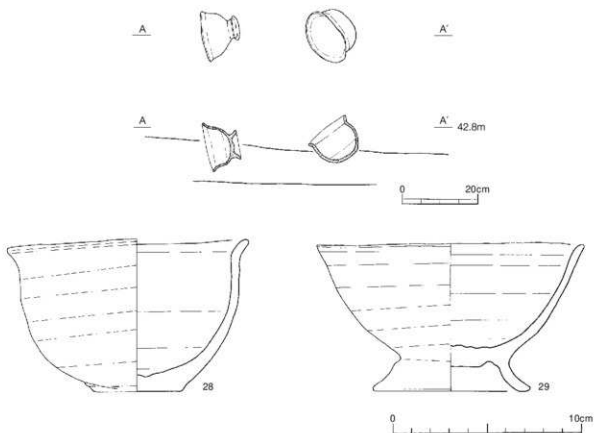


第9図 焼土跡 8～10



第9図 土師器埋納土坑及び遺物

位置に、土師皿が1か所に3枚上向きに置かれていた。置かれた順番は、北側の皿(27)が最初で次にそれに接するように南側に皿を置き(26)、最後に2番目の皿を押しえつけるように3番目の皿(25)が置かれている。3枚共、底面に糸切り痕が観察される。遺構の性格は、土層断面が切り崩されているものの、土坑墓の可能性が高いものと推定される。



第98図 古代土師器（1）鉢，壺

第2節 古代の遺物

主に a・ bを包含層として土師器や須恵器等が出土している。土師器の中には、数点の墨書土器と簡書土器がみられ、本遺跡の特色といえる。

土師器

鉢・壺（第98図）

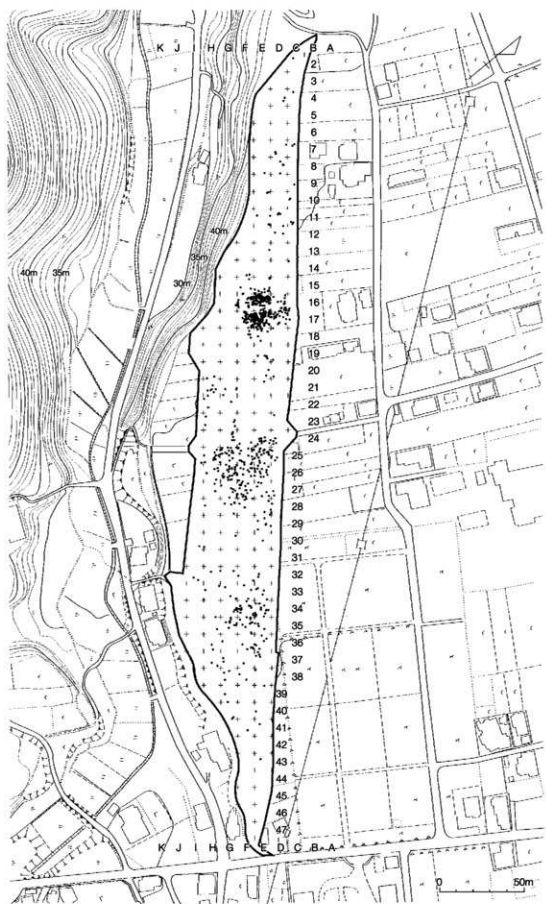
二つの完形の鉢と壺が約 20mの間隔を開けて、D・7区 の 層から出土した。28は、口縁部付近がやや急に外反し、29は、「八」の字状に広がる高台を持つ。双方共に丁寧なナデ調整が内外面共になされている。これらの遺物がほぼ同位置に並べられた理由や意図については、祭りでの使用、もしくは集落に廢物が侵入しないように塞の神への供献として行われたとも考えられるが、断定はできないものである。

壺（第100図～102図）

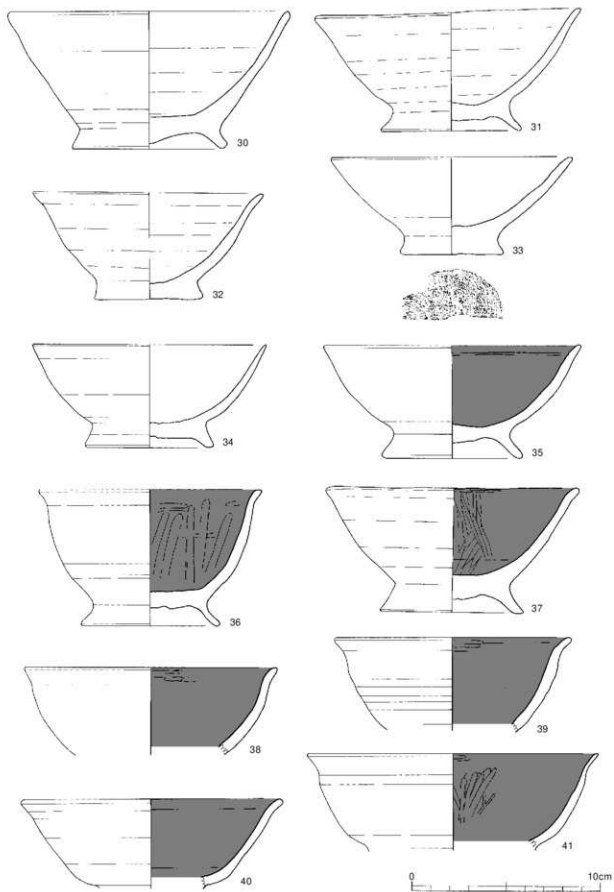
出土した壺を口径、器形、体部や底部及び高台の形状により、6種類に分類した。

壺 類（30～37） 完形、もしくは完形に近い壺であり、口径は約 12m～14m程度。

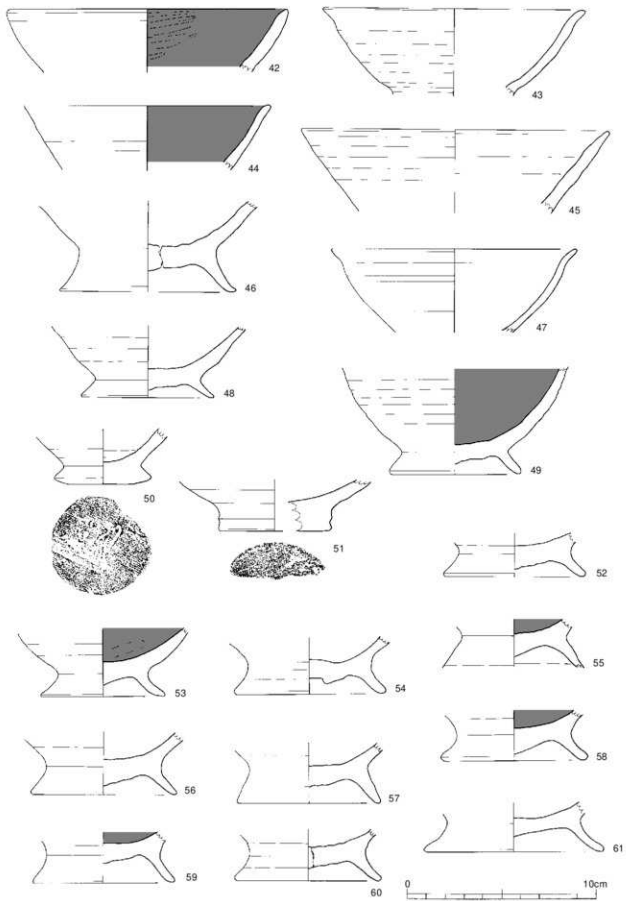
30～39は、断面が三角形の形をした高台を有している。32・33は、円柱状の高台を有する充実高台壺である。35～37は内黒土師器であり、内面にヘラミガキの調整がなされている。36・37は、口



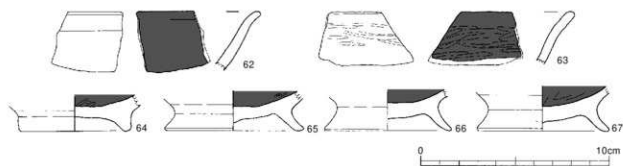
第 99 図 古代遺物出土状況



第10図 古代土師器(2) 埴



第10図 古代土師器(3)塊



第10図 古代土師器(4) 塊

縁部付近がやや緩やかに外反している。

塊 類(38~45) 口縁部付近が外反するものが多い。口径は約13㎝~16㎝程度。

38から42・44までは、内黒土師器である。38・39・41・42には、内面にヘラミガキによる調整がなされ、41は口唇部がやや細めに仕上がっている。逆に42は、体部から口縁部にわたり厚みを帯びた形となっている。43は内外横ナデの調整がなされ、49は体部が直線状に大きく開き、内外面に炭化物が付着している。

塊 類(46~51) 体部から底部にわたるもので、底径は、約5㎝~9㎝程度。

46は、底部中央にヒビ割れが見られるが、内外共に丁寧な横ナデ調整がなされ、スガが内外面に付着する。49は内黒土師器であり、50・51は、充実高台である。

塊 類(52~61) 底部一括。

すべて「八」の字に開く高台をもつものであり、全体的に脚部が細めで高いのが特徴である。52は、やや厚めの底部を有し、53・55・58・59は内黒土師器で、内面がヘラミガキ、外面が横ナデによる調整である。54は、高台内の中央部付近が盛り上がる。60は、底部中央にヒビ割れが見られるが、46同様、内外共に丁寧な横ナデ調整がなされている。

塊 類(62・63) 口縁部から胴部にわたるもので、破片資料であるもの。

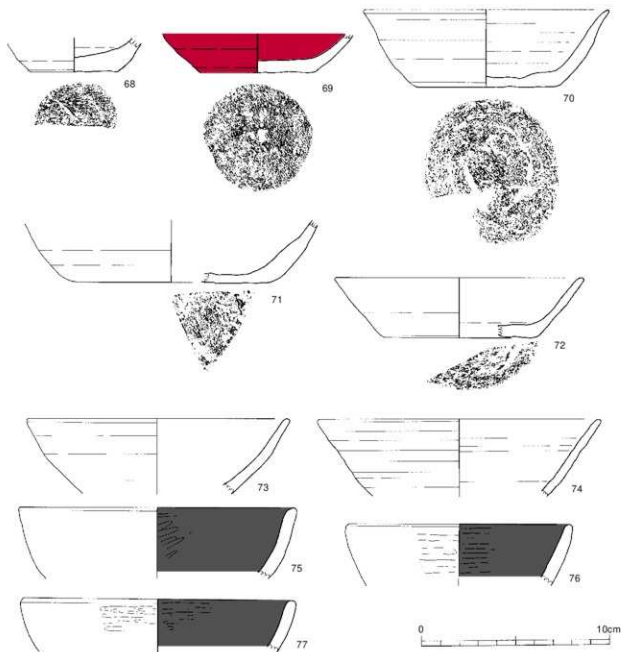
62、63ともに内黒土師器である。63については、内外共にヘラミガキが施されている。

塊 類(64~67) 内黒土師器の底部である。底形は、約5㎝~7㎝程度。

64は、やや低めで丸みを帯びた脚部である。65から67については、「八」の字に開く高台を有している。すべて内面にヘラミガキ調整が、外面に横ナデ調整が施されている。

坏(第10図)

68から72は底部から口縁部までのものであり、73から74までは口縁部から胴部までの破片資料である。68は、厚みのある底部を有している。69は、口縁部から胴部にかけてなだらかな曲線を描き、一見、皿を思わせるような坏底部である。内外面に赤色顔料が塗布されている。70は、底部表面にやや膨らみがみられ、ヘラ切り痕が残る。また、外面には炭化物付着もみられ、内外共に横ナデ調整がなされている。71は底径が10㎝と、やや横ばいな坏であり、二次焼成を受けている。72、74は、胴部が直線的に開くものである。73は、胴部が内湾気味に立ち上がる。75、76、77は、内黒土師器の坏の口縁部である。75は、内面がヘラミガキ、外面が横ナデの調整がなされ、76・77は、内外面共にヘラミガキの調整であり、やや厚めの口縁部を有していることが共通している。



第10図 古代土師器(5) 坏

鉢(第10図)

鉢は5点のみの出土である。78は、内外面が横ナデ調整であり、器壁が底部に近づくにつれてやや厚めになっている。79は、内面が横ナデ、外面が横ナデ及びケズリの調整が施されている。器壁がやや垂直気味に開いている。80は、底部に厚みがあるのが特徴である。81は、底部をへら切りした後の調整がなく、比較的作りが雑なものである。82も、内外面共に横ナデ調整がなされているものの、8同様、調整がやや雑な作りである。

甕 (第105図～108図)

甕は1点の出土である。

口径が出せなかったものがあるため、口縁部及び胴部の形態などにより、4種類に分類した。

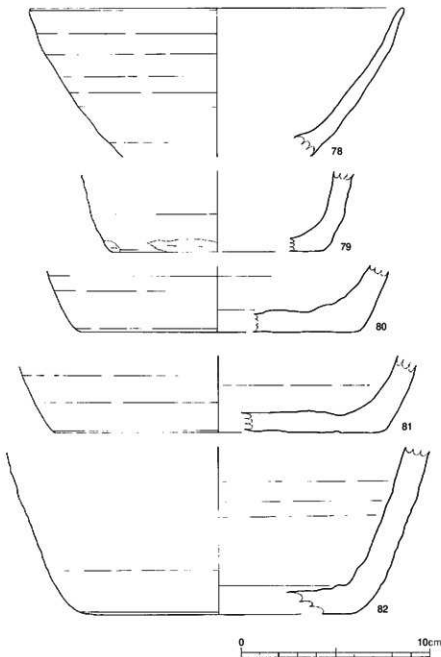
甕 類 (第105図83～86)

胴部が若干丸みを帯びながら膨らみ、頸部で内湾し、口縁部が「く」の字に外反するものである。いずれも器壁は口縁部から胴部までほぼ同じ厚さと推定され、頸部内面には稜線が残っている。口唇部はいずれも細く丸まっている。83は、外面に横位のナデ調整の他、斜位のハケ目による調整痕も見られ、内面は口縁部が横位のナデ調整、稜線より下部では斜位のケズリが施されている。84には、頸部外面にも稜線が残っており、調整は、外面がハケ目のち横ナデ調整がなされており、内面は稜線より下部で斜位のケズリが施されている。

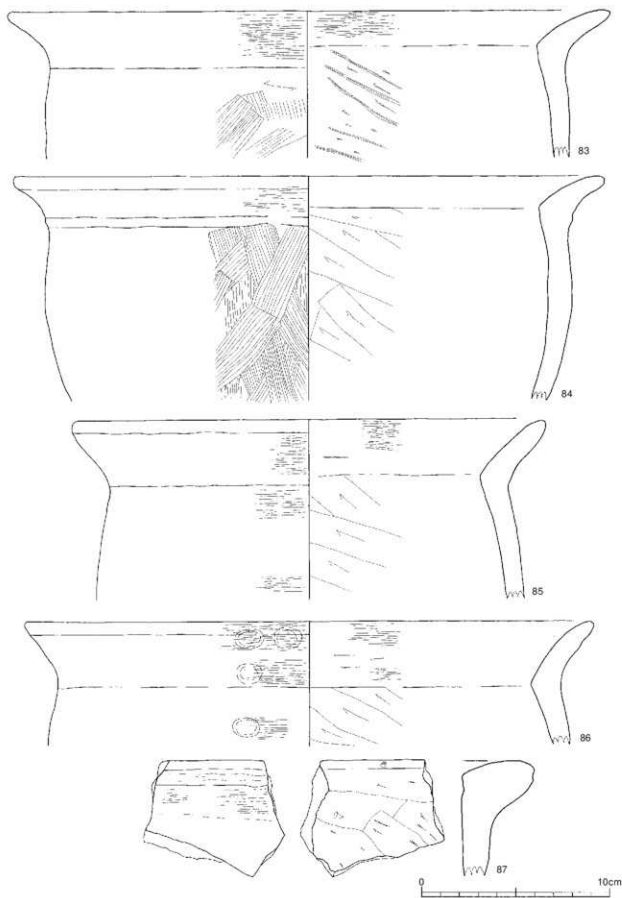
85は、外面に炭化物の付着がみられ、調整は外面が横位のナデ調整、内面は口縁部が横位のナデ調整、稜線より下部では斜位のケズリが施されている。86は、外面にケズリのち横ナデ調整がなされ、指頭痕をはっきり見ることができる。内面は口縁部が横ナデ及び若干のケズリが見られ、稜線より下部では斜位のケズリがみられる。

甕 類 (第105図87～第106図89)

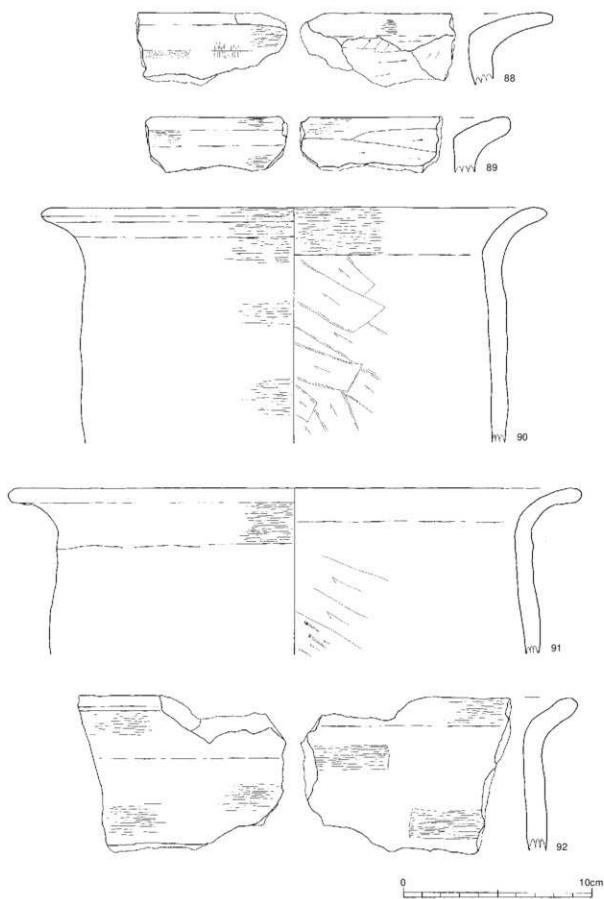
口径が出せなかった口縁部の破片資料である。87は、口唇部がやや厚く、胴部が直線的に伸びるものである。外面は横位のナデ調整が、内面はナデ及び斜位のケズリが施されている。88は、内外面共に炭化物が付着し、外面が横位のナデ調整、内面が頸部の部分に横位もしくは斜位でケズリが



第104図 古代土師器(6) 鉢



第105図 古代土師器(7) 甗



第10図 古代土師器(8) 甕

みられる。89は、外面にのみ炭化物が付着し、横位のナデ調整がみられ、内面には横ナデ及び横位のケズリが施されている。

種類(第10図90・91)

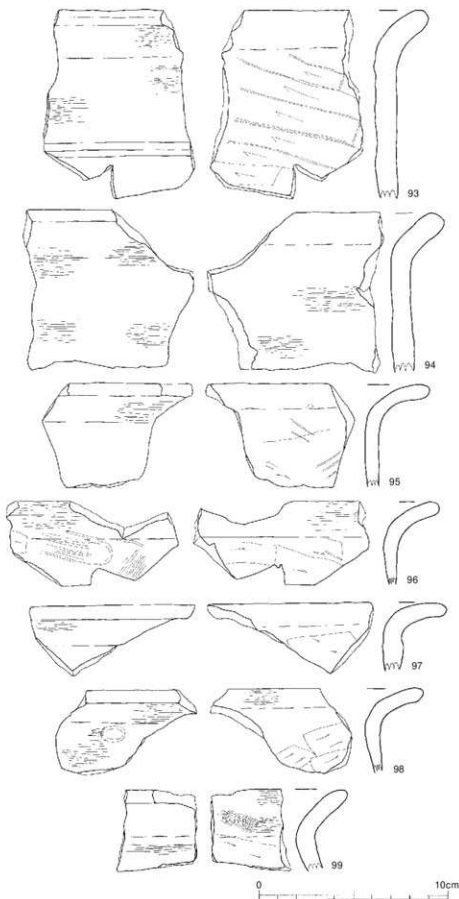
胴部が頸部まで直線的に伸び、口縁部で外反するものである。胴部が比較的長く延びると思われる。90は外面に炭化物が付着し、横ナデ調整がなされ、内面は稜線より上が横ナデ調整、下部が斜位のケズリを施している。

91は、内外面共にゆるやかな稜線が見られ、外面は横ナデ、内面は斜位のケズリが施されている。頸部付近がややくびれている点が特徴的である。

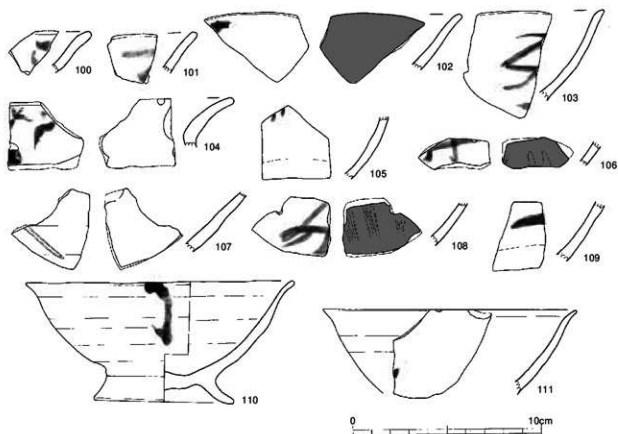
種類(第10図92～第10図99)

類同様、口径が出せなかった口縁部の破片資料である。92～97は、胴部が頸部まで直線的に伸びるもので、98・99は胴部が丸みを帯びながら膨らみ、口縁部が「く」の字に外反するものである。

92は、外面に炭化物が付着し、内外面共に横ナデ調整が施されている。93も外面に炭化物が付着し、横ナデ調整がされる中で、下の方に三本の稜



第10図 古代土師器(9) 甕

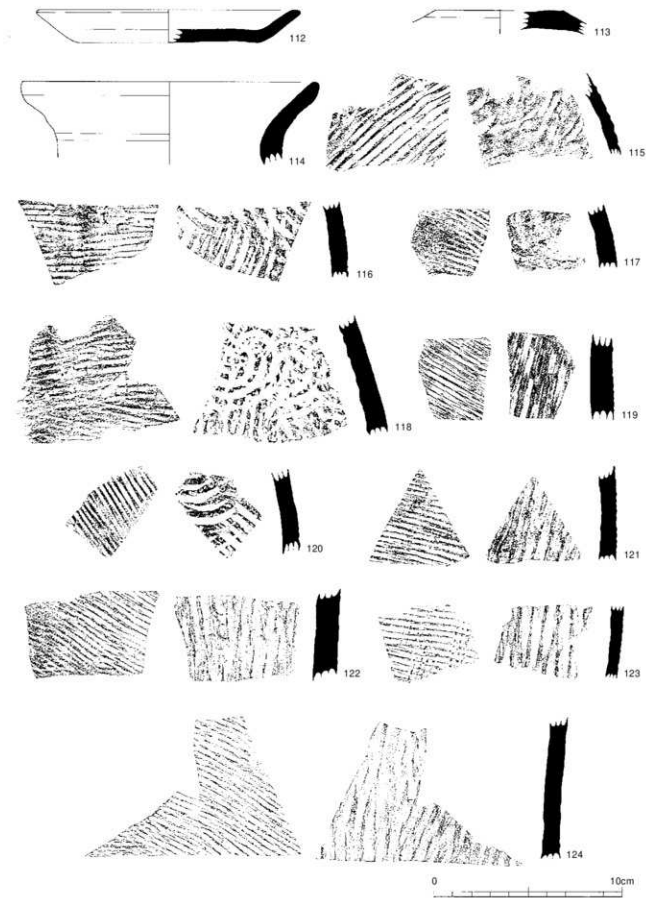


第10図 古代墨書，髹書土器

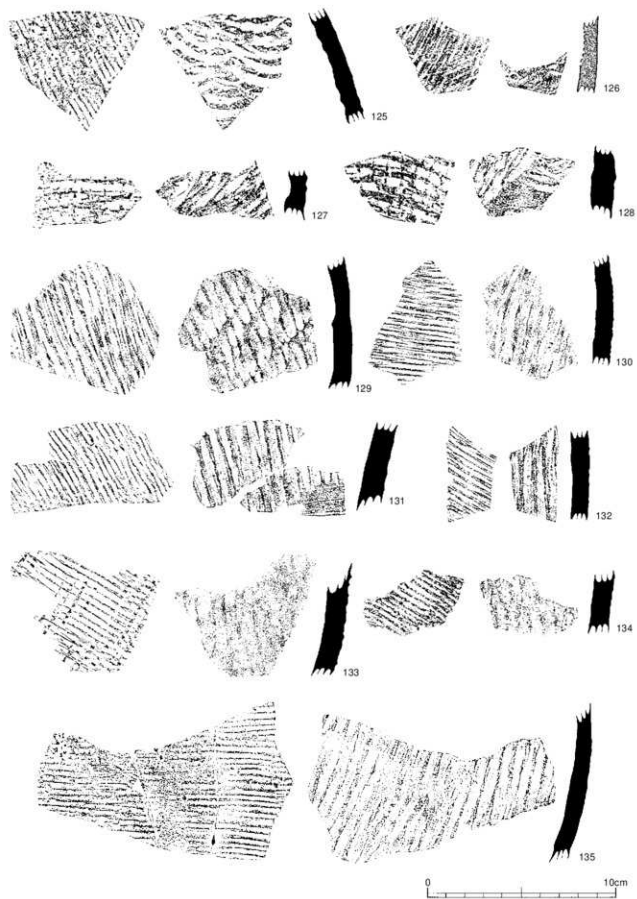
線がみられる。また、内面は斜位のケズリが施されている。94は口唇部断面が四角形を呈し、内外面に横ナデ調整がなされているが、炭化物は外面のみに付着している。95は、外面が横位のナデ調整、内面には一部にケズリがみられる。96は、外面がナデ及び一部ケズリの調整が施され、指頭痕がはっきりみられている。内面は、横位のナデ及びケズリである。97の外面は、若干ナデ調整が見られるが、詳しくは不明である。内面は下部に斜位のケズリが施されている。98は、外面に横ナデ調整がなされている中に、指頭痕がみとれる。内面は稜線の上に横ナデ調整が施され、下部に斜位のケズリがみられる。99は、横ナデが内外面共にみられていて、内面に斜位のケズリもみとれる。外面に炭化物が付着している。

墨書土器・髹書土器（第10図）

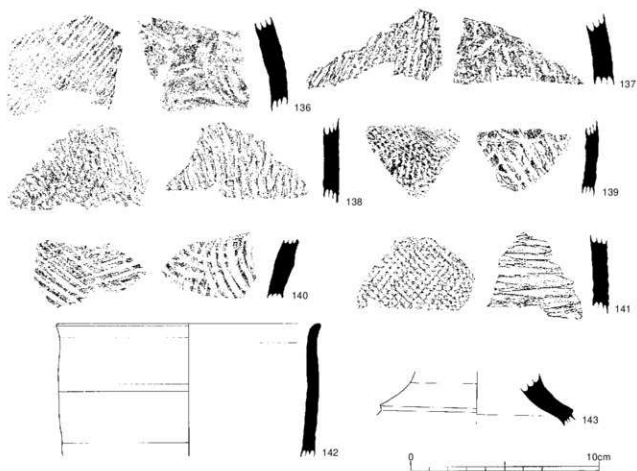
墨書土器が1点、髹書土器が1点（107）である。しかしながら、文字の全体が残る破片は1点もなかったため、判読はできなかった。103については、「万」もしくは「万万」と判読できる。おそらく吉祥文字として捉えられるものであろう。107の髹書土器については判読不能であり、何かの文字の一部分としか推定できない。その他の土器の特徴としては、全体的に内外面共に横ナデ調整であり、器種は埴もしくは坏と考えられ、102・106・108は内黒土器である。また、110は、内外面に炭化物が付着している。



第10圖 古代須惠器(1) 皿, 蓋, 碟



第11圖 古代須惠器（2）襷



第11図 古代須恵器(3) 襷, 鉢, 壺

須恵器(第109図~111図)

皿・蓋・襷・鉢・壺が出土している。

皿・蓋(第109図112・113)

112は、口径が14cm、高さが17.5cm、底部直径が9.6cmの浅い皿であり、やや丸みをもった底から外へまっすぐと伸びるものである。113は、頂部の直径が6.4cmの蓋の天井部で、摘みのない倒環状の蓋であると考えられる。

襷(第109図114~第111図141)

114は頸部から外反するもので、口径が15.8cmあり、焼成不良で酸化焼成されている。115~141は、外面に条痕・格子・平行タタキがみられ、内面には、条痕・同心円などの当て具痕がみられる。内外面共に、丁寧な作りが施されている。116と139は、同一固体である可能性がある。119は、外面に自然釉が掛かる。117は、焼成不良で酸化焼成されている。

鉢(第111図142)

口径14cmで、胴部は直線的に立ち上がり、内外面共に横ナデで仕上げている。

壺(第111図143)

壺の頸部で、口縁部が「く」の字状に屈曲し、二重口縁と思われる。器面は横ナデである。

第3節 中世の遺物

一 土層を包含層として遺物の出土がみられる。古代遺物と同様に3つのエリアに集中して出土している。これは遺構の位置と概ね一致する。

土師器（第11図～第115図）

塊（第11図 144）

両黒で高台は低く外側に開く。

坏（第11図 145～第114図 158）

144は内面見込み部に指または工具ナデの調整痕が明瞭に残る。145・154はロクロから切り離す際にはみ出した底部側面の粘土の調整をしていない。糸切り痕以外の外底面に見られる特徴的なものとして146の外底面に板状の圧痕が、148の外底面に繊維状の圧痕が観察されるが、これらはロクロから糸で切り離れた後、ナデ調整を加えた段階で下に敷いていたものが圧痕として残ったものと考えられる。

皿（第11図 159～第115図 183）

168はロクロから切り離す際にはみ出した底部側面の粘土の調整をしていない。179は仕上げのナデ調整がなされておらず、やや雑な感じ仕上がりである。177は内面見込み部に指または工具ナデの調整痕が明瞭に残る。179のように胴部の立ち上がりが外に張り出しているものが数個体確認できる。また坏と同様に糸切り痕以外の外底面に見られる特徴的なものとして、174の外底面に板状の圧痕が、160、173、177の外底面に繊維状の圧痕が観察されるが、これらはロクロから糸で切り離れた後、ナデ調整を加えた段階で下に敷いていたものが圧痕として残ったものと考えられる。

須恵器（第116図・第118図 198）

甕が殆どであり、棒万丈系と東播磨系のもので占められる。184～186は口縁部付近である。頸部が「く」字状に大きく外反する。184は焼成温度が低かったためか土師質である。

瓦質土器（第117図～第118図）

焼成温度が低く、瓦質に分類されるもので、捏鉢と揉鉢が主な器種である。内外面ナデ調整が多く、いずれも胎土は軟質で粉っぽい。203は外面に花文のスタンプを押捺するいわゆる奈良火鉢である。

備前焼（第119図 204）

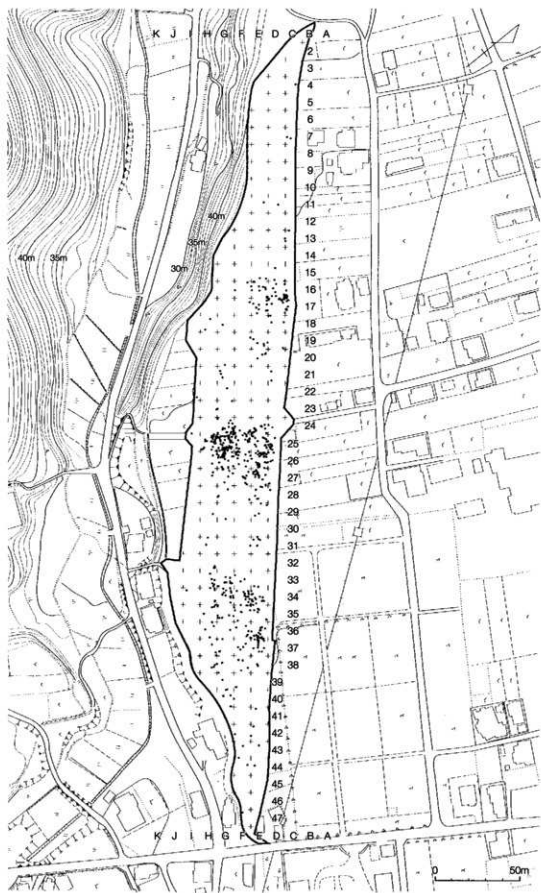
揉鉢である。内面は使用による摩滅が観察できる。

青磁（第119図 205～第120図 218）

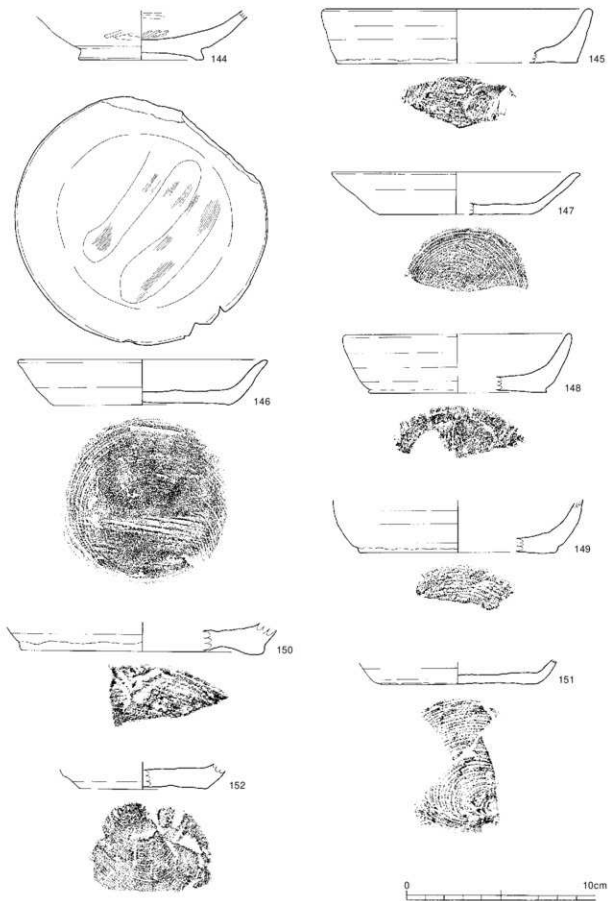
全て龍泉窯系のものである。205、209は内外面無文である。206～208は内面に片彫劃花文を有する。210～217は外面に鑄連弁文を有する。口縁形態は直口が僅かに外反する。これらは12世紀後半に編年される。213は口縁部が外側に屈折し、平坦面を形成する坏である。外面には鑄連弁文を有し、やや厚めの軸が掛かる。214・219は口縁部に輪花を有する稜花皿である。218は外面に沈線で省略化した連弁文を有する碗である。214～218は13世紀後半に編年される。

白磁（第120図 219、220）

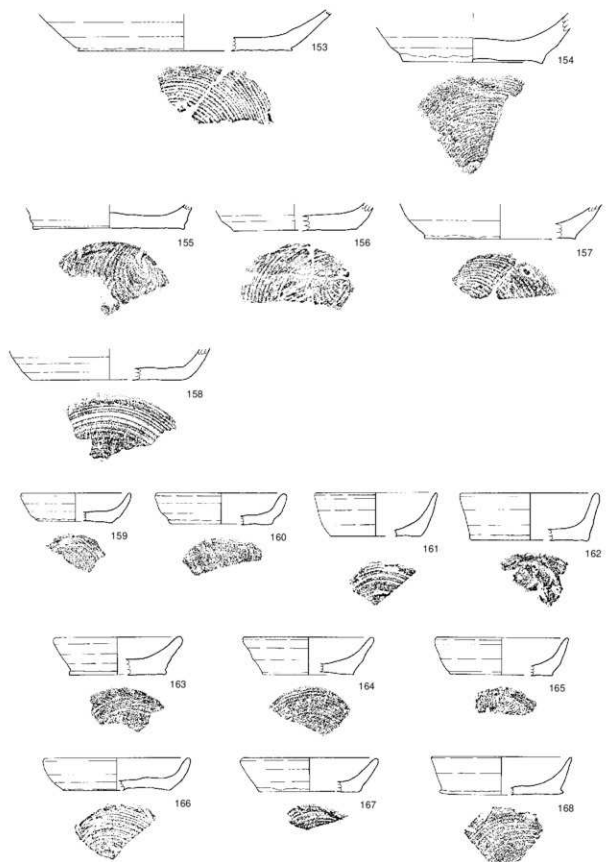
219は丸味を帯びた胴部を有する小碗である。高台内面に「井」字状の墨書がある。220も219と同種の小碗であると考えられる。13世紀後半～14世紀前半に編年される。



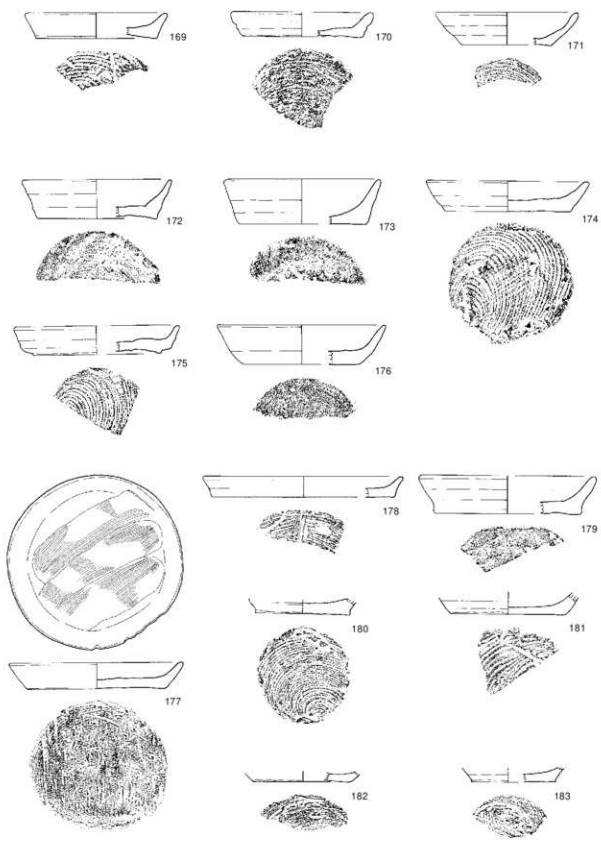
第 11 図 中世遺物出土状況



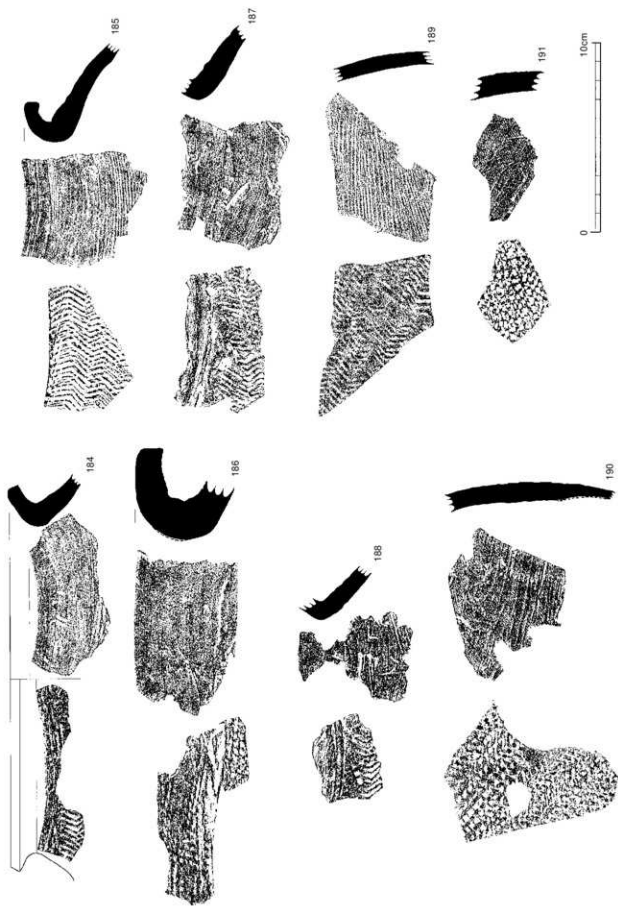
第113图 中世土師器(1) 碗, 坏



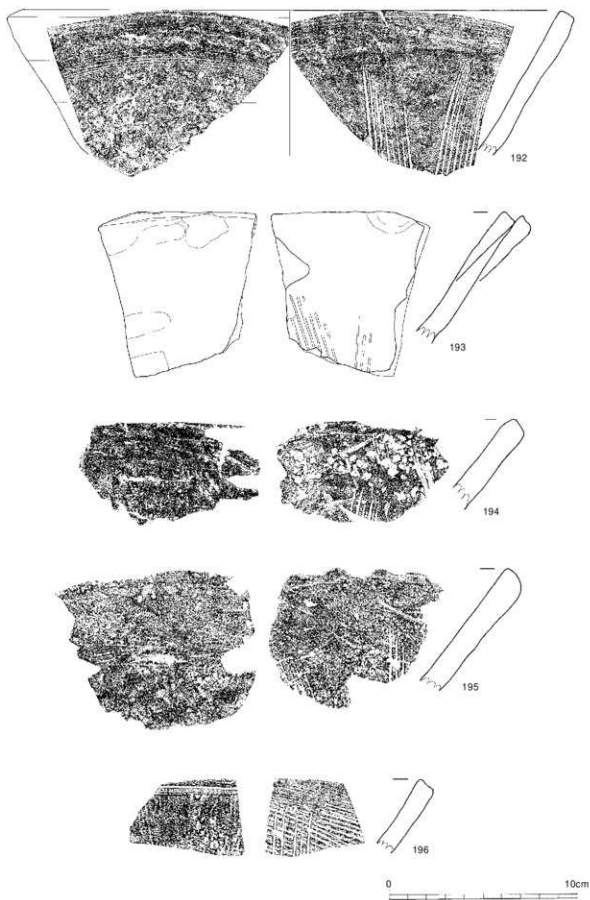
第114图 中世土師器(2) 坏, 皿



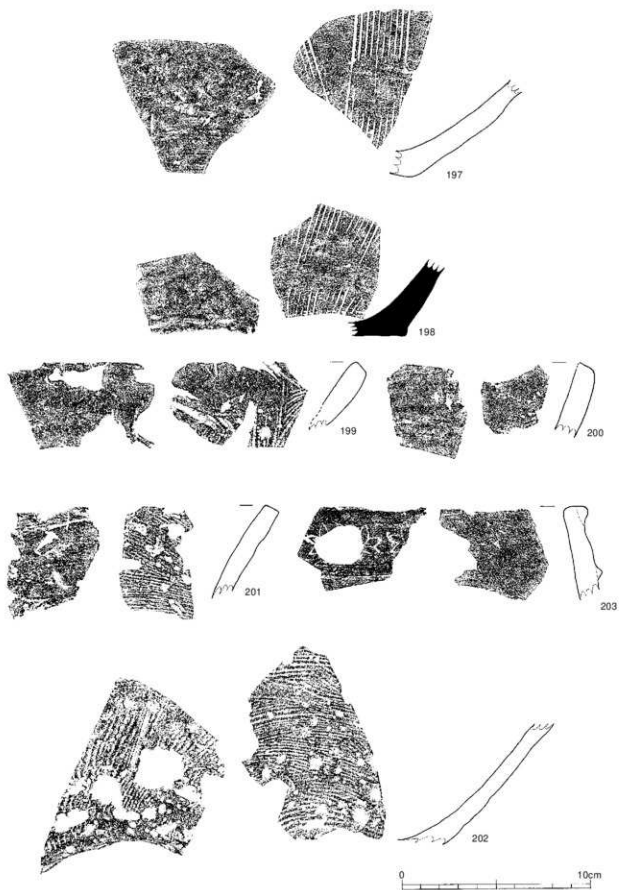
第115図 中世土師器(3)皿



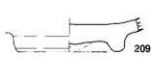
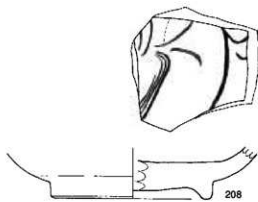
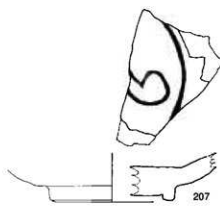
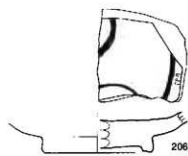
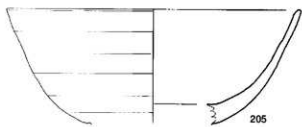
第114圖 中世須惠器



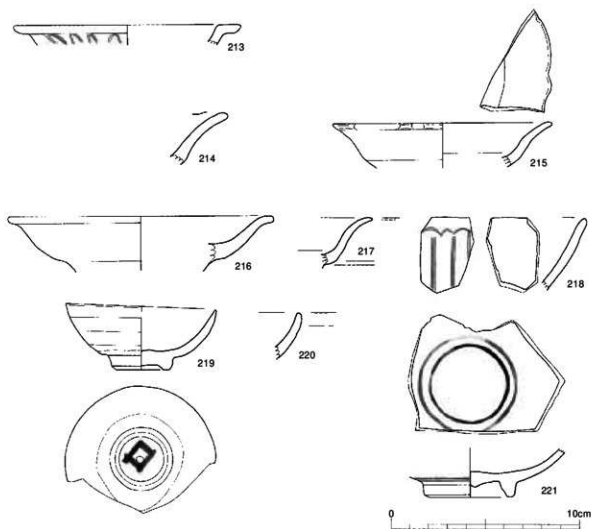
第11圖 瓦質土器(1)



第118圖 瓦質土器(2)



第119図 備前焼・青磁



第12図 青磁，白磁，青花

青花（第12図221）

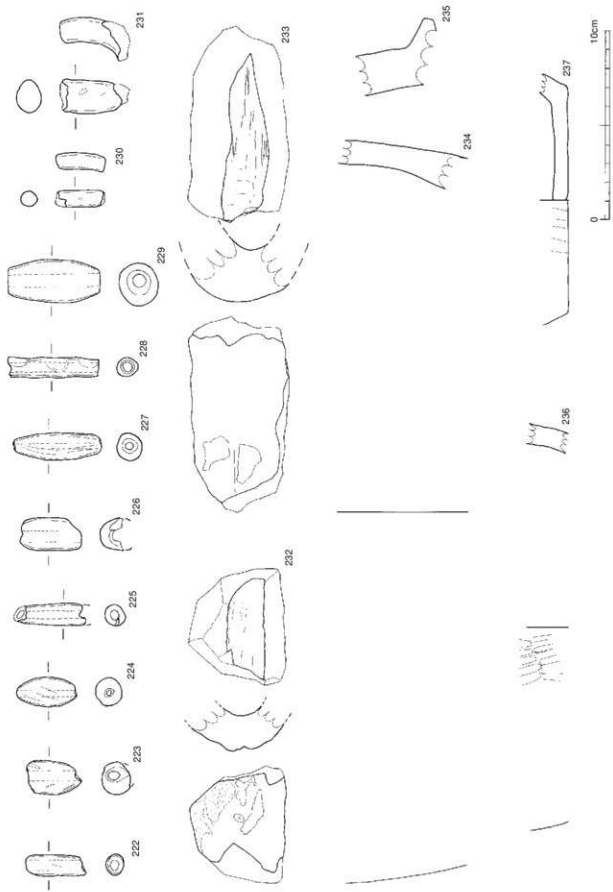
見込みと外面に呉須による2条の圏線を廻らせてあり，高台内面は露胎である。漳州窯系の皿であると考えられる。畳付に重ね焼の跡が残る。19世紀後半～18世紀前半に編年される。

土製品（第12図222～223）

所属時期は明らかではないが，ここにまとめて掲載した。古代から近世まで時期が広がることも考えておくべきかもしれない。土鍾は全て紡錘状のものに穴を貫通させた管状土鍾である。229は外面に赤色顔料を塗布する。230，231は用途不明の棒状土製品である。把手の形状に似る。232・233は靴の羽口である。外面に熱により溶けたガラス状の物質が熔着している。

滑石製品（第12図234～237）

239は石鍋の鈎部である。237はケズリによる調整痕が明瞭に残る。



第12圖 土製品，石製品

第4節 土坑・ピット群の調査

ここでは調査区内で検出された土坑とピット群を、土坑は各層毎に、ピットはすべてのものをエリア毎にまとめて掲載したい。共存関係と考えられる遺構内遺物を殆ど伴わず、かつ層の堆積が薄く安定性を欠き、はっきりした時代の認定ができなかったためである。

1 土坑(第12図～14図)

調査で確認された土坑総数は69基で内訳は 層で10基(土坑1～土坑10)、 層で2基(土坑11・12)、 層で20基(土坑13～32)、 層で18基(土坑33～50)、 層で18基(土坑51～68)、 層で1基(土坑69)である。

土坑69(第14図)

D・2区の表土近くで検出された。調査区境付近に位置していたため安全の問題上、掘掘できず、全体形状は明らかでないが、東西→南東方向に約5.75mを測り、検出面からの深さは3.4mを残す。埋土が 層土が2回にわたって堆積しているため近世→近・現代の遺構と判断した。壁面には手掘り痕があるいは流水作用によると思われる窪みがある所で観察できる。内面の挟り部分は構築時のものかあるいはその後の崩落によってできたものと考えられる。北東側の中央付近は階段状を呈し、昇降用に使われたのではないかと考えられる。遺構内遺物として薩摩焼の摺鉢(238)を図化した。遺構の時期を示しているかどうかは不明である。

2 ピット群(第14図～15図)

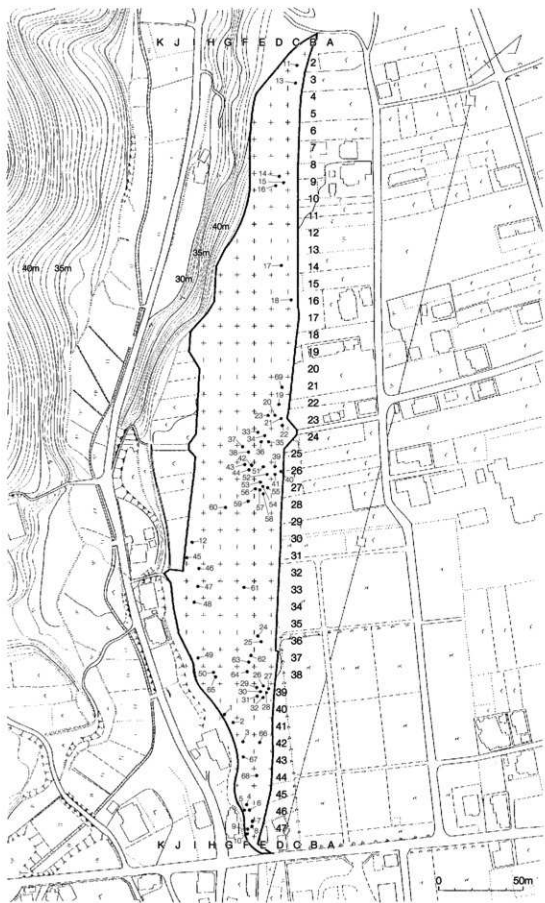
本遺跡の北西側の一部分を除き、ほぼ遺跡の全面から無数のピットが検出された(第14図)。これらのピットには柱痕跡や確実に共存関係と考えられる遺物はほとんどなく、ピット内の遺物は後世の流れ込みと思われ、ひとつのピットに時期の違うものが出土するような場合が多かった。また、ピットの形状やその深さはまちまちであり、樹根と思われるものは、現場でも整理作業でも割愛したが、それでもかなりのピット数となった。

これらのピットの中で、発掘現場及び整理作業で19棟の掘立柱建物跡が認定できた。

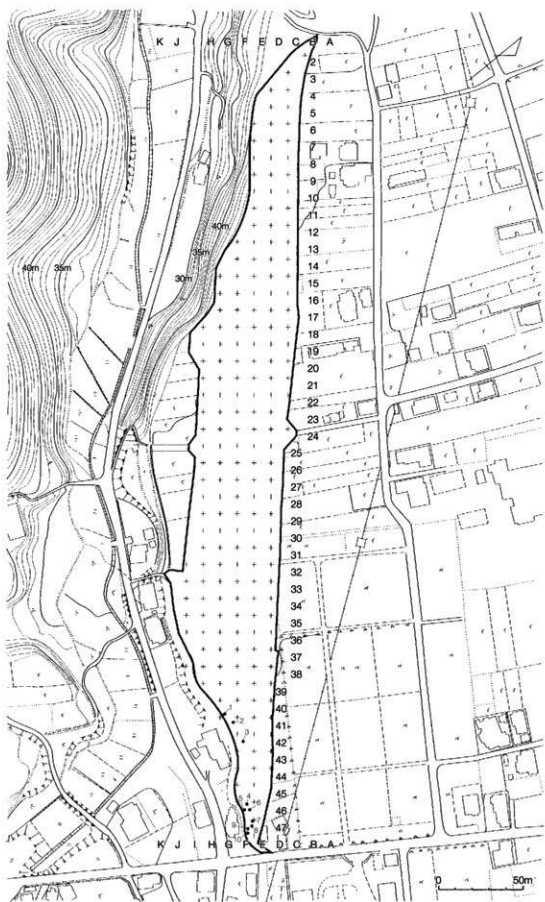
ピットの分布を見ると、前述の空白地帯以外では、32～33列の部分の分布が薄い。この分布図と古代遺物分布図(第9図)及び掘立柱建物跡配置図を重ねると、ほぼ似たような分布を示すようである。

しかし、弥生時代及び古墳時代においては、合わせて8基の住居跡が検出されたことや、古代では焼土跡が検出されたこと、中世の遺物も出土していることから、この台地において、連続と人びとの生活が営まれたことは明らかである。このことから、ピット群は弥生時代から中世にかけての複数の時期のものが混在していると考えられる。

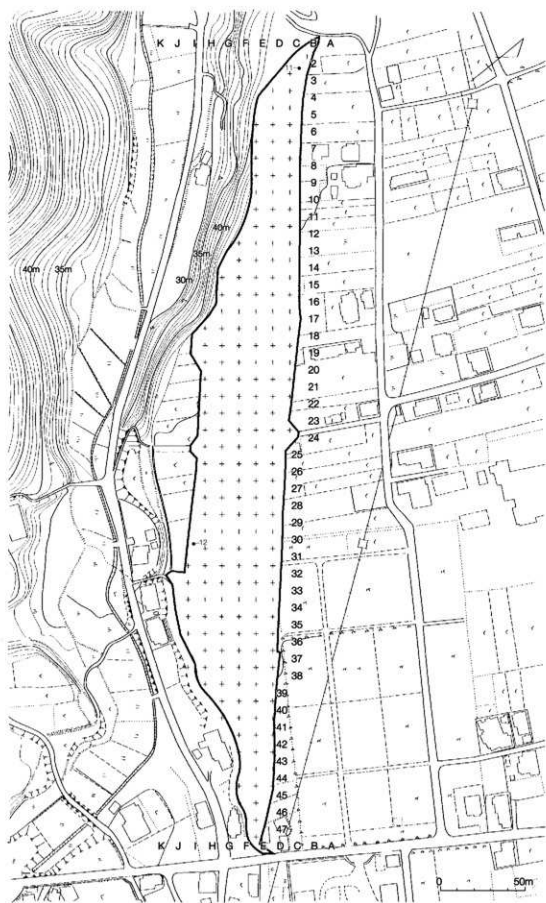
埋土による分類や形態と深さによる分類も試みたが、大きな違いはなく時期の判別には至らなかった。



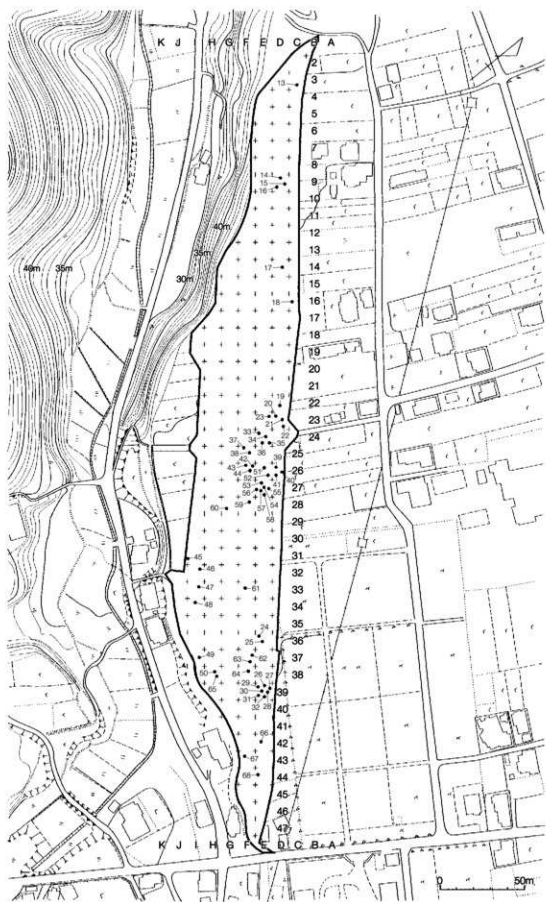
第12図 層土坑位置図



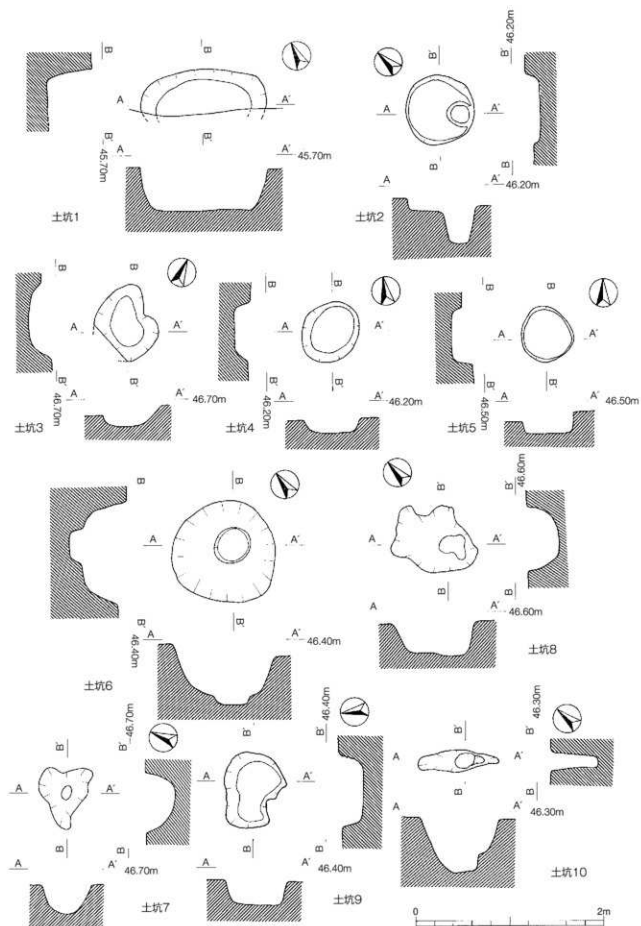
第 12 図 履土坑位置図



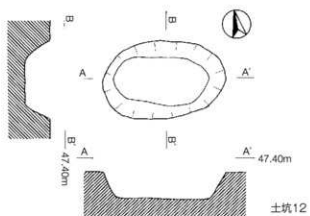
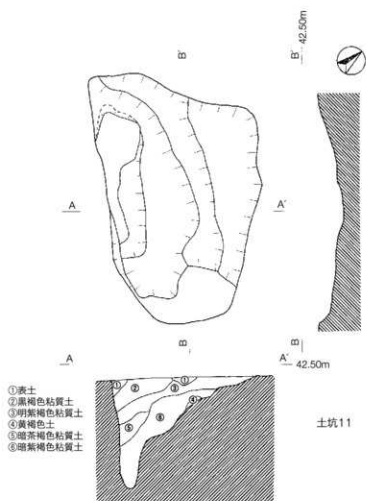
第124図 層土坑位置図



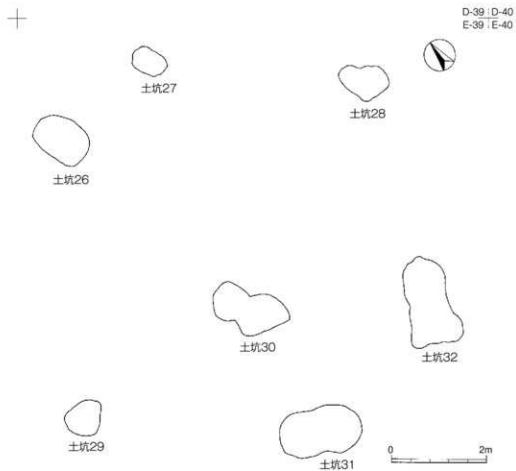
第 125 図 履土坑位置図



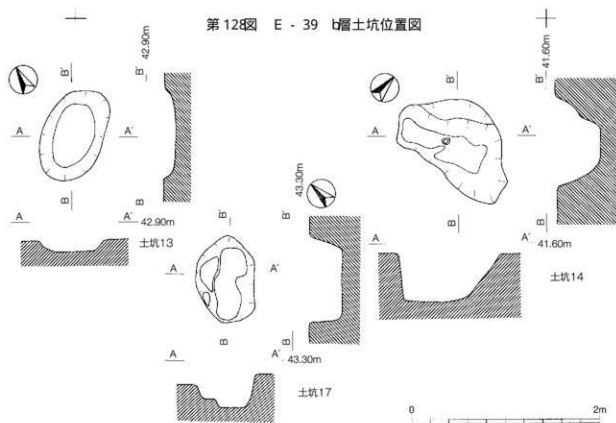
第 12 图 层土坑



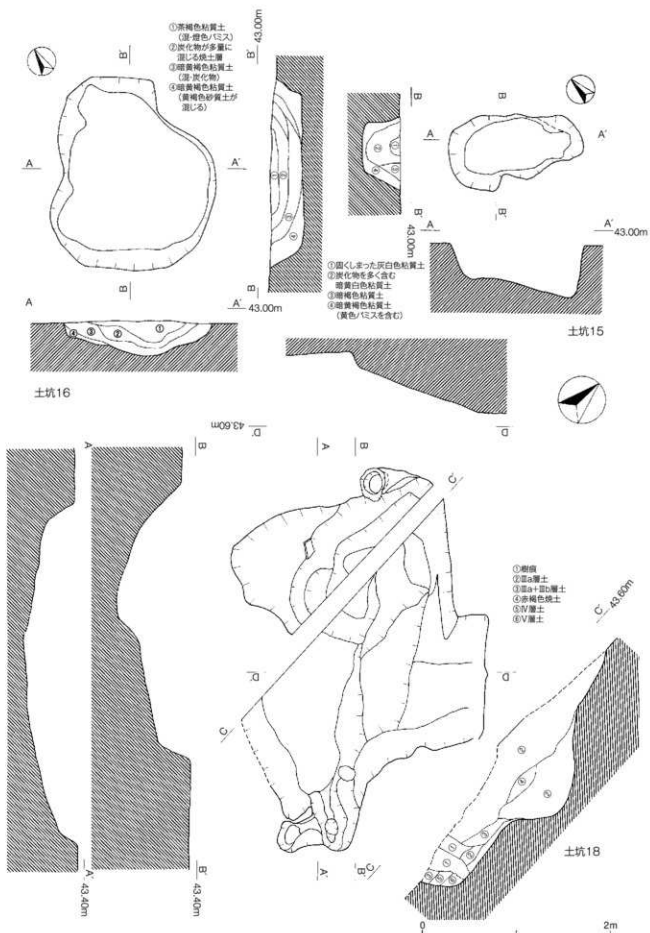
第 12 圖 層土坑



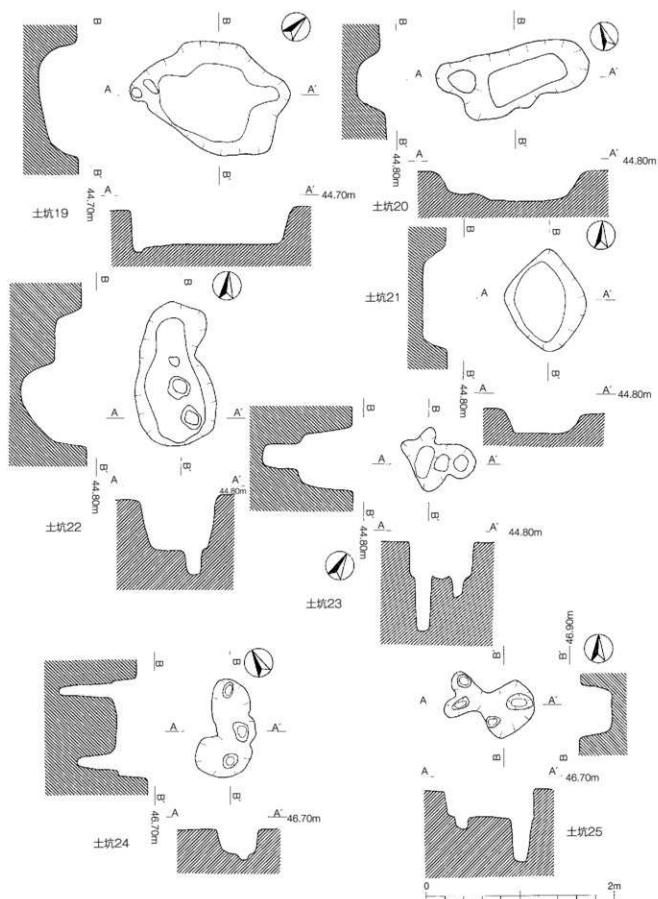
第 128 图 E - 39 b 层土坑位置图



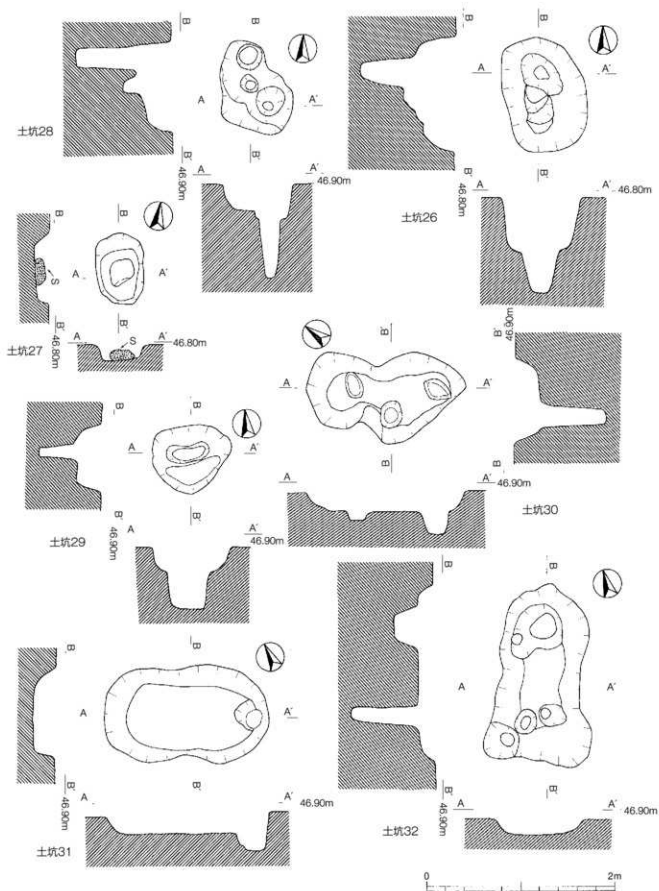
第 129 图 b 层土坑 (1)



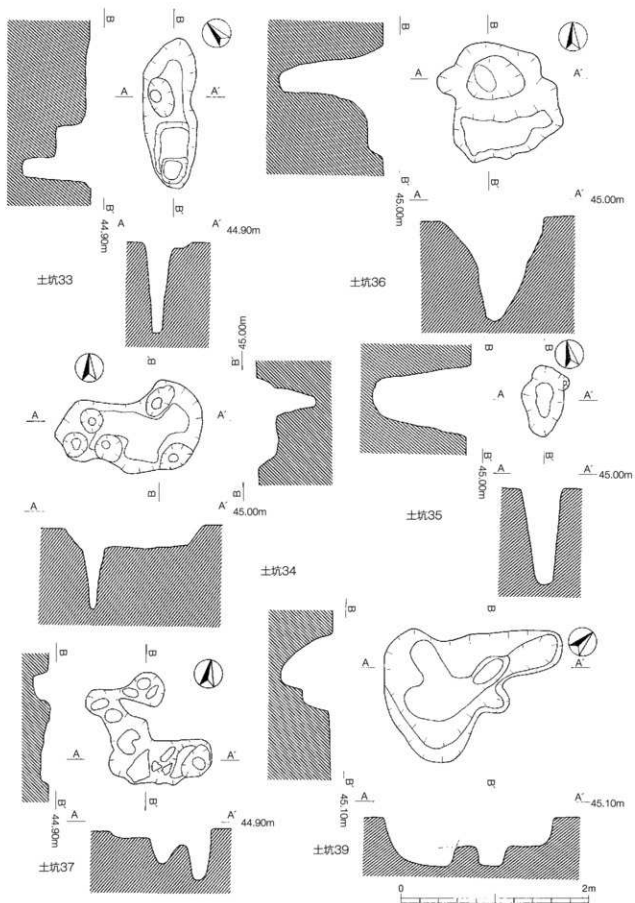
第13図 土坑(2)



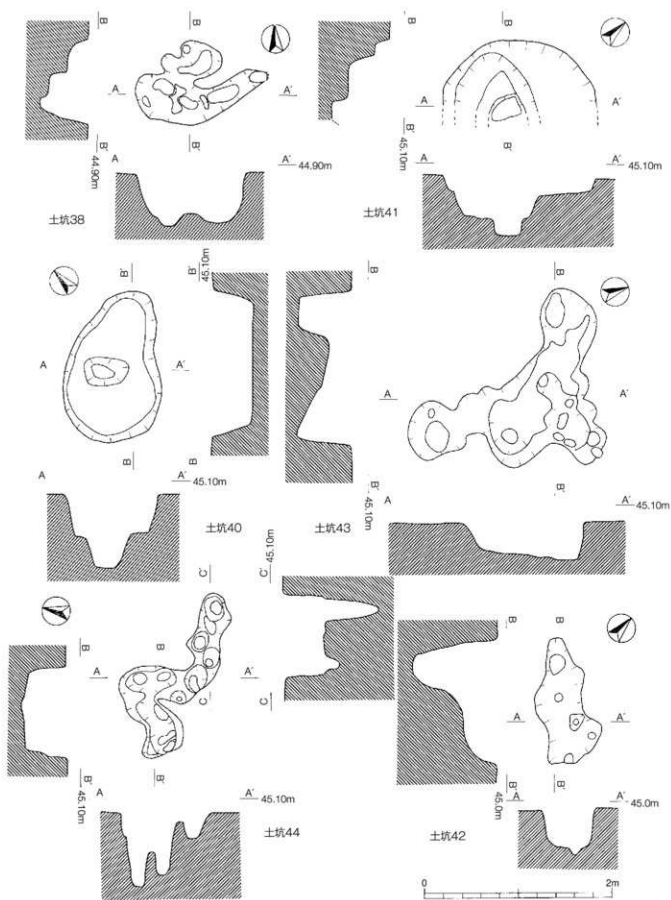
第13图 b层土坑(3)



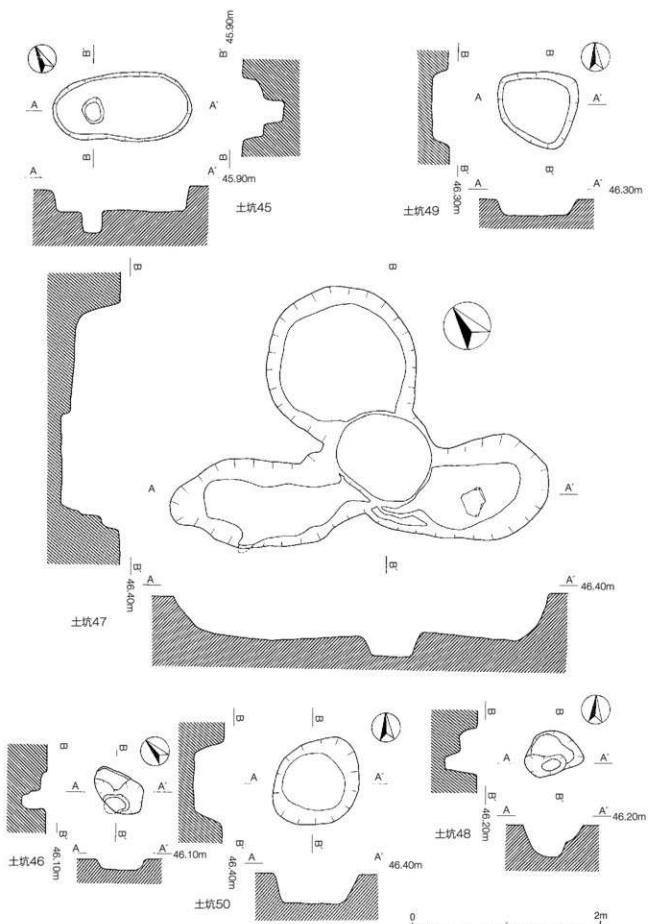
第13图 土坑(4)



第13图 覆土坑(1)



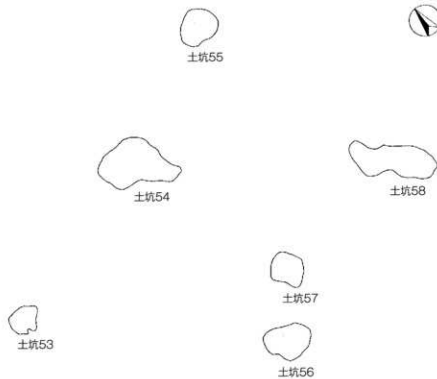
第134图 a层土坑(2)



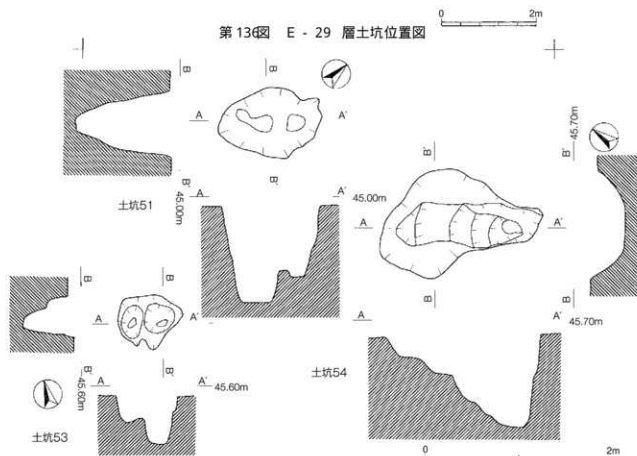
第13图 土坑(3)

E-29

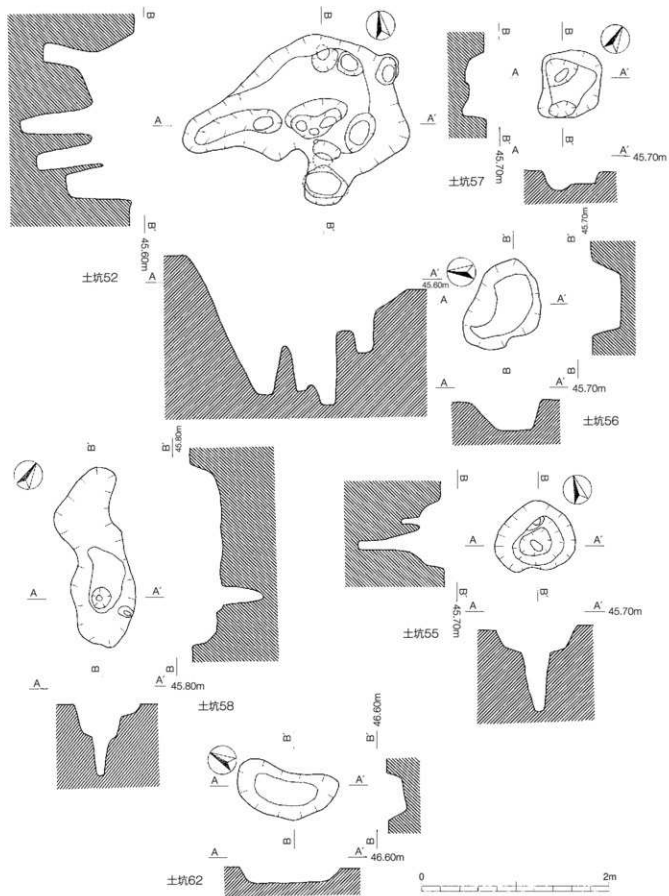
D-29 | D-30
E-29 | E-30



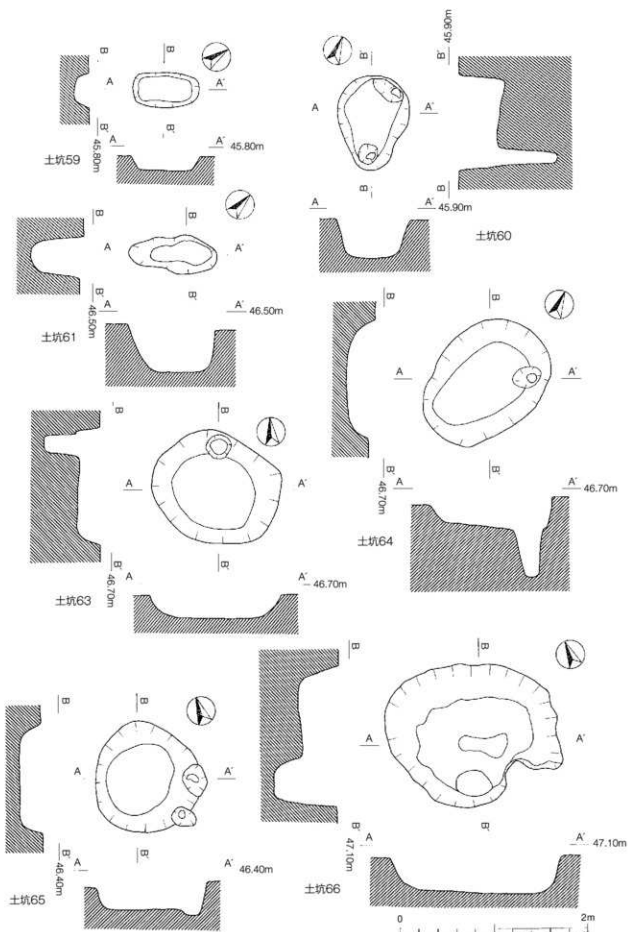
第136图 E-29 层土坑位置图



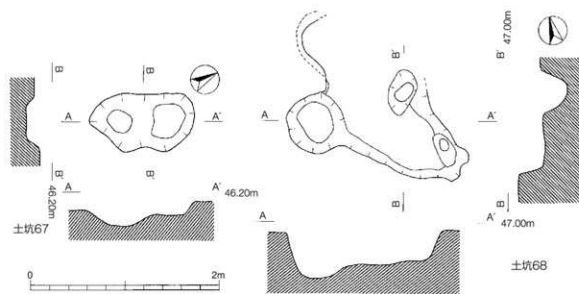
第137图 层土坑(1)



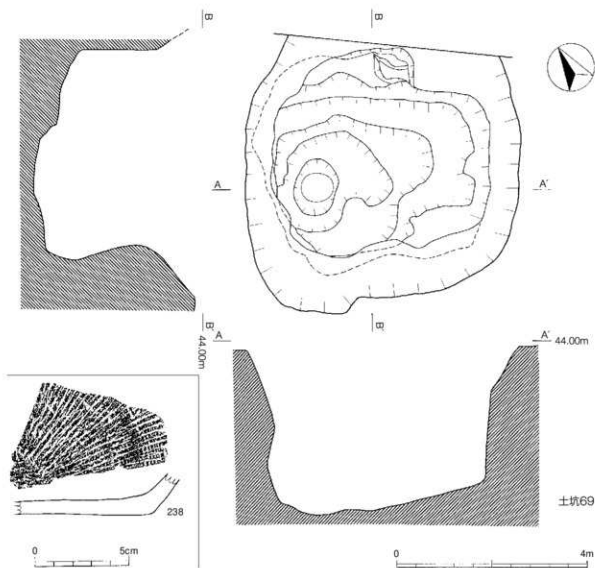
第134图 层土坑(2)



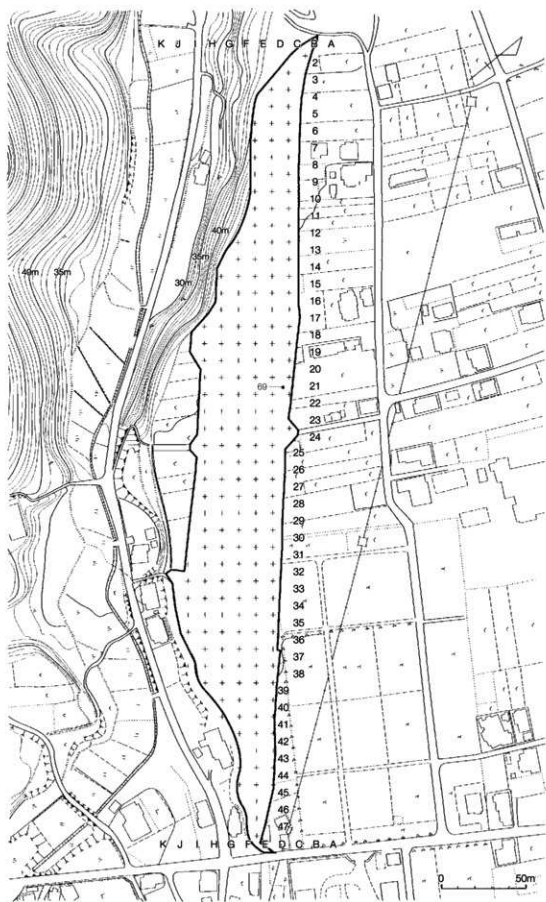
第139图 层土坑(3)



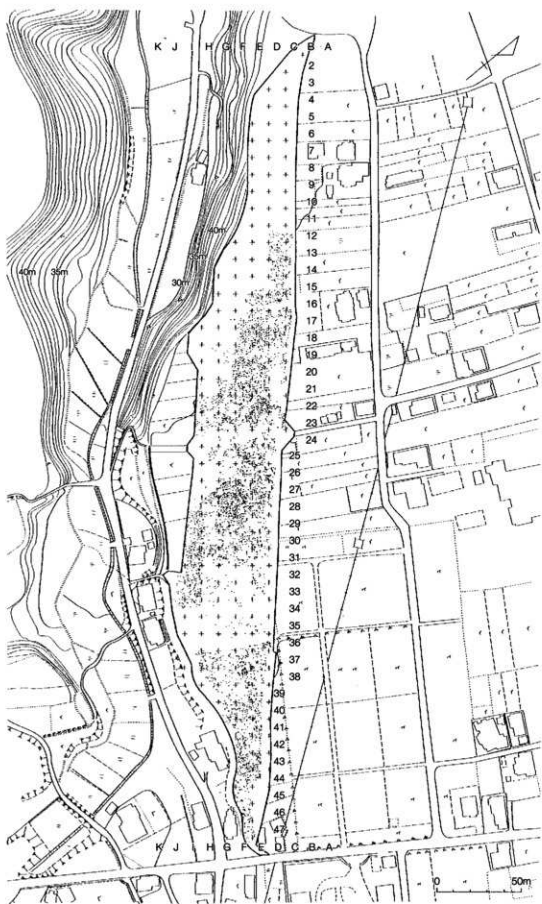
第 14(四) 層土坑 (4)



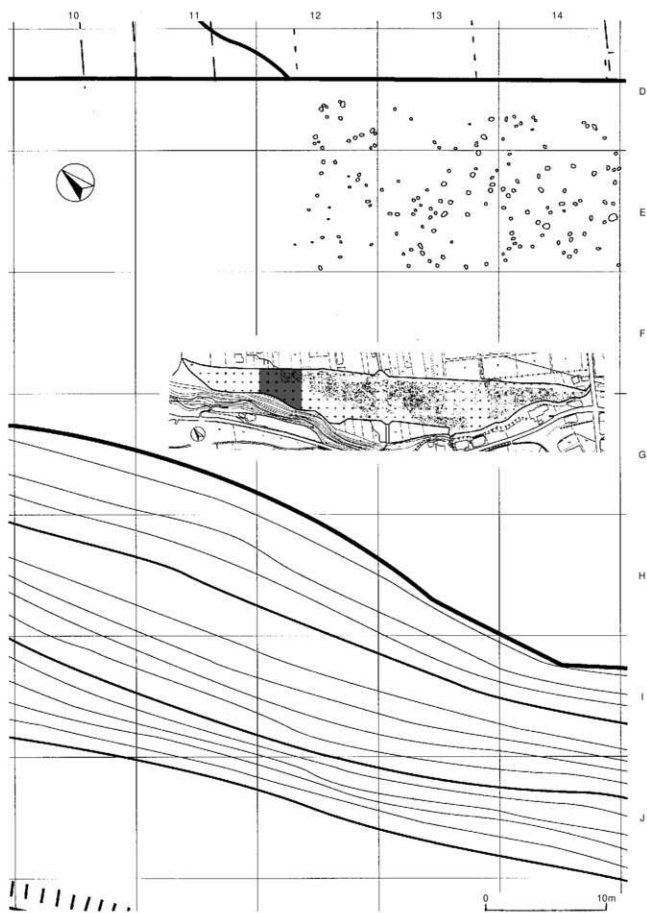
第 14(四) 層土坑及び遺構内遺物



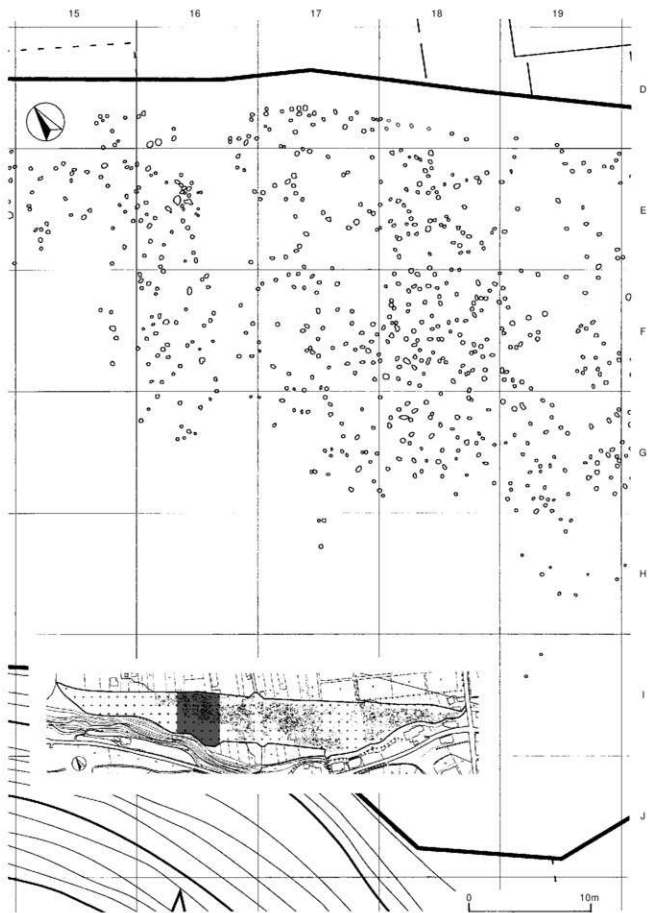
第 14 図 厩土坑位置図



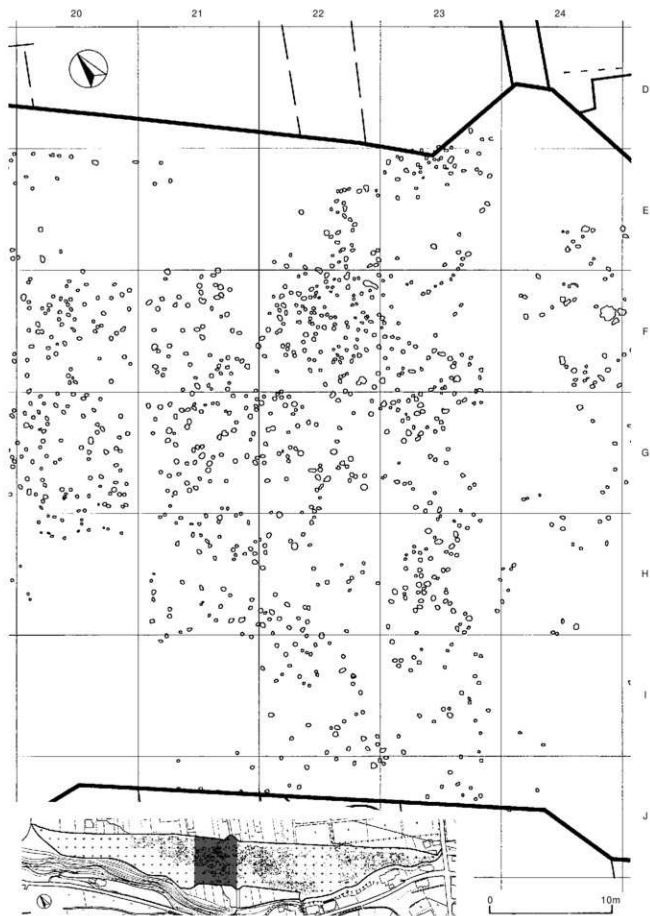
第 14 図 全ヒット群位置図



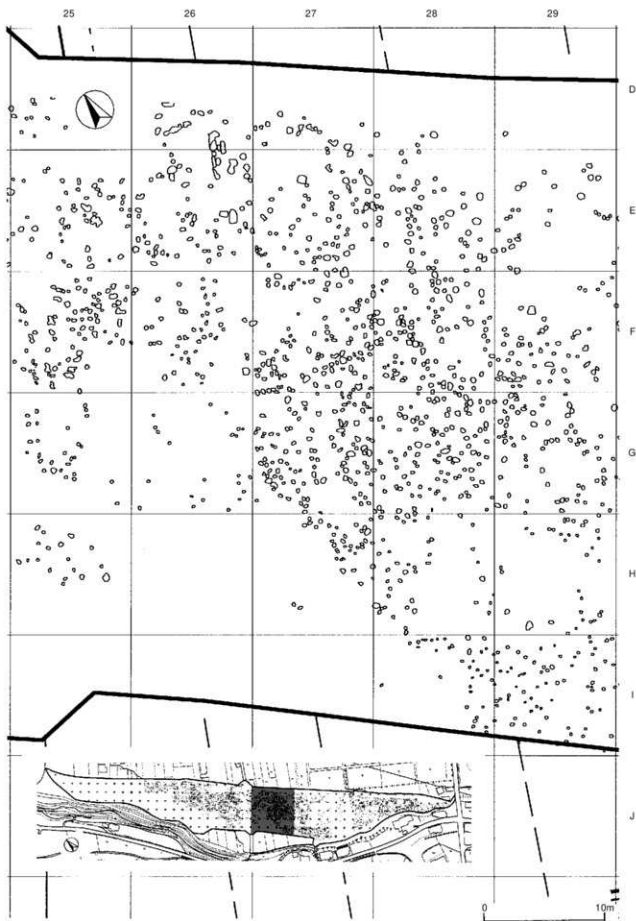
第 144 図 ビット群位置図 (1)



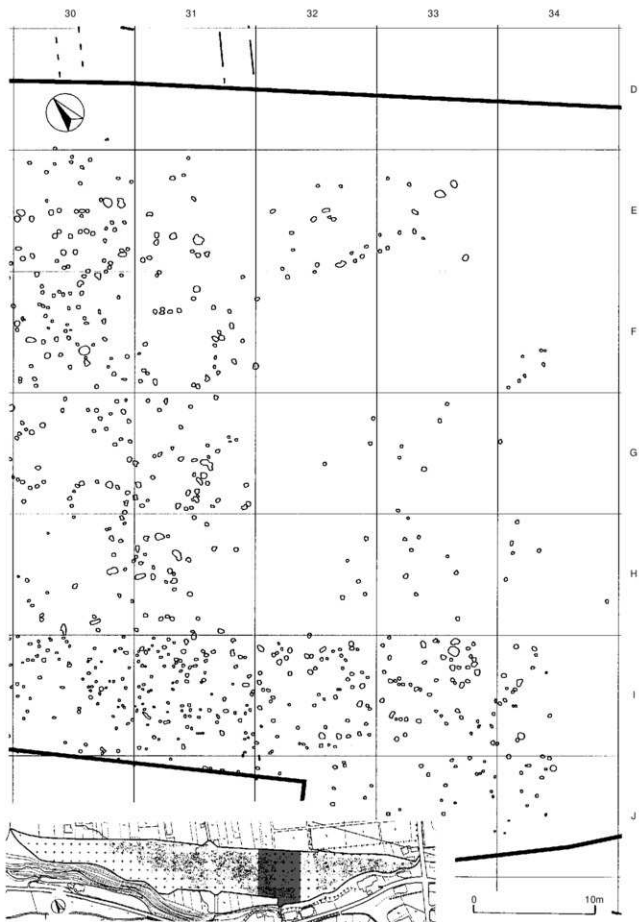
第14図 ビット群位置図(2)



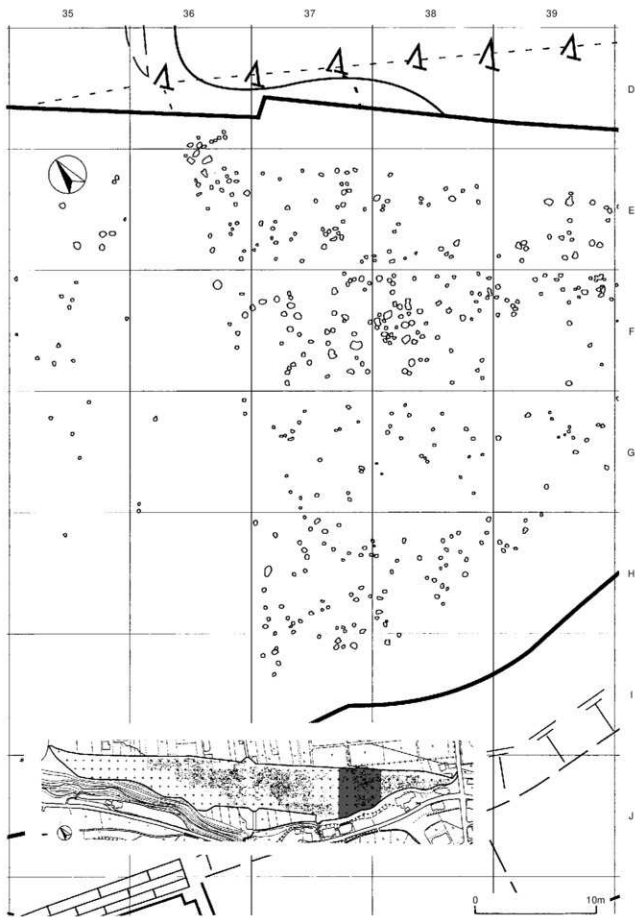
第 14 図 ビット群位置図 (3)



第 14 図 ピット群位置図 (4)



第 14 図 ビット群位置図 (5)



第 149 図 ビット群位置図 (6)



第15図 ピット群位置図(7)



第15図 ビット群位置図(8)

第IX章 近世の調査

近世遺物の包含層である・層がわずかしか残存していなかったため、古代・中世の調査と同様に層位的な把握ができなかった。遺構に関しても近世と断定できるものは検出されなかった。

第1節 遺物

近世遺物は大半が表層一括で取り上げたものである。掲載した遺物のほかに肥前系や在地系の染付や鉄滓も表層より出土しているが、いずれも小片のため図化していない。

碗(第15図1・2)

1の見込みは蛇の目釉剥ぎがなされ、高台内面に砂目が残る。2は17世紀後半期と考えられ、壘付には白色の目跡のような痕跡が看取される。

燭台(第15図3)

灯明具のなかの燭台である。受皿状の台にやや外反する円筒状の器体を結合したもので、受皿底面は糸による切離し痕がある。

土瓶蓋及び土瓶(第15図4～6)

蓋は共に外面に緑灰色の灰釉が掛けられている。6は土瓶の肩部で、肥前系のものであると考えられる。下位に黒釉が掛かる。

壺(第15図7・第15図11)

7は口径106mmの小形の壺の肩部である。11の口唇部には貝目が残る。

德利(第15図8・9)

頸部は細く縞れ、口縁部にかけてラッパ状に開き、端部は外側に折り返して断面三角形を呈する。底面はやや上げ底である。胴部下半部に最大径を有し、底径との差が小さく、いわゆる「船德利」の形状である。9は粘土紐を輪積みにし、内外をナデ仕上げにしている。17世紀後半に編年される。

鉢・擂鉢・片口(第15図10・12・13 第15図14～16)

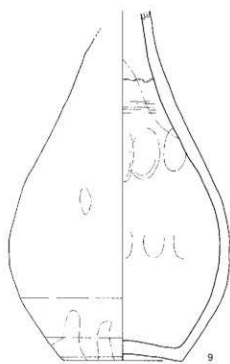
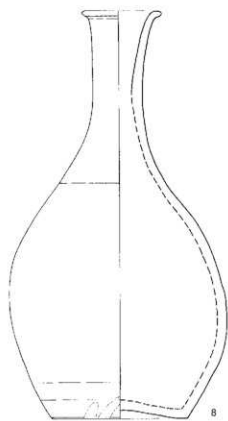
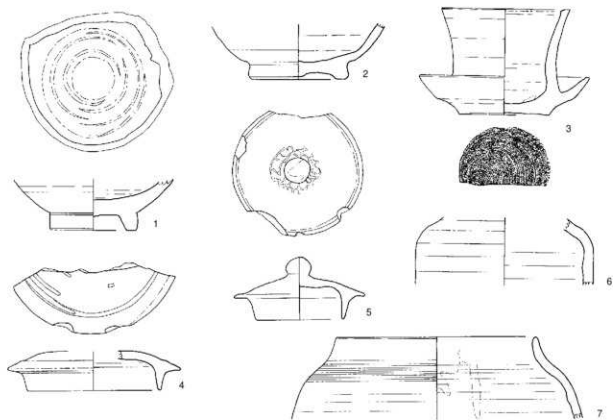
12は鉢である。全体形状が不明で、德利であることも考えられる。擂鉢はいずれも内外面に鉄釉が掛かるものである。13の口唇部には貝目残り、口縁部直下に退化した2条の突帯を廻らす。15の底面には貝目が残る。16は口縁部直下に半円状の粘土板を貼り付けて片口をつくりだしたもので、17世紀後半に編年される。

蓋(第15図17～第15図22)

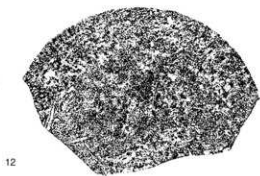
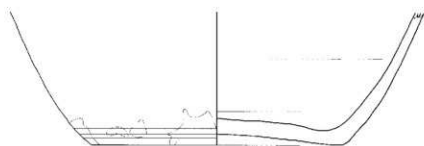
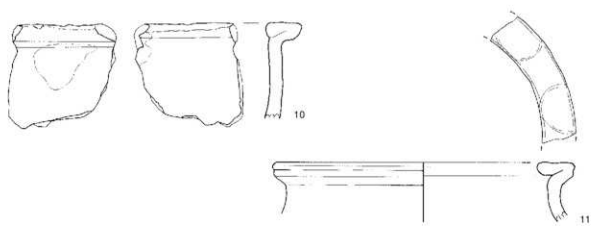
17は水注等に被せる小形で円板状のものである。無釉で中央部にアーチ状の小きなつまみがつくものと思われ、17世紀後半に編年される。18～22は甕・壺等に被せる浅鉢形のものであるが、あるいは鉢として利用されていたかもしれない。18と19は外反させた後内側に折り曲げるといふ口縁部形態を呈する。20の全体形状は不明であるが、上径と口径の差が大きいものと考えられる。21の口唇部には目跡が残る。推定目跡個数は16である。19世紀後半に編年される。22は上面に歪みが看取される。18～20・22は17世紀後半に編年される。

甕(第15図23～26)

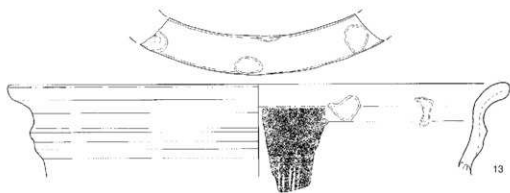
23の全体形状は不明であるが、胴部が丸味を帯び膨らむ器形を呈し、8条の沈線を有する。24の



第15图 近世遺物(1) 陶器



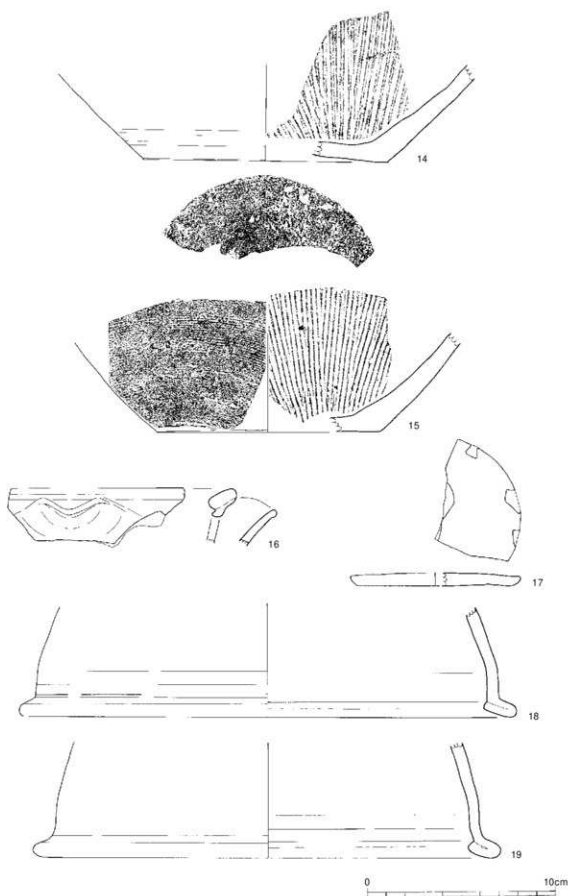
12



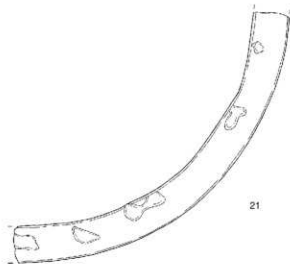
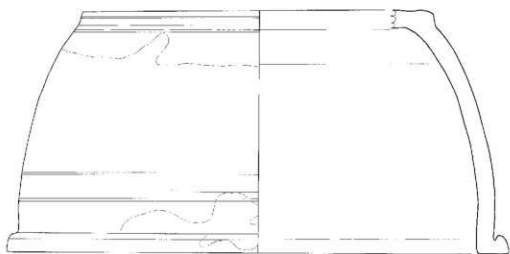
13

0 10cm

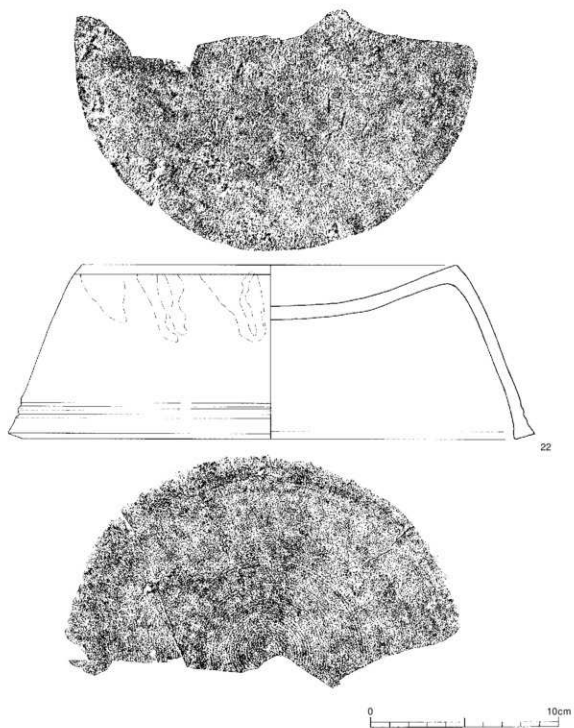
第15図 近世遺物(2) 陶器



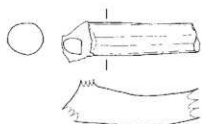
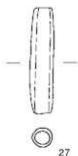
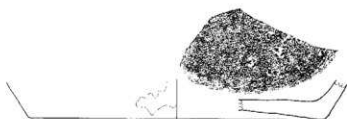
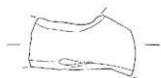
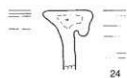
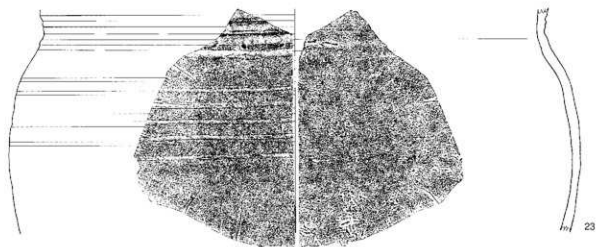
第15図 近世遺物(3) 陶器



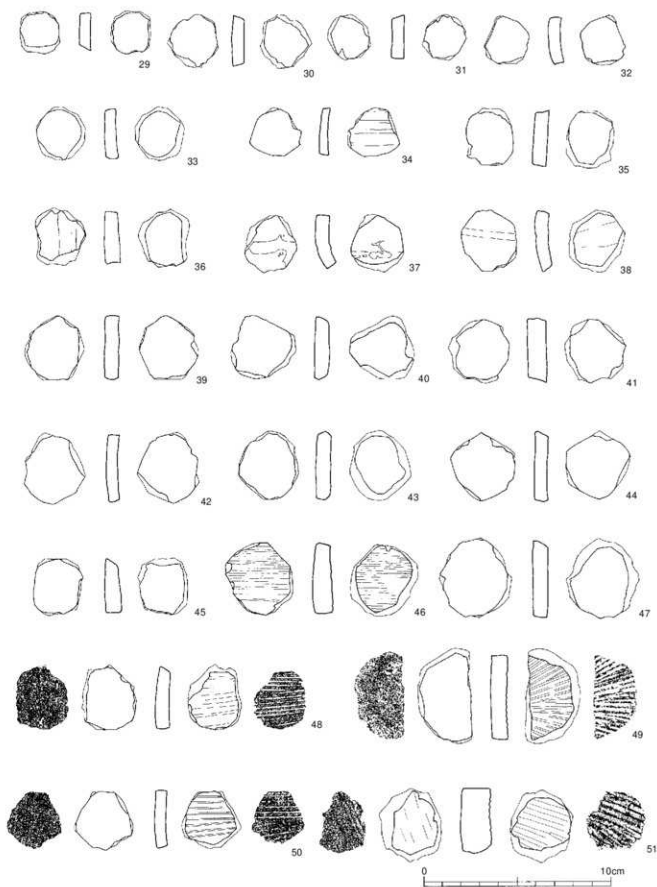
第155図 近世遺物(4) 陶器



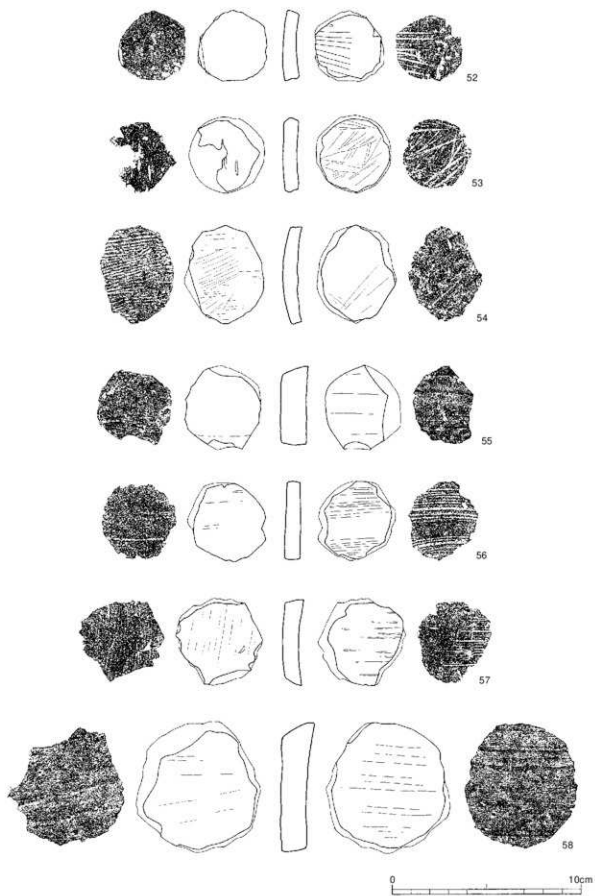
第156図 近世遺物(5) 陶器



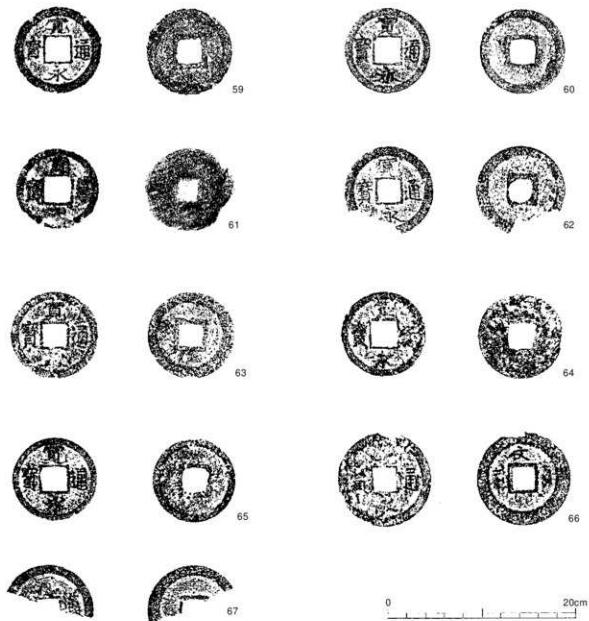
第15図 近世遺物(6)陶器等



第158図 近世遺物(7)陶製品



第15図 近世遺物(8)陶製品



第16図 近世遺物(9) 銭貨

口唇部外側は釉が拭き取られ貝目が残る。23と24は17世紀後半に編年される。26は襷もしくは壺の横耳であると考えられる。

その他(第15図27~第15図58)

27は管状を呈する磁製品であるが用途は不明である。28は土瓶の把手の可能性が考えられる。29~58は円盤状を呈する通称「メンコ」である。詳しい用途は不明である。48, 49, 50, 51, 52, 57は摺鉢を転用している。54は土器の転用であるので、中世のものである可能性が考えられる。55, 58は大甕を転用している。

銭貨(第16図59~67)

出土銭貨の全てが1636(寛永13)年を初鑄年とする寛永通寶である。66は裏面に「文」字が見られるので、寛文年間に鑄造されたいわゆる新寛永である。

第 X 章 科学分析

第 1 節 放射性炭素年代測定結果 報告書 (AMS測定) 市ノ原遺跡第 3 地点

放射性炭素年代測定結果 (AMS測定) 市ノ原遺跡(第3地点)

樹加速器分析研究所

(1) 測定対象試料

市ノ原遺跡(第3地点)は、鹿児島県日置市東市来町湯田に所在する。測定対象試料は、F-31区の弥生2号住居跡から出土した炭化物(1:IAAA 72600)、弥生2号住居跡内の焼成域から出土した炭化物(2:IAAA 72601)、E-29区古墳1号住居跡から出土した炭化物(3:IAAA 72602)、D・E-28区古墳2号住居跡から出土した炭化物(4:IAAA 72603)、G-22区古墳3号住居跡から出土した炭化物(5:IAAA 72604)、G-23区古墳4号住居跡から出土した炭化物(6:IAAA 72605)、G-34区の貝殻散布域から出土した貝殻(7:IAAA 72606)、F-28区の貝殻入土坑内から出土した貝殻(8:IAAA 72607)、合計8点である。

(2) 化学処理工程

- 1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- 2) AAA (Acid Alkali Acid) 処理。酸処理、アルカリ処理、酸処理により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1Nの塩酸(80)を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では0.001~1Nの酸化ナトリウム水溶液(80)を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸(80)を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- 3) 試料を酸化銅1gと共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500で30分、850で2時間加熱する。
- 4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素(CO₂)を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出(水素で還元)し、グラファイトを精製する。
- 6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着し測定する。

(3) 測定方法

測定機器は、3MVタンデム加速器をベースとした¹⁴C AMS専用装置(NEC Pelletron 95DH 2)を使用する。134個の試料が装填できる。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。また、加速器により¹³C¹²Cの測定も同時に行う。

(4) 算出方法

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期 5568年を使用した。
- 2) ^{14}C 年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。この値は、 ^{13}C によって補正された値である。
- 3) 付記した誤差は、複数回の測定値について 検定が行われ、測定値が1つの母集団とみなせる場合には測定値の統計誤差から求めた値、みなせない場合には標準誤差から求めた値が用いられる。
- 4) ^{13}C の値は、通常は質量分析計を用いて測定されるが、AMS測定の場合に同時に測定される ^{13}C の値を用いることもある。 ^{13}C 補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載する。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差 (‰ ; パーミル) で表した。

$$^{14}\text{C} \left[\frac{^{14}\text{A}_S - ^{14}\text{A}_R}{^{14}\text{A}_R} \right] \times 1000 \quad (1)$$

$$^{13}\text{C} \left[\frac{^{13}\text{A}_S - ^{13}\text{A}_{\text{PDB}}}{^{13}\text{A}_{\text{PDB}}} \right] \times 1000 \quad (2)$$

ここで、 $^{14}\text{A}_S$: 試料炭素の ^{14}C 濃度: (^{14}C ^{12}C)_S または (^{14}C ^{13}C)_S

$^{14}\text{A}_R$: 標準現代炭素の ^{14}C 濃度: (^{14}C ^{12}C)_R または (^{14}C ^{13}C)_R

^{13}C は、質量分析計を用いて試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{A}_S$ ^{13}C ^{12}C) を測定し、PDB (白亜紀のペレムナイト類の化石) の値を基準として、それからのずれを計算した。但し、加速器により測定中に同時に ^{13}C ^{12}C を測定し、標準試料の測定値との比較から算出した ^{13}C を用いることもある。この場合には表中に [加速器] と注記する。

- 5) ^{14}C は、試料炭素が ^{13}C - 250(‰) であるとしたときの ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{A}_N$) に換算した上で計算した値である。(1式)の ^{14}C 濃度を、 ^{13}C の測定値をもとに次式のように換算する。

$$^{14}\text{A}_N = ^{14}\text{A}_S \left(\frac{0.975}{1 - ^{13}\text{C} / 1000} \right)^2 \quad (^{14}\text{A}_S \text{として } ^{14}\text{C} \text{ } ^{12}\text{C} \text{ を使用するとき})$$

または

$$= ^{14}\text{A}_S \left(\frac{0.975}{1 - ^{13}\text{C} / 1000} \right) \quad (^{14}\text{A}_S \text{として } ^{14}\text{C} \text{ } ^{13}\text{C} \text{ を使用するとき})$$

$$^{14}\text{C} \left[\frac{^{14}\text{A}_N - ^{14}\text{A}_R}{^{14}\text{A}_R} \right] \times 1000 \quad ()$$

- 6) pMC (percent Modern Carbon) は、現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合を示す表記であり、 ^{14}C との関係は次のようになる。

$$^{14}\text{C} \left(\frac{\text{pMC}}{100 - 1} \right) \times 1000 \quad ()$$

$$\text{pMC} = ^{14}\text{C} / 10 \times 100 \quad ()$$

国際的な取り決めにより、この ^{14}C あるいはpMCにより、 ^{14}C 年代が次のように計算される。

$$T = - 8033 \ln \left[\left(\frac{^{14}\text{C}}{1000} \right) / 1 \right]$$

$$= - 8033 \ln \left(\frac{\text{pMC}}{100} \right)$$

- 7) ^{14}C 年代値と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。

8) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の¹⁴C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の¹⁴C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代の計算では、IntCal04データベース (Reimer et al 2004) を用い、OxCal3.10較正プログラム (Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。暦年較正年代は、¹⁴C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 (1σ = 68%) あるいは2標準偏差 (2σ = 95.4%) で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない¹⁴C年代値である。

(5) 測定結果

¹⁴C年代は、F - 3区弥生2号住居跡の炭化物 (1 : IAAA - 72600) が 2160 ± 30yrBP, 同住居内焼成域の炭化物 (2 : IAAA - 72601) が 2230 ± 30yrBP, E - 2区古墳1号住居跡の炭化物 (3 : IAAA - 72602) が 1100 ± 30yrBP, D・E - 2区古墳2号住居跡の炭化物 (4 : IAAA - 72603) が 1380 ± 30yrBP, G - 2区古墳3号住居跡の炭化物 (5 : IAAA - 72604) が 1710 ± 30yrBP, G - 2区古墳4号住居跡の炭化物 (6 : IAAA - 72605) が 1930 ± 30yrBP, G - 3区貝殻散布域の貝殻 (7 : IAAA - 72606) が 2700 ± 30yrBP, F - 2区貝殻入土坑内の貝殻 (8 : IAAA - 72607) が 2560 ± 30yrBPである。

暦年較正年代 (1) は、 1 が 360~290BC (35.2%) ・ 230~160BC (33.0%) , 2 が 380~350BC (12.8%) ・ 300~200BC (55.4%) , 3 が 895~925AD (25.5%) ・ 940~985AD (42.7%) , 4 が 640~670AD (68.2%) , 5 が 250~300AD (22.3%) ・ 320~390AD (45.9%) , 6 が 25~40AD (7.7%) ・ 50~90AD (46.2%) ・ 100~125AD (14.3%) である。

7・8は海産の貝殻であり、海洋リザーバー効果を考慮する必要がある。海洋中の¹⁴C濃度は大気中の濃度と異なるため、同位体補正を行った¹⁴C年代が実際の年代よりも古い値を示す。多くの場合、同位体補正をしない¹⁴Cに相当する年代値が比較的良好よくその貝と同一時代の木片や木炭などの年代値と一致する傾向にある。この¹³C補正無しの年代は 7 が 2210 ± 30yrBP, 8 が 2210 ± 30yrBPである。なお、海洋リザーバー効果を正確に補正するためには、時期と地域を限定し、多数の分析結果を蓄積した上で、陸生試料と海洋試料の暦年較正曲線の差によって補正する必要がある。

参考文献

- Stuiver M and Polach H A 1977 Discussion Reporting of ¹⁴C data *Radiocarbon* 19 355 363
- Bronk Ramsey C 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy the OxCal Program *Radiocarbon* 37 2 425 430
- Bronk Ramsey C 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal *Radiocarbon* 43 2A 355 363
- Bronk Ramsey C van der Plicht J and Weninger B 2001 Wigggle Matching radiocarbon dates *Radiocarbon* 43 2A 381 389
- Reimer P J et al 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration 0 26cal kyr BP *Radiocarbon* 46 1029 1058

IAA Code No.	試 料	科	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72600 #2129-1	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町湯田 市ノ原遺跡（第3地点）		Libby Age (yrBP) : 2,160 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -23.94 ± 0.68 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -236.1 ± 3.2 pMC (%) = 76.39 ± 0.32
	(参考)	$\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -234.5 ± 3.1 pMC (%) = 76.55 ± 0.31 Age (yrBP) : 2,150 ± 30
IAAA-72601 #2129-2	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町湯田 市ノ原遺跡（第3地点）		Libby Age (yrBP) : 2,230 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -29.80 ± 0.86 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -242.2 ± 2.8 pMC (%) = 75.78 ± 0.28
	(参考)	$\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -249.7 ± 2.4 pMC (%) = 75.03 ± 0.24 Age (yrBP) : 2,310 ± 30
IAAA-72602 #2129-3	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町湯田 市ノ原遺跡（第3地点）		Libby Age (yrBP) : 1,100 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -24.71 ± 0.64 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -127.9 ± 3.1 pMC (%) = 87.21 ± 0.31
	(参考)	$\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -127.4 ± 2.9 pMC (%) = 87.26 ± 0.29 Age (yrBP) : 1,090 ± 30
IAAA-72603 #2129-4	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町湯田 市ノ原遺跡（第3地点）		Libby Age (yrBP) : 1,380 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -24.71 ± 0.69 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -157.6 ± 2.9 pMC (%) = 84.24 ± 0.29
	(参考)	$\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -157.1 ± 2.6 pMC (%) = 84.29 ± 0.26 Age (yrBP) : 1,370 ± 30
IAAA-72604 #2129-5	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町湯田 市ノ原遺跡（第3地点）		Libby Age (yrBP) : 1,710 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -25.56 ± 0.44 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -192.1 ± 2.9 pMC (%) = 80.79 ± 0.29
	(参考)	$\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -193.0 ± 2.8 pMC (%) = 80.70 ± 0.28 Age (yrBP) : 1,720 ± 30

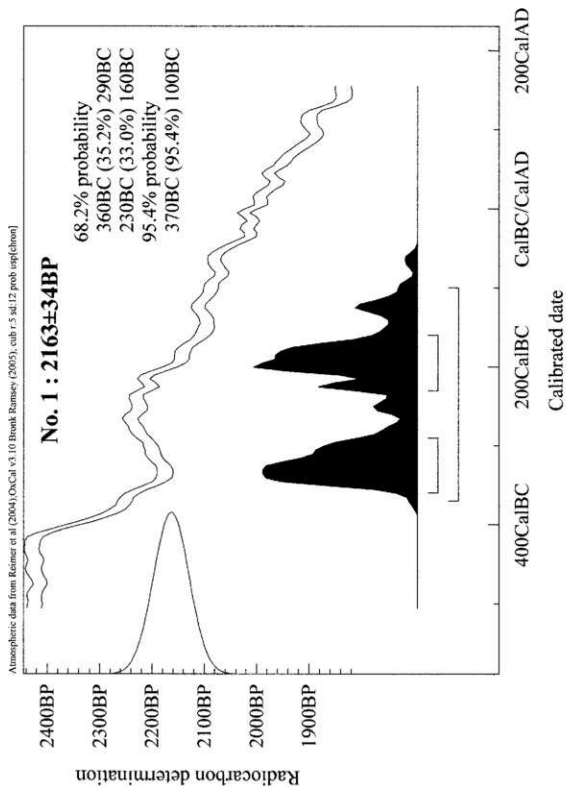
AAA Code No.	試 料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72605 #2129-6	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町湯田 市ノ原遺跡（第3地点） 試料形態：炭化物 試料名(番号)：No.6	Libby Age (yrBP) : 1,930 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -27.01 ± 0.47 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -213.8 ± 2.7 pMC (%) = 78.62 ± 0.27
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -217.0 ± 2.6 pMC (%) = 78.30 ± 0.26 Age (yrBP) : 1,970 ± 30
IAAA-72606 #2129-7	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町湯田 市ノ原遺跡（第3地点） 試料形態：貝殻 試料名(番号)：No.7	Libby Age (yrBP) : 2,700 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = 5.13 ± 0.54 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -285.7 ± 2.7 pMC (%) = 71.43 ± 0.27
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -240.9 ± 2.7 pMC (%) = 75.91 ± 0.27 Age (yrBP) : 2,210 ± 30
IAAA-72607 #2129-8	試料採取場所：鹿児島県日置市東市来町湯田 市ノ原遺跡（第3地点） 試料形態：貝殻 試料名(番号)：No.8	Libby Age (yrBP) : 2,560 ± 30 $\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ 、(加速器) = -3.75 ± 0.46 $\Delta^{14}\text{C}(\text{‰})$ = -273.0 ± 2.9 pMC (%) = 72.70 ± 0.29
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$ = -241.0 ± 3.0 pMC (%) = 75.90 ± 0.30 Age (yrBP) : 2,210 ± 30

参考資料：暦年較正用年代

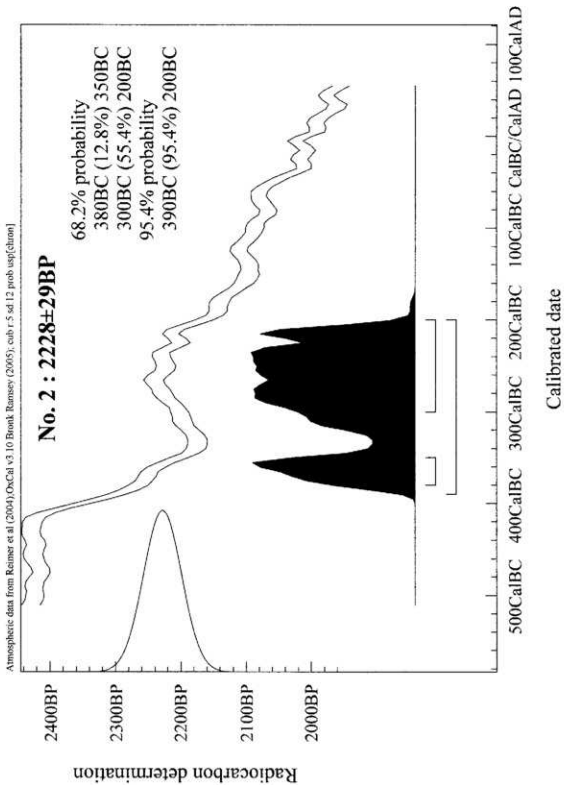
AAA Code No.	試料番号	Libby Age (yrBP)
IAAA - 72600	No. 1	2163 ± 34
IAAA - 72601	No. 2	2228 ± 29
IAAA - 72602	No. 3	1099 ± 28
IAAA - 72603	No. 4	1377 ± 27
IAAA - 72604	No. 5	1713 ± 29
IAAA - 72605	No. 6	1931 ± 27
IAAA - 72606	No. 7	2702 ± 30
IAAA - 72607	No. 8	2561 ± 32

ここに記載するLibby Age（年代値）と誤差は下1桁を丸めない値です。

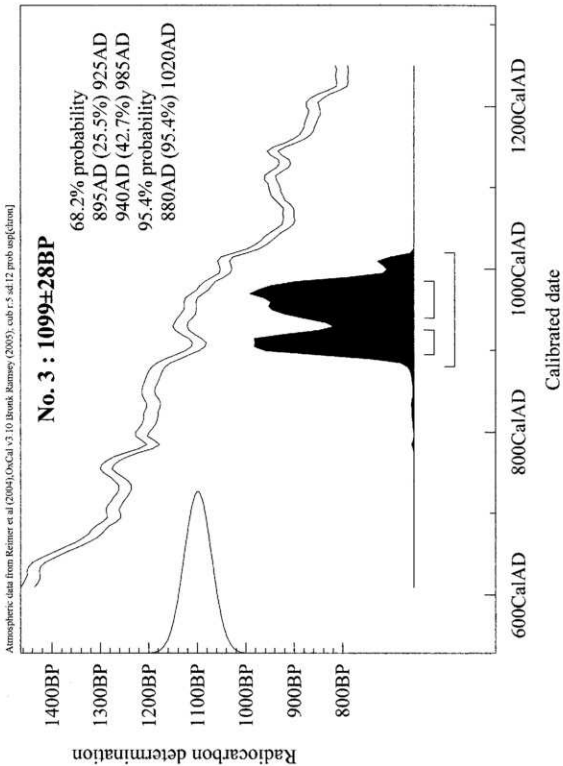
【参考値：暦年校正 Radiocarbon determination】



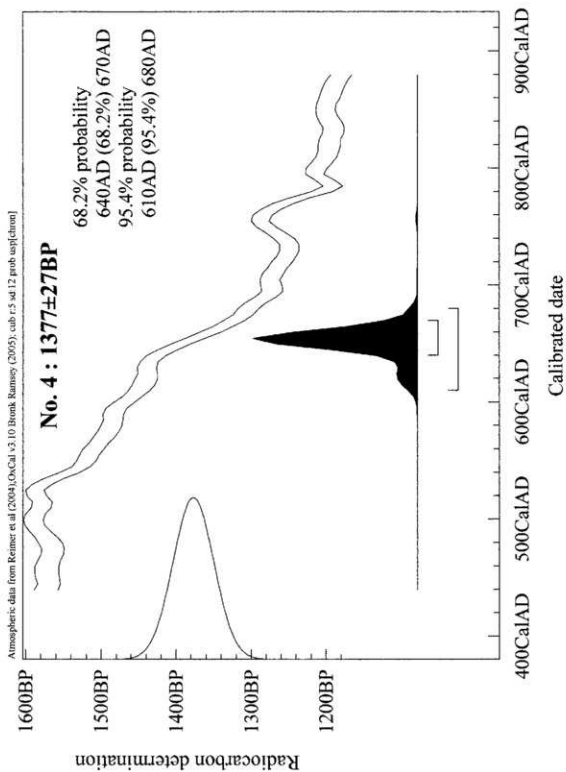
【参考値：暦年較正 Radiocarbon determination】



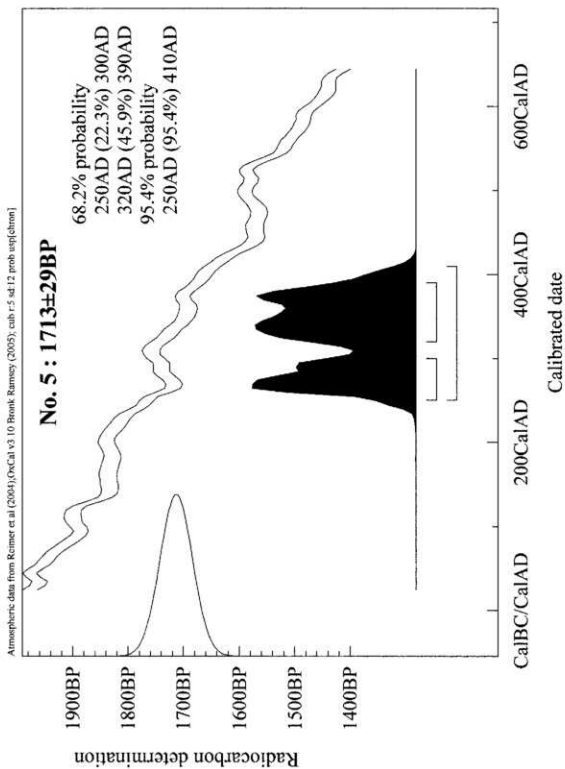
【参考値：暦年較正 Radiocarbon determination】



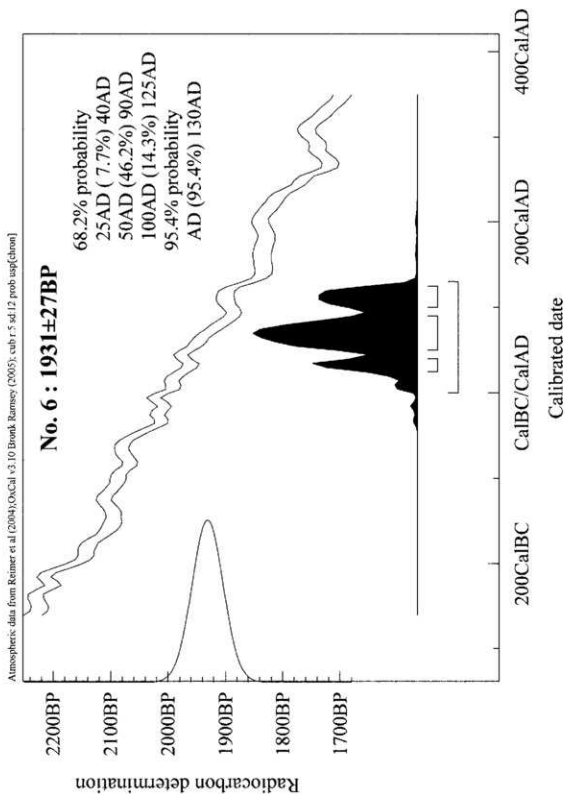
【参考値：暦年較正 Radiocarbon determination】



【参考値：暦年較正 Radiocarbon determination】



【参考値：暦年較正 Radiocarbon determination】



第2節 樹種同定調査 報告書
市ノ原遺跡第3地点

市ノ原遺跡第3地点出土炭化物の同定

株式会社分析研究所

はじめに

市ノ原遺跡では、古代の掘立柱建物群などの遺構が検出されており、施釉陶器や青磁、「万」の文字が書かれた墨書土器などが出土している。その他にも縄文時代から近世までの幅広い時代の遺構・遺物が検出されている。

本報告では、第3地点の住居跡から出土した炭化物の種類を明らかにするため、樹種同定および種実同定を実施する。

1. 試料

試料は、住居跡覆土から出土した炭化物6点(試料番号1-6)である。いずれも複数枚の炭化物が認められ、試料番号1, 2には種実遺体も認められる。試料の詳細は結果とともに表1に示す。

2. 分析方法

(1) 樹種同定

木口(横断面)・柱目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、アルミ合金製の試料台にカーボンテープで固定する。実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、島地・伊東(1982)、Wheelwright他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。各樹種の木材組織については、林(1991)、伊東(1995, 1996, 1997, 1998, 1999)を参考にする。

(2) 種実同定

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。現生標本および石川(1994)、中山ほか(2000)等との対照から、種実の種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。分析後は、種類毎に容器に入れて返却する。

表 1

試料番号	発掘区画	住居/遺構	炭化物の種類		
			炭化材	種実	
1	F-31区	弥生2号住居	炭化材	針葉樹 クリ	微細片
			種実	イチイガシ(子葉) コナラ属(子葉)	完形1個, 破片8個 破片13個
2	F-31区	弥生2号住居内焼土域	炭化材	クリ	
			種実	イチイガシ(子葉) コナラ属(子葉) マメ類(種子)	破片2個 破片2個 破片1個
3	E-29区	古墳1号住居	炭化材	コナラ属アカガシ亜属	
4	D-E-28区	古墳2号住居	炭化材	コナラ属アカガシ亜属	
5	G-22区	古墳3号住居	炭化材	コナラ属アカガシ亜属	
			炭化材	ナツツバキ属	
6	G-23区	古墳4号住居	炭化材	クリ	

3. 結果

同定結果を表1に示す。炭化材は、広葉樹3分類群(コナラ属アカガシ亜属・クリ・ナツツバキ属)に同定された。なお、試料番号1には、クリの他に針葉樹と散孔材の道管配列を有する広葉樹が認められたが、いずれも微細片であり、電子顕微鏡による観察ができなため、種類の同定には至らなかった。一方、試料番号1, 2に認められた種実(木本2分類群(広葉樹のイチイガシ、コナラ属)2個、草本で栽培植物のマメ類1個)が同定された。

炭化材に認められた各分類群の解剖学的特徴と、種実に認められた各分類群の形態的特徴等を以下に記す。

<炭化材>

・コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen *Cyclobalanopsis*) ブナ科

放射孔材で、管壁厚は中庸〜厚く、横断面では楕円形、単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1 - 10細胞高のものと同複合放射組織とがある。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb et Zucc) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は2 - 3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1 - 20細胞高。

・ナツツバキ属 (*Stewartia*) ツバキ科

散孔材で、横断面では楕円形、ほぼ単独で散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列一階段状に配列する。放射組織は異性、1 - 2細胞幅、1 - 20細胞高で、時に上下に連結する。

<種実>

・イチイガシ (*Quercus glauca* Blme) ブナ科コナラ属

炭化した子葉の完形個体1個(試料番号1)、破片10個が検出された。長さ1 - 13mm、径0.7 - 1 mm程度の楕円 - 広卵体。2枚からなる子葉は極端に不揃いで、合わせ目は球体表面を蛇行して一周する。幼根は頂端からずれた位置にある。表面には、1本の深い溝が基部から頂部に向かい2程度まで発達している。子葉は硬く緻密で、表面は縦方向に走る維管束の圧痕がみられる。合わせ目の表面は平滑で、正中線上は僅かに窪み、頂部には小さな孔(主根)がある。

岡本(1979)は、日本産ブナ科植物の子葉について、イチイガシには子葉の離れにくさ、著しい異形性、頂端が尖らず幼根の位置がずれている、中軸の圧痕が確認できるなどの特異性があることから、イチイガシのみが種まで同定できる場合があることを述べている。今回確認された1個は、これらの特徴を典型的に示していることから、イチイガシに同定されると判断した。なお、半分以下の破片1個にはイチイガシの特徴が確認されないため、コナラ属(*Quercus*)にとどめているが、おそらくイチイガシに由来すると思われる。

・マメ類 (*Leguminosae*) マメ科

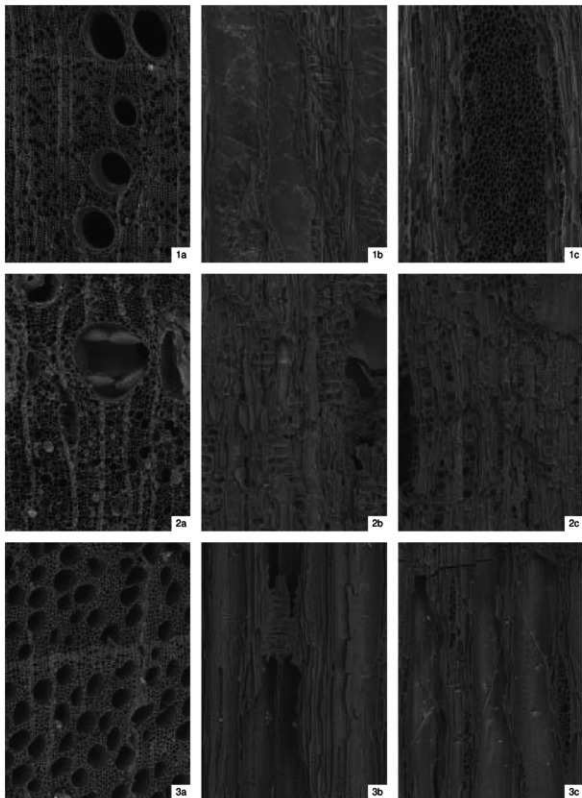
種子の破片が検出された。炭化しており黒色、完形ならば長さ8.2mm、径6mm程度の長楕円体、破片は子葉の合わせ目に沿って半割している。種皮は薄く表面はやや平滑。子葉内面の幼葉や初生葉は不明瞭。

引用文献

- 林昭三, 1991, 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 石川茂雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑. 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p.
- 伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志, 2000, 日本植物種子図鑑. 東北大学出版会, 642p.
- 岡本素治, 1979, 遺跡から出土するイチイガシ. 大阪市立自然史博物館業績, 第230号, 31-39.
- Richter H G Grosser D Heinz I and Gasson PE (編) 2006, 針葉樹材の識別 IAWAIによる光学顕微鏡の特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部久・内海泰弘(日本語版監修), 海青社, 70p. Richter H G Grosser D Heinz I and Gasson PE 2004 *IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification*
- 島地謙・伊東隆夫 1982図説木材組織 地球社 176p
- Wheeler E A Bass P and Gasson PE (編) 1998広葉樹材の識別 IAWAIによる光学顕微鏡の特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩(日本語版監修), 海青社, 122p. Wheeler E A Bass P and Gasson PE 1989 *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*

)本測定は、当社協力会社・バリノ・サーヴェイ縣にて実施した。

図版 1 炭化材



1. コナラ属アカガシ亜属 (試料番号4)

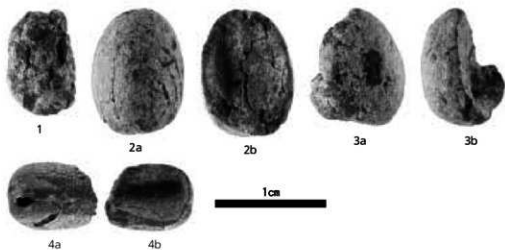
2. クリ (試料番号6)

3. ナツツバキ属 (試料番号5)

a: 木口, b: 柀目, c: 板目

200 μm : a
200 μm : b, c

図版2 種実遺体



1. イチイガシ 子葉 (試料番号1)
2. イチイガシ 子葉 (試料番号1)
3. イチイガシ 子葉 (試料番号1)
4. マメ類 種子 (試料番号1)

市ノ原遺跡3地点出土の赤色顔料の分析結果について

内山伸明

本遺跡出土の縄文時代の土器に付着していた赤色顔料について、次のとおり走査型電子顕微鏡による形状観察とエネルギー分散型蛍光X線分析装置による成分分析を行った。

1 資料

縄文時代早期土器（岩本式） 22
 縄文時代晩期土器 765, 766, 768

2 観察・分析方法

(1) 形状観察

走査型電子顕微鏡（日本電子製 JSM 5300LV）による2000～3500倍観察を行った。

(2) 蛍光X線分析

エネルギー分散型蛍光X線分析装置（堀場製作所製 XGT 1000, X線管球ターゲット：ロジウム, X線照射径 100 μm）を使用し、次の条件により分析を行った。

X線管電圧：50kV 電流：自動設定
 測定時間：120S X線フィルター：なし
 試料セル：なし パルス処理時間：P 3
 定量補正法：スタンダードレス

なお、いずれの資料も付着部位の形状や残存量から非破壊での測定は困難であったため、電子顕微鏡観察用に作成した試料で測定を行った。

3 結果

(1) 形状観察

電子顕微鏡観察の結果、22は鉄/バクテリア *Leptothrix* 属由来のいわゆる「パイプ状ベンガラ」（写真1）を確認した。県内では若本式土器に付着したベンガラの分析例は若本（指宿市）、加藤山（鹿児島市）、稲荷原・上山路山（いずれも日置市）、ホケノ頭（綾江町）の5遺跡の例があるが、いずれも「非パイプ状ベンガラ」であった。今回の例は、「パイプ状ベンガラ」の県内最古の事例と言える。

765, 766, 768は、いずれも微細な粒子がみられ（写真2～4）、当センターではこれまで「非パイプ状ベンガラ」として報告している。しかし、近年、鉄/バクテリアの現地採取や分析・観察をしていく中で、鉄/バクテリアが作り出す黄褐色沈殿物の中に、今回観察したものに類似する微細な球状の粒子が密集しているものを確認しており、「非パイプ状」ではあっても鉱物由来のものではない可能性も残る。この点については、今後さらに検討が必要である。

(2) 蛍光X線分析

いずれも顕著な鉄（Fe）のピークがみられたことから、これらの赤色顔料は鉄を主成分とするベンガラと言える。22および768は、アルミニウム（Al）、けい素（Si）、鉄（Fe）の分析値がほかの2点やこれまでの当センターのベンガラの分析例と比較して若干異なるが、これは残存している顔料の層が非常に薄かったため、胎土の影響があったものと考えられる。

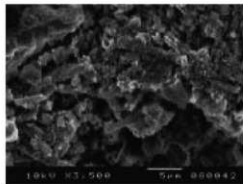
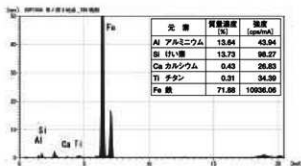
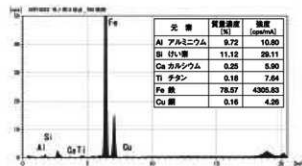
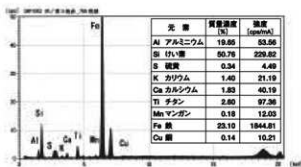
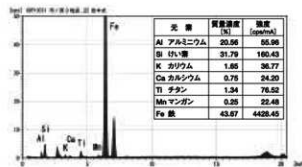


写真1 22の粒子

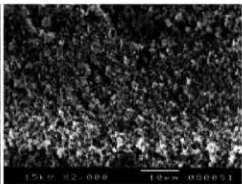


写真2 768の粒子

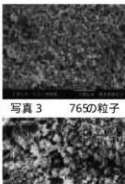


写真3 765の粒子

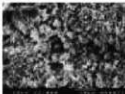


写真4 766の粒子

第3表 旧石器時代石器観察表(1)

挿図	番号	器種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
19	1	ナイフ形石器	F-28	IV	2.7	1.8	0.6	2.0	—
	2	ナイフ形石器	J-35	VI下	3.2	1.9	0.7	3.8	—
21	1	細石刃核	F-47	Ⅴ	1.8	1.1	1.6	2.8	Aブロック
	2	細石刃核	F-47	Ⅴ	1.6	1.6	1.6	3.3	Aブロック
	3	細石刃核	E-47	V	2.4	1.6	1.7	6.1	Aブロック
	4	細石刃核	F-47	V	1.6	1.6	2.6	5.1	Aブロック
	5	細石刃核	F-47	Ⅴ	2.9	1.6	2.4	7.4	Aブロック
	6	細石刃核	E-47	Ⅴ	1.8	1.5	2.0	4.3	Aブロック
	7	細石刃核	F-47	Ⅴ	1.6	1.1	0.7	0.6	Aブロック
22	8	細石刃核	F-47	V	2.5	1.9	2.1	7.9	Aブロック
	9	細石刃核	F-47	V	2.2	1.6	1.7	3.2	Aブロック
	10	細石刃核	F-47	IV	2.0	2.2	2.7	8.6	Aブロック
23	11	細石刃核	F-47	Ⅲa	2.0	1.8	1.2	3.7	Aブロック
	12	細石刃核	F-47	Ⅲa	2.7	2.3	1.6	9.3	Aブロック
	1	細石刃	F-47	V	1.2	0.5	0.1	0.05	Aブロック
	2	細石刃	F-47	V	1.5	0.5	0.1	0.15	Aブロック
	3	細石刃	F-47	Ⅴ	1.1	0.4	0.2	0.08	Aブロック
	4	細石刃	F-47	V	1.2	0.6	0.1	0.09	Aブロック
	5	細石刃	F-47	Ⅴ	1.2	0.4	0.1	0.04	Aブロック
	6	細石刃	E-47	Ⅴ	1.0	0.4	0.1	0.05	Aブロック
	7	細石刃	F-47	Ⅴ	0.8	0.5	0.1	0.10	Aブロック
	8	細石刃	F-47	Ⅴ	1.1	0.6	0.1	0.05	Aブロック
	9	細石刃	E-47	Ⅴ	1.1	0.6	0.1	0.09	Aブロック
	10	細石刃	E-47	Ⅴ	0.8	0.5	0.1	0.04	Aブロック
24	1	両面加工尖頭器	F-43	Ⅴ	3.5	2.4	0.8	5.7	Bブロック
	2	両面加工尖頭器	F-43	Ⅴ	2.0	2.6	0.7	4.4	Bブロック
24	1	細石刃核	F-44	V	2.0	0.9	1.4	3.0	Bブロック
	2	細石刃核	F-44	V	1.7	1.4	1.5	3.3	Bブロック
	3	細石刃核	F-44	V	2.0	1.8	1.7	5.3	Bブロック
	4	細石刃核	F-44	V	2.2	1.4	1.8	4.7	Bブロック
	5	細石刃核	F-44	V	2.0	1.2	1.9	4.2	Bブロック
	6	細石刃核	F-44	V	2.2	1.1	1.8	4.2	Bブロック
	7	細石刃核	F-44	V	2.6	1.8	1.4	5.0	Bブロック
	8	細石刃核	F-44	V	1.6	1.1	0.7	1.3	Bブロック
25	9	細石刃核	F-44	IV	2.1	1.5	1.9	4.2	Bブロック
	10	細石刃核	F-44	IV	2.7	1.6	2.1	7.9	Bブロック
	11	細石刃核	F-43	IV	2.5	1.6	2.1	8.8	Bブロック
	12	細石刃核	F-43	IV	2.5	1.4	2.4	8.1	Bブロック
	13	細石刃核	F-44	IV	2.1	1.4	1.5	4.5	Bブロック
	14	細石刃核	F-44	V	2.0	1.8	3.1	7.4	Bブロック
26	1	細石刃	F-44	V	2.6	0.7	0.3	0.57	Bブロック
	2	細石刃	F-44	V	2.2	0.5	0.2	0.19	Bブロック
	3	細石刃	F-44	V	1.9	0.6	0.3	0.23	Bブロック
	4	細石刃	F-44	V	2.1	0.5	0.2	0.16	Bブロック
	5	細石刃	F-44	V	1.7	0.4	0.2	0.09	Bブロック
	6	細石刃	F-44	Ⅴ	1.6	0.4	0.1	0.14	Bブロック
	7	細石刃	F-44	V	1.1	0.4	0.1	0.07	Bブロック
	8	細石刃	F-44	V	1.1	0.5	0.2	0.07	Bブロック
	9	細石刃	F-44	V	1.6	0.5	0.2	0.21	Bブロック
	10	細石刃	F-44	V	1.4	0.5	0.1	0.10	Bブロック
	11	細石刃	F-44	V	1.6	0.5	0.3	0.22	Bブロック
	12	細石刃	F-44	V	1.4	0.4	0.2	0.17	Bブロック
	13	細石刃	F-44	V	1.7	0.6	0.2	0.16	Bブロック
	14	細石刃	F-44	V	1.3	0.3	0.1	0.04	Bブロック
	15	細石刃	F-44	V	1.0	0.6	0.1	0.09	Bブロック
	16	細石刃	F-44	V	0.9	0.4	0.1	0.03	Bブロック

第4表 旧石器時代石器観察表(2)

採回	番号	器種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
26	17	細石刃	F-44	V	1.3	0.5	0.2	0.13	Bブロック
	18	細石刃	F-44	V	0.9	0.5	0.1	0.04	Bブロック
	19	細石刃	F-44	V	1.5	0.5	0.1	0.12	Bブロック
	20	細石刃	F-44	V	1.0	0.4	0.1	0.06	Bブロック
	21	細石刃	F-44	V	0.8	0.6	0.1	0.06	Bブロック
	22	細石刃	F-44	V	1.2	0.4	0.1	0.05	Bブロック
	23	細石刃	F-44	V	0.7	0.4	0.1	0.07	Bブロック
	24	細石刃	F-44	V	0.9	0.5	0.1	0.09	Bブロック
	25	細石刃	F-44	V	0.9	0.5	0.1	0.06	Bブロック
	26	細石刃	F-44	V	0.8	0.6	0.2	0.08	Bブロック
	27	細石刃	F-44	V	0.8	0.4	0.1	0.05	Bブロック
	28	細石刃	F-44	V	0.4	0.3	0.1	0.01	Bブロック
	29	細石刃	F-44	V	0.5	0.3	0.1	0.01	Bブロック
	30	細石刃	F-43	Ⅴ	1.2	0.4	0.1	0.04	Bブロック
	31	細石刃	F-43	Ⅴ	0.8	0.4	0.2	0.08	Bブロック
	32	細石刃	F-43	Ⅴ	1.1	0.5	0.2	0.08	Bブロック
	33	細石刃	F-43	Ⅴ	1.1	0.5	0.1	0.07	Bブロック
	34	細石刃	F-43	Ⅴ	0.7	0.3	0.1	0.05	Bブロック
	35	細石刃	F-44	Ⅴ	1.5	0.4	0.1	0.18	Bブロック
	36	細石刃	F-44	Ⅴ	1.1	0.4	0.1	0.08	Bブロック
	37	細石刃	F-44	Ⅴ	1.6	0.4	0.1	0.08	Bブロック
	38	細石刃	F-44	Ⅴ	1.6	0.5	0.1	0.13	Bブロック
	39	細石刃	F-44	Ⅴ	1.1	0.6	0.1	0.12	Bブロック
	40	細石刃	F-44	Ⅴ	1.8	0.5	0.1	0.18	Bブロック
	41	細石刃	F-44	Ⅴ	1.1	0.5	0.1	0.04	Bブロック
	42	細石刃	F-44	Ⅴ	1.3	0.7	0.1	0.12	Bブロック
	43	細石刃	F-44	Ⅴ	1.5	0.7	0.2	0.14	Bブロック
	44	細石刃	F-44	Ⅴ	0.8	0.5	0.1	0.06	Bブロック
	45	細石刃	F-44	Ⅲ	1.2	0.7	0.1	0.14	Bブロック
	46	細石刃	F-44	Ⅳ	1.0	0.5	0.1	0.10	Bブロック
	47	細石刃	F-43	Ⅳ	1.0	0.5	0.1	0.13	Bブロック
	48	細石刃	F-44	V	1.4	0.5	0.2	0.11	Bブロック
	49	細石刃	F-44	V	0.8	0.6	0.1	0.04	Bブロック
	50	細石刃	F-44	V	1.0	0.5	0.1	0.06	Bブロック
	51	細石刃	F-44	V	0.8	0.4	0.1	0.05	Bブロック
	52	細石刃	F-44	V	1.1	0.6	0.1	0.06	Bブロック
	53	細石刃	F-44	V	1.1	0.6	0.1	0.11	Bブロック
	54	細石刃	F-44	Ⅴ	0.8	0.5	0.2	0.09	Bブロック
	55	細石刃	F-44	V	0.8	0.6	0.1	0.04	Bブロック
	56	細石刃	F-44	V	1.1	0.6	0.2	0.10	Bブロック
	57	細石刃	F-44	V	0.9	0.5	0.1	0.05	Bブロック
	58	細石刃	F-44	V	1.1	0.4	0.1	0.05	Bブロック
	59	細石刃	F-44	V	0.9	0.4	0.1	0.04	Bブロック
	60	細石刃	F-44	V	0.9	0.3	0.1	0.03	Bブロック
	61	細石刃	F-44	V	1.2	0.4	0.1	0.08	Bブロック
	62	細石刃	F-44	V	1.3	0.4	0.2	0.11	Bブロック
	63	細石刃	F-44	Ⅴ	1.3	0.5	0.2	0.13	Bブロック
	64	細石刃	F-44	Ⅴ	1.2	0.3	0.1	0.04	Bブロック
	65	細石刃	F-44	Ⅴ	1.0	0.4	0.1	0.03	Bブロック
	66	細石刃	F-44	Ⅴ	1.0	0.3	0.1	0.02	Bブロック
	67	細石刃	F-44	Ⅴ	1.1	0.4	0.1	0.06	Bブロック
	68	細石刃	F-44	Ⅴ	1.2	0.4	0.1	0.04	Bブロック
	69	細石刃	F-44	Ⅴ	1.0	0.3	0.2	0.07	Bブロック
	70	細石刃	F-44	Ⅴ	1.3	0.4	0.1	0.14	Bブロック
71	細石刃	F-44	Ⅴ	1.1	0.5	0.1	0.06	Bブロック	
72	細石刃	F-44	Ⅴ	1.3	0.5	0.2	0.07	Bブロック	

第5表 旧石器時代石器観察表(3)

採因	番号	器 種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備 考
27	73	細石刃	F-44	Ⅴ	1.1	0.3	0.2	0.06	Bブロック
	74	細石刃	F-44	Ⅴ	1.0	0.5	0.1	0.08	Bブロック
	75	細石刃	F-44	Ⅴ	1.3	0.3	0.2	0.09	Bブロック
	76	細石刃	F-44	Ⅴ	1.2	0.5	0.1	0.03	Bブロック
	77	細石刃	F-44	Ⅴ	0.5	0.3	0.1	0.02	Bブロック
	78	細石刃	F-43	V	0.7	0.4	0.1	0.04	Bブロック
	79	細石刃	F-43	V	1.2	0.5	0.1	0.14	Bブロック
	80	細石刃	F-43	V	0.8	0.4	0.1	0.03	Bブロック
28	1	細石刃核	F-41	Ⅴ	1.6	1.3	1.7	4.2	Cブロック
	2	細石刃核	F-41	Ⅴ	2.5	1.6	1.1	4.8	Cブロック
	3	細石刃核	F-41	Ⅴ	2.0	1.1	2.2	5.7	Cブロック
	4	細石刃核	F-41	Ⅴ	1.7	0.9	0.9	1.6	Cブロック
	5	細石刃核	F-41	V	1.8	1.8	1.2	3.3	Cブロック
	6	細石刃核	F-41	V	2.2	1.4	1.1	4.0	Cブロック
	7	細石刃核	F-41	V	1.9	1.3	1.7	3.1	Cブロック
	8	細石刃核	F-41	V	2.0	1.4	1.5	4.8	Cブロック
	9	細石刃核	F-41	V	1.4	1.2	1.3	1.9	Cブロック
	10	細石刃核	F-41	V	1.9	1.4	2.7	7.5	Cブロック
	11	細石刃核	F-40	V	3.1	1.9	3.0	14.2	Cブロック
29	12	細石刃核	F-40	V	2.4	1.8	2.1	7.3	Cブロック
	13	細石刃核	F-40	V	1.7	1.1	2.1	4.1	Cブロック
	14	細石刃核	F-40	Ⅳ	2.2	1.5	1.9	5.8	Cブロック
	15	細石刃核	F-40	Ⅳ	1.6	1.7	2.5	6.6	Cブロック
	16	細石刃核	F-40	Ⅳ	2.7	1.7	3.0	12.4	Cブロック
	17	細石刃核	G-40	Ⅳ	2.0	1.2	2.0	6.7	Cブロック
	18	細石刃核	F-41	Ⅴ	1.5	1.4	1.7	2.8	Cブロック
	19	細石刃核	F-42	V	1.8	1.8	1.4	3.9	Cブロック
	20	細石刃核	F-41	V	1.8	1.3	2.0	4.6	Cブロック
	21	細石刃核	F-41	V	2.0	0.8	1.1	2.0	Cブロック
30	22	細石刃核	F-40	V	2.5	1.7	2.5	11.2	Cブロック
	23	細石刃核	F-40	Ⅳ	2.4	1.8	1.8	6.9	Cブロック
	24	細石刃核	F-40	V	2.3	1.6	2.7	8.7	Cブロック
	25	細石刃核	F-40	Ⅲb	1.9	1.7	2.0	5.9	Cブロック
	1	細石刃	F-41	Ⅴ	1.4	0.4	0.2	0.13	Cブロック
31	2	細石刃	F-41	Ⅴ	1.0	0.5	0.1	0.09	Cブロック
	3	細石刃	F-41	Ⅴ	1.9	0.3	0.1	0.10	Cブロック
	4	細石刃	F-42	Ⅴ	1.8	0.6	0.1	0.11	Cブロック
	5	細石刃	F-42	Ⅴ	1.1	0.6	0.2	0.06	Cブロック
	6	細石刃	F-41	Ⅴ	2.3	0.5	0.2	0.20	Cブロック
	7	細石刃	F-41	Ⅴ	0.8	0.4	0.1	0.04	Cブロック
	8	細石刃	F-42	Ⅴ	0.5	0.6	0.2	0.05	Cブロック
	9	細石刃	F-41	Ⅴ	0.7	0.3	0.1	0.05	Cブロック
	10	細石刃	F-42	Ⅴ	1.1	0.4	0.1	0.07	Cブロック
	11	細石刃	F-41	Ⅴ	0.7	0.4	0.1	0.02	Cブロック
	12	細石刃	F-42	Ⅴ	1.0	0.5	0.1	0.10	Cブロック
	13	細石刃	F-41	Ⅴ	0.8	0.4	0.1	0.05	Cブロック
	14	細石刃	F-41	Ⅴ	0.6	0.5	0.1	0.06	Cブロック
	15	細石刃	F-41	Ⅴ	1.3	0.4	0.1	0.12	Cブロック
	16	細石刃	F-41	Ⅴ	0.8	0.4	0.1	0.03	Cブロック
	17	細石刃	F-41	Ⅴ	1.6	0.6	0.2	0.07	Cブロック
	18	細石刃	F-41	Ⅴ	0.8	0.6	0.1	0.07	Cブロック
	19	細石刃	F-41	Ⅴ	1.1	0.5	0.2	0.08	Cブロック
	20	細石刃	F-42	Ⅴ	0.9	0.3	0.1	0.03	Cブロック
	21	細石刃	F-41	Ⅳ	1.5	0.5	0.2	0.16	Cブロック
22	細石刃	F-41	Ⅳ	1.5	0.6	0.1	0.14	Cブロック	
23	細石刃	F-42	Ⅳ	1.2	0.5	0.1	0.11	Cブロック	

第6表 旧石器時代石器観察表(4)

採回	番号	器 種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備 考	
31	24	細石刃	F-40	V	1.5	0.5	0.1	0.07	Cブロック	
	25	細石刃	F-41	V	1.0	0.5	0.1	0.05	Cブロック	
	26	細石刃	F-40	V	1.3	0.5	0.1	0.06	Cブロック	
	27	細石刃	F-40	V	1.6	0.3	0.2	0.10	Cブロック	
	28	細石刃	F-41	V	0.8	0.4	0.1	0.04	Cブロック	
	29	細石刃	F-41	V	1.5	0.6	0.2	0.19	Cブロック	
	30	細石刃	F-41	V	1.5	0.5	0.1	0.13	Cブロック	
	31	細石刃	F-41	V	1.1	0.4	0.1	0.07	Cブロック	
	32	細石刃	F-41	V	1.7	0.7	0.2	0.23	Cブロック	
	33	細石刃	F-41	V	1.0	0.6	0.2	0.13	Cブロック	
	34	細石刃	F-41	V	1.3	0.7	0.2	0.10	Cブロック	
	35	細石刃	F-41	V	1.6	0.6	0.1	0.11	Cブロック	
	36	細石刃	F-40	V	2.0	0.6	0.2	0.25	Cブロック	
	37	細石刃	F-41	V	0.9	0.4	0.1	0.04	Cブロック	
	38	細石刃	F-41	V	1.2	0.4	0.1	0.11	Cブロック	
	39	細石刃	F-41	V	1.5	0.5	0.2	0.13	Cブロック	
	40	細石刃	F-42	V	1.0	0.4	0.2	0.07	Cブロック	
	41	細石刃	F-42	IV	1.1	0.4	0.1	0.05	Cブロック	
	42	細石刃	F-40	V	0.9	0.4	0.1	0.03	Cブロック	
	43	細石刃	F-40	V	1.2	0.6	0.2	0.21	Cブロック	
	44	細石刃	F-41	V	1.3	0.3	0.1	0.05	Cブロック	
	45	細石刃	F-42	V	2.4	0.4	0.2	0.22	Cブロック	
	46	細石刃	F-41	V	2.7	0.7	0.2	0.44	Cブロック	
	32	47	細石刃	F-41	V	1.5	0.5	0.2	0.16	Cブロック
		48	細石刃	F-41	V	0.9	0.5	0.1	0.05	Cブロック
		49	細石刃	F-41	V	0.8	0.3	0.1	0.04	Cブロック
		50	細石刃	F-41	V	1.3	0.4	0.1	0.05	Cブロック
		51	細石刃	F-41	V	1.6	0.5	0.2	0.16	Cブロック
		52	細石刃	F-41	V	0.4	0.4	0.1	0.01	Cブロック
		53	細石刃	F-41	V	0.7	0.4	0.1	0.05	Cブロック
		54	細石刃	F-41	V	1.1	0.5	0.1	0.07	Cブロック
		55	細石刃	F-41	V	0.8	0.5	0.2	0.08	Cブロック
		56	細石刃	F-41	V	1.0	0.4	0.1	0.03	Cブロック
		57	細石刃	F-42	V	1.5	0.5	0.1	0.12	Cブロック
	33	1	細石刃核	G-40	V	1.6	1.7	3.0	9.1	Dブロック
		2	細石刃核	G-40	V	1.6	1.1	1.6	2.3	Dブロック
		3	細石刃核	G-40	IIIb	1.9	1.6	2.6	5.9	Dブロック
		4	細石刃核	G-40	IIIb	3.1	2.0	2.4	11.7	Dブロック
		5	細石刃核	G-40	VI	1.7	1.7	2.8	6.9	Dブロック
		6	細石刃核	G-40	V	2.1	1.1	1.4	3.4	Dブロック
		7	細石刃核	G-40	V	1.6	1.4	1.8	3.0	Dブロック
		8	細石刃核	G-40	IIIb	1.8	1.4	1.7	3.6	Dブロック
	34	9	細石刃核	G-40	V	1.9	1.9	2.8	6.0	Dブロック
		10	細石刃核	G-40	V	2.0	1.7	1.8	5.5	Dブロック
		11	細石刃核	G-40	V	1.8	1.5	1.2	2.2	Dブロック
	35	1	細石刃	G-40	VIa	1.0	0.3	0.1	0.06	Dブロック
2		細石刃	G-40	VIa	1.0	0.3	0.1	0.02	Dブロック	
3		細石刃	G-40	VIa	1.0	0.4	0.1	0.04	Dブロック	
4		細石刃	G-40	VIa	1.5	0.4	0.1	0.08	Dブロック	
5		細石刃	G-40	VIa	1.2	0.4	0.2	0.08	Dブロック	
6		細石刃	G-40	VIa	2.7	0.4	0.1	0.24	Dブロック	
7		細石刃	G-40	V	0.9	0.5	0.1	0.07	Dブロック	
8		細石刃	G-40	V	1.2	0.6	0.2	0.13	Dブロック	
9		細石刃	G-40	V	0.8	0.5	0.1	0.05	Dブロック	
10		細石刃	G-40	V	1.0	0.4	0.1	0.07	Dブロック	
11		細石刃	G-40	V	1.5	0.6	0.2	0.16	Dブロック	

第7表 旧石器時代石器観察表 (5)

挿図	番号	器 種	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備 考
35	12	細石刃	G-40	V	1.0	0.3	0.2	0.03	Dブロック
	13	細石刃	G-40	V	0.7	0.4	0.1	0.04	Dブロック
	14	細石刃	G-40	V	1.5	0.4	0.1	0.08	Dブロック
	15	細石刃	G-40	V	0.9	0.5	0.1	0.29	Dブロック
	16	細石刃	G-40	V	1.3	0.4	0.1	0.07	Dブロック
	17	細石刃	G-40	V	1.1	0.4	0.2	0.13	Dブロック
36	18	細石刃	G-40	IV	1.1	0.5	0.1	0.07	Dブロック
	1	細石刃核	H-38	Ⅴ	3.3	2.0	1.8	8.2	Eブロック
	2	細石刃核	H-39	Ⅴa	2.9	1.2	2.1	4.6	Eブロック
	3	細石刃核	H-39	Ⅴa	1.6	1.5	1.7	3.6	Eブロック
	4	細石刃核	H-39	V	1.9	1.3	1.6	4.4	Eブロック
	5	細石刃核	H-39	IV	2.8	1.7	1.8	7.9	Eブロック
	6	細石刃核	H-39	IV	1.7	2.5	2.0	6.6	Eブロック
	7	細石刃核	H-38	IV	2.4	1.3	1.9	5.3	Eブロック
37	8	細石刃核	H-39	V	2.7	2.6	1.7	9.4	Eブロック
	9	細石刃核	H-39	V	1.7	1.3	1.4	3.2	Eブロック
	10	細石刃核	H-39	IV	1.6	2.4	3.2	8.8	Eブロック
	11	細石刃核	H-39	IV	1.6	2.1	3.5	10.3	Eブロック
38	12	細石刃核	H-39	Ⅲb	1.9	1.6	2.0	4.0	Eブロック
	1	細石刃核	H-37	IV	1.4	1.4	2.1	4.5	Fブロック
39	1	細石刃	H-39	Ⅴa	1.6	0.7	0.2	0.15	Eブロック
	2	細石刃	H-39	Ⅴa	1.3	0.4	0.1	0.09	Eブロック
	3	細石刃	H-39	Ⅴa	1.1	0.5	0.1	0.05	Eブロック
	4	細石刃	H-39	Ⅴa	1.2	0.5	0.1	0.12	Eブロック
	5	細石刃	H-38	Ⅴ	2.4	0.9	0.2	0.58	Eブロック
	6	細石刃	H-38	Ⅴ	2.6	0.5	0.1	0.29	Eブロック
	7	細石刃	H-39	Ⅴa	1.0	0.4	0.1	0.09	Eブロック
	8	細石刃	H-38	Ⅴ	1.0	0.5	0.1	0.07	Eブロック
	9	細石刃	H-38	Ⅴ	1.4	0.5	0.1	0.11	Eブロック
	10	細石刃	H-38	Ⅴ	1.0	0.4	0.1	0.06	Eブロック
	11	細石刃	H-38	Ⅴ	0.6	0.5	0.1	0.05	Eブロック
	12	細石刃	H-38	Ⅴ	1.5	0.5	0.2	0.18	Eブロック
	13	細石刃	H-39	Ⅴa	0.6	0.4	0.1	0.02	Eブロック
	14	細石刃	H-38	Ⅴ	1.4	0.4	0.1	0.09	Eブロック
	15	細石刃	H-38	Ⅴ	0.7	0.6	0.1	0.06	Eブロック
	16	細石刃	H-39	Ⅴa	0.9	0.4	0.1	0.04	Eブロック
	17	細石刃	H-38	Ⅴ	1.2	0.4	0.2	0.07	Eブロック
	18	細石刃	H-39	Ⅴa	0.4	0.4	0.1	0.01	Eブロック
	19	細石刃	H-39	Ⅴa	1.1	0.6	0.2	0.12	Eブロック
	20	細石刃	H-38	V	1.7	0.6	0.2	0.17	Eブロック
	21	細石刃	H-39	V	1.9	0.7	0.2	0.27	Eブロック
	22	細石刃	H-38	V	2.4	0.6	0.3	0.42	Eブロック
	23	細石刃	H-38	V	0.9	0.5	0.1	0.10	Eブロック
	24	細石刃	H-38	V	0.8	0.5	0.1	0.05	Eブロック
	25	細石刃	H-38	V	0.7	0.6	0.2	0.10	Eブロック
	26	細石刃	H-38	V	0.8	0.4	0.1	0.04	Eブロック
	27	細石刃	H-38	V	0.8	0.5	0.1	0.05	Eブロック
	28	細石刃	H-38	Ⅲb	1.7	0.4	0.2	0.12	Eブロック
39	1	細石刃	H-37	Ⅴa	1.5	0.5	0.1	0.15	Fブロック
	2	細石刃	H-37	Ⅴa	1.3	0.5	0.1	0.08	Fブロック
	3	細石刃	H-37	Ⅴa	1.1	0.6	0.1	0.11	Fブロック

第8表 旧石器時代石器観察表(6)

採回	番号	器種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
40	1	細石刃核	G-37	Ⅵa	2.5	1.7	2.8	10.0	環状分布内
	2	細石刃核	F-37	V	1.7	1.2	2.4	6.1	環状分布内
	3	細石刃核	G-37	V	1.7	1.7	2.7	5.6	環状分布内
	4	細石刃核	F-37	Ⅵa	1.5	2.2	3.5	8.6	環状分布内
	5	細石刃核	F-37	V	1.1	1.5	2.1	3.4	環状分布内
	6	細石刃核	F-36	Ⅵa	1.7	1.3	2.0	3.5	環状分布内
	7	細石刃核	G-37	Ⅵa	1.8	1.5	3.2	8.6	環状分布内
	8	細石刃核	F-37	V	1.9	1.4	2.2	6.9	環状分布内
41	9	細石刃核	F-36	Ⅵa	1.3	2.2	2.6	4.8	環状分布内
	10	細石刃核	F-37	Ⅵa	1.6	1.5	1.6	4.1	環状分布内
	11	細石刃核	F-36	Ⅲb	2.2	1.7	1.6	5.7	環状分布内
	12	細石刃核	F-37	Ⅳ	2.4	1.0	1.7	3.7	環状分布内
	13	細石刃核	F-37	Ⅳ	1.7	1.3	1.3	3.1	環状分布内
	14	細石刃核	F-37	V	1.4	1.2	1.3	1.7	環状分布内
	15	細石刃核	F-37	V	1.9	1.1	1.7	2.8	環状分布内
	16	細石刃核	F-37	Ⅵa	1.9	0.9	0.9	1.5	環状分布内
42	1	細石刃核	E-43	V	2.3	1.9	2.9	11.0	ブロック外
	2	細石刃核	E-41	V	2.3	1.7	2.9	9.6	ブロック外
	3	細石刃核	F-39	Ⅵa	1.7	1.0	2.1	2.8	ブロック外
	4	細石刃核	G-38	Ⅵ	1.7	1.2	3.0	6.1	ブロック外
	5	細石刃核	E-43	Ⅲb	2.4	2.0	2.4	10.5	ブロック外
	6	細石刃核	F-38	Ⅳ	2.4	1.9	2.7	9.5	ブロック外
	7	細石刃核	E-39	Ⅲb	2.2	1.5	1.6	5.4	ブロック外
	8	細石刃核	G-38	Ⅵa	2.4	1.7	1.9	6.6	ブロック外
	9	細石刃核	G-38	V	2.0	1.2	1.7	3.6	ブロック外
	10	細石刃核	G-39	Ⅵa	1.9	1.1	1.6	2.6	ブロック外
43	11	細石刃核	E-39	Ⅳ	2.0	1.4	1.7	3.7	ブロック外
	12	細石刃核	H-40	V	2.6	1.5	1.7	5.7	ブロック外
	13	細石刃核	G-39	Ⅵa	1.5	0.7	1.8	1.6	ブロック外
	14	細石刃核	G-38	Ⅵ	1.4	1.2	1.3	1.8	ブロック外
	15	細石刃核	G-39	Ⅲb	1.2	1.7	1.4	3.5	ブロック外
	16	細石刃核	G-39	Ⅵb	1.5	1.8	2.1	5.6	ブロック外
	17	細石刃核	F-39	Ⅳ	1.6	1.3	1.2	2.1	ブロック外
	18	細石刃核	E-41	V	1.6	1.1	1.1	1.7	ブロック外
	19	細石刃核	E-42	Ⅵ	1.9	1.4	1.6	4.3	ブロック外
	20	細石刃核	E-43	V	1.8	2.0	1.7	3.3	ブロック外
	21	細石刃核	G-42	Ⅳ	1.6	1.2	0.9	1.6	ブロック外
	22	細石刃核	E-40	V	2.7	1.8	1.4	1.1	ブロック外
44	23	細石刃核	G-39	Ⅵa	3.2	2.1	2.1	12.2	ブロック外
	24	細石刃核	G-38	Ⅳ	2.7	1.6	2.2	8.1	ブロック外
	25	細石刃核	E-41	V	1.9	1.9	1.6	6.2	ブロック外
	26	細石刃核	F-38	Ⅵa	2.3	2.4	1.9	7.4	ブロック外
	27	細石刃核	F-38	V	1.8	1.8	0.9	2.7	ブロック外
	28	細石刃核	G-29	Ⅵa	2.3	1.4	1.0	3.3	ブロック外
	29	細石刃核	E-40	V	2.4	1.7	2.6	9.2	ブロック外
	30	細石刃核	E-43	V	2.6	1.8	1.2	4.0	ブロック外
	31	細石刃核	E-44	Ⅳ	2.1	1.4	1.5	2.9	ブロック外
	32	細石刃核	G-41	V	1.9	1.2	1.6	2.9	ブロック外

第9表 旧石器時代石器観察表(7)

挿図	番号	器種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
45	33	細石刃核	G-38	Ⅴ	1.9	1.4	2.5	7.0	ブロック外
	34	細石刃核	G-33	Ⅳ	2.0	1.5	2.4	5.9	ブロック外
	35	細石刃核	F-42	V	2.1	1.9	2.7	10.7	ブロック外
	36	細石刃核	G-38	Ⅳ	1.5	1.9	2.5	7.3	ブロック外
	37	細石刃核	E-40	V	1.7	1.0	2.2	3.4	ブロック外
	38	細石刃核	E-40	V	1.8	1.2	2.0	5.6	ブロック外
	39	細石刃核	G-39	Ⅴa	2.5	1.9	1.7	6.6	ブロック外
	40	細石刃核	F-39	Ⅴa	2.1	1.2	1.9	5.1	ブロック外
	41	細石刃核	I-38	Ⅴa	2.7	2.0	2.0	9.5	ブロック外
	42	細石刃核	E-42	Ⅳ	2.9	1.4	1.6	5.2	ブロック外
46	43	細石刃核	G-39	V	2.4	1.3	1.7	6.0	ブロック外
	44	細石刃核	J-33	Ⅳ	1.3	1.6	2.1	3.5	ブロック外
	45	細石刃核	G-38	Ⅴ	2.5	1.7	1.1	4.7	ブロック外
	46	細石刃核	F-42	V	2.0	1.4	1.5	3.7	ブロック外
	47	細石刃核	G-47	Ⅲ	2.1	1.3	1.6	3.9	ブロック外
	48	細石刃核	E-40	V	2.2	1.0	1.7	4.0	ブロック外
	49	細石刃核	G-39	Ⅴa	1.8	1.3	1.2	2.3	ブロック外
	50	細石刃核	I-38	Ⅴa	1.8	1.6	1.0	3.0	ブロック外
	51	細石刃核	E-41	V	1.6	1.2	1.1	1.7	ブロック外
	52	細石刃核	G-38	Ⅳ	1.3	1.6	1.0	1.6	ブロック外
47	53	細石刃核	E-40	Ⅳ	2.1	1.2	1.7	3.5	ブロック外
	54	細石刃核	F-42	V	1.8	1.6	1.3	4.0	ブロック外
	55	細石刃核	G-37	Ⅲa	2.2	1.5	1.3	3.4	ブロック外
	56	細石刃核	F-38	Ⅴa	1.7	1.6	1.0	3.4	ブロック外
	57	細石刃核	E-41	V	1.2	1.3	1.5	1.7	ブロック外
	58	細石刃核	G-37	Ⅴa	1.8	1.1	1.3	1.9	ブロック外
	59	細石刃核	F-42	V	2.0	0.7	0.8	0.9	ブロック外
48	1	細石刃	G-37	Ⅴa	0.9	0.4	0.1	0.04	環状分布内
	2	細石刃	G-37	Ⅴa	1.3	0.4	0.1	0.04	環状分布内
	3	細石刃	G-37	Ⅴa	1.2	0.5	0.2	0.11	環状分布内
	4	細石刃	G-37	Ⅴa	0.9	0.5	0.1	0.09	環状分布内
	5	細石刃	F-36	Ⅴa	0.9	0.4	0.1	0.05	環状分布内
	6	細石刃	G-37	Ⅴa	0.7	0.3	0.1	0.04	環状分布内
	7	細石刃	G-37	Ⅳ	1.7	0.5	0.1	0.17	環状分布内
	8	細石刃	G-37	Ⅴa	1.0	0.4	0.1	0.06	環状分布内
	9	細石刃	G-37	Ⅴb	1.0	0.5	0.1	0.04	環状分布内
	10	細石刃	G-37	Ⅴa	1.8	0.6	0.2	0.21	環状分布内
	11	細石刃	I-37	Ⅴa	2.0	0.5	0.2	0.28	環状分布内
49	1	細石刃	F-38	Ⅴa	1.7	0.6	0.1	0.20	ブロック外
	2	細石刃	G-41	Ⅴ	1.6	0.7	0.2	0.13	ブロック外
	3	細石刃	G-39	Ⅴa	1.7	0.6	0.2	0.19	ブロック外
	4	細石刃	F-39	V	1.5	0.6	0.2	0.15	ブロック外
	5	細石刃	F-39	Ⅴa	1.4	0.4	0.1	0.13	ブロック外
	6	細石刃	F-39	V	0.9	0.6	0.1	0.08	ブロック外
	7	細石刃	F-39	Ⅴa	1.1	0.4	0.1	0.06	ブロック外
	8	細石刃	G-39	Ⅴa	1.4	0.4	0.1	0.07	ブロック外
	9	細石刃	J-35	Ⅴ	1.1	0.3	0.1	0.12	ブロック外
	10	細石刃	G-39	Ⅴ	1.7	0.4	0.1	0.12	ブロック外
	11	細石刃	G-39	Ⅴa	0.9	0.5	0.2	0.04	ブロック外
	12	細石刃	I-37	Ⅴa	1.7	0.3	0.1	0.11	ブロック外
	13	細石刃	I-37	Ⅴa	1.3	0.4	0.1	0.05	ブロック外
	14	細石刃	I-37	Ⅴa	1.1	0.3	0.1	0.05	ブロック外
	15	細石刃	E-42	Ⅴ	1.4	0.7	0.2	0.17	ブロック外
	16	細石刃	I-38	Ⅴa	1.4	0.4	0.1	0.08	ブロック外
	17	細石刃	E-41	Ⅴ	1.0	0.5	0.1	0.08	ブロック外
	18	細石刃	G-39	Ⅴa	1.0	0.5	0.1	0.04	ブロック外

第10表 旧石器時代石器観察表 (8)

挿図	番号	器 種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備 考
49	19	細石刃	F-38	Ⅷa	0.5	0.7	0.1	0.05	ブロック外
	20	細石刃	F-39	Ⅳ	1.7	0.6	0.2	0.24	ブロック外
	21	細石刃	F-39	Ⅷa	1.2	0.6	0.1	0.11	ブロック外
	22	細石刃	E-40	Ⅳ	1.5	0.7	0.1	0.20	ブロック外
	23	細石刃	I-37	Ⅷa	0.5	0.2	0.1	0.01	ブロック外
	24	細石刃	I-37	Ⅷa	1.2	0.5	0.1	0.06	ブロック外
	25	細石刃	G-38	Ⅷ	0.9	0.5	0.1	0.04	ブロック外
	26	細石刃	G-41	V	0.8	0.5	0.1	0.09	ブロック外
	27	細石刃	E-25	Ⅳ	1.0	0.8	0.2	0.09	ブロック外
	28	細石刃	G-39	V	1.7	0.5	0.2	0.17	ブロック外
	29	細石刃	E-40	V	2.1	0.6	0.1	0.19	ブロック外
	30	細石刃	G-39	V	2.8	0.5	0.2	0.43	ブロック外
	31	細石刃	G-38	V	1.4	0.5	0.1	0.09	ブロック外
	32	細石刃	I-38	V	1.1	0.4	0.1	0.07	ブロック外
	33	細石刃	F-49	V	0.8	0.3	0.1	0.04	ブロック外
	34	細石刃	F-38	Ⅷa	0.5	0.4	0.1	0.02	ブロック外
	35	細石刃	G-41	V	0.5	0.3	0.1	0.02	ブロック外
	36	細石刃	E-42	V	1.6	0.6	0.2	0.30	ブロック外
	37	細石刃	E-42	V	1.5	0.6	0.2	0.14	ブロック外
	38	細石刃	E-42	V	2.2	0.6	0.1	0.17	ブロック外
	39	細石刃	E-42	V	1.9	0.5	0.1	0.17	ブロック外
	40	細石刃	G-39	V	1.2	0.5	0.1	0.07	ブロック外
	41	細石刃	G-39	V	1.2	0.5	0.1	0.13	ブロック外
	42	細石刃	G-35	Ⅳ	1.7	0.5	0.2	0.39	ブロック外
	43	細石刃	E-40	V	1.1	0.5	0.2	0.09	ブロック外
	44	細石刃	E-40	V	0.9	0.4	0.1	0.09	ブロック外
	45	細石刃	G-41	V	1.2	0.5	0.2	0.17	ブロック外
	46	細石刃	G-41	V	0.8	0.5	0.2	0.10	ブロック外
	47	細石刃	G-41	Ⅳ	1.3	0.4	0.2	0.08	ブロック外

第11表 縄文時代遺構内遺物観察表

種別	番号	器種	出土区	遺構	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
18	1	石皿	D-6	24号集石	安山岩	31.5	33.7	13.9	15800	
19	2	台石	D-6	24号集石	安山岩	43.4	30.7	14.4	26400	
45	3	蔵石	E-33	71号集石	安山岩	10.8	8.6	4.2	600	
	4	蔵石	E-33	71号集石	安山岩	10.0	8.2	5.9	760	

第12表 縄文時代土器観察表(1)

種別	番号	層位	出土区	器種	部位	色調		胎土		焼成	調整		備考		
						外面	内面	石英	長石		鉄灰	その他		内面	外面
48	1	Ⅱb	H-37	深鉢形土器	口縁-胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	糸痕	糸痕	
50	2	Ⅱ	H-39	深鉢形土器	口縁-胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	糸痕	糸痕	外面に炭化物付着
51	3	V・Ⅱa	H-38	深鉢形土器	口縁-胴部	明赤褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	糸痕	糸痕	
	4	Ⅱ	H-38	深鉢形土器	口縁-胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	糸痕後ナデ	糸痕	
	5	Ⅱ	E-36	深鉢形土器	口縁部	黒褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	糸痕	糸痕	外面に炭化物付着
	6	Ⅱ	H-34	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	糸痕後ナデ	
	7	Ⅱ	H-38	深鉢形土器	口縁部	黒褐色	にぶい赤褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	糸痕後ナデ	糸痕後ナデ	外面に炭化物付着
	8	Ⅱb	I-37	深鉢形土器	口縁部	明黄褐色	明黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	糸痕後ナデ	糸痕後ナデ	
	9	Ⅱ	I-29	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	糸痕	
	10	V	H-38	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	明黄褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	糸痕後ナデ	糸痕後ナデ	
52	11	—	—	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	糸痕	糸痕後ナデ	
	12	Ⅱ	H-37-38	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	糸痕後ナデ	糸痕	
	13	Ⅱ	H-38	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	浅黄褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	糸痕後ナデ	糸痕	
	14	Ⅱ	H-38	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐色	にぶい赤褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	糸痕	糸痕	外面に炭化物付着
	15	Ⅱb・Ⅱ	H-28	深鉢形土器	口縁部	明赤褐色	にぶい褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	糸痕	糸痕	
	16	Ⅱb	G-35	深鉢形土器	口縁部	明黄褐色	明黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	観察不可能	糸痕	
	17	Ⅱa	H-39	深鉢形土器	口縁部	明赤褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	糸痕後ナデ	糸痕	
	18	Ⅱb	H-30	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	糸痕	糸痕	
	19	V	I-29	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	黄褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	糸痕	糸痕	
	20	Ⅱb	H-29	深鉢形土器	口縁部	明黄褐色	明黄褐色	○	○	○	輝石	良	糸痕	糸痕	
	21	Ⅱ	I-36	深鉢形土器	口縁部	明黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナデ	糸痕	
	53	22	Ⅱb	H-28	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	褐色	○	○	○	輝石	良	糸痕後ナデ	糸痕後ナデ
23		Ⅱ	J-34	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	灰黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	糸痕後ナデ	糸痕	
24		Ⅱb	H-32	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	明褐色	○	○	○	輝石・白片岩	不良	ナデ	糸痕	
25		Ⅱb	E-29	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	明黄褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナデ	糸痕	
26		V	F-34	深鉢形土器	口縁部	黒褐色	黒褐色	○	○	○	—	良	工具ナデ	観察不可能	内外面に炭化物付着
27		Ⅱ	I-27	深鉢形土器	口縁部	黄褐色	暗灰黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	糸痕	糸痕	
28		Ⅱ	I-29	深鉢形土器	口縁部	褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	—	良	糸痕	糸痕	
29		Ⅱ・V	F-35	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	灰褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	糸痕後ナデ	糸痕	外面に炭化物付着
30		Ⅱb	I-19	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	糸痕	糸痕	
31		Ⅱ	I-31	深鉢形土器	口縁部	褐灰色	黒褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	クズノ後2/3ギキ	深鉢形土器	
54	32	Ⅱ	F-31	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	糸痕後ナデ	糸痕	
	33	Ⅱ	F-30	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	糸痕	
	34	Ⅱ	H-38	深鉢形土器	胴部	にぶい褐色	赤褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	糸痕	
	35	Ⅱ	F-34	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	順クズノ後ナデ	糸痕	
	36	Ⅱ	B-21-28	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	糸痕	工具ナデ	糸痕
	37	Ⅱ	I-29	深鉢形土器	胴部	暗灰黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	糸痕	糸痕後ナデ	外面に炭化物付着
	38	Ⅱ	H-20	深鉢形土器	胴部	褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	糸痕	糸痕	
	39	Ⅱ	I-34	深鉢形土器	胴部	明黄褐色	褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナデ	糸痕後ナデ	
	40	Ⅱb	H-29	深鉢形土器	胴部	褐色	灰黄褐色	○	○	○	輝石	良	ナデ	糸痕後ナデ	
	41	Ⅱ	G-36	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	糸痕後ナデ	糸痕後ナデ	

第13表 縄文時代土器観察表 (2)

博物館番号	層位	出土区	器種	部位	色 調		胎 土			焼成	調 整		備考	
					外周	内周	石炭	長石	黒炭		その他	内周		外周
35	42	Ⅲ-V	I-29	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	糸痕	
	43	Ⅲb	E-35	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	明赤褐色	○	○	○	輝石	良	糸痕後ナデ	糸痕
	44	Ⅲb	I-33	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石	良	ナデ	糸痕
	45	Ⅲb	G-33	深鉢形土器	口縁部	褐色	明赤褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	糸痕
	46	Ⅲb	F-32	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	糸痕後ナデ	糸痕
	47	表一括	—	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	糸痕
	48	表一括	—	深鉢形土器	口縁部	褐色	褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	糸痕
	49	Ⅲa	G-33	深鉢形土器	口縁部	暗灰黄褐色	褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	糸痕
	50	Ⅲb	E-31	深鉢形土器	口縁部	褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	糸痕後ナデ	糸痕
	51	Ⅲb	E-34	深鉢形土器	口縁部	黒褐色	黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	糸痕	糸痕
52	表一括	—	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	糸痕	
53	表一括	—	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	茶殻・白片岩	良	工具ナデ	糸痕	
57	54	Ⅲb	F-32	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・茶殻	良	糸痕後ナデ	糸痕
	55	V	E-34	深鉢形土器	口縁部	黒褐色	にぶい褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	糸痕
	56	Ⅲb	I-33	深鉢形土器	口縁部	褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	糸痕
	57	Ⅲa	E-34	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい褐色	○	○	○	白片岩・茶殻	良	工具ナデ	糸痕
	58	Ⅲ	D-15	深鉢形土器	口縁部	黄褐色	黄褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナデ	糸痕
	59	Ⅲb	G-27	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナデ	糸痕
	60	Ⅲb	C-5	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	明褐色	○	○	○	白片岩・茶殻	良	ナデ	糸痕
	61	Ⅲa	E-33	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	褐色	○	○	○	白片岩	良	工具ナデ	糸痕
	62	Ⅲa	D-6	深鉢形土器	口縁部	褐色	褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	糸痕
	63	Ⅲ	E-33	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	糸痕
58	64	Ⅲ	G-34	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	糸痕
	65	Ⅲb	G-32	深鉢形土器	口縁部	明赤褐色	明赤褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	糸痕
	66	Ⅲb	G-33	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石	良	ケズリ後ナデ	糸痕
	67	表一括	—	深鉢形土器	口縁部	褐色	黒褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	糸痕
	68	Ⅲ	E-33	深鉢形土器	口縁部	褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ケズリ	糸痕
	69	Ⅲb	C-6	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石	良	ナデ	糸痕
	70	Ⅲb	G-32	深鉢形土器	口縁部	褐色	褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	糸痕
	71	Ⅲ	E-31	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	糸痕
	72	Ⅲ	E-32	深鉢形土器	口縁部	褐色	明赤褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	工具ナデ	糸痕
	73	Ⅲ	E-33	深鉢形土器	口縁部	明黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	糸痕
59	74	Ⅲ	I-32	深鉢形土器	胴部	明黄褐色	褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	糸痕
	75	表一括	—	深鉢形土器	胴部	褐色	にぶい褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	工具ナデ	糸痕
	76	表一括	—	深鉢形土器	胴部	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	糸痕
	77	Ⅲ	H-31	深鉢形土器	胴部	褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	工具ナデ	糸痕
	78	Ⅲ	H-32	深鉢形土器	胴部	明黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	工具ナデ	糸痕
	79	Ⅲa	G-32	深鉢形土器	胴部	にぶい褐色	灰黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	糸痕
	80	Ⅲ	I-33	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐色	褐色	○	○	○	輝石	良	ケズリ	糸痕
	81	Ⅲ	I-30	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	ケズリ	糸痕
	82	Ⅲ	H-32	深鉢形土器	胴部	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	○	輝石	良	工具ナデ	糸痕
	83	Ⅲb	H-28	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐色	にぶい赤褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナデ	糸痕
61	84	Ⅲ	H-27	深鉢形土器	胴部	にぶい褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石	良	ナデ	糸痕
	85	Ⅲ	J-32	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	工具ナデ	糸痕
	86	Ⅲ	G-31	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	ケズリ後ナデ	糸痕
	87	Ⅲb	I-30	深鉢形土器	口縁部	褐色	灰黄褐色	○	○	○	輝石	良	ケズリ後ナデ	糸痕
	88	Ⅲ	I-32	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	明褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナデ	糸痕
	89	Ⅲ・Ⅳ	H-32-33	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい黄褐色	にぶい褐色	○	○	○	茶殻・白片岩	良	工具ナデ	糸痕
	90	Ⅲb-V	H-33	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	糸痕
	91	Ⅲ	H-32	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	茶殻・赤片岩	良	ケズリ	刺突
	92	Ⅲb	G-32	深鉢形土器	口縁部	灰褐色	にぶい褐色	○	○	○	輝石・茶殻	良	ケズリ	糸痕
	93	Ⅲ	I-30	深鉢形土器	口縁部	褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	茶殻	良	工具ナデ	工具ナデ
61	94	Ⅲ	I-33	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	ケズリ	糸痕
	95	Ⅲ	G-32	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	ケズリ	刺突頭先赤褐色
	96	Ⅲ	I-29	深鉢形土器	口縁部	灰褐色	黒褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	糸痕
	97	Ⅲ	G-30	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	褐色	○	○	○	白片岩	良	ケズリ	刺突
	98	Ⅲa-Ⅲb	H-30-32	深鉢形土器	口縁～胴部	褐色	明黄褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	ケズリ	糸痕
	99	Ⅲb	G-29	深鉢形土器	口縁部	褐色	褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	糸痕
	100	Ⅲ	G-29	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	白片岩	良	ケズリ	糸痕

第14表 縄文時代土器観察表 (3)

探跡番号	層位	出土区	器種	部位	色 調		胎 土			焼成	調 整		備考
					外面	内面	石炭	黒炭	その他		内面	外面	
62	101 Ⅴ-V	G-30-1	深鉢形土器	口縁-胴部	灰赤	にぶい赤褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ケズリ	赤灰
	102 Ⅲb-N	I-30	深鉢形土器	口縁-胴部	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ケズリ後ナデ	赤灰
63	103 Ⅲb-N	H-29	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ケズリ	赤灰
	104 Ⅲ-N	G-30	深鉢形土器	口縁-胴部	にぶい赤褐	明赤褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ケズリ後ナデ	赤灰
64	105 Ⅲb-N	G-30-1-30	深鉢形土器	口縁-胴部	にぶい赤褐	明赤褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ケズリ後ナデ	赤灰
	106 Ⅲb-N	G-32	角筒深鉢	口縁部	橙	橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ケズリ	赤灰
107	Ⅲb	G-31	角筒深鉢	口縁部	にぶい黄褐	橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ケズリ	赤灰
108	Ⅲ-N	G-32	深鉢形土器	口縁部	浅黄	灰黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ケズリ	赤灰
109	表	G-32	角筒深鉢	胴部	にぶい黄褐	明黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	赤灰
65	110 Ⅲ-N	H-33	深鉢形土器	口縁部	褐灰	にぶい黄橙	○	○	○	輝石	良	ケズリ	赤灰
	111 Ⅲ-N	I-31	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ後ナデ	赤灰
	112 Ⅲ-N	F-28	角筒深鉢	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	赤灰
	113 Ⅲb-N	F-29	角筒深鉢	胴部	にぶい橙	橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	ケズリ	赤灰 外面に炭化物付着
114	Ⅲ-N	F-29	角筒深鉢	胴部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	赤灰
115	Ⅲ-N	I-30	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	ケズリ後ナデ	赤灰
116	Ⅲ-N	H-32	深鉢形土器	胴部	橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	赤灰
66	117 Ⅴ	J-34	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ後ナデ	赤灰
	118 Ⅴ	J-34	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	ケズリ後ナデ	赤灰
	119 Ⅲ-V	H-1-29	深鉢形土器	胴部	灰黄褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	ケズリ	赤灰
	120 Ⅲ-N	F-29	角筒深鉢	胴部	明黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	ケズリ	赤灰
121	Ⅲ-N	I-32	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石	良	ケズリ	赤灰
122	Ⅲ-N	H-26	角筒深鉢	胴部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	赤灰
123	Ⅲ-N	F-29-G-30	角筒深鉢	胴部	にぶい黄橙	浅黄	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	赤灰
124	Ⅲ-N	I-33	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ケズリ	赤灰
67	125 Ⅲ-N	H-30	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ケズリ	赤灰
	126 Ⅲb	G-31	深鉢形土器	胴部	明黄褐	にぶい橙	○	○	○	赤片岩・輝石	良	ケズリ	赤灰
	127 Ⅴ	I-34	深鉢形土器	胴部	にぶい赤褐	にぶい黄褐	○	○	○	金雲母・赤片岩	良	ケズリ	赤灰
	128 Ⅴ	G-33	深鉢形土器	胴部	橙	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	赤灰
129 Ⅴ	I-34	深鉢形土器	胴部	褐灰	褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ケズリ	赤灰	
130	Ⅲ-N	H-32	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ケズリ	赤灰
131	Ⅲ-N	I-30	深鉢形土器	胴部	橙	にぶい褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ケズリ	赤灰
68	132 Ⅲ-N	E-31	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	赤灰
	133 Ⅲb	E-31	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	赤灰
	134 Ⅲ-N	E-31	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○	輝石	良	ケズリ	赤灰
	135 Ⅲb	G-30	角筒深鉢	胴部	にぶい黄褐	灰黄褐	○	○	○	火山ガラス	良	ケズリ	赤灰
69	136 Ⅲb	G-30	角筒深鉢	胴部	橙	黒褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ後ナデ	赤灰
	137 Ⅲ-N	G-30	深鉢形土器	底部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石	良	ナデ	赤灰
	138 Ⅲb	F-30	角筒深鉢	胴部	にぶい黄橙	橙	○	○	○	輝石・茶粒	良	ケズリ	赤灰
	139 Ⅲb-N	E-29-F-28	深鉢形土器	底部	明黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	赤灰
70	140 Ⅲb	G-28	深鉢形土器	底部	にぶい黄橙	黒	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ後ナデ	赤灰
	141 Ⅲb	F-28	深鉢形土器	底部	橙	灰	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ後ナデ	赤灰
	142 Ⅲb	F-28	深鉢形土器	底部	明黄褐	暗灰	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	赤灰
	143 Ⅲb-N	H-22	深鉢形土器	口縁-胴部	橙	明赤褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ケズリ後ナデ	赤灰 後面後利突
71	144 Ⅲ-N	H-22	深鉢形土器	口縁-胴部	にぶい橙	にぶい赤褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ貝殻刺
	145 Ⅲb-N	F-40-G-48	深鉢形土器	口縁-胴部	明褐	明褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	赤灰 内外面に炭化物付着
73	146 Ⅲa-N	G-29-II-2	深鉢形土器	口縁-胴部	にぶい褐	明褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	赤灰
	147 Ⅲ-N	E-33	角筒深鉢	口縁部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	赤灰
	148 Ⅴ	F-40	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	褐	○	○	○	輝石	良	ケズリ	赤灰
	149 Ⅲ-N	E-38-F-40	角筒深鉢	胴部	橙	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	赤灰
74	150 Ⅲb-N	H-22	深鉢形土器	底部	にぶい褐	明褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	赤灰後ナデ 内面に炭化物付着
	151 Ⅲb-N	D-29-II-2	深鉢形土器	口縁-胴部	明褐	明褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	ケズリ後ナデ	赤灰
152	Ⅲb	E-39	角筒深鉢	口縁部	橙	明赤褐	○	○	○	輝石	良	ケズリ	赤灰後ナデ
153	Ⅲa	E-39	角筒深鉢	胴部	にぶい橙	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	赤灰
75	154 Ⅲ-N	F-39	角筒深鉢	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	赤灰
	155 表	—	角筒深鉢	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ケズリ	赤灰
	156 Ⅲb	F-39-F-40	深鉢形土器	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○	○	輝石	良	ケズリ後ナデ	赤灰
157	Ⅲ-N	F-41	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	ケズリ	赤灰

第15表 縄文時代土器観察表 (4)

標号	層位	出土区	器種	部位	色調		胎土				調整		備考			
					外面	内面	石質	長石	焼灰	その他	焼成	内面		外面		
76	158	Ⅱa-N	H-22	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	明褐色	○	○	○	輝石・茶殻	良	ケズリ	茶痕		
	159	Ⅱb-N	F-40	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐色	褐灰	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	茶痕		
	160	Ⅱb-N	F-60-G-60	製部	明黄褐色	明黄褐色	○	○	○	○	輝石・茶殻	良	ケズリ	茶痕後ナデ		
	161	Ⅱb-N	F-40	角筒深鉢	製部	明黄褐色	明黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	茶痕		
	162	Ⅱb-N	G-39-60	深鉢形土器	製部	にぶい黄褐色	褐色	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	ミガキ	茶痕		
	163	Ⅱb	G-40	深鉢形土器	底部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	ナデ	茶痕		
	164	Ⅱb	F-40	深鉢形土器	底部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	茶殻・白片岩	良	ケズリ	茶痕		
	165	Ⅱb-N	G-22	深鉢形土器	底部	褐色	褐色	○	○	○	茶殻・白片岩	良	ケズリ	ミガキ		
	166	Ⅱb-N	E-61-N	深鉢形土器	口縁～製部	にぶい赤褐色	灰褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	刺突		
	167	Ⅱb-N	E-27	深鉢形土器	口縁部	褐色	にぶい褐色	○	○	○	輝石	良	ナデ	茶痕		
77	168	Ⅱb-N	E-47	深鉢形土器	口縁部	暗赤褐色	にぶい赤褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	押し引き		
	169	Ⅱb-N	E-67-N	深鉢形土器	製部	にぶい黄褐色	灰黄褐色	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	ナデ・刺突	内外面に炭化物付着	
	170	Ⅱb-N	E-47	深鉢形土器	製部	明赤褐色	にぶい褐色	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	ナデ・刺突		
	171	Ⅱb-N	H-27	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	黄褐色	○	○	○	輝石	良	ケズリ	刺突・茶痕		
	172	Ⅱb-N	I-28	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	灰黄褐色	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	ナデ・刺突	内面に炭化物付着	
	173	Ⅱb-N	E-47	深鉢形土器	製部	灰黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ・刺突	内外面に炭化物付着	
	174	Ⅱa-N	G-39-N	深鉢形土器	口縁～製部	灰褐色	黒褐色	○	○	○	金雲母・茶殻	良	ナデ	茶痕・刺突		
	175	Ⅱb-N	I-28	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	ナデ・刺突		
	176	Ⅱb-N	I-28	深鉢形土器	口縁部	黒褐色	にぶい褐色	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	刺突		
	177	Ⅱb-N	I-28	深鉢形土器	口縁部	暗赤褐色	にぶい赤褐色	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	刺突		
78	178	Ⅱb	H-29	深鉢形土器	口縁部	暗赤褐色	明褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	刺突		
	179	Ⅱb-N	H-27	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石	良	ナデ	刺突・押し引き		
	180	Ⅱb-N	H-27	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	○	輝石	良	茶痕	刺突		
	181	Ⅱb-N	H-27	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・茶殻	良	工具ナデ	押し引き		
	182	Ⅱa	H-26	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	ナデ・刺突		
	183	Ⅱb	G-26	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石	良	ナデ	刺突		
	184	Ⅱb-N	H-27	深鉢形土器	口縁部	黄褐色	にぶい褐色	○	○	○	輝石	良	ナデ	茶痕・押し引き		
	185	Ⅱb-N	E-41-N	深鉢形土器	底部	にぶい褐色	褐色	○	○	○	茶殻	良	ナデ	ナデ		
	186	Ⅱb	I-34	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	○	白片岩・茶殻	良	ナデ	茶痕		
	187	Ⅱb	H-31	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	工具ナデ	茶痕		
79	188	Ⅱb-N	I-31	深鉢形土器	口縁部	明黄褐色	褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	工具ナデ	茶痕		
	189	Ⅱb-N	I-30	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・茶殻	良	ケズリ	茶痕後ナデ		
	190	—	—	深鉢形土器	口縁部	褐色	褐色	○	○	○	輝石	良	ケズリ後ナデ	茶痕		
	191	Ⅱa-N	D-4-5	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ケズリ後ナデ	茶痕		
	192	—	—	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	○	輝石	良	ケズリ後ナデ	茶痕		
	193	Ⅱb-N	E-11	深鉢形土器	口縁部	褐色	にぶい褐色	○	○	○	—	良	ケズリ	茶痕		
	194	Ⅱb-N	J-32	深鉢形土器	製部	褐色	褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	茶痕		
	82	195	Ⅱb-N	F-39-G-39	深鉢形土器	口縁～製部	明赤褐色	にぶい赤褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ後ナデ	茶痕	
	85	196	Ⅱb-N	F-39-G-39	深鉢形土器	口縁～製部	明褐色	明褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	ナデ	外面に炭化物付着
		197	Ⅱb-N	F-38	深鉢形土器	口縁部	明褐色	明褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	短茶痕	
198		Ⅱa	F-39	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	ミガキ	短茶痕		
199		Ⅱb-N	I-38	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ミガキ	短茶痕		
200		Ⅱb-N	H-38	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	短茶痕		
201		Ⅱb	F-39	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナデ	短茶痕		
202		Ⅱb	F-37	深鉢形土器	口縁部	黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	ミガキ	短茶痕		
203		Ⅱb	G-37	深鉢形土器	口縁部	暗赤黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	ミガキ	短茶痕		
204		V	F-37	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	茶殻・白片岩	良	ミガキ	短茶痕		
205		—	—	深鉢形土器	口縁部	明黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	茶殻・白片岩	良	ミガキ	短茶痕		
86	206	—	E-38	深鉢形土器	口縁部	明黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	ナデ	短茶痕		
	207	Ⅱb	E-33	深鉢形土器	口縁部	明褐色	明褐色	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	ミガキ	短茶痕		
	208	Ⅱb	G-38-60	深鉢形土器	口縁部	褐色	褐色	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	ナデ	茶痕		
	209	Ⅱb	F-38	深鉢形土器	口縁部	明褐色	明褐色	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナデ	短茶痕		
	210	Ⅱb-N	F-39-G-39	深鉢形土器	口縁部	明褐色	明褐色	○	○	○	茶殻・白片岩	良	工具ナデ	短茶痕		
	211	Ⅱb-N	F-39-G-39	深鉢形土器	口縁部	明褐色	にぶい褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	短茶痕		

第16表 縄文時代土器観察表 (5)

博物館	番号	層位	出土区	器種	部位	色 調		胎 土				調 整		備考	
						外面	内面	石質	長石	燧石	その他	内面	外面		
	212	N	G-38	深鉢形土器	口縁部	褐色	褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	短条直	
	213	Ⅲb	I-38	深鉢形土器	胴部	明赤褐	明赤褐	○	○	○	輝石・赤片岩	良	工具ナデ	短条直	
	214	Ⅲ	G-38	深鉢形土器	胴部	明赤褐	明赤褐	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ミガキ	短条直	
	215	N	I-38	深鉢形土器	胴部	明褐	明褐	○	○	○	茶殻・白片岩	良	ミガキ	短条直	
	216	N	G-38	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	短条直	
	217	Ⅲb	F-37	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	ミガキ	短条直	
	218	Ⅲb	I-38	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	茶殻・白片岩	良	ミガキ	短条直	
87	219	V	G-37	深鉢形土器	胴部	橙	明赤褐	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナデ	短条直	
	220	N	G-38	深鉢形土器	胴部	明赤褐	明赤褐	○	○	○	茶殻・輝石	良	ミガキ	短条直	
	221	Ⅲb	F-39	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	褐	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	ミガキ	短条直	
	222	N	F-39	深鉢形土器	胴部	橙	明褐	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	工具ナデ	短条直	
	223	V	F-37	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	ミガキ	短条直	
	224	N	G-38	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	茶殻・白片岩	良	ナデ	短条直	
	225	Ⅲ	G-37	深鉢形土器	胴部	黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	茶殻・輝石	良	ミガキ	短条直	
	226	N	E-38	深鉢形土器	胴部	明赤褐	にぶい黄褐	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナデ	短条直	
	227	Ⅲb-Ⅳ	G-39	深鉢形土器	胴部	明赤褐	黄褐	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナデ	短条直	
	228	N	G-39	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	短条直	
	229	Ⅲa-Ⅳ	G-39	深鉢形土器	胴部	明赤褐	にぶい黄褐	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナデ	短条直	
88	230	N	F-39-2	深鉢形土器	胴部	明赤褐	黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	短条直	
	231	一	横丸	深鉢形土器	胴部	明赤褐	明黄褐	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	ナデ	短条直	
	232	Ⅲ	G-37-2	深鉢形土器	胴部	橙	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	短条直	
	233	Ⅲa	G-38	深鉢形土器	胴部	明赤褐	明黄褐	○	○	○	輝石	良	ナデ	短条直	
	234	N	G-38	深鉢形土器	胴部	明褐	にぶい黄褐	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	ナデ	短条直	
	235	Ⅲa-Ⅳ	G-38	深鉢形土器	胴部	橙	にぶい黄褐	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナデ	短条直	
	236	Ⅲ	G-39	深鉢形土器	胴部	橙	灰褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	短条直	
	237	Ⅲa-Ⅳ	F-39-2	深鉢形土器	胴部	明褐	明黄褐	○	○	○	輝石	良	ミガキ	短条直	
89	238	N	I-32	深鉢形土器	胴部	明赤褐	にぶい黄褐	○	○	○	茶殻・白片岩	良	ミガキ	短条直	
	239	Ⅲb-Ⅳ	G-38-39	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	短条直	
	240	Ⅲa-Ⅳ	F-38-39	深鉢形土器	胴部	明赤褐	黄褐	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナデ	短条直	
	241	N	I-38	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい黄褐	○	○	○	輝石	良	ミガキ	条直	
	242	Ⅲ	F-38-G-38	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ/後ナデ	短条直	
90	243	Ⅲb-Ⅳ	H-28	深鉢形土器	口縁部	明赤褐	明赤褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ミガキ	
	244	N	I-33	深鉢形土器	口縁部	にぶい赤褐	橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	条直	
	245	V	I-33	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	橙	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナデ	条直	
	246	N	H-34	深鉢形土器	胴部	橙	橙	○	○	○	茶殻・輝石	良	ミガキ	条直	
92	247	N-V	H-33	深鉢形土器	胴部	橙	にぶい黄褐	○	○	○	輝石	良	ナデ	条直	
	248	N-V	H-33	深鉢形土器	胴部	橙	にぶい赤褐	○	○	○	輝石・茶殻	良	ミガキ	条直	
	249	N-V	H-33-34	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	橙	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	条直	
	250	表	—	深鉢形土器	口縁部	灰褐	橙	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	ナデ/後ナデ	条直	
93	251	Ⅲb	E-47	深鉢形土器	口縁部	褐色	にぶい褐	○	○	○	金雲母・白片岩	良	ナデ/後ナデ	条直	
	252	Ⅲb	F-47	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	金雲母・白片岩	良	ナデ/後ナデ	条直	
	253	Ⅲb	F-47	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	金雲母・白片岩	良	ナデ/後ナデ	条直	
	254	Ⅲb-Ⅲ	F-43-46	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	金雲母・白片岩	良	ナデ/後ナデ	条直	内外面に炭化物付着
	255	Ⅲb-V	H-33	深鉢形土器	口縁部	橙	明赤褐	○	○	○	輝石	良	ナデ	条直	
	256	表	E-44	深鉢形土器	口縁部	灰褐	にぶい橙	○	○	○	金雲母・輝石	良	ナデ/後ナデ	楕円押型	
	257	N	F-43	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	金雲母・輝石	良	ナデ/後ナデ	楕円押型	
	258	N	F-43	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	金雲母・輝石	良	ナデ	楕円押型	
94	259	N	F-43	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	工具ナデ	楕円押型	
	260	Ⅲ	E-44	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	楕円押型	
	261	N	F-43	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	楕円押型	
	262	N	F-44	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	金雲母・輝石	良	ナデ	楕円押型	

第17表 縄文時代土器観察表 (6)

標号	層位	出土区	器種	部位	色 調		胎 土			調 整		備考	
					外面	内面	石質	長石	焼灰	その他	内面		外面
263	Ⅲa	F-44	深鉢形土器	底部	明赤褐	にぶい黄褐	○	○	○	白片岩・火山ガラス	良	ナデ	楕円押型
264	N	F-44	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	金雲母・白片岩	良	ナデ	楕円押型
265	Ⅱ	E-44	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○	金雲母・輝石	良	ナデ	楕円押型
266	Ⅲa	F-44	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	金雲母・輝石	良	ナデ	楕円押型
267	N	F-43	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	金雲母	良	ナデ	楕円押型
268	Ⅲ	F-44	深鉢形土器	胴部	明赤褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	楕円押型
269	N	E-44	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	楕円押型
270	N	E-44	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○	金雲母・輝石	良	ナデ	楕円押型
271	N	E-44	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	黒	○	○	○	輝石	良	ナデ	楕円押型
272	N	E-44	深鉢形土器	底部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	楕円押型
273	表	—	深鉢形土器	底部	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	楕円押型
274	N	E-GF-南	深鉢形土器	口縁→胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	金雲母・輝石	良	ミガキ	山形押型
275	Ⅲb-N	F-44	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	山形押型
276	—	—	深鉢形土器	口縁部	褐灰	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・茶殻	良	工具ナデ	山形押型
277	N	F-41	深鉢形土器	口縁部	褐灰	にぶい褐	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナデ	山形押型
278	Ⅲb	F-44	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	金雲母・輝石	良	工具ナデ	山形押型
279	Ⅲb-V	F-44	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	金雲母・火山ガラス	良	ミガキ	山形押型
280	N	F-44	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	赤片岩・輝石	良	ナデ	山形押型
281	Ⅲa	F-44	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	山形押型
282	Ⅲb	F-44	深鉢形土器	胴部	褐	にぶい黄褐	○	○	○	赤片岩・輝石	良	ナデ	山形押型
283	N	E-42	深鉢形土器	胴部	明赤褐	茶褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ
284	Ⅲa・Ⅲa	D-7	深鉢形土器	口縁→胴部	にぶい褐	にぶい赤褐	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	条線押型
285	Ⅲa・Ⅲb	D-7	深鉢形土器	口縁部	褐	灰褐	○	○	○	輝石・茶殻	良	工具ナデ	山形押型
286	Ⅲa	D-7	深鉢形土器	口縁→胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・茶殻	良	工具ナデ	山形押型
287	Ⅲb-V	G-34+35	深鉢形土器	口縁→胴部	褐	黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	山形押型
288	N	E-44	深鉢形土器	口縁→胴部	黄褐	浅黄褐	○	○	○	輝石・ナデ	良	ナデ	菱形文
289	Ⅲ	J-33	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	山形押型
290	Ⅲ	J-33	深鉢形土器	胴部	明赤褐	にぶい褐	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナデ	山形押型
291	Ⅲb	G-39	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ
292	N	G-34+35	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ後条痕
293	Ⅲb	I-35	深鉢形土器	口縁部	明黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ
294	Ⅲb	D-17	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ
295	Ⅲb	I-35	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ
296	N	I-33	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ
297	N	H-38	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ
298	Ⅲb	F-41	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	条痕
299	N	H-38	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ
300	N	E-38	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	黒	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ
301	Ⅲa	E-37	深鉢形土器	胴部	明褐	黒褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ
302	Ⅲb	E-37	深鉢形土器	胴部	明黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石	良	工具ナデ	ナデ
303	N	E-37	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	暗灰黄	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	工具ナデ	ナデ
304	N	E-37	深鉢形土器	胴部	黄褐	灰黄褐	○	○	○	火山ガラス・茶殻	良	ケズリ	ナデ
305	Ⅲb	C-7	深鉢形土器	胴部	にぶい浅黄褐	暗灰黄	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ
306	Ⅲb	E-37	深鉢形土器	胴部	褐	褐灰	○	○	○	輝石	良	ケズリ後ナデ	ナデ
307	N	H-38	深鉢形土器	胴部	褐	褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ
308	Ⅲb	G-34+35	壺形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	金雲母・白片岩	良	工具ナデ	ナデ
309	Ⅲb	I-35	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ
310	V	G-39	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐	灰黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ
311	Ⅲb	G-40	深鉢形土器	口縁部	灰褐	黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	横ナデ	ナデ
312	Ⅲa-N	H-33-34	深鉢形土器	口縁→胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ
313	N	I-35	深鉢形土器	口縁→胴部	にぶい黄褐	明黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ
314	Ⅲb-N	F-34+35	深鉢形土器	口縁→胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	ナデ
315	N	I-35	深鉢形土器	口縁→胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	ナデ
316	Ⅲb-N	I-35	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	ナデ
317	Ⅲb	I-33	深鉢形土器	口縁→胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ
318	Ⅲb	F-39	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ
319	N	I-34	深鉢形土器	胴部	明赤褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・金雲母	良	ナデ	ナデ
320	N	I-35	深鉢形土器	口縁部	灰褐	明赤褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ
321	Ⅲb	I-35	深鉢形土器	口縁部	明黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ
322	Ⅲb	D-17	深鉢形土器	口縁部	にぶい赤褐	灰褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	条痕

第18表 縄文時代土器観察表(7)

探跡番号	層位	出土区	器種	部位	色調		胎土				調整		備考	
					外面	内面	石炭	黒炭	その他	内面	外面			
323	Ⅲ	I-35	深鉢形土器	頸部			○	○	○	輝石・白片岩	良	ナテ	ナテ	
324	Ⅲb	G-36	深鉢形土器	頸部	にぶい黄緑	浅黄緑	○	○	○	輝石	良	ナテ	ナテ	
325	Ⅲa	C-7	深鉢形土器	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	タズリ	ナテ	
326	Ⅲb	D-17	深鉢形土器	胴部	にぶい黄	暗灰黄	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナテ	ナテ	
327	V	I-35	深鉢形土器	胴部	にぶい黄	にぶい黄緑	○	○	○	白片岩	良	ナテ	ナテ	
328	Ⅲb	D-17	深鉢形土器	胴部	にぶい黄	にぶい黄	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナテ	ナテ	
329	Ⅲb	C-5	深鉢形土器	胴部	にぶい黄	にぶい黄緑	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナテ	ナテ	
330	Ⅲb-Ⅳ	D-7	深鉢形土器	胴部	黄褐	黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナテ	ナテ	
331	Ⅲ	I-32	深鉢形土器	胴部	黄	黄	○	○	○	茶殻・白片岩	良	工具ナテ	ナテ	
332	Ⅲ	I-32	深鉢形土器	胴部	にぶい黄緑	にぶい黄緑	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナテ	ナテ	
333	Ⅲb	E-10	深鉢形土器	胴部	明黄褐	にぶい黄緑	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナテ	ナテ	
334	Ⅲa	E-10	深鉢形土器	胴部	にぶい黄緑	にぶい黄緑	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナテ	ナテ	
335	Ⅲb	E-10	深鉢形土器	胴部	浅黄	暗灰黄	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナテ	ナテ	
336	Ⅲ	I-33	深鉢形土器	胴部	にぶい黄緑	にぶい黄緑	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナテ	ナテ	
337	—	—	深鉢形土器	胴部	黄	明黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナテ	ナテ	
338	Ⅲb	E-10	深鉢形土器	底部	にぶい黄緑	灰黄	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナテ	ナテ	
339	Ⅲa	E-10	深鉢形土器	底部	にぶい黄緑	にぶい黄緑	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナテ	ナテ	
340	Ⅲ-Ⅳ	I-32	深鉢形土器	胴部	にぶい黄	黄	○	○	○	輝石・茶殻	良	タズリ	ナテ	
341	Ⅲb	D-8	深鉢形土器	口縁→底部	灰黄褐	灰黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナテ	ナテ	
342	Ⅲ-Ⅳ	I-32	深鉢形土器	口縁→胴部	黄	黄	○	○	○	輝石・白片岩	良	タズリ後ナテ	ナテ	
343	Ⅲb-Ⅳ	F-27-28	深鉢形土器	口縁→胴部	黄	にぶい黄緑	○	○	○	輝石・白片岩	良	タズリ後ナテ	ナテ	
344	Ⅲb-Ⅳ	F-28-1-2	深鉢形土器	口縁→胴部	にぶい黄緑	にぶい黄緑	○	○	○	輝石・赤片岩	良	タズリ後ナテ	ナテ	
345	Ⅲb	H-31-32	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄緑	にぶい黄緑	○	○	○	赤片岩・白片岩	良	ナテ	ナテ	
346	Ⅲb	H-30	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄	黄	○	○	○	白片岩・輝石	良	ナテ	ナテ	
347	Ⅲ	H-32	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄緑	にぶい黄緑	○	○	○	赤片岩・白片岩	良	工具ナテ	ナテ	
348	—	—	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄	にぶい黄	○	○	○	赤片岩・白片岩	良	ナテ	ナテ	
349	Ⅲ	C-13	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄緑	にぶい黄緑	○	○	○	赤片岩・白片岩	良	ナテ	ナテ	
350	Ⅲb	H-31	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄緑	にぶい黄緑	○	○	○	白片岩・茶殻	良	工具ナテ	ナテ	
351	Ⅲ	J-32	深鉢形土器	口縁部	明黄褐	にぶい黄	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	ナテ	ナテ	
352	Ⅲ	I-32	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄	黄	○	○	○	赤片岩・白片岩	良	工具ナテ	ナテ	
353	Ⅲb	H-30	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄	にぶい黄	○	○	○	輝石	良	工具ナテ	ナテ	
354	Ⅲa	H-39	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄緑	にぶい黄緑	○	○	○	輝石	良	ナテ	工具ナテ	
355	Ⅲb	G-28-31	深鉢形土器	口縁部	浅黄緑	浅黄緑	○	○	○	白片岩・輝石	良	ナテ	ナテ	
356	Ⅲ	I-32	深鉢形土器	口縁→胴部	黄	にぶい黄緑	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナテ	ナテ	
357	Ⅲb-Ⅳ	G-28-31	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄緑	にぶい黄緑	○	○	○	白片岩・輝石	良	ナテ	工具ナテ	
358	Ⅲb	E-8	深鉢形土器	頸部	にぶい黄緑	にぶい黄緑	○	○	○	輝石	良	ナテ	ナテ	
359	Ⅲb	E-8	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄緑	にぶい黄緑	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナテ	ナテ	
360	Ⅲb	E-8	深鉢形土器	口縁→胴部	にぶい黄緑	にぶい黄緑	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナテ	ナテ	
361	Ⅲb	E-8	深鉢形土器	口縁→胴部	にぶい黄	にぶい黄緑	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナテ	茶痕	
362	Ⅲb-Ⅳ	G-34-1-3	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄緑	にぶい黄緑	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	
363	Ⅲ	I-31-32	深鉢形土器	口縁→胴部	にぶい黄	黄	○	○	○	輝石・茶殻	良	工具ナテ	ナテ	
364	Ⅲa-Ⅳ	H-30-31	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄緑	黒褐	○	○	○	茶殻・輝石	良	工具ナテ	ナテ	
365	Ⅲ	J-32-33	深鉢形土器	胴部	にぶい黄緑	にぶい黄緑	○	○	○	輝石・茶殻	良	工具ナテ	ナテ	
366	Ⅲa	H-30	深鉢形土器	口縁部	褐灰	灰黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナテ	ナテ	
367	Ⅲb	H-31	深鉢形土器	頸部	にぶい黄緑	褐灰	○	○	○	輝石・白片岩	良	ヨコナテ	ナテ	
368	Ⅲ-Ⅳ	J-32	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄緑	にぶい黄緑	○	○	○	白片岩・輝石	良	工具ナテ	ナテ	
369	Ⅲa	H-30	深鉢形土器	口縁部	黄	黄	○	○	○	白片岩・輝石	良	ナテ	ナテ	
370	Ⅲb	H-30	深鉢形土器	口縁部	黄	黄	○	○	○	茶殻・輝石	良	工具ナテ	ナテ	
371	Ⅲb	I-37	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄	にぶい黄	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナテ	ナテ	
372	Ⅲ	I-31-34	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐	浅黄緑	○	○	○	赤片岩・白片岩	良	工具ナテ	ナテ	
373	Ⅲa	E-9	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄緑	にぶい黄緑	○	○	○	輝石・茶殻	良	工具ナテ	工具ナテ	
374	Ⅲ	H-31	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄緑	にぶい黄緑	○	○	○	輝石	良	ナテ	ナテ	
375	Ⅲb-Ⅳ	H-32	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄緑	にぶい黄緑	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナテ	ナテ	
376	Ⅲ	J-32	深鉢形土器	胴部	黒褐	にぶい黄	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナテ	工具ナテ	下部接合部分で破損
377	Ⅲb	G-29	深鉢形土器	胴部	褐灰	にぶい黄緑	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナテ	ナテ	
378	Ⅲ	I-31-32	深鉢形土器	頸部	にぶい黄緑	にぶい黄緑	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナテ	ナテ	
379	—	I-32	深鉢形土器	頸部	にぶい黄緑	にぶい黄緑	○	○	○	赤片岩・輝石	良	ナテ	ナテ	
380	Ⅲa	D-6	深鉢形土器	胴部	にぶい黄	黄	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	工具ナテ	ナテ	
381	Ⅲb	D-17	深鉢形土器	頸部	黄	にぶい黄緑	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナテ	ナテ	
382	Ⅲ	I-32	深鉢形土器	頸部	にぶい黄緑	にぶい黄緑	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナテ	ナテ	

第19表 縄文時代土器観察表 (8)

探洞	番号	層位	出土区	器種	部位	色調		胎土				焼成	調整		備考
						外面	内面	石炭	長石	結晶	その他		内面	外面	
123	383	N	I-32	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	384	N	J-32	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	工具ナデ	ナデ	
	385	III	I-31-32	深鉢形土器	胴部	橙	橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	386	III a	G-I-31	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	387	N	C-13	深鉢形土器	胴部	明赤褐	にぶい黄褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	388	III	J-31	深鉢形土器	胴部	橙	橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	389	III・III b	H-31-32	深鉢形土器	胴部	明赤褐	明赤褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	工具ナデ	ナデ	
	390	III・N	I-31	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	391	III b・N	F-36-1-2	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	工具ナデ	工具ナデ	
	392	III b・N	I-32	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	暗褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	口コナデ	ナデ	
124	393	N	I-32	深鉢形土器	胴部	黒褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	394	N	I-29	深鉢形土器	胴部	橙	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
	395	N	J-32	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ	
	396	III b	I-30-31	深鉢形土器	胴部	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	輝石	良	工具ナデ	ナデ	
	397	III	J-32	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	白片岩・輝石	良	ナデ	ナデ	
	398	III	E-8	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ナデ	ナデ	
	399	N	J-32	深鉢形土器	胴部	浅黄橙	淡黄	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
	400	III b	H-31	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
	401	III b	I-30-31	深鉢形土器	頸-胴部	にぶい橙	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	粗いナデ	ナデ	
	402	III b	H-32	深鉢形土器	胴部	明褐	灰褐	○	○	○	白片岩・輝石	良	工具ナデ	ナデ	
125	403	N	I-31	深鉢形土器	胴部	明赤褐	赤褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	工具ナデ	ナデ	
	404	III	J-31	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
	405	N	J-32	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	白片岩・輝石	良	工具ナデ	ナデ	
	406	III	I-31	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	工具ナデ	ナデ	
	407	III b	H-32	深鉢形土器	胴部	橙	灰褐	○	○	○	白片岩・輝石	良	ナデ	ナデ	
	408	N	I-31	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・赤片岩	良	工具ナデ	ナデ	
	409	N a	E-8	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	410	III b・N	I-31-32	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	工具ナデ	ナデ	
	411	N	I-32	深鉢形土器	胴部	明赤褐	灰黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
	412	III b	H-I-31	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	黒褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
126	413	III b・N	H-31	深鉢形土器	胴部	にぶい赤褐	褐灰	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
	414	III b	H-31	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ	
	415	N	F-35	深鉢形土器	胴部	橙	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	416	N	I-31	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	内面に指痕直
	417	V	I-30	深鉢形土器	胴部	黒褐	黒褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	工具ナデ	外面に炭化物付着
	418	III	I-29-32	深鉢形土器	胴部	黄橙	橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	419	III b・N	H-32	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	420	N	I-32	深鉢形土器	胴部	黄橙	黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	未貫通補修孔
	421	N	F-29	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	422	I	I-31	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	工具ナデ	ナデ	
127	423	N	J-32	深鉢形土器	胴部	明黄褐	明黄褐	○	○	○	茶粒・輝石	良	工具ナデ	ナデ	
	424	N	I-28	深鉢形土器	胴部	灰黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	425	III b・N	I-32	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ後ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	426	III・N	I-32	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	明黄褐	○	○	○	輝石	良	工具ナデ	ナデ	
	427	III b・N	H-31-32	深鉢形土器	胴部	にぶい橙	にぶい黄褐	○	○	○	白片岩・輝石	良	ナデ	ナデ	
	428	III・III b	H-I-32	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	白片岩・輝石	良	ナデ	ナデ	
	429	N	I-31	深鉢形土器	底部	橙	にぶい橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	430	III b	I-30	深鉢形土器	胴部	明褐	にぶい褐	○	○	○	白片岩・輝石	良	ナデ	ナデ	
	431	N	I-29	深鉢形土器	頸部-胴部	明褐	明褐	○	○	○	白片岩・輝石	良	ナデ	ナデ	
	432	N	C-I-13	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
128	433	III b	C-5	深鉢形土器	口縁部	褐	褐	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ナデ	ナデ	
	434	III b	C-5	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ナデ	ナデ	
	435	V	F-43	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ	
	436	V	F-43	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	437	N	H-21	深鉢形土器	口縁-胴部	にぶい褐	褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ・ケズリ	茶飯	外面に炭化物付着

第20表 縄文時代土器観察表 (9)

探検番号	層位	出土区	器種	部位	色 調		胎 土				調 整		備考			
					外面	内面	石質	黒石	灰質	その他	内面	外面				
134	438	Ⅱa-Ⅲ	G-35-29	深鉢形土器	口縁-胴部	明赤褐色	灰褐色	○	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	工具ナデ	ナデ後条痕	
	439	Ⅲ	J-33	深鉢形土器	口縁部	褐色	にぶい褐色	○	○	○	○	輝石	良	ナデ	条痕	
	440	Ⅱb	I-32	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	にぶい赤褐色	○	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナデ	条痕	
	441	Ⅱa	H-38	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナデ	条痕	
	442	Ⅳ	I-32	深鉢形土器	口縁部	褐色	褐色	○	○	○	○	茶殻・輝石	良	工具ナデ	条痕	
	443	Ⅱb	H-36	深鉢形土器	口縁部	褐色	にぶい褐色	○	○	○	○	輝石	良	工具ナデ	条痕	
	444	Ⅳ	I-32	深鉢形土器	口縁部	褐色	にぶい褐色	○	○	○	○	茶殻・輝石	良	工具ナデ	条痕	
	445	Ⅱb-Ⅳ	H-31-11	深鉢形土器	胴部	にぶい赤褐色	赤灰	○	○	○	○	茶殻・輝石	良	工具ナデ	条痕	
	446	Ⅳ	I-32	深鉢形土器	胴部	褐色	灰褐色	○	○	○	○	茶殻・輝石	良	工具ナデ	条痕	
	447	Ⅳ	H-37	深鉢形土器	口縁部	褐色	褐色	○	○	○	○	茶殻・輝石	良	工具ナデ	短条痕	外面に炭化物付着
136	448	Ⅱb	H-35	深鉢形土器	口縁部	明赤褐色	にぶい褐色	○	○	○	○	茶殻・輝石	良	ヨコナデ	短条痕	
	449	Ⅱb	H-36	深鉢形土器	口縁部	明赤褐色	褐色	○	○	○	○	茶殻・輝石	良	工具ナデ	短条痕	外面に炭化物付着
	450	Ⅱb-Ⅳ	H-36-1-6	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	茶殻・輝石	良	工具ナデ	短条痕	
	451	Ⅳ	H-37-38	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	白片岩・輝石	良	工具ナデ	短条痕	
	452	Ⅱ	G-37	深鉢形土器	胴部	明黄褐色	明黄褐色	○	○	○	○	茶殻・輝石	良	工具ナデ	条痕	外面に炭化物付着
	453	Ⅱb	H-37	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	白片岩・輝石	良	工具ナデ	短条痕	
	454	Ⅱa	H-37	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	灰褐色	○	○	○	○	茶殻・輝石	良	工具ナデ	短条痕	外面に炭化物付着
	455	Ⅳ	H-37	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	白片岩・輝石	良	ナデ	短条痕	
	456	Ⅱa	H-36	深鉢形土器	口縁部	赤褐色	にぶい赤褐色	○	○	○	○	白片岩・茶殻	良	工具ナデ	条痕	外面に炭化物付着
	457	Ⅱa	I-37	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	○	○	茶殻・輝石	良	工具ナデ	短条痕	外面に炭化物付着
137	458	Ⅱb	I-32-33	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	白片岩・赤片岩	良	工具ナデ	条痕	外面に炭化物付着
	459	Ⅳ	H-35	深鉢形土器	胴部	褐色	明赤褐色	○	○	○	○	白片岩・輝石	良	工具ナデ	短条痕	外面に炭化物付着
	460	Ⅳ	H-35	深鉢形土器	胴部	褐色	にぶい褐色	○	○	○	○	白片岩・輝石	良	工具ナデ	短条痕	外面に炭化物付着
	461	Ⅱb	H-34	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐色	明黄褐色	○	○	○	○	茶殻・輝石	良	工具ナデ	短条痕	外面に炭化物付着
	462	Ⅱa	H-37	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	輝石	良	工具ナデ	短条痕	
	463	Ⅱa	H-35	深鉢形土器	胴部	明褐色	明褐色	○	○	○	○	茶殻・輝石	良	工具ナデ	短条痕	外面に炭化物付着
	464	Ⅱb	H-35	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	茶殻・輝石	良	工具ナデ	短条痕	外面に炭化物付着
	465	Ⅱb	H-35	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	輝石	良	工具ナデ	短条痕	
	466	Ⅱb	H-35	深鉢形土器	胴部	赤褐色	褐色	○	○	○	○	茶殻・輝石	良	工具ナデ	短条痕	外面に炭化物付着
	467	Ⅱa	G-25	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐色	明黄褐色	○	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕後ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
138	468	Ⅱa	C-8	深鉢形土器	胴部	褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	輝石	良	工具ナデ	条痕	
	469	Ⅱb	I-32	深鉢形土器	胴部	褐色	褐色	○	○	○	○	茶殻・輝石	良	工具ナデ	条痕	
	470	Ⅱb	H-31	深鉢形土器	胴部	褐色	灰褐色	○	○	○	○	茶殻・輝石	良	工具ナデ	条痕	
	471	Ⅱb-Ⅳa	C-8	深鉢形土器	胴部	にぶい褐色	褐色	○	○	○	○	輝石	良	ナデ	条痕	
	472	Ⅱa-Ⅳ	D-9-23	深鉢形土器	口縁-胴部	赤	赤	○	○	○	○	金部骨・火山ガラス	良	工具ナデ	ナデ後条痕	
	473	Ⅲ	J-31	深鉢形土器	底部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナデ	ナデ	
	474	Ⅲ	J-33	深鉢形土器	底部	褐色	灰褐色	○	○	○	○	輝石	良	ナデ	条痕	
	475	V	G-32	深鉢形土器	底部	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	476	—	—	深鉢形土器	底部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナデ	ナデ	
	477	Ⅳ	F-32	深鉢形土器	底部	灰黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	剥落	
139	478	Ⅱb	H-29-33	深鉢形土器	底部	褐色	褐色	○	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	条痕	
	479	Ⅳ	H-32	深鉢形土器	底部	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	○	○	白片岩・輝石	良	ナデ	ナデ	
	480	Ⅳ	G-26-27	深鉢形土器	底部	灰褐色	にぶい褐色	○	○	○	○	輝石	良	ナデ	条痕	
	481	Ⅱa-Ⅱb	H-29-21	深鉢形土器	口縁-胴部	にぶい褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	白片岩・輝石	良	条痕	条痕	
142	482	Ⅱa-Ⅱb	F-G-20	深鉢形土器	口縁部	黒褐色	黄褐色	○	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	
	483	Ⅱa	C-9	深鉢形土器	胴部	黒褐色	黒褐色	○	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	外面に炭化物付着
	484	Ⅱb	E-38	深鉢形土器	胴部	にぶい赤褐色	暗赤褐色	○	○	○	○	輝石	良	条痕後ナデ	条痕	
	485	Ⅱb	G-H-20	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	輝石	良	条痕	条痕	外面に炭化物付着
144	486	Ⅱb	E-9	深鉢形土器	口縁-底部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	ナデ	
	487	Ⅳ	G-35	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐色	浅黄褐色	○	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	
	488	Ⅱb	G-35	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	浅黄褐色	○	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	内外面に炭化物付着
	489	Ⅱb-Ⅳ	C-34-35	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	浅黄褐色	○	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	外面に炭化物付着
145	490	Ⅱb-Ⅳ	G-35	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	輝石・茶殻	良	条痕	条痕	外面に炭化物付着
	491	Ⅱa	F-37	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	灰黄褐色	○	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	ナデ	
	492	Ⅱb	G-35	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	外面に炭化物付着
	493	Ⅱb	G-34	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	内外面に炭化物付着
146	494	Ⅳ	G-35	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	外面に炭化物付着
	495	Ⅱa	E-15	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐色	明黄褐色	○	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	
	496	Ⅱa-Ⅱb	D-18	深鉢形土器	胴部	褐色	オリーブ黒	○	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	
	497	Ⅱa-Ⅱb	G-26-21	深鉢形土器	胴部	赤褐色	黄褐色	○	○	○	○	輝石・白片岩	良	条痕	条痕	

第21表 縄文時代土器観察表(10)

博物館番号	層位	出土区	器種	部位	色調		胎土				調整		備考	
					外周	内周	石炭	長石	焼灰	その他	内面	外面		
148	498	Ⅱa-Ⅱb	F-28	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐色	灰黄褐色	○	○	礫石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	499	Ⅱa	F-28-G-29	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	礫石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	500	Ⅱa	G-40	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	基粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	501	Ⅱa	G-40	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	白片岩・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	502	Ⅱb	G-31	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	礫石・赤片岩	良	ナデ	ナデ	
149	503	Ⅱb-Ⅳ	E-32	深鉢形土器	口縁部	黒褐色	黒褐色	○	○	礫石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	口唇剥突
	504	Ⅱa-Ⅱb	F-28-G-29	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐色	褐色	○	○	礫石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	505	Ⅱa	G-40	深鉢形土器	口縁部	黒褐色	にぶい褐色	○	○	礫石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	506	Ⅱb	I-36	深鉢形土器	口縁部	褐色	にぶい黄褐色	○	○	礫石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	507	Ⅱb	E-27	深鉢形土器	口縁部	黒褐色	黒褐色	○	○	礫石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
150	508	Ⅱa	E-27	深鉢形土器	口縁部	黒褐色	灰黄褐色	○	○	礫石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	509	Ⅱb	G-23	深鉢形土器	口縁部	褐色	黄褐色	○	○	礫石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	510	Ⅱa-Ⅱb	E-35	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	赤黄褐色	○	○	白片岩・赤片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	511	Ⅱa-Ⅱb	F-34-G-35	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	白片岩・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	512	Ⅱb	E-32	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐色	灰黄褐色	○	○	礫石	良	ナデ	ナデ	
151	513	Ⅱb	F-32	深鉢形土器	口縁部	褐色	褐色	○	○	礫石	良	ナデ	ナデ	
	514	Ⅱb	E-27	深鉢形土器	口縁部	黒褐色	にぶい黄褐色	○	○	白片岩・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	515	Ⅱb	E-33	深鉢形土器	口縁部	黒褐色	黄褐色	○	○	礫石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	516	Ⅱb-Ⅱb	F-36	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	灰黄褐色	○	○	礫石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	517	Ⅳ	H-32	深鉢形土器	口縁部	明黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	礫石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
152	518	Ⅳ	E-25	深鉢形土器	口縁部	黒褐色	にぶい黄褐色	○	○	礫石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	519	Ⅳ	G-31	深鉢形土器	口縁部	明赤褐色	にぶい褐色	○	○	礫石	良	横ナデ	ナデ	
	520	Ⅱa	G-38	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	礫石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	521	Ⅳ	I-25	深鉢形土器	口縁部	暗褐色	暗褐色	○	○	金雲母・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	522	Ⅱa	E-35	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	灰黄褐色	○	○	白片岩	良	ナデ	ナデ	
153	523	Ⅱb-Ⅳ	F-34-G-35	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐色	灰黄褐色	○	○	礫石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	524	Ⅱb	H-26	深鉢形土器	口縁部	明黄褐色	明黄褐色	○	○	礫石・火山ガラス	良	赤褐色・ナデ	赤褐色	外面に炭化物付着
	525	Ⅱa-Ⅱb	G-25	深鉢形土器	胴部	黒褐色	にぶい黄褐色	○	○	礫石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	526	Ⅱa	G-27	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	基粒・礫石	良	ナデ	ナデ	
	527	Ⅱa-Ⅱb	F-G-35	深鉢形土器	胴部	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	礫石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
154	528	Ⅱb	H-33	深鉢形土器	胴部	暗褐色	にぶい黄褐色	○	○	礫石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	529	Ⅱa-Ⅱb	H-25	深鉢形土器	胴部	黒褐色	褐色	○	○	礫石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	530	Ⅱa	G-27	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	礫石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	531	E	40	深鉢形土器	胴部	灰褐色	明褐色	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	532	Ⅱb	F-29	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	礫石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
155	533	Ⅱa-Ⅱb	F-G-34	深鉢形土器	胴部	褐色	にぶい黄褐色	○	○	礫石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	534	Ⅱa-Ⅱb	H-32	深鉢形土器	胴部	褐色	にぶい黄褐色	○	○	礫石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	535	Ⅱb-Ⅳ	G-26	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	礫石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	536	Ⅱa	G-H-26	深鉢形土器	口縁部	褐色	にぶい褐色	○	○	基粒・礫石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	537	Ⅱa	F-35-G-27	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	礫石	良	ナデ	ナデ	
156	538	Ⅱb	F-36-G-27	深鉢形土器	口縁部	明黄褐色	明黄褐色	○	○	火山ガラス・白片岩	良	横ナデ	ナデ	
	539	Ⅱa	F-26	深鉢形土器	口縁部	褐色	にぶい赤褐色	○	○	礫石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	540	Ⅱb	F-28	深鉢形土器	口縁部	褐色	褐色	○	○	礫石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	541	Ⅱa	G-35	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	明黄褐色	○	○	礫石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	542	Ⅱb	F-G-29	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	礫石・火山ガラス	不良	ナデ	ナデ	
157	543	Ⅱb	G-28	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	礫石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	544	Ⅱb	F-34	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	礫石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	545	—	—	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	礫石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	546	Ⅱa-Ⅱb	F-26	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	礫石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	547	Ⅱa-Ⅱb	G-35-36	深鉢形土器	口縁部	灰褐色	灰褐色	○	○	礫石・白片岩	不良	ナデ	ナデ	
158	548	Ⅱb	F-34	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	549	Ⅱa	E-27	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	褐色	○	○	礫石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	550	Ⅱb	H-30	深鉢形土器	口縁部	褐色	にぶい黄褐色	○	○	礫石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	内面に指痕王様
	551	Ⅱb	E-35	深鉢形土器	口縁部	にぶい赤褐色	赤褐色	○	○	基粒・礫石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	552	Ⅱb	H-27	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	灰黄褐色	○	○	礫石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
159	553	—	—	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	554	Ⅱb-Ⅳ	F-G-26	深鉢形土器	口縁部	明赤褐色	にぶい褐色	○	○	礫石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	555	Ⅱa	F-26	深鉢形土器	口縁部	明赤褐色	にぶい黄褐色	○	○	礫石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	556	Ⅱa	F-33	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	礫石・白片岩	良	ナデ	ナデ	

第22表 縄文時代土器観察表 (11)

博物館番号	層位	出土区	器種	部位	色 調		胎 土				簡 整		備 考		
					外面	内面	石質	黒石	灰質	その他	内面	外面			
158	557	Ⅰ	深鉢形土器	口縁部	灰褐	灰褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ			
	558	Ⅱa	G-37	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナデ	横ナデ	
	559	Ⅱb	F-35	深鉢形土器	口縁部	黒褐	褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	560	Ⅱb	G-27	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい橙	褐灰	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	561	Ⅱa	G-27	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	灰黄褐	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	562	Ⅱa・Ⅱb	G-35-36	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい橙	にぶい赤褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
159	563	Ⅱa・Ⅱb	F-5-G-25	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい橙	にぶい赤褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	564	Ⅱa	F-27	深鉢形土器	胴部	黄褐	にぶい赤褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	565	Ⅱa・Ⅱb	F-G-40	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
160	566	Ⅱa	G-40	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	567	Ⅱa・Ⅱb	G-40	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	白片岩・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	内外面に炭化物付着
	568	Ⅳ	I-34	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ナデ	ナデ	
161	569	Ⅱa	H-35-36	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	黄灰	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	570	Ⅱb	I-34	深鉢形土器	胴部	褐	黒褐	○	○	○	火山ガラス	良	ナデ	ナデ	内面に炭化物付着
	571	Ⅱb	H-31	深鉢形土器	胴部	黒褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	572	Ⅱa・Ⅱb	F-28	深鉢形土器	胴部	黒褐	にぶい赤褐	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	573	Ⅱa・Ⅱb	G-40	深鉢形土器	胴部	灰黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	574	Ⅱb	H-36	深鉢形土器	胴部	黒褐	暗灰黄	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
162	575	Ⅱa	G-40	深鉢形土器	胴部	黒	にぶい黄褐	○	○	○	白片岩・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	576	Ⅱa	G-40	深鉢形土器	胴部	明赤褐	黒褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	577	Ⅱb	E-36	深鉢形土器	頸部	黒褐	黄褐	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
163	578	Ⅱa	F-32	深鉢形土器	胴部	褐灰	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
164	579	Ⅱb	H-33	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	暗褐	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
165	580	Ⅱa・Ⅱb	F-G-35	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい橙	橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	茶痕	外面に炭化物付着
	581	Ⅱb・Ⅳ	H-36	深鉢形土器	口縁～胴部	黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
166	582	Ⅱa・Ⅱb	I-32	深鉢形土器	口縁部	赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	白片岩・火山ガラス	良	ナデ	茶痕・ナデ	工具ナデ
	583	Ⅱb	H-32	深鉢形土器	口縁部	暗灰黄	黄褐	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ	
167	584	Ⅱb	H-32	深鉢形土器	口縁部	黄灰	にぶい黄	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	585	Ⅱb	H-32	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ	
	586	Ⅱb	D-28	深鉢形土器	口縁部	黒褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	587	Ⅱa・Ⅱb	H-31-32	深鉢形土器	口縁部	暗灰黄	にぶい黄	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	588	Ⅱa・Ⅱb	E-35	深鉢形土器	口縁～胴部	褐灰	にぶい黄褐	○	○	○	白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	589	Ⅱa	G-38	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	明黄褐	○	○	○	白片岩・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
168	590	Ⅱa	E-35	深鉢形土器	口縁部	褐灰	にぶい黄褐	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	591	Ⅱa・Ⅱb	E-35	深鉢形土器	胴部	黄褐	浅黄	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	592	Ⅱb	I-34	深鉢形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	593	Ⅱa・Ⅳ	F-40	深鉢形土器	口縁部	黒褐	暗赤褐	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ	
	594	Ⅱb	F-40	深鉢形土器	口縁部	灰褐	褐	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	ナデ	
	595	Ⅱa	F-40	深鉢形土器	口縁部	灰褐	灰褐	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ	
169	596	Ⅱb	E-26-27	深鉢形土器	口縁部	黒褐	黒褐	○	○	○	火山ガラス・輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	597	Ⅱb	E-26-27	深鉢形土器	口縁部	黒褐	褐灰	○	○	○	火山ガラス・輝石	良	ナデ	ナデ	
	598	Ⅱa・Ⅱb	G-35	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
170	599	Ⅱa・Ⅱb	G-35	深鉢形土器	口縁部	褐	明褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	600	Ⅱa・Ⅱb	G-35	深鉢形土器	口縁部	にぶい橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	601	Ⅱb	E-27	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい赤褐	黒褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	602	Ⅱa	G-31	深鉢形土器	口縁部	褐灰	灰褐	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	603	Ⅱ	I-34	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	白片岩・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	604	Ⅱb	E-11	深鉢形土器	口縁部	褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
171	605	Ⅱa	D-10	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	褐	○	○	○	輝石・茶殻	良	工具ナデ	ナデ	
	606	Ⅱb	F-37	深鉢形土器	口縁部	灰褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
	607	Ⅱ	F-37	深鉢形土器	口縁部	灰褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	608	Ⅱb	G-36	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	白片岩・茶殻	良	ナデ	ナデ	
	609	Ⅱa	E-38	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	灰褐	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	610	Ⅱa	E-38	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
171	611	Ⅱa	G-40	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	ナデ	
	612	Ⅱb	F-40	深鉢形土器	口縁部	赤灰	赤灰	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	613	Ⅱa	F-40	深鉢形土器	口縁部	灰褐	灰褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	614	Ⅱb	H-33	深鉢形土器	口縁部	黒褐	褐灰	○	○	○	白片岩・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	615	Ⅱa	F-40	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	ナデ	

第23表 縄文時代土器観察表 (12)

探洞	番号	層位	出土区	器種	部位	色調		胎土			調整		備考		
						外	内	石	長石	礫	その他	内		外	
172	616	Ⅱ-V	G-35	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐	〇	〇	〇	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着	
	617	Ⅱa-Ⅱb	F-29	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	〇	〇	〇	白片岩・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着	
	618	Ⅱb-ⅡV	G-36	深鉢形土器	胴部	灰褐	黄褐	〇	〇	〇	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	619	Ⅱa-Ⅱb	G-36	深鉢形土器	胴部	黄褐	にぶい黄	〇	〇	〇	輝石・白片岩	良	具ナデ	ナデ	
	620	Ⅱb	I-33	深鉢形土器	胴部	にぶい褐	黒	〇	〇	〇	火山ガラス・輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
173	621	Ⅱb	E-26-27	深鉢形土器	胴部	黒褐	黒	〇	〇	〇	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	622	Ⅱa-Ⅱb	E-26-27	深鉢形土器	胴部	黒灰	黒	〇	〇	〇	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	623	Ⅱa	F-40	深鉢形土器	胴部	灰褐	黒	〇	〇	〇	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	624	Ⅱa	E-28	深鉢形土器	胴部	黄褐	黒	〇	〇	〇	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	625	Ⅱb	H-39	深鉢形土器	胴部	橙	橙	〇	〇	〇	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
174	626	Ⅱa	H-36	深鉢形土器	胴部	灰黄褐	黒	〇	〇	〇	火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	627	Ⅱa	G-37	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	灰黄褐	〇	〇	〇	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	628	Ⅱa-ⅡV	D-24	深鉢形土器	胴部	灰黄褐	にぶい黄褐	〇	〇	〇	火山ガラス・茶殻	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	629	Ⅱb	E-29	深鉢形土器	底部	黒灰	にぶい黄褐	〇	〇	〇	輝石	良	ナデ	ナデ	
	630	Ⅱa-Ⅱb	F-28	深鉢形土器	底部	にぶい褐	黒	〇	〇	〇	輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
175	631	Ⅱa	E-37	深鉢形土器	底部	にぶい黄褐	にぶい黄	〇	〇	〇	輝石・赤片岩	良	ナデ	ナデ	外表面に光沢感
	632	Ⅱb	G-33	深鉢形土器	底部	褐	暗灰黄	〇	〇	〇	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	633	—	—	深鉢形土器	底部	橙	橙	〇	〇	〇	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	内面に炭化物付着
	634	Ⅱ	J-33	深鉢形土器	底部	灰黄褐	黒	〇	〇	〇	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	内面に炭化物付着
	635	Ⅱa-Ⅱb	G-36	深鉢形土器	底部	灰黄褐	にぶい黄褐	〇	〇	〇	輝石・白片岩	不良	ナデ	ナデ	
176	636	Ⅱa	G-37	深鉢形土器	底部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	〇	〇	〇	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	637	Ⅱa	E-36	深鉢形土器	底部	明黄褐	灰黄褐	〇	〇	〇	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	638	Ⅱa	D-26	深鉢形土器	底部	にぶい黄褐	黒灰	〇	〇	〇	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	内底面ア/ク状跡
	639	Ⅱb	G-25	深鉢形土器	底部	黒灰	灰黄褐	〇	〇	〇	茶殻・輝石	良	ナデ	ナデ	
	640	Ⅱa-Ⅱb	G-26	深鉢形土器	底部	褐	黒	〇	〇	〇	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
177	641	Ⅱb	E-35	深鉢形土器	底部	にぶい黄褐	黄	〇	〇	〇	輝石	良	ナデ	ナデ	内面に炭化物付着
	642	Ⅱb	H-36	深鉢形土器	底部	明赤褐	明赤褐	〇	〇	〇	茶殻・輝石	良	ナデ	ナデ	
	643	Ⅱa	H-33	深鉢形土器	底部	にぶい黄褐	にぶい褐	〇	〇	〇	白片岩・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	644	Ⅱa	E-35	深鉢形土器	底部	褐	にぶい黄褐	〇	〇	〇	茶殻・輝石	良	ナデ	ナデ	
	645	Ⅱb	F-36	深鉢形土器	底部	橙	明	〇	〇	〇	輝石	良	赤飯	赤飯	
178	646	Ⅱa-ⅡV	F-G-37	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	〇	〇	〇	輝石・白片岩	良	赤飯	赤飯	外面に炭化物付着
	647	Ⅱa	F-39	深鉢形土器	胴部	橙	にぶい黄褐	〇	〇	〇	輝石	良	赤飯	赤飯	
	648	Ⅱa-Ⅱb	F-36	深鉢形土器	口縁部	明赤褐	明赤褐	〇	〇	〇	茶殻・輝石	良	赤飯後ナデ	赤飯	外面に炭化物付着
	649	Ⅱa-Ⅱb	G-33	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	明黄褐	〇	〇	〇	赤片岩・輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	650	Ⅱa-Ⅱb	E-29	深鉢形土器	口縁部	黄褐	にぶい黄褐	〇	〇	〇	輝石・茶殻	良	ナデ	赤飯	
179	651	Ⅱb	G-39	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	黒	〇	〇	〇	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	652	Ⅱa	F-39	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	〇	〇	〇	赤片岩・輝石	良	赤飯	工具ナデ	
	653	Ⅱa-Ⅱb	G-37-38	深鉢形土器	口縁～胴部	赤褐	褐	〇	〇	〇	輝石・白片岩	良	赤飯	赤飯	
	654	Ⅱa	D-9-10	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	〇	〇	〇	輝石・茶殻	良	赤飯	赤飯	
	655	Ⅱa-Ⅱb	F-36-G-37	深鉢形土器	胴部	黒褐	赤褐	〇	〇	〇	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ後赤飯	
184	656	Ⅱ	F-40	深鉢形土器	口縁部	暗灰黄	黄褐	〇	〇	〇	輝石・白片岩	良	ナデ	ヨコナデ	外面に炭化物付着
	657	Ⅱa	F-40	深鉢形土器	口縁部	オリーブ黒	オリーブ黒	〇	〇	〇	輝石・白片岩	良	赤飯	ナデ	外面に炭化物付着
	658	Ⅱa-Ⅱb	E-37-40	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい赤褐	〇	〇	〇	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	659	Ⅱb	G-37	深鉢形土器	胴部	明赤褐	明赤褐	〇	〇	〇	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	660	Ⅱ-Ⅱb	F-37	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	明	〇	〇	〇	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	
185	661	Ⅱb	G-37-38	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい赤褐	〇	〇	〇	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	662	Ⅱb	F-37	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	〇	〇	〇	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	663	Ⅱ	F-39-F-40	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐	灰黄褐	〇	〇	〇	輝石・白片岩	良	赤飯後ナデ	赤飯	
	664	Ⅱb	G-37	深鉢形土器	胴部	黒灰	黒	〇	〇	〇	輝石・茶殻	良	ナデ	赤飯後ナデ	外面に炭化物付着
	665	Ⅱa	E-40	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	〇	〇	〇	火山ガラス・白片岩	良	赤飯後ナデ	ナデ	
186	666	Ⅱb	F-38	深鉢形土器	胴部	暗灰黄	明	〇	〇	〇	輝石・白片岩	良	赤飯後ナデ	赤飯	
	667	Ⅱb	F-38	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	褐	〇	〇	〇	輝石・茶殻	良	赤飯	赤飯	内外面に炭化物付着
	668	Ⅱa	F-40	深鉢形土器	胴部	黒	にぶい褐	〇	〇	〇	輝石・茶殻	良	赤飯	赤飯	
	669	Ⅱa-Ⅱb	F-42	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐	灰黄褐	〇	〇	〇	輝石・白片岩	良	ナデ/後ナデ	赤飯	内外面に炭化物付着
187	Ⅱa-Ⅱb	F-G-G-37	深鉢形土器	胴部	にぶい黄	にぶい黄褐	〇	〇	〇	輝石・火山ガラス	良	赤飯後ナデ	赤飯	外面に炭化物付着	

第24表 縄文時代土器観察表 (13)

博物館番号	層位	出土区	器種	部位	色 調				胎 土				調 整		備 考
					外面	内面	石質	黒石	緑泥	その他	焼成	内面	外面		
187	671	Ⅱa	F-40	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	赤片岩	良	赤褐色	赤褐色ナデ	外面に炭化物付着	
	672	Ⅱa	E-39	深鉢形土器	胴部	灰黄褐色	灰黄褐色	○	○	輝石	良	工具ナデ	ナデ	内面に炭化物付着	
	673	Ⅱb-Ⅳ	E-37-G-25	深鉢形土器	口縁部	黒褐色	にぶい褐色	○	○	茶殻・輝石	良	赤褐色ナデ	ナデ		
	674	—	—	深鉢形土器	口縁部	灰褐色	褐色	○	○	輝石	良	赤褐色ナデ	赤褐色ナデ		
	675	Ⅱa	F-38	深鉢形土器	口縁部	黒	黒褐色	○	○	輝石・白片岩	不良	赤褐色	ナデ	外面に炭化物付着	
	676	Ⅰ	E-40	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐色	灰黄褐色	○	○	輝石・茶殻	良	赤褐色	赤褐色		
	677	Ⅱb	E-38	深鉢形土器	口縁部	褐色	灰褐色	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	赤褐色ナデ	外面に炭化物付着	
	678	Ⅱa	F-38	深鉢形土器	口縁部	黒褐色	灰黄褐色	○	○	輝石・茶殻	良	赤褐色	赤褐色	内外面に炭化物付着	
	679	Ⅱa	F-37-G-27	深鉢形土器	口縁部	灰褐色	暗赤褐色	○	○	輝石・茶殻	良	赤褐色	赤褐色	外面に炭化物付着	
	680	Ⅱa	F-40	深鉢形土器	口縁部	灰黄褐色	暗褐色	○	○	輝石・白片岩	良	ケズリ	赤褐色	外面に炭化物付着	
	681	Ⅱa	F-39	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	輝石・白片岩	良	赤褐色ナデ	赤褐色ナデ		
	682	Ⅱa	E-34	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	明黄褐色	○	○	輝石	良	ケズリ後ナデ	ナデ	外面に炭化物付着	
188	683	Ⅱa-Ⅱb	D-10-F-10	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	白片岩・赤片岩	良	赤褐色ナデ	赤褐色ナデ	外面に炭化物付着	
	684	Ⅱb	E-39	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい褐色	○	○	輝石・白片岩	良	工具ナデ	ナデ	外面に炭化物付着	
	685	—	—	深鉢形土器	胴部	黒褐色	褐色	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着	
	686	Ⅱ-Ⅱb	E-40-I-11	深鉢形土器	口縁部	黒	褐色	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	赤褐色	外面に炭化物付着	
189	687	Ⅱa-Ⅱb	F-38	深鉢形土器	胴部-胴部	黒褐色	にぶい黄褐色	○	○	輝石・白片岩	良	赤褐色	赤褐色	外面に炭化物付着	
	688	Ⅱa-Ⅳ	E-37-F-20	深鉢形土器	口縁部-胴部	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	茶殻・火山ガラス	良	赤褐色ナデ	赤褐色ナデ	外面に炭化物付着	
	689	Ⅱb-Ⅳ	E-38-39	深鉢形土器	口縁部-胴部	にぶい黄褐色	にぶい褐色	○	○	輝石・茶殻	良	赤褐色ナデ	赤褐色ナデ		
190	690	Ⅱb	F-38	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	輝石・白片岩	良	赤褐色ナデ	赤褐色ナデ	外面に炭化物付着	
	691	Ⅱa	E-38	深鉢形土器	胴部	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	輝石・茶殻	良	赤褐色ナデ	赤褐色ナデ	外面に炭化物付着	
191	692	Ⅱa-Ⅱb	E-38	深鉢形土器	胴部	にぶい褐色	にぶい黄褐色	○	○	赤片岩・火山ガラス	良	赤褐色ナデ	赤褐色ナデ		
	693	Ⅱa	E-39	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐色	にぶい褐色	○	○	輝石・白片岩	良	赤褐色ナデ	赤褐色ナデ	内外面に炭化物付着	
	694	Ⅱa	E-36	深鉢形土器	口縁部	黒褐色	にぶい黄褐色	○	○	輝石・赤片岩	良	赤褐色	赤褐色	外面に炭化物付着	
192	695	Ⅱa-Ⅳ	E-36-37	深鉢形土器	胴部-胴部	褐色	褐色	○	○	輝石・茶殻	良	赤褐色	赤褐色	外面に炭化物付着	
	696	Ⅱa-Ⅱb	E-38	深鉢形土器	胴部	黒褐色	にぶい赤褐色	○	○	輝石	良	赤褐色ナデ	赤褐色		
	697	Ⅱb	E-38	深鉢形土器	胴部	にぶい赤褐色	明赤褐色	○	○	輝石	良	赤褐色ナデ	赤褐色		
	698	Ⅱ-Ⅱb	F-36	深鉢形土器	胴部	黄褐色	暗灰褐色	○	○	輝石・白片岩	良	赤褐色ナデ	赤褐色ナデ	外面に炭化物付着	
193	699	Ⅱb	D-11	深鉢形土器	口縁部	黒	暗灰褐色	○	○	輝石・白片岩	良	赤褐色	赤褐色	外面に炭化物付着	
	700	Ⅱb	D-13	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	褐色	○	○	輝石	良	赤褐色	赤褐色	内外面に炭化物付着	
	701	Ⅱb	D-18	深鉢形土器	胴部	褐色	にぶい褐色	○	○	輝石	良	赤褐色	赤褐色		
	702	Ⅱa	D-13	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	暗灰褐色	○	○	輝石・茶殻	良	赤褐色	赤褐色ナデ		
	703	Ⅱa-Ⅱb	F-G-16	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	輝石・白片岩	良	赤褐色	赤褐色	内外面に炭化物付着	
194	704	Ⅱb	H-20	深鉢形土器	胴部-胴部	灰黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	輝石・白片岩	良	赤褐色	赤褐色	外面に炭化物付着	
	705	Ⅳ	E-40	深鉢形土器	胴部	黒褐色	にぶい赤褐色	○	○	輝石・茶殻	良	赤褐色	赤褐色		
	706	Ⅳ	E-39	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	輝石・白片岩	良	—	—		
	707	Ⅱb-Ⅳ	E-39	深鉢形土器	底部	にぶい黄褐色	浅黄褐色	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	内面に炭化物付着	
	708	Ⅱb	E-36	深鉢形土器	底部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ		
	709	Ⅱa-Ⅱb	F-37	深鉢形土器	口縁部	明褐色	明褐色	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	ナデ		
	710	Ⅱa-Ⅱb	E-37-F-27	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	ナデ・赤褐色	内面に炭化物付着	
202	711	Ⅱb-Ⅳ	E-37-F-27	深鉢形土器	胴部-胴部	黒褐色	にぶい黄褐色	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	内外面に炭化物付着	
	712	Ⅱa-Ⅱb	F-17	深鉢形土器	口縁部	褐色	明褐色	○	○	赤片岩・火山ガラス	良	ナデ	工具ナデ	内外面に炭化物付着	
	713	Ⅱa	F-36	深鉢形土器	口縁部	暗褐色	にぶい黄褐色	○	○	茶殻・金雲母	良	ナデ	ナデ		
	714	Ⅱa	E-38	深鉢形土器	胴部	褐色	にぶい褐色	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ		
303	715	Ⅱa	E-24	深鉢形土器	口縁部	褐色	明黄褐色	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ケズリ後ナデ		
	716	V	H-26	深鉢形土器	口縁部	明褐色	褐色	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	横ナデ	内外面に炭化物付着	
	717	Ⅳ	E-43	深鉢形土器	口縁部	褐色	黄褐色	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ		
	718	Ⅱa-Ⅱb	F-16	深鉢形土器	口縁部-胴部	褐色	褐色	○	○	輝石・火山ガラス	良	工具ナデ	粗いナデ		
	719	Ⅱb	E-38	深鉢形土器	口縁部	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ		
	720	Ⅱb	H-39	深鉢形土器	口縁部	暗茶褐色	暗茶褐色	○	○	輝石・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ		
304	721	Ⅱ	B-1	深鉢形土器	口縁部	明茶褐色	明茶褐色	○	○	輝石・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ		
	722	Ⅱa	E-35	浅鉢形土器	口縁部	灰黄褐色	褐色	○	○	輝石・白片岩	良	ミガキ	ミガキ		
	723	Ⅱb	F-32	浅鉢形土器	口縁部	浅黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ		
305	724	Ⅱb	G-32	浅鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ		
	725	Ⅱa	D-7-8	深鉢形土器	胴部	浅黄褐色	浅黄褐色	○	○	火山ガラス・輝石	良	ミガキ	ミガキ		
	726	Ⅱa	H-37	浅鉢形土器	口縁部	暗オリーブ褐色	褐色	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ・ミガキ	ケズリ・ナデ		
	727	Ⅱa	G-37	浅鉢形土器	口縁部	暗オリーブ褐色	灰褐色	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ・ミガキ	ケズリ・ナデ		

第25表 縄文時代土器観察表 (14)

博物館	番号	層位	出土区	器種	部位	色調		胎土				調整		備考	
						外側	内側	石質	長石	焼灰	その他	練成	内面		外面
306	728	Ⅲa-Nb	C-9	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	浅黄	○	○	○	茶粒・輝石	良	ミガキ	ミガキ	
	729	Ⅲa	D-8-9	深鉢形土器	口縁部	明黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	火山ガラス・輝石	良	ミガキ	ナデ	
	730	Ⅲa	D-8	深鉢形土器	口縁部	明黄褐色	褐灰	○	○	○	火山ガラス	良	ミガキ	ナデ	
	731	Ⅲa	D-9	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	褐灰	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ミガキ	ナデ	外面に炭化物付着
	732	Ⅲa	D-8-9	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	褐灰	○	○	○	火山ガラス・輝石	良	ミガキ	ナデ	
	733	Ⅲa	H-35	浅鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	褐灰	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
	734	Ⅲa	D-9	深鉢形土器	口縁部	黄灰	黄灰	○	○	○	火山ガラス・輝石	良	ミガキ	ミガキ	
	735	Ⅲb	H-36	浅鉢形土器	口縁部	黒褐色	黒褐色	○	○	○	火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
	736	Ⅲb	G-36	浅鉢形土器	口縁部	褐灰	褐灰	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
	737	Ⅲa	H-26	浅鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	金雲母・輝石	良	ミガキ	ミガキ	
	738	Ⅲa	E-35	深鉢形土器	口縁部	褐灰	黄灰	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ケズリ後ナデ	ミガキ	外面に炭化物付着
	308	739	Ⅱ	E-24	深鉢形土器	胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ケズリ	ケズリ
740		Ⅲa	F-25	深鉢形土器	口縁～胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ケズリ後ナデ	工具ナデ	外面に炭化物付着
741		Ⅲa	F-25	深鉢形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	糸痕後ナデ	糸痕後ナデ	
742		Ⅲa	E-25	深鉢形土器	口縁部	褐灰	にぶい黄褐色	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	工具ナデ	工具ナデ	
309	743	Ⅲa	G-26	深鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	浅黄	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	糸痕後ミガキ	糸痕	
	744	Ⅲa	F-25	深鉢形土器	口縁部	黒褐色	褐灰	○	○	○	白片岩・火山ガラス	良	ナデ	糸痕後ナデ	
210	745	Ⅲa-N	F-25	深鉢形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	
	746	Ⅲa	H-37	浅鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ・ナデ	
	747	Ⅲa	E-25	浅鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
	748	Ⅲa	C-9	浅鉢形土器	口縁部	浅黄	褐灰	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
	749	Ⅲ	H-35	浅鉢形土器	口縁部	灰黄	褐灰	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ・ミガキ	ミガキ	
	750	Ⅲa	F-25	浅鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
	751	Ⅲa	F-25	浅鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
	752	Ⅲa	F-35	浅鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	褐灰	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
	753	Ⅲa	E-20	浅鉢形土器	胴部	灰黄	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・茶粒	良	ケズリ	ケズリ	
	754	Ⅲb	E-26	浅鉢形土器	口縁部	灰黄	黄灰	○	○	○	輝石	良	ミガキ	ミガキ	
	755	Ⅲa	F-26	浅鉢形土器	胴部	オリーブ黒	にぶい黄褐色	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
	211	756	Ⅲa	H-34	深鉢形土器	口縁部	灰黄	明褐灰	○	○	○	輝石・茶粒	良	ミガキ	ミガキ
757		Ⅲa	E-34	浅鉢形土器	口縁部	橙	にぶい黄褐色	○	○	○	火山ガラス	良	一部ミガキ	ミガキ	
758		Ⅲa	F-47	深鉢形土器	胴部	黒褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	雲母・輝石	良	ミガキ	ミガキ	
759		Ⅲa	F-36-G-37	深鉢形土器	胴部	黄灰	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	靄いびつ後ナデ	
760		Ⅲb	I-37	深鉢形土器	胴部	黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	只数糸痕後ナデ	ミガキ・ケズリ	
761		Ⅲa	F-47	深鉢形土器	口縁～胴部	黒褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	雲母・輝石	良	ナデ	ミガキ	内外面に炭化物付着
762		Ⅲa	E-24	深鉢形土器	底部	にぶい黄褐色	黄灰	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ケズリ	ケズリ	
763		Ⅲa	F-5	深鉢形土器	底部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	—	—	
212	764	Ⅲa-N	F-26	深鉢形土器	底部	にぶい黄褐色	褐灰	○	○	○	輝石・赤片岩	良	—	横ケズリ	
	765	Ⅲa	D-25	深鉢形土器	口縁部	黒褐色	黒褐色	○	○	○	白片岩	良	ミガキ後ナデ	ミガキ	
	766	Ⅲa	E-25	浅鉢形土器	口縁部	にぶい黄褐色	黄灰	○	○	○	輝石・白片岩	良	一部ミガキ	ミガキ後ナデ	
	767	Ⅲa	D-8	浅鉢形土器	口縁部	黄灰	黄灰	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
768	Ⅲb	D-25	浅鉢形土器	口縁部	灰黄褐色	黄灰	○	○	○	金雲母・火山ガラス	良	ミガキ後ナデ	ミガキ		

第26表 出土石器観察表(1)

挿図	番号	器種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
214	1	磨製石斧	E-32	Ⅲa	12.3	5.1	2.3	243.0
	2	磨製石斧	G-30	Ⅲb	6.9	4.1	1.3	53.9
	3	磨製石斧	F-37	Ⅲ	7.0	3.1	1.1	28.8
215	4	磨製石斧	F-16	Ⅲa	12.5	5.4	2.7	292.0
	5	磨製石斧	F-37	Ⅲa	6.5	4.5	1.3	36.0
216	6	磨製石斧	F-18	Ⅲa	11.9	5.2	2.1	198.0
	7	磨製石斧	E-36	Ⅲb	6.9	3.9	1.3	46.2
	8	磨製石斧	—	表	6.7	3.0	1.1	26.4
	9	磨製石斧	E-23	Ⅲa	12.8	2.6	1.8	95.0
217	10	磨製石斧	G-26	Ⅲa	10.9	2.8	2.3	97.5
	11	磨製石斧	E-38	Ⅳ	6.1	3.5	1.2	37.3
218	12	磨製石斧	F-17	Ⅲa	(11.5)	7.5	4.1	562.0
	13	磨製石斧	E-39	Ⅲa	(6.7)	(5.8)	2.2	117.2
219	14	磨製石斧	G-35	Ⅲa	(10.8)	6.6	3.6	448.0
	15	磨製石斧	F-39	Ⅳ	(9.1)	9.0	1.7	90.0
220	16	磨製石斧	G-32	Ⅲb	10.2	5.3	3.3	250.0
	17	磨製石斧	F-34	Ⅲb	(7.4)	5.8	2.8	180.0
221	18	磨製石斧	H-34	Ⅲb	(11.8)	5.2	3.5	350.0
	19	磨製石斧	—	道路	(5.5)	(6.5)	1.4	71.5
222	20	磨製石斧	D-10	Ⅳ上	(8.6)	5.3	2.6	160.0
	21	磨製石斧	F-14	Ⅲa	(6.2)	(6.1)	2.1	102.1
	22	磨製石斧	G-36	Ⅳ	(8.9)	7.7	3.8	290.0
223	23	磨製石斧	E-36	Ⅲb	(5.0)	(2.6)	0.7	13.7
	24	磨製石斧	F-25	Ⅲa	3.8	5.7	(2.3)	34.8
	25	磨製石斧	F-43	V	6.1	8.1	1.6	90.0
224	26	磨製石斧	E-39	Ⅲa	18.9	7.0	4.3	780.0
225	27	磨製石斧	D-10	Ⅲa	(17.3)	5.8	3.2	440.0
226	28	磨製石斧	E-34	Ⅲa	(11.2)	5.8	3.8	340.0
	29	磨製石斧	H-35	Ⅲa	(7.3)	5.2	2.8	140.0
	30	磨製石斧	—	横転	10.1	5.2	2.8	220.0
227	31	磨製石斧	F-43	Ⅵ	10.9	4.5	1.6	170.0
	32	磨製石斧未製品	E-28	Ⅲa	(6.9)	5.4	2.7	126.0
	33	磨製石斧未製品	D-27	Ⅲa	(7.8)	(4.9)	2.9	166.0
228	34	磨製石斧未製品	G-39	Ⅲa	(7.7)	(5.7)	1.3	72.2
	35	磨製石斧未製品	G-33	Ⅲb	(8.0)	(4.6)	2.8	120.0
229	36	磨製石斧未製品	G-35	Ⅲa	(7.0)	5.6	3.3	210.0
	37	磨製石斧未製品	D-28	Ⅲa	10.5	6.4	2.1	175.0
230	38	磨製石斧未製品	E-41	Ⅲa	9.8	4.3	2.3	129.0
	39	磨製石斧未製品	D-7	Ⅳa	18.0	9.1	2.2	455.0
231	40	磨製石斧未製品	D-16	Ⅲa	18.2	9.3	2.1	522.0
	41	磨製石斧未製品	E-23	Ⅲa	(14.2)	6.1	3.9	451.0
232	42	磨製石斧未製品	E-25	Ⅲa	(9.7)	5.6	2.1	160.0
	43	磨製石斧未製品	H-34	Ⅲb	14.9	6.2	2.5	350.0
233	44	磨製石斧未製品	E-29	Ⅲb	7.9	5.6	1.1	61.8
	45	磨製石斧未製品	D-25	Ⅲa	9.9	5.3	2.9	235.0
234	46	磨製石斧未製品	D-12	Ⅲb	(10.3)	5.7	2.8	205.0
	47	磨製石斧未製品	F-37	Ⅲb	(8.5)	5.5	3.0	196.9
235	48	打製石斧	E-24	Ⅲa	14.5	6.9	1.5	198.0
	49	打製石斧	G-33	Ⅲb	(7.2)	6.1	2.3	89.9
236	50	打製石斧	D-25	Ⅲa	12.4	9.1	1.7	205.0
	51	打製石斧	E-28	Ⅲa	(9.1)	(6.1)	1.7	117.5
237	52	打製石斧	—	表	11.9	6.8	1.5	165.0
	53	打製石斧	F-35	Ⅲb	8.8	5.6	1.8	93.1
238	54	打製石斧	E-28	Ⅲb	12.6	8.0	1.8	180.0
	55	打製石斧	E-34	Ⅲa	(10.6)	8.7	1.9	190.0

第27表 出土石器観察表(2)

揮図	番号	器 種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
241	56	打製石斧	G-47	Ⅲa	(11.8)	7.6	2.1	2100
	57	打製石斧	E-28	Ⅲa	(7.5)	(8.2)	2.0	151.0
	58	打製石斧	F-33	Ⅲa	(5.5)	(7.9)	1.5	69.4
242	59	打製石斧	—	I b	12.2	6.7	2.1	230.0
	60	打製石斧	D-17	Ⅲa	(6.6)	(5.7)	2.0	76.6
	61	打製石斧	F-32	Ⅲa	(5.5)	(7.1)	1.7	86.0
243	62	打製石斧	G-33	Ⅲb	(8.0)	5.9	2.4	108.4
	63	打製石斧	D-24	Ⅲa	(6.8)	8.0	1.5	93.7
	64	打製石斧	E-27	Ⅱ	(6.7)	6.3	1.9	89.8
244	65	打製石斧	H-33	Ⅳ	14.4	4.6	3.0	630.0
245	66	打製石斧	T-41	I b	(16.0)	13.0	2.0	450.0
246	67	打製石斧	H-27	Ⅲa	(9.8)	10.1	2.8	345.0
	68	打製石斧	E-36	Ⅲa	(6.0)	(7.5)	1.5	92.5
247	69	打製石斧	G-33	Ⅲa	(13.2)	(9.8)	1.4	172.0
248	70	打製石斧	E-35	Ⅲa	(9.3)	8.2	2.2	231.0
	71	打製石斧	C-9	Ⅳ上	(9.8)	7.6	1.3	100.0
249	72	打製石斧	E-34	Ⅲa	(7.9)	(7.3)	1.4	82.7
	73	打製石斧	F-47	Ⅲa	(5.7)	7.8	1.7	100.1
	74	打製石斧	F-35	Ⅲa	(7.3)	(6.3)	2.0	102.4
	75	打製石斧	E-23	I b	(6.3)	5.1	1.5	88.3
250	76	打製石斧	E-35	Ⅲa	(7.4)	(6.7)	2.2	128.0
	77	打製石斧	G-33	Ⅲa	(5.8)	(5.7)	1.5	72.3
	78	打製石斧	E-24	Ⅱ	13.4	6.8	1.6	189.0
251	79	打製石斧	E-36	Ⅲa	8.5	7.8	1.6	121.0
	80	打製石斧	E-34	Ⅲa	(13.7)	6.9	1.8	200.0
252	81	打製石斧	D-17	Ⅲa	(8.9)	(7.2)	1.1	131.0
253	82	打製石斧	G-40	Ⅲb	(10.5)	8.8	2.4	298.0
	83	打製石斧	F-28	Ⅲa	7.0	6.0	2.6	160.0
254	84	打製石斧	F-33	Ⅲa	(8.4)	8.5	1.5	114.0
	85	打製石斧	H-39	Ⅳ	9.1	4.9	(1.2)	60.7
	86	打製石斧	E-35	Ⅲa	(3.9)	6.5	1.4	23.6
255	87	打製石斧	H-32	Ⅲa	(7.5)	(5.7)	1.6	73.4
	88	打製石斧	E-35	Ⅲb	(5.1)	(8.5)	1.4	59.5
	89	打製石斧	F-38	Ⅲa	(5.3)	(4.7)	1.5	50.6
256	90	打製石斧	D-25	Ⅲa	7.6	7.6	1.5	124.0
	91	打製石斧	D-27	Ⅲa	6.6	3.8	1.1	23.0
	92	打製石斧	E-10	Ⅳa	6.8	5.4	1.3	72.5
257	93	打製石斧	F-34	Ⅲa	(7.2)	6.1	2.0	90.2
	94	打製石斧	E-35	Ⅲa	(7.2)	(6.1)	1.8	101.6
	95	打製石斧	H-34	Ⅲa	(7.2)	(5.8)	2.2	87.5
258	96	打製石斧	H-36	Ⅲb	(9.3)	7.2	2.3	205.0
259	1	石匙	H-34	Ⅲb	11.2	5.7	0.8	32.7
	2	石匙	D-19	Ⅲa	3.0	1.0	0.4	1.0
	3	石匙	G-33	Ⅲb	5.0	2.6	0.7	8.1
	4	石匙	G-36	Ⅲb	7.7	2.8	1.5	24.2
	5	石匙	G-34	Ⅲb	7.0	4.0	0.9	20.7
	6	石匙	G-36	Ⅲb	8.0	2.5	0.7	15.1
	7	石匙	H-34	Ⅲa	7.1	3.5	1.0	17.4
260	8	石匙	E-28	Ⅲb	8.3	4.2	0.7	17.6
	9	石匙	F-43	Ⅲb	5.5	3.0	0.8	12.5
	10	石匙	H-27	Ⅲa	7.3	4.0	1.3	27.0
	11	石匙	E-35	Ⅲa	5.7	2.8	0.7	8.8
	12	石匙	G-39	Ⅲa	5.0	4.0	1.0	18.2
	13	石匙	F-38	Ⅲb	5.5	2.5	0.6	6.2
	14	石匙	C-23	Ⅲa	3.0	2.1	0.5	3.1
	15	石匙	H-38	Ⅳ	4.2	3.2	0.7	4.9

第28表 出土石器観察表 (3)

挿図	番号	器 種	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
261	16	石匙	D-10	Ⅲb	4.6	3.4	0.9	11.8
	17	石匙	H-33	Ⅲa	5.9	3.8	1.0	17.8
	18	石匙	F-30	Ⅲb	6.0	2.6	1.0	13.1
	19	石匙	I-33	Ⅲa	5.5	2.7	0.8	13.2
	20	石匙	G-39	Ⅳ	4.5	2.8	0.7	7.8
	21	石匙	I-34	Ⅲb	5.2	3.4	0.7	13.3
	22	石匙	I-35	Ⅳ	4.8	1.7	0.8	5.7
	23	石匙	G-32	Ⅲb	5.8	3.2	1.3	18.3
	24	石匙	H-31	Ⅲa	5.8	3.5	0.7	14.8
	25	石匙	F-30	Ⅲb	5.9	3.5	1.0	24.1
262	26	石匙	E-32	Ⅲb	5.3	2.5	0.8	8.1
	27	石匙	E-38	Ⅲa	5.2	3.5	1.0	13.7
	28	石匙	G-33	Ⅲb	5.0	2.7	0.8	8.8
	29	石匙	F-19	Ⅲa	5.5	2.5	0.9	7.6
	30	石匙	D-25	Ⅲb	6.8	5.8	1.2	33.2
	31	石匙	D-27	Ⅲb	4.9	1.8	0.8	6.3
263	32	石匙	E-38	Ⅲa	(4.3)	(2.9)	1.0	9.0
	33	石匙	G-34	Ⅲb	5.3	2.2	0.7	6.8
	34	石匙	I-32	Ⅲb	4.8	3.3	1.1	10.2
	35	石匙	E-34	Ⅲa	5.9	3.0	0.6	8.7
	36	石匙	横転4	—	6.1	3.3	1.3	20.1
	37	石匙	H-40	—	4.0	2.3	0.6	5.1
	38	石匙	H-38	Ⅲa	4.9	2.7	0.8	8.3
	39	石匙	E-35	Ⅲa	4.0	3.2	0.8	8.3
264	40	石匙	D-6	Ⅲa	3.9	(4.3)	1.1	13.2
	41	石匙	F-25	Ⅲa	4.1	3.5	0.9	11.7
	42	石匙	H-33	Ⅳ	(4.0)	2.6	0.5	4.5
	43	石匙	F-17	Ⅲa	3.3	2.3	0.8	6.0
	44	石匙	F-38	Ⅳ	4.4	2.2	0.6	6.1
	45	石匙	F-35	I	5.1	3.0	0.8	10.0
	46	石匙	F-39	Ⅲb	5.4	3.6	1.6	22.1
	47	石匙	横転5	—	4.3	3.7	0.4	4.2
265	48	石匙	—	一括	(2.7)	(2.0)	0.8	3.4
	49	石匙	F-34	Ⅲb	5.7	3.5	1.0	14.0
	50	石匙	I-31	Ⅲb	(2.3)	(2.2)	0.4	2.3
	51	石匙	F-35	Ⅳ	(1.8)	(1.8)	0.5	1.2
	52	石匙	G-37	Ⅲa	(1.3)	(1.8)	0.5	1.4
	53	石匙	I-34	Ⅳ	3.4	4.5	0.8	9.7
	54	石匙	F-37	Ⅲb	2.8	(3.0)	0.7	4.8
	55	石匙	F-37	Ⅲ	2.5	4.2	0.8	4.8
	56	石匙	F-28	Ⅲb	2.2	3.2	0.7	4.4
	57	石匙	F-36	Ⅲb	2.8	4.1	0.4	4.4
266	58	石匙	E-36	Ⅲb	2.5	(2.9)	0.6	2.9
	59	石匙	F-36	Ⅲb	3.3	4.0	0.6	6.2
	60	石匙	E-28	Ⅲb	2.7	3.5	0.8	3.6
	61	石匙	H-33	Ⅲb	3.1	4.5	0.7	7.2
	62	石匙	E-39	Ⅲa	2.4	(2.7)	0.6	2.3
	63	石匙	F-37	Ⅲa	2.2	3.5	0.3	3.4
	64	石匙	H-36	Ⅲb	3.7	5.8	1.0	17.0
	65	石匙	F-35	I	3.7	3.9	0.4	5.2
	66	石匙	F-41	Ⅲ	4.1	5.7	1.0	12.4
	67	石匙	F-38	Ⅲa	1.6	(2.5)	0.5	1.1
	68	石匙	G-35	Ⅲb	1.5	1.9	0.4	0.6
	69	石匙	—	—	2.5	6.3	1.0	10.8

第29表 出土石器観察表(4)

採回	番号	器種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
267	70	石匙	G-39	Ⅲa	2.1	3.5	0.4	2.8
	71	石匙	F-38	Ⅲa	2.4	4.9	0.7	5.1
	72	石匙	F-40	Ⅲb	1.8	4.1	0.5	2.6
	73	石匙	E-36	Ⅲa	2.0	4.3	0.4	2.6
	74	石匙	F-39	Ⅳ	1.6	2.6	0.5	1.3
	75	石匙	C-14	Ⅲa	3.1	4.7	0.9	7.2
	76	石匙	E-27	Ⅳ	2.2	3.4	0.7	3.6
	77	石匙	G-39	Ⅲa	2.7	4.8	0.7	6.8
	78	石匙	E-42	Ⅲa	2.0	2.5	0.6	2.0
	79	石匙	I-33	Ⅲa	3.2	4.7	0.9	8.3
	80	石匙	F-40	Ⅲb	3.8	4.5	0.8	8.5
	81	石匙	G-35	Ⅲa	2.6	4.4	0.9	7.1
	268	82	石匙	F-38	Ⅲb	3.5	6.3	0.8
83		石匙	E-10	Ⅲa	2.9	6.7	0.9	12.2
84		石匙	E-38	Ⅳ	3.4	6.0	1.0	11.8
85		石匙	G-31	Ⅲb	2.9	6.4	0.8	10.5
86		石匙	E-26	Ⅲa	3.3	6.1	1.0	15.4
87		石匙	D-25	溝7	1.7	4.7	0.5	2.9
88		石匙	F-30	Ⅲa	7.0	11.9	1.0	52.2
269	89	石匙	D-15	Ⅲb	4.2	8.0	1.3	34.8
	90	石匙	G-33	Ⅲb	6.0	7.1	1.4	41.3
	91	石匙	E-37	Ⅳ	4.1	7.2	0.6	15.8
270	92	石匙	E-36	Ⅲ	3.7	4.7	0.9	13.1
	93	石匙	G-35	Ⅲb	3.6	5.9	1.0	21.8
	94	石匙	E-32	Ⅲb	4.6	5.7	0.7	18.1
	95	石匙	I-32	Ⅲb	4.3	5.4	0.7	18.2
	96	石匙	H-36	Ⅲa	3.7	5.2	1.1	17.2
	97	石匙	F-39	Ⅲa	3.1	4.6	0.7	7.7
	98	石匙	E-26	Ⅲa	5.2	7.0	1.0	20.8
271	99	石匙	G-35	Ⅳ	3.1	5.9	0.6	9.3
	100	石匙	F-18	Ⅲa	3.4	6.0	0.6	8.4
	101	石匙	F-30	Ⅲb	5.6	4.7	1.1	29.6
272	102	石匙	I-33	Ⅲa	7.6	10.7	0.8	53.3
	103	石匙	G-26	Ⅲa	3.0	4.2	0.4	5.3
	104	石匙	F-35	Ⅲa	3.5	3.2	0.8	9.7
	105	石匙	F-36	Ⅳ	3.7	4.1	0.7	12.9
	106	石匙	H-35	Ⅲb	5.0	4.5	0.5	11.7
	107	石匙	F-40	Ⅲb	4.7	3.0	0.7	9.4
	108	石匙	E-30	Ⅲb	4.4	5.6	1.0	25.1
	109	石匙	G-34	Ⅲa	3.2	2.8	0.8	7.5
273	110	石匙	G-28	Ⅲb	(4.8)	(4.4)	1.1	22.1
	111	石匙	H・J-35・36	—	4.3	3.2	0.8	13.2
	112	石匙	E-39	Ⅲa	4.1	3.0	0.6	7.0
	113	石匙	F-36	表	4.1	3.7	0.9	11.6
	114	石匙	E-40	Ⅳ	3.3	(3.2)	0.7	6.1
	115	石匙	G-26	Ⅲb	4.1	3.5	1.3	15.6
	116	石匙	C-19	Ⅲa	3.7	1.9	0.6	6.7
	117	石匙	G-40	Ⅳ	2.4	1.6	0.6	1.6

第30表 出土石器観察表 (5)

挿図	番号	器 種	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
274	1	石槍	I-37	IV	6.5	2.3	0.9	13.3
	1	組合せ式石鋸	H-33	Ⅲb	(2.3)	1.2	0.3	0.9
	1	石鏃	G-35	Ⅲa	(4.6)	(1.8)	0.7	5.7
	2	石鏃	D-23	Ⅲa	(4.4)	1.2	0.5	2.4
	3	石鏃	H-32	Ⅲa	3.1	1.2	0.7	2.5
	4	石鏃	G-33	Ⅲb	(3.0)	1.2	0.8	2.2
	5	石鏃	G-35	Ⅲb	2.9	2.2	0.8	4.3
	6	石鏃	E-40	Ⅲb	2.5	2.2	0.9	3.6
	7	石鏃	H-40	IV	(3.2)	(2.0)	1.0	3.9
	8	石鏃	E-40	V	1.9	2.0	0.7	2.0
	9	石鏃	F-39	Ⅲa	2.0	2.2	0.9	3.5
	10	石鏃	H-38	Ⅲb	2.2	1.9	0.6	2.1
	11	石鏃	G-37	Ⅲb	2.3	1.6	0.6	2.0
275	12	石鏃	F-37	Ⅲb	1.9	1.9	0.8	2.2
	13	石鏃	G-20	IV	2.2	2.0	0.8	2.9
	14	石鏃	E-10	Ⅲa	2.5	(1.7)	0.6	3.2
	15	石鏃	G-33	Ⅲa	2.7	2.2	0.5	2.0
	16	石鏃	F-43	Ⅲb	2.9	(1.7)	0.6	2.2
	17	石鏃	F-43	IV	1.6	1.8	0.5	1.4
	18	石鏃	F-38	Ⅲb	(2.4)	(1.9)	(0.6)	2.2
	19	石鏃	I-36	Ⅲb	2.6	1.6	0.4	1.4
	20	石鏃	F-43	V	(2.0)	(1.5)	0.5	1.0
	21	石鏃	E-10	Ⅲa	2.3	1.9	0.8	2.8
	22	石鏃	E-29	Ⅲa	2.4	1.4	(0.4)	1.2
	23	石鏃	E-36	Ⅲb	1.5	(1.5)	0.4	0.3
	24	石鏃	F-43	V	2.5	1.7	0.6	1.8
	25	石鏃	F-44	Ⅳ	(1.9)	(1.7)	0.4	0.9
	26	石鏃	E-17	Ⅲa	2.1	1.6	0.4	1.4
	27	石鏃	F-36	IV	(1.5)	(1.0)	0.4	0.3
	28	石鏃	E-37	Ⅲb	(2.5)	(1.2)	0.6	1.2
	29	石鏃	I-25	IV	2.4	1.8	0.4	1.1
	30	石鏃	H-38	Ⅲa	(1.7)	(1.5)	0.6	1.1
	31	石鏃	C-7	IVa	(2.1)	(1.3)	0.5	0.9
	32	石鏃	H-35	Ⅲb	1.9	1.3	0.4	0.7
	33	石鏃	E-39	IV	2.2	(1.3)	0.6	1.3
	34	石鏃	H-37	IV	2.4	(1.7)	0.8	2.4
	35	石鏃	H-31	Ⅲb	2.1	1.0	0.4	0.4
	36	石鏃	J-33	Ⅲ	1.5	1.3	0.4	0.5
	37	石鏃	G-35	Ⅲa	1.7	1.7	0.4	1.1
	38	石鏃	H-36	Ⅲa	1.6	(1.2)	0.2	0.4
	39	石鏃	F-43	V	(1.7)	1.4	0.3	0.6
	40	石鏃	D-8	IVa	1.7	(1.4)	0.4	1.0
	41	石鏃	F-32	Ⅲb	1.7	(1.7)	0.5	1.0
	42	石鏃	E-14	IVa	1.7	1.6	0.3	0.6
	43	石鏃	F-42	Ⅲb	1.3	1.2	0.3	0.4
	44	石鏃	C-8	Ⅲa	1.3	1.3	0.3	0.3
	45	石鏃	F-38	Ⅲb	1.9	1.6	0.4	0.9
46	石鏃	—	一括	1.8	1.3	0.5	0.7	
47	石鏃	F-33	Ⅲb	1.4	1.8	0.5	1.1	
48	石鏃	H-38	V	(1.2)	(1.0)	0.4	0.3	
49	石鏃	F-37	Ⅲb	(1.2)	(1.2)	0.3	0.3	
50	石鏃	G-30	IV	(1.3)	(1.2)	0.4	0.5	
51	石鏃	F-44	V	1.4	1.4	0.4	0.5	
52	石鏃	—	—	(1.3)	1.3	0.3	0.3	
53	石鏃	F-47	Ⅳ	(1.6)	1.5	0.3	0.6	
54	石鏃	C-7	Va	(1.3)	1.3	0.5	0.7	

第31表 出土石器観察表(6)

挿図	番号	器 種	出土区	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	
276	55	石鏃	F-34	Ⅲb	(1.2)	(1.7)	0.4	0.7	
	56	石鏃	D-26	Ⅲ	(1.7)	1.5	0.4	0.8	
	57	石鏃	F-36	Ⅲa	(1.3)	1.5	0.5	1.1	
	58	石鏃	E-38	Ⅳ	(1.3)	(1.5)	0.3	0.5	
	59	石鏃	G-36	Ⅲa	(1.4)	1.6	0.4	0.8	
	60	石鏃	G-24	Ⅱ	(1.4)	(1.3)	0.3	0.6	
	61	石鏃	G-29	Ⅳ	(2.0)	1.5	0.6	1.4	
	62	石鏃	E-25	Ⅲa	(1.3)	(1.7)	0.5	0.8	
	63	石鏃	G-39	Ⅳ	(0.8)	1.6	0.3	0.4	
	64	石鏃	H-38	Ⅲb	(1.7)	(1.6)	(0.4)	1.1	
	65	石鏃	C-7	Va	(1.2)	1.4	0.4	0.6	
	66	石鏃	F-38	Ⅲb	(1.8)	(1.4)	0.3	0.7	
	67	石鏃	C-9	Ⅳa	(1.2)	1.3	0.4	0.5	
	68	石鏃	E-34	Ⅲa	(1.9)	2.2	0.5	1.6	
	69	石鏃	H-39	Ⅳ	(1.5)	2.3	0.8	2.0	
	70	石鏃	E-37	Ⅲa	2.3	2.0	0.8	3.9	
	71	石鏃	E-38	Ⅲa	(3.2)	(1.9)	0.6	2.7	
	72	石鏃	E-38	Ⅲb	(2.4)	(2.1)	0.8	4.8	
	73	石鏃	E-43	Ⅲb	(1.6)	1.8	0.5	1.6	
	74	石鏃	—	—	表	2.7	1.9	0.4	1.1
	75	石鏃	G-26	Ⅳ	1.5	(1.7)	0.3	0.5	
	76	石鏃	G-33	V	(1.7)	(1.5)	0.4	0.7	
	77	石鏃	H-22	Ⅳ	(1.7)	1.0	0.3	0.4	
	78	石鏃	D-9	Ⅲa	2.5	1.9	4.0	1.3	
	79	石鏃	F-35	Ⅳ	2.0	(1.5)	0.4	0.8	
	80	石鏃	F-43	Ⅳ	1.5	1.5	0.4	0.6	
	81	石鏃	F-41	Ⅳ	1.4	1.3	0.3	0.4	
82	石鏃	D-25	Ⅲa	1.8	1.6	0.3	0.5		
83	石鏃	E-24	Ⅲa	1.9	1.7	0.3	0.7		
84	石鏃	G-39	V	(2.0)	(1.7)	0.3	0.8		
85	石鏃	E-26	Ⅲa	1.2	1.3	0.3	0.3		
86	石鏃	G-37・40	表	2.0	1.5	0.3	0.7		
87	石鏃	E-25	Ⅲa	(1.7)	(1.2)	0.3	0.4		
88	石鏃	E-24	Ⅲa	1.7	1.5	0.4	0.6		
89	石鏃	E-15	Ⅲa	(1.4)	0.9	0.3	0.3		
90	石鏃	F-44	V	(2.2)	(1.5)	0.4	1.3		
91	石鏃	F-46	Ⅲb	2.0	1.9	0.4	1.2		
92	石鏃	H-21	Ⅲa	1.8	1.5	0.4	0.6		
93	石鏃	F-38	Ⅲa	1.6	(1.2)	0.3	0.8		
94	石鏃	E-26	Ⅲa	2.3	(1.9)	0.4	1.0		
95	石鏃	I-32	Ⅲb	1.7	1.6	0.4	0.5		
96	石鏃	F-44	Ⅴ	1.4	1.4	0.4	0.4		
97	石鏃	E-29	Ⅲa	1.7	(1.4)	0.2	0.4		
98	石鏃	D-27	Ⅲb	1.7	1.7	0.5	0.7		
99	石鏃	F-43	表	1.7	(1.5)	0.4	0.6		
100	石鏃	E・F-39・40	表	(1.6)	1.5	0.6	1.6		
101	石鏃	E-24	Ⅱ	1.7	(1.2)	0.3	0.4		
102	石鏃	G-26	Ⅲa	2.1	1.7	0.3	0.9		
103	石鏃	E-17	Ⅲa	2.0	(1.3)	0.4	0.6		
104	石鏃	I-32	Ⅲb	2.1	1.6	0.5	0.9		
105	石鏃	E-10	—	—	1.1	(0.9)	0.2	0.2	

第32表 出土石器観察表 (7)

挿図	番号	器 種	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
278	106	石鏃	H-30	Ⅲb	1.7	1.4	0.4	0.5
	107	石鏃	G-32	Ⅲb	1.8	1.4	0.5	0.7
	108	石鏃	F-38	Ⅲa	1.9	1.6	0.5	1.1
	109	石鏃	I-32	Ⅲb	1.3	1.1	0.2	0.2
	110	石鏃	G-29	Ⅲb	1.6	1.4	0.4	0.6
	111	石鏃	E-37	Ⅲb	1.7	(2.0)	0.7	1.9
	112	石鏃	H-38	Ⅲb	2.1	2.1	0.5	1.2
	113	石鏃	F-35	Ⅲa	1.5	(1.2)	0.3	0.3
	114	石鏃	D-9	Ⅲa	1.5	(1.4)	0.3	0.4
	115	石鏃	H-37	Ⅲa	1.8	(1.6)	0.3	0.4
	116	石鏃	H-32	Ⅲa	2.5	1.6	0.6	1.7
	117	石鏃	G-28	Ⅲb	1.2	1.2	0.3	0.2
	118	石鏃	F-23	Ⅲa	1.4	1.4	0.3	0.4
	119	石鏃	F-35	Ⅲa	(1.6)	(1.3)	0.4	0.5
	120	石鏃	E-39	Ⅲa	(2.4)	1.9	0.8	2.7
	121	石鏃	E-34	Ⅲa	(0.9)	(1.0)	0.3	0.2
	122	石鏃	D-9	Ⅲb	1.3	1.3	0.4	0.4
	123	石鏃	G-38	Ⅳ	1.5	1.3	0.3	0.5
	124	石鏃	E-33	Ⅲb	1.9	1.6	0.4	0.7
	125	石鏃	F-39	Ⅲa	1.3	(1.1)	0.2	0.1
	126	石鏃	E-16	Ⅲa	1.7	(1.4)	0.3	0.5
	127	石鏃	—	—	(2.1)	1.4	0.4	1.0
	128	石鏃	G-32	Ⅲb	1.9	1.5	0.3	0.5
	129	石鏃	—	I b	(1.7)	1.3	0.3	0.5
	130	石鏃	D-10	Ⅲa	2.2	(1.4)	0.3	0.5
	131	石鏃	F-34	Ⅲa	1.6	(1.2)	0.4	0.5
	132	石鏃	G-32	—	(2.7)	1.5	0.3	0.5
	133	石鏃	F-25	Ⅲa	2.0	(1.3)	0.3	0.5
	134	石鏃	—	表	1.7	(1.5)	0.3	0.5
	135	石鏃	G-32	—	(2.1)	(1.5)	0.3	0.6
	136	石鏃	F-42	Ⅲb	(1.4)	1.6	0.3	0.4
	137	石鏃	H-22	Ⅲa	2.2	(1.3)	0.3	0.5
138	石鏃	C-11	Ⅲa	(2.8)	1.1	0.4	1.4	
139	石鏃	G-22	Ⅳ	(1.7)	(1.3)	0.3	1.1	
140	石鏃	I-35	Ⅲb	2.0	1.7	0.5	1.3	
141	石鏃	D-9	Ⅳa	1.2	0.9	0.3	0.2	
142	石鏃	I-34	Ⅲb	2.6	1.8	0.6	2.2	
143	石鏃	H-33	Ⅲb	1.5	1.6	0.4	0.7	
144	石鏃	D-29	Ⅲb	1.9	1.6	0.4	0.6	
145	石鏃	D-24	Ⅳ	(1.4)	(1.1)	0.3	0.2	
146	石鏃	G-39	V	(1.8)	(1.5)	0.4	0.7	
147	石鏃	G-36	Ⅲb	1.8	1.4	0.4	0.5	
148	石鏃	G-16	Ⅲb	1.8	(1.3)	0.6	0.7	
149	石鏃	E-37	Ⅲb	1.4	1.1	0.3	0.4	
150	石鏃	F-35	Ⅲb	1.3	1.3	0.4	0.7	
151	石鏃	F-36	Ⅲb	1.5	1.5	0.2	0.3	
152	石鏃	E-26	Ⅲb	1.3	1.4	0.3	0.4	
153	石鏃	D-7	Ⅳa	1.2	1.3	0.4	0.3	
154	石鏃	F-35	Ⅲb	1.3	1.8	0.6	0.7	
155	石鏃	E-27	Ⅲb	1.9	(1.2)	0.4	0.5	
156	石鏃	H-34	Ⅳ	2.2	1.5	0.4	0.9	
157	石鏃	G-38	Ⅲb	1.3	1.3	0.3	0.3	
158	石鏃	E-36	Ⅳ	1.8	1.6	0.5	0.7	
159	石鏃	F-19	Ⅳ	2.0	1.7	0.4	1.4	
160	石鏃	D-7	Ⅳa	1.6	1.2	0.4	0.6	
161	石鏃	E-8	Ⅳa	(1.4)	1.4	0.3	0.4	

第33表 出土石器観察表 (8)

挿図	番号	器 種	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
279	162	石鏃	C-9	Ⅲa	2.0	2.1	0.3	0.9
	163	石鏃	G-41	V	2.4	1.9	0.3	0.9
	164	石鏃	D-4	Ⅲb	1.2	1.5	0.3	0.3
	165	石鏃	G-31	表	(1.5)	(1.3)	0.3	0.4
	166	石鏃	C-16	Ⅲa	1.7	1.4	0.4	0.5
	167	石鏃	E-27	Ⅲb	1.7	(1.6)	0.3	0.6
	168	石鏃	—	表	2.0	(1.5)	0.4	0.6
	169	石鏃	G-33	Ⅲa	1.6	(1.0)	0.2	0.3
	170	石鏃	F-43	V	(1.6)	(1.3)	0.3	0.5
	171	石鏃	F-44	V	(2.2)	(1.5)	0.4	1.0
	172	石鏃	F-34	Ⅲa	1.8	(1.6)	0.4	0.8
	173	石鏃	H-29	Ⅲa	1.7	(1.4)	0.3	0.4
	174	石鏃	E-33	Ⅲa	(1.1)	(1.5)	0.3	0.5
	175	石鏃	I-32	Ⅲb	1.7	(1.5)	0.4	0.6
	176	石鏃	D-9	Ⅲa	(1.0)	(1.1)	0.2	0.2
	177	石鏃	F-30	Ⅲb	1.5	(1.0)	0.2	0.2
	178	石鏃	H-35	Ⅳ	1.5	(1.2)	0.2	0.4
	179	石鏃	F-35	Ⅲb	1.6	(1.3)	0.2	0.4
	180	石鏃	C-8	Ⅲa	(1.0)	1.1	0.3	0.2
	280	181	石鏃	F-35	Ⅲa	1.2	(1.0)	0.2
182		石鏃	C-9	Ⅲa	1.2	(1.1)	0.3	0.3
183		石鏃	E-32	Ⅲb	1.6	1.5	0.2	0.3
184		石鏃	F-27	Ⅲb	(1.6)	(1.7)	0.3	0.7
185		石鏃	G-40	Ⅲb	1.4	(1.2)	0.4	0.4
186		石鏃	E-37	Ⅲa	2.2	(1.5)	0.4	1.0
187		石鏃	C-10	Ⅲa	1.3	(1.2)	0.3	0.2
188		石鏃	F-23	Ⅲa	(1.7)	(1.4)	0.4	0.7
189		石鏃	H-33	Ⅲb	(1.4)	(1.3)	0.3	0.3
190		石鏃	E-37	Ⅲ	2.0	(1.7)	0.6	1.3
191		石鏃	G-40	Ⅳ	(2.2)	(1.7)	0.6	2.0
192		石鏃	E-48	V	(1.3)	1.6	0.4	0.6
193		石鏃	F-30	Ⅲb	1.3	(1.2)	0.3	0.4
194		石鏃	F-43	Ⅳ	(2.3)	(1.5)	0.3	0.6
195		石鏃	E-38	Ⅲa	(1.6)	1.6	0.4	0.9
196		石鏃	F-36	Ⅲa	(2.0)	(1.3)	0.3	0.4
197		石鏃	H-25	Ⅲb	(1.5)	(1.2)	0.3	0.3
198		石鏃	G-35	Ⅲa	(1.7)	(1.0)	0.3	0.4
199		石鏃	E-24	Ⅱ	(1.8)	(1.7)	0.3	0.6
200		石鏃	F-44	V	(2.2)	(2.4)	0.4	0.7
201	石鏃	E-38	Ⅲb	1.9	(1.1)	0.3	0.2	
202	石鏃	E-36	Ⅲb	(1.8)	(1.1)	0.3	0.5	
203	石鏃	G-37	Ⅲb	2.1	(1.4)	0.3	0.8	
204	石鏃	F-43	V	(2.1)	(1.2)	0.4	0.8	
205	石鏃	F-43	V	2.3	(1.6)	0.4	1.0	
206	石鏃	F-43	Ⅳ	(1.9)	(1.3)	0.3	0.5	
207	石鏃	E-28	Ⅲb	1.1	1.6	0.3	0.5	
208	石鏃	F-37	Ⅲb	(1.8)	(1.6)	0.3	0.7	
209	石鏃	G-34	Ⅲb	1.4	(1.4)	0.3	0.4	
210	石鏃	D-7	Ⅳa	2.3	(1.4)	0.6	1.5	
211	石鏃	E-47	V	(1.7)	(1.1)	0.3	0.4	
212	石鏃	H-39	V	(1.6)	2.2	0.6	1.7	
213	石鏃	G-27	Ⅲa	(1.5)	1.4	0.4	0.8	
214	石鏃	D-6	Ⅳa	(2.0)	1.8	0.4	0.9	
215	石鏃	H-31	Ⅲb	(1.6)	(1.7)	(0.4)	0.9	
216	石鏃	D-9	Ⅳb	(1.7)	(1.9)	0.5	1.1	
217	石鏃	G-32	Ⅲb	(1.7)	(1.2)	0.4	0.5	
218	石鏃	F-32	Ⅲ	(1.7)	1.8	0.4	0.9	
219	石鏃	E-9	Ⅳa	(1.6)	(1.1)	0.2	0.3	
220	石鏃	G-40	Ⅲb	(1.5)	2.2	0.4	1.1	

第34表 出土石器観察表 (9)

挿図	番号	器 種	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
281	221	石鏃	E-37	Ⅲb	(1.9)	(1.3)	0.4	0.8
	222	石鏃	C-8	Ⅳb	(1.7)	(1.7)	0.5	1.3
	223	石鏃	I-27	Ⅳ	(1.5)	1.9	0.3	0.5
	224	石鏃	F-33	Ⅲb	(1.5)	2.2	0.6	1.3
	225	石鏃	G-26	Ⅲb	(1.3)	1.5	0.3	0.4
	226	石鏃	I-35	Ⅳ	(1.3)	1.7	0.3	0.7
	227	石鏃	H-32	Ⅲb	(1.3)	(1.4)	0.3	0.6
	228	石鏃	I-36	Ⅳa	(1.2)	(0.9)	0.2	0.2
	229	石鏃	D-31	Ⅳ	(1.0)	1.4	0.3	0.8
	230	石鏃	H-32	Ⅲb	(1.3)	(1.3)	0.3	0.5
	231	石鏃	F-28	Ⅲb	3.3	2.1	0.4	1.7
	232	石鏃	G-32	—	(2.6)	(1.6)	0.4	0.8
	233	石鏃	F-43	Ⅳ	(2.5)	2.1	0.4	1.4
282	234	石鏃	I-31	Ⅳ	(2.7)	1.6	0.6	1.5
	235	石鏃	F-16	Ⅲa	(2.3)	1.9	0.3	1.1
	236	石鏃	H-34	Ⅲb	(2.0)	2.2	0.4	1.7
	237	石鏃	F-37	Ⅲb	2.7	(1.9)	0.3	1.0
	238	石鏃	D-6	Ⅳa	(2.5)	1.9	0.6	2.0
	239	石鏃	E-30	Ⅲb	(2.1)	2.3	0.3	1.0
	240	石鏃	J-34	V	(3.3)	(2.3)	0.4	2.6
	241	石鏃	F-28	Ⅲa	3.0	(2.0)	0.4	1.3
	242	石鏃	E-10	Ⅲb	(2.5)	(2.0)	0.3	1.0
	243	石鏃	D-24	V	2.2	1.7	0.4	1.1
	244	石鏃	E-37	Ⅲb	1.9	1.5	0.3	0.6
	245	石鏃	E-40	Ⅲb	1.9	1.6	0.4	0.7
	246	石鏃	E-36	Ⅳ	(1.6)	(1.2)	0.2	0.2
247	石鏃	E-38	Ⅲa	2.2	1.7	0.3	0.7	
248	石鏃	E-36	Ⅲb	1.9	1.5	0.3	0.5	
249	石鏃	E-38	Ⅲb	1.7	1.5	0.3	0.6	
250	石鏃	D-8	Ⅲb	(2.0)	1.7	0.5	1.1	
251	石鏃	E-34	Ⅲa	2.3	2.2	0.4	0.9	
252	石鏃	C-13	Ⅲa	2.9	1.3	0.5	1.6	
253	石鏃	D-16	Ⅲa	(1.8)	1.2	0.3	0.4	
254	石鏃	F-39	Ⅳ	1.7	1.3	0.3	0.4	
283	255	石鏃	H-21	Ⅲa	(2.0)	(1.6)	0.4	0.8
	256	石鏃	E-38	Ⅲa	2.1	1.6	0.4	0.8
	257	石鏃	G-24	Ⅲa	1.5	(1.7)	0.4	0.5
	258	石鏃	F-36	Ⅲb	1.9	1.4	0.4	0.5
	259	石鏃	F-37	Ⅲa	1.9	1.5	0.6	1.2
	260	石鏃	E-38	Ⅲa	2.3	(1.5)	0.5	0.7
	261	石鏃	F-39	Ⅳ	2.3	1.8	0.4	1.0
	262	石鏃	I-32	Ⅲa	2.6	1.7	0.6	1.7
	263	石鏃	E-30	Ⅳ	(2.3)	(1.9)	0.4	1.3
	264	石鏃	E-38	Ⅳ	1.7	1.1	0.3	0.3
	265	石鏃	F-37	Ⅳ	1.8	1.4	0.3	0.4
	266	石鏃	F-28	Ⅲa	1.6	1.5	0.3	0.7
	267	石鏃	F-43・44	表	2.6	2.1	0.5	1.7
268	石鏃	I-32	Ⅳ	2.0	1.5	0.4	0.6	
269	石鏃	E-40	Ⅲb	2.1	(1.6)	0.4	0.7	
270	石鏃	E-37	Ⅲa	1.8	(1.4)	0.4	0.6	
271	石鏃	C-2	—	(1.6)	1.7	0.3	0.6	
272	石鏃	F-44	V	2.1	1.5	0.4	1.1	
273	石鏃	F-29	Ⅲb	1.8	1.7	0.3	0.4	
274	石鏃	F-38	Ⅲb	2.4	1.5	0.4	0.9	
275	石鏃	F-39	Ⅲa	1.8	1.6	0.3	0.5	
276	石鏃	F-37	Ⅲb	1.7	1.4	0.4	0.4	
277	石鏃	D-23	Ⅲa	1.2	1.5	0.3	0.6	
278	石鏃	G-33	Ⅲb	1.6	1.5	0.3	0.4	
279	石鏃	—	I b	(1.9)	1.0	0.2	0.2	
280	石鏃	E-37	Ⅲb	1.3	(1.3)	0.4	0.4	

第35表 出土石器観察表 (10)

採因	番号	器 種	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
283	281	石鏃	G-39	V	(1.4)	(1.5)	0.3	0.4
	282	石鏃	H-38	Ⅲa	1.4	1.5	0.3	0.3
	283	石鏃	F-35	Ⅲa	1.4	1.2	0.3	0.3
	284	石鏃	E-36	Ⅳ	1.3	1.1	0.3	0.3
	285	石鏃	D-26	Ⅲa	1.5	1.3	0.4	0.4
	286	石鏃	E-31	Ⅲb	1.3	1.5	0.3	0.4
	287	石鏃	C-4	Ⅲa	3.9	2.0	0.5	2.2
	288	石鏃	F-25	Ⅲa	2.4	1.8	0.4	1.2
	289	石鏃	I-32	Ⅲb	2.1	(1.5)	0.3	0.6
	290	石鏃	G-20	Ⅳ	(2.2)	1.6	0.4	0.8
284	291	石鏃	G-35	Ⅳ	2.2	1.9	0.4	1.1
	292	石鏃	E-38	Ⅳ	1.9	1.3	0.4	0.7
	293	石鏃	C-6	Ⅳa	2.2	1.8	0.5	1.1
	294	石鏃	F-37	Ⅳ	1.7	1.5	0.3	0.5
	295	石鏃	E-10	住居跡	2.2	1.7	0.3	0.8
	296	石鏃	H-32	Ⅲb	1.7	1.2	0.3	0.4
	297	石鏃	C-7	Ⅳa	1.4	1.2	0.4	0.3
	298	石鏃	I-34	Ⅲb	1.7	1.4	0.3	0.5
	299	石鏃	—	表	(1.7)	1.2	0.3	0.5
	300	石鏃	E-41	Ⅲb	1.6	1.7	0.3	0.6
	301	石鏃	F-40	Ⅲb	1.8	1.6	0.5	0.8
	302	石鏃	G-37	Ⅲb	1.5	1.5	0.3	0.3
	303	石鏃	E-10	Ⅲb	0.1	1.6	0.4	0.6
	304	石鏃	H-35	Ⅲb	1.5	1.3	0.3	0.4
	305	石鏃	D-27	Ⅲa	1.8	1.6	0.4	0.7
	306	石鏃	F-38	Ⅲa	1.6	(1.0)	0.3	0.2
	307	石鏃	E-39	Ⅲa	2.1	1.5	0.4	0.6
	308	石鏃	—	表	(2.3)	1.8	0.4	0.9
	309	石鏃	E-39	Ⅳ	(2.2)	1.7	0.3	0.7
	310	石鏃	I-32	Ⅳ	(1.3)	1.4	0.3	0.4
	311	石鏃	E-36	Ⅲa	2.1	(1.3)	0.3	0.5
	312	石鏃	E-38	Ⅲa	2.2	(1.1)	0.3	0.4
	313	石鏃	D-10	Ⅲa	2.2	(1.4)	0.4	0.7
	314	石鏃	E-38	Ⅲa	1.6	(1.4)	0.3	0.4
	315	石鏃	G-36	Ⅲa	1.5	(1.5)	0.2	0.3
	316	石鏃	H-34	Ⅲb	1.9	(1.5)	0.3	0.5
	317	石鏃	E-40	Ⅳ	1.8	(1.4)	0.3	0.4
	318	石鏃	G-37	Ⅲa	1.9	(1.4)	0.4	0.5
	319	石鏃	—	表	(1.8)	(1.5)	0.3	0.5
	320	石鏃	E-39	Ⅲb	(2.0)	(1.3)	0.3	0.5
321	石鏃	E-17	Ⅲa	2.1	(1.6)	0.3	0.7	
322	石鏃	F-32	Ⅲb	1.6	(1.5)	0.3	0.5	
323	石鏃	E-39	Ⅲb	1.7	1.3	0.3	0.5	
324	石鏃	E-16	Ⅲb	2.2	(1.3)	0.5	0.9	
325	石鏃	E-36	Ⅳ	(2.6)	(1.5)	0.4	0.8	
326	石鏃	E-36	Ⅲb	(1.4)	1.3	0.4	0.6	
327	石鏃	F-37	Ⅲb	(1.6)	1.1	0.4	0.5	
328	石鏃	C-17	Ⅲa	2.0	(1.1)	0.3	0.4	
329	石鏃	G-21	Ⅲa	2.2	(1.5)	0.3	0.6	
330	石鏃	E-43	Ⅳ	(2.6)	(1.2)	0.3	0.9	
331	石鏃	G-32	Ⅲb	1.9	(1.3)	0.3	0.5	
332	石鏃	H-33	Ⅲb	(1.2)	1.4	0.3	0.4	
333	石鏃	E-38	Ⅳ	(1.7)	(1.4)	0.3	0.6	
334	石鏃	D-36	Ⅲa	(2.6)	(1.7)	0.5	1.0	
335	石鏃	I-32	Ⅲb	2.0	(1.4)	0.4	0.9	
336	石鏃	E-39	Ⅳ	2.0	(1.7)	0.4	0.9	
337	石鏃	F-40	Ⅲb	1.5	(1.0)	0.3	0.2	
338	石鏃	E-10	Ⅲb	(1.1)	1.5	0.3	0.3	
339	石鏃	G-31	Ⅲb	(1.7)	(1.3)	0.3	0.5	
340	石鏃	F-35	Ⅲb	1.4	1.4	0.3	0.3	

第36表 出土石器観察表 (11)

挿図	番号	器 種	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
285	341	石鏃	E-38	Ⅲb	1.6	1.4	0.4	0.7
	342	石鏃	D-E-30-35	表	(1.6)	1.2	0.3	0.3
	343	石鏃	E-26	Ⅲa	1.5	1.4	0.2	0.3
	344	石鏃	E-10	Ⅲa	2.0	1.2	0.5	0.8
	345	石鏃	E-41	Ⅲb	1.9	1.8	0.4	0.7
	346	石鏃	G-34	Ⅲa	1.4	(1.4)	0.4	0.4
	347	石鏃	E-33	Ⅲa	2.1	1.5	0.3	0.6
	348	石鏃	F-35	Ⅲb	(1.2)	(1.2)	0.3	0.3
	349	石鏃	E-29	Ⅲa	(1.7)	(1.3)	0.3	0.5
	350	石鏃	E-39	Ⅲ	1.6	(1.3)	0.2	0.3
	351	石鏃	H-33	表	(2.3)	(1.5)	0.3	0.6
	352	石鏃	G-28	Ⅲa	1.7	(1.3)	0.3	0.3
	353	石鏃	E-35	Ⅲb	1.9	(1.5)	0.3	0.5
	354	石鏃	E-40	Ⅲb	2.2	(1.6)	0.3	0.7
	355	石鏃	F-44	V	(2.5)	(1.4)	0.4	0.8
356	石鏃	H-33	Ⅳ	1.7	(1.3)	0.3	0.5	
357	石鏃	E-38	Ⅲb	(2.3)	(1.3)	0.4	0.5	
358	石鏃	E-38	Ⅲa	1.7	(1.5)	0.4	0.5	
359	石鏃	H-37	Ⅳ	2.1	(1.3)	0.4	0.5	
360	石鏃	F-24	Ⅱ	2.0	(1.3)	0.3	0.6	
361	石鏃	F-38	Ⅲa	1.7	(1.3)	0.3	0.4	
362	石鏃	E-38	Ⅲb	2.0	(1.3)	0.3	0.5	
363	石鏃	H-39	V	(2.2)	(1.5)	0.4	0.9	
364	石鏃	E-39	Ⅲb	(2.1)	1.7	0.3	0.8	
365	石鏃	F-38	Ⅳ	(1.7)	(1.3)	0.3	0.4	
366	石鏃	F-39	Ⅲa	(1.7)	(1.5)	(0.3)	0.6	
367	石鏃	G-41	Ⅲb	(2.0)	(1.2)	0.4	0.6	
368	石鏃	I-24	Ⅲb	(2.0)	(1.6)	0.5	0.9	
369	石鏃	F-39	Ⅲa	1.4	(1.4)	0.4	0.4	
370	石鏃	C-9	Ⅳa	(1.3)	1.2	0.3	0.3	
371	石鏃	H-33	Ⅲb	(1.7)	2.0	0.4	1.0	
372	石鏃	F-43	Ⅴ	(1.5)	1.9	0.3	0.7	
373	石鏃	—	表	(1.0)	1.4	0.3	0.3	
374	石鏃	E-26	Ⅲa	(1.9)	(1.5)	0.2	0.4	
375	石鏃	—	表	(1.5)	2.0	0.3	0.9	
376	石鏃	E-17	Ⅳ	(1.4)	1.6	0.3	0.3	
377	石鏃	—	—	(1.4)	1.7	0.5	0.8	
378	石鏃	F-34	Ⅲb	(1.8)	(1.5)	0.4	0.6	
379	石鏃	E-38	Ⅲb	(1.0)	1.9	0.5	0.7	
380	石鏃	G-31	表	2.5	(2.2)	0.3	1.4	
381	石鏃	F-28	Ⅲb	2.6	1.8	0.3	1.0	
382	石鏃	E-17	Ⅲb	2.6	2.0	0.3	1.0	
383	石鏃	F-26	Ⅲa	(2.5)	1.9	0.5	1.2	
384	石鏃	H-32	Ⅲb	(2.7)	1.5	0.4	1.0	
385	石鏃	G-34	V	(2.6)	(2.2)	0.3	1.1	
386	石鏃	C-4	Ⅲa	3.3	(1.6)	0.4	1.2	
387	石鏃	G-28	Ⅲa	2.3	(1.9)	0.3	0.9	
388	石鏃	E-16	Ⅲb	3.3	(2.0)	0.4	1.7	
389	石鏃	F-37	Ⅲa	(2.9)	(2.2)	0.5	1.9	
390	石鏃	F-15	Ⅲa	(2.1)	2.1	0.5	1.7	
391	石鏃	G-37	Ⅲb	(2.3)	2.1	0.4	1.2	
392	石鏃	G-17	Ⅲa	2.6	1.6	0.4	0.7	
393	石鏃	D-29	Ⅲa	1.9	(1.8)	0.4	0.7	
394	石鏃	E-24	Ⅲa	1.6	1.5	0.4	0.5	
395	石鏃	G-34	Ⅲb	1.5	1.5	0.2	0.3	
396	石鏃	I-35	Ⅲa	1.9	1.6	0.3	0.6	
397	石鏃	D-11	Ⅲa	1.9	1.8	0.3	0.6	
398	石鏃	D-9	Ⅲa	1.8	1.4	0.4	0.5	
399	石鏃	D-11	Ⅲb	2.0	1.4	0.3	0.7	
400	石鏃	H-32	Ⅲa	2.5	(1.6)	0.4	0.8	

第37表 出土石器観察表 (12)

挿図	番号	器 種	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
287	401	石鏃	G-37	Ⅲ	2.1	1.4	0.4	0.7	
	402	石鏃	F-38	Ⅳ	1.9	1.6	0.3	0.6	
	403	石鏃	E-34	Ⅲa	1.7	(1.4)	0.4	0.6	
	404	石鏃	E-26	Ⅲa	1.9	2.0	0.3	0.6	
	405	石鏃	F-31	Ⅲa	1.6	(1.0)	0.3	0.4	
	406	石鏃	E-37	Ⅲb	1.4	1.6	0.3	0.3	
	407	石鏃	G-21	Ⅳ	1.8	1.7	0.4	0.6	
	408	石鏃	H-34	Ⅲb	1.8	1.5	0.3	0.5	
	409	石鏃	F-39	Ⅲa	1.7	1.4	0.3	0.5	
	410	石鏃	F-38	Ⅳ	1.7	1.6	0.4	0.8	
	411	石鏃	D-25	Ⅳ	2.0	1.5	0.2	0.6	
	412	石鏃	H-33	Ⅳ	2.3	1.8	0.3	0.9	
	413	石鏃	H-32	Ⅳ	1.7	1.3	0.3	0.4	
	414	石鏃	G-38	Ⅲb	1.9	1.7	0.5	0.7	
	415	石鏃	G-35	Ⅲb	1.7	1.8	0.3	0.4	
	416	石鏃	G-35	Ⅳ	2.1	1.6	0.4	0.8	
	417	石鏃	E-28	Ⅲa	1.8	1.4	0.2	0.3	
	418	石鏃	F-43	Ⅲb	1.8	1.3	0.3	0.4	
	419	石鏃	G-34	Ⅲb	1.6	1.3	0.3	0.3	
	288	420	石鏃	H-35	Ⅲa	1.6	1.8	0.3	0.5
		421	石鏃	F-37	Ⅲb	1.8	1.5	0.4	0.5
		422	石鏃	F-36	Ⅲa	1.5	1.5	0.4	0.5
		423	石鏃	D-9	Ⅲa	1.5	1.7	0.5	1.0
		424	石鏃	H-32	Ⅲb	2.1	1.4	0.3	0.9
		425	石鏃	I-34	Ⅲa	1.5	1.2	0.3	0.3
		426	石鏃	G-33	Ⅲa	1.7	1.4	0.3	0.4
		427	石鏃	—	—	1.4	1.3	0.2	0.2
		428	石鏃	F-35	Ⅲa	1.4	1.1	0.4	0.3
429		石鏃	C-9	Ⅳa	1.2	1.4	0.2	0.2	
430		石鏃	F-25	Ⅲa	(1.3)	(1.4)	0.3	0.4	
431		石鏃	E-34	Ⅲa	(1.7)	1.4	0.3	0.4	
432		石鏃	G-31	Ⅲb	(1.5)	(1.4)	0.4	0.5	
433		石鏃	F-38	Ⅲa	(1.5)	1.4	0.3	0.4	
434		石鏃	F-28	Ⅲb	(1.2)	1.3	0.3	0.3	
435		石鏃	F-38	Ⅲa	(1.9)	1.2	0.4	0.5	
436		石鏃	F-25	Ⅲa	(2.0)	1.5	0.3	0.7	
437		石鏃	F-32	Ⅲa	(1.6)	1.5	0.4	0.5	
438		石鏃	E-37	Ⅲa	(1.9)	1.6	0.4	0.8	
439		石鏃	H-34	Ⅳ	1.9	2.0	0.4	0.8	
440		石鏃	G-32	Ⅲa	1.6	(1.3)	0.3	0.5	
441		石鏃	F-16	Ⅲb	(2.3)	(1.8)	0.7	1.4	
442		石鏃	G-33	Ⅲa	1.7	(1.6)	0.3	0.5	
443		石鏃	F-39	Ⅲa	2.6	(1.5)	0.4	0.8	
444		石鏃	H-38	Ⅲb	1.8	(1.5)	0.3	0.6	
445		石鏃	I-2	Ⅲb	2.3	(1.7)	0.4	0.8	
446		石鏃	F-15	Ⅲa	2.3	(1.5)	0.3	0.8	
447		石鏃	F-37	Ⅳ	1.9	(1.3)	0.3	0.5	
448	石鏃	E-10	Ⅲa	1.8	(1.5)	0.3	0.5		
449	石鏃	F-36	一括	1.7	(1.2)	0.2	0.4		
450	石鏃	F-36	Ⅳ	1.5	1.2	0.3	0.2		
451	石鏃	E-40	Ⅲb	1.5	(1.4)	0.4	0.6		
452	石鏃	—	表	(2.2)	(1.5)	0.4	0.9		
453	石鏃	F-37	Ⅳ	(2.2)	(1.5)	0.5	1.0		
454	石鏃	—	表	(1.3)	(1.3)	0.4	0.5		
455	石鏃	I-34	Ⅲa	1.5	(1.4)	0.3	0.4		
456	石鏃	E-38	Ⅲa	1.8	(1.4)	0.3	0.6		
457	石鏃	F-42	Ⅳ	(1.3)	(1.2)	0.3	0.3		
458	石鏃	F-36	Ⅳ	1.4	(1.1)	0.3	0.3		
459	石鏃	F-35	Ⅲa	0.9	(1.2)	0.3	0.4		
460	石鏃	E-28	Ⅲb	1.7	(1.3)	0.3	0.5		

第38表 出土石器観察表 (13)

挿図	番号	器 種	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
289	461	石鏃	E-38	Ⅲa	1.0	1.2	0.3	0.3
	462	石鏃	D-9	Ⅲa	1.5	(1.3)	0.3	0.2
	463	石鏃	E-28	Ⅲb	1.6	(1.2)	0.3	0.3
	464	石鏃	I-32	Ⅲb	1.5	(1.2)	0.3	0.3
	465	石鏃	G-34	V	(1.3)	(1.3)	0.2	0.3
	466	石鏃	F-37	Ⅲb	1.8	(1.5)	0.3	0.6
	467	石鏃	—	—	(1.8)	(1.3)	0.3	0.4
	468	石鏃	H-34	Ⅲb	2.0	(1.6)	0.4	0.8
	469	石鏃	H-31	Ⅲb	1.5	(1.1)	0.3	0.3
	470	石鏃	G-35	Ⅳ	(2.6)	(1.7)	0.6	1.9
290	471	石鏃	—	表	1.6	(1.4)	0.3	0.4
	472	石鏃	I-33	Ⅲa	(1.3)	1.7	0.2	0.5
	473	石鏃	C-9	Ⅲb	(1.7)	(1.8)	0.4	0.9
	474	石鏃	D-25	Ⅲa	(1.3)	1.7	0.4	0.5
	475	石鏃	—	表	(1.8)	(1.5)	0.4	1.0
	476	石鏃	H-31	Ⅲa	(1.5)	1.9	0.3	0.7
	477	石鏃	E-26	Ⅲa	(1.3)	1.4	0.3	0.5
	478	石鏃	D-7	Ⅲa	(1.7)	1.7	0.4	0.9
	479	石鏃	F-33	Ⅲb	(1.3)	(1.6)	0.3	0.4
	480	石鏃	F-37	Ⅳ	(1.4)	(1.2)	0.4	0.5
	481	石鏃	F-41	V	(2.1)	(1.4)	0.4	0.9
	482	石鏃	E-29	Ⅲb	2.4	(1.3)	0.4	0.8
	483	石鏃	H-40	Ⅳ	2.5	(1.2)	0.4	0.6
	484	石鏃	D-17	Ⅳ	1.4	(1.0)	0.3	0.3
	485	石鏃	F-33	Ⅲb	2.5	(2.0)	0.5	1.6
	486	石鏃	G-21	Ⅳ	3.2	(1.9)	0.3	1.2
	487	石鏃	H-33	V	(3.1)	(2.0)	0.4	1.7
	488	石鏃	F-25	Ⅲa	(3.6)	(2.2)	0.8	4.6
	489	石鏃	E-38	V	(2.6)	(1.9)	0.5	1.8
	490	石鏃	G-33	Ⅲb	(2.2)	1.6	0.6	1.5
	491	石鏃	E-26	Ⅲa	(2.5)	(1.4)	(0.5)	1.6
	492	石鏃	I-35	Ⅲb	2.9	(1.6)	0.5	1.7
	493	石鏃	E-43	V	(2.6)	(1.5)	0.4	1.8
	494	石鏃	G-27	Ⅲa	(1.9)	(1.6)	0.4	1.6
	495	石鏃	—	—	1.6	(1.3)	0.3	0.5
	496	石鏃	F-34	Ⅳ	(1.7)	(1.6)	0.4	0.6
	497	石鏃	C-12	Ⅲb	(1.6)	(1.3)	0.3	0.5
	498	石鏃	—	表	(2.0)	(1.3)	0.3	0.5
499	石鏃	E-39	Ⅲb	(1.9)	(1.6)	0.5	1.2	
500	石鏃	F-37	Ⅳ	2.3	(1.2)	0.6	1.1	
501	石鏃	F-35	Ⅲb	(1.2)	(1.1)	0.4	0.4	
502	石鏃	F-38	Ⅲb	(1.6)	(1.3)	0.4	0.6	
503	石鏃	E-39	Ⅲa	(1.6)	(1.4)	0.4	0.5	
504	石鏃	H-33	Ⅳ	(1.3)	(1.4)	0.3	0.3	
505	石鏃	D-7	Ⅲa	(1.4)	(0.9)	0.3	0.2	
291	506	石鏃	E-37	Ⅲb	(1.7)	(0.9)	0.3	0.3
	507	石鏃	E-44	Ⅳ	(1.6)	(1.6)	0.4	0.7
	508	石鏃	G-35	Ⅲb	(1.4)	(1.1)	0.3	0.3
	509	石鏃	C-7	Ⅳb	(1.3)	(1.1)	0.3	0.3
	510	石鏃	E-40	Ⅲa	(1.3)	(1.2)	0.3	0.3
	511	石鏃	H-34	Ⅲb	(1.8)	(1.2)	0.4	0.5
	512	石鏃	G-29	Ⅲb	1.4	(1.3)	0.3	0.4
	514	石鏃	F-27	Ⅲa	1.3	1.0	0.4	0.4
	515	石鏃	F-14	Ⅳb	(1.8)	(1.5)	0.3	0.8
	516	石鏃	C-9	Ⅳb	(1.7)	(1.4)	0.4	1.0
	517	石鏃	E-38	Ⅲa	1.5	0.8	0.3	0.4
	518	石鏃	G-35	Ⅳ	(1.0)	(1.1)	0.3	0.3
	519	石鏃	E-10	Ⅲb	1.9	1.2	0.5	0.8
	520	石鏃	E-26	Ⅲa	(1.8)	1.3	0.4	0.9
	521	石鏃	D-12	Ⅲb	(1.6)	(1.2)	0.3	0.5

第39表 出土石器観察表 (14)

採回	番号	器 種	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
291	522	石鏃	G-28	Ⅲb	2.1	(1.6)	0.4	1.0	
	523	石鏃	H-39	Ⅳa	1.2	1.6	0.5	0.7	
	524	石鏃未製品	E-27	Ⅲb	(2.7)	(1.7)	0.8	2.7	
	525	石鏃未製品	F-39	Ⅲb	(3.2)	2.0	0.8	4.3	
	526	石鏃未製品	E-10	Ⅲa	2.5	1.8	0.8	2.8	
	527	石鏃未製品	G-35	Ⅲb	2.5	(1.8)	0.6	3.2	
	528	石鏃未製品	G-39	Ⅳ	(2.5)	(1.6)	0.4	1.3	
	529	石鏃未製品	F-43	V	(2.2)	(2.9)	0.6	1.6	
	530	石鏃未製品	C-7	Ⅳa	1.9	2.1	0.6	2.0	
	531	石鏃未製品	E-26	Ⅲa	2.6	(1.5)	0.5	1.6	
	532	石鏃未製品	F-43	V	2.2	1.7	0.4	1.4	
	533	石鏃未製品	F-35	Ⅲa	1.9	1.6	0.5	1.3	
	534	石鏃未製品	E-25	Ⅲa	2.0	1.5	0.4	0.9	
	535	石鏃未製品	F-37	Ⅳ	1.8	1.6	0.5	1.1	
	292	536	石鏃未製品	F-29	Ⅲb	1.9	1.3	0.3	0.4
		537	石鏃未製品	I-35	Ⅲb	2.2	1.5	0.4	1.0
		538	石鏃未製品	F-47	Ⅳ	2.0	1.8	0.6	1.7
539		石鏃未製品	E-39	Ⅳ	(1.6)	(1.4)	0.5	0.7	
540		石鏃未製品	F-43	Ⅳ	1.9	(1.3)	0.3	0.5	
541		石鏃未製品	H-36	Ⅳ	2.2	1.5	0.4	0.9	
542		石鏃未製品	G-34	Ⅲb	1.9	1.3	0.3	0.6	
543		石鏃未製品	E-37	Ⅲb	1.5	1.3	0.2	0.5	
544		石鏃未製品	E-40	Ⅲb	(1.8)	(1.2)	0.3	0.6	
545		石鏃未製品	E-38	Ⅲb	(2.0)	(1.2)	(0.3)	0.4	
546		石鏃未製品	E-26	Ⅲa	(1.3)	1.7	0.3	0.8	
547		石鏃未製品	G-32	Ⅲb	1.9	1.0	0.3	0.4	
548		石鏃未製品	G-31	Ⅲb	(2.0)	(1.9)	(0.5)	1.1	
549		石鏃未製品	J-32	Ⅳ	1.4	1.3	0.4	0.6	
550		石鏃未製品	F-29	Ⅲb	(2.4)	(1.3)	(0.3)	0.7	
551		石鏃未製品	F-43	Ⅳ	(1.5)	(1.5)	0.3	0.6	
552		石鏃未製品	F-29	Ⅲb	(1.5)	1.3	0.3	0.7	
553	石鏃未製品	F-29	Ⅲb	1.3	(1.3)	0.3	0.3		
554	石鏃未製品	E-37	Ⅲa	1.2	1.4	0.4	0.8		
293	555	石鏃未製品	D-25	Ⅲa	(1.9)	(1.5)	0.4	0.7	
	556	石鏃未製品	D-9	Ⅲb	2.2	(1.8)	0.2	0.7	
	557	石鏃未製品	G-28	Ⅲb	(2.5)	(1.2)	0.3	0.9	
	558	石鏃未製品	F-37	Ⅲb	2.0	(1.7)	0.6	1.2	
	559	石鏃未製品	H-37	Ⅲb	(2.1)	(1.4)	0.4	0.8	
	560	石鏃未製品	G-31	Ⅲb	2.3	(1.5)	0.5	1.1	
	561	石鏃未製品	I-32	Ⅲa	1.4	1.3	0.2	0.3	

第40表 出土石器観察表 (15)

挿図	番号	器 種	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
294	1	掻器	G-37	Ⅲb	5.5	5.9	1.3	42.7
	2	掻器	G-36	Ⅲb	4.7	6.6	1.7	39.7
	3	掻器	E-9	Ⅲb	4.0	5.2	1.5	29.8
	4	掻器	H-33	Ⅲb	3.0	5.0	1.3	20.5
	5	掻器	F-21	Ⅲa	2.3	4.2	1.1	12.4
295	6	掻器	F-18	Ⅲb	3.4	2.9	1.2	9.0
	7	掻器	F-37	Ⅳ	4.0	3.4	1.0	13.0
	8	掻器	E-40	Ⅲb	1.8	1.9	0.6	2.3
	9	掻器	H-33	Ⅲa	3.8	4.0	0.7	14.3
	10	掻器	H-33	Ⅲb	3.8	3.7	1.4	17.9
	11	掻器	D-10	Ⅲa	5.0	3.6	1.6	21.3
	12	掻器	F-25	Ⅲa	3.6	3.5	1.0	9.8
	13	掻器	F-43	Ⅳ	2.8	3.2	1.1	10.2
	14	掻器	E-37	Ⅳ	(1.8)	1.3	0.7	1.4
	296	15	掻器	G-18	Ⅲb	2.3	3.2	0.9
16		掻器	E-10	Ⅲb	2.1	2.0	0.8	2.8
17		掻器	G-33	Ⅲb	2.6	3.6	1.1	10.7
18		掻器	J-33	Ⅲb	2.6	2.1	0.7	3.5
19		掻器	G-36	Ⅲb	3.6	4.2	0.9	10.6
20		掻器	G-29	Ⅲb	3.0	4.3	0.4	9.8
21		掻器	D-7	Ⅲb	3.4	4.3	0.9	14.2
22		掻器	F-41	V	3.2	3.0	1.4	13.8
23		掻器	H-25	Ⅲa	4.9	5.9	2.0	49.1
24		掻器	D-11	Ⅲa	4.9	5.3	1.4	46.0
297	25	掻器	G-31	Ⅲb	4.1	6.5	0.9	28.8
	26	掻器	D-11	Ⅲb	2.4	5.5	0.9	10.5
	27	掻器	F-17	Ⅲb	4.4	2.7	1.2	15.5
298	28	掻器	G-35	Ⅳ	2.3	4.0	0.8	8.0
	29	掻器	H-39	Ⅴa	(1.8)	2.1	0.7	2.2
	30	掻器	F-40	Ⅲb	2.7	2.0	0.5	5.0
	31	掻器	F-40	V	2.0	2.1	0.8	2.3
	32	掻器	F-30	Ⅲb	7.1	4.8	1.1	31.5
	33	掻器	G-33	Ⅳb	(2.4)	1.9	0.5	1.9
	34	掻器	G-40	Ⅲa	1.3	1.8	0.2	0.6
	35	掻器	G-34	Ⅳ	(1.8)	(2.3)	0.4	1.9
	1	彫器	D-12	Ⅲa	4.2	1.6	1.1	5.2
		2	彫器	E-37	Ⅲa	3.5	1.4	0.6
299	1	削器	E-27	Ⅲa	12.4	12.6	4.1	525.0
300	2	削器	F-19	Ⅳ	9.8	13.5	2.5	370.0
301	3	削器	D-16	Ⅲb	11.0	10.7	2.1	240.0
302	4	削器	H-33	Ⅳ	8.3	5.8	0.9	30.0
	5	削器	I-32	Ⅳ	8.1	6.6	1.6	54.4
303	6	削器	F-35	Ⅲb	6.3	7.0	2.0	91.5
	7	削器	F-33	Ⅲb	6.2	5.8	1.9	80.4
	8	削器	F-40	Ⅲa	5.6	5.7	2.1	40.0
304	9	削器	G-33	Ⅲb	5.3	5.4	1.3	30.6
	10	削器	G-37	Ⅲa	3.2	6.3	1.3	29.7
	11	削器	H-25	Ⅲb	7.5	4.7	1.2	44.9
	12	削器	G-39	Ⅲb	4.9	5.8	1.7	37.4
305	13	削器	D-11	横転	5.7	5.1	1.1	40.8
	14	削器	E-38	Ⅲb	5.2	4.9	1.2	38.6
	15	削器	D-25	Ⅲa	4.7	5.8	1.3	29.7
306	16	削器	D-12	—	4.0	5.3	1.6	37.3
	17	削器	G-20	Ⅳ	5.0	3.4	1.3	23.6
	18	削器	F-36	Ⅳ	(3.5)	3.1	1.0	10.7
	19	削器	F-39	Ⅲa	3.6	2.3	1.3	9.3
	20	削器	H-29	Ⅲb	5.0	3.2	1.0	9.5
	21	削器	H-39	Ⅴa	3.3	2.9	1.7	17.8
	22	削器	E-37	Ⅲa	2.5	3.0	1.2	8.7

第41表 出土石器観察表 (16)

挿図	番号	器 種	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
307	23	削器	E-35	Ⅲa	6.9	3.7	0.9	21.6
	24	削器	F-38	Ⅳ	5.5	2.7	0.7	15.1
	25	削器	G-33	Ⅲb	5.7	3.3	1.2	16.1
	26	削器	H-34	Ⅲb	4.1	3.5	0.8	12.0
	27	削器	H-36	Ⅲb	4.5	3.9	1.2	18.1
	28	削器	G-31	Ⅲb	5.1	1.8	1.0	6.4
	29	削器	H-31	Ⅳ	4.9	2.9	1.1	16.6
	30	削器	E-47	V	5.3	2.6	1.0	11.0
	31	削器	C-20	Ⅱ	7.2	3.9	0.9	24.6
	32	削器	G-31	Ⅲb	6.8	2.8	1.1	15.6
33	削器	E-27	Ⅲb	5.1	4.6	0.7	12.6	
34	削器	C-11	Ⅲb	4.5	1.9	1.6	11.8	
35	削器	D-6	Ⅲb	5.1	5.7	1.1	21.1	
36	削器	D-25	Ⅱ	4.7	2.1	1.2	11.1	
37	削器	D-9	Ⅲa	4.9	2.3	1.0	9.3	
38	削器	F-38	Ⅲa	4.3	1.6	0.7	4.1	
39	削器	D-11	Ⅲa	5.5	2.0	0.8	9.2	
40	削器	I-30	Ⅲb	4.0	2.2	0.8	6.7	
41	削器	H-32	Ⅲa	4.0	1.6	0.6	3.1	
42	削器	G-32	Ⅳ	2.8	1.7	0.4	1.9	
43	削器	F-37	Ⅲa	4.1	2.0	0.8	5.7	
44	削器	F-38	Ⅲb	(5.0)	3.6	0.6	11.7	
45	削器	G-36	Ⅲa	3.8	3.0	1.0	13.4	
46	削器	E-38	Ⅲa	(4.3)	4.0	1.2	21.4	
47	削器	H-27	Ⅲb	3.8	3.2	0.9	8.0	
48	削器	E-11	Ⅲb	4.8	5.5	0.8	19.2	
49	削器	F-38	Ⅲb	4.1	2.4	1.1	7.6	
50	削器	D-6	Ⅲa	4.7	2.9	1.5	15.1	
51	削器	—	—	表	4.5	4.2	0.5	11.6
52	削器	G-29	Ⅲb	5.4	4.5	0.8	14.0	
53	削器	E-32	Ⅲa	4.1	3.6	1.0	14.3	
54	削器	F-35	Ⅲa	(4.3)	3.8	1.0	14.5	
55	削器	H-35	Ⅲb	3.2	3.2	0.8	7.5	
56	削器	D-7	Ⅲa	5.4	3.0	1.4	17.4	
57	削器	E-36	Ⅲb	4.1	1.8	0.9	4.8	
58	削器	I-35	Ⅲb	4.3	2.2	0.8	6.9	
59	削器	E-39	Ⅲb	4.4	2.1	0.5	4.6	
60	削器	E-37	Ⅲa	3.6	2.5	0.6	6.1	
61	削器	G-35	Ⅲb	(3.5)	2.2	0.4	5.0	
62	削器	H-33	Ⅲb	(2.7)	2.0	0.8	4.5	
63	削器	I-36	Ⅳ	4.0	3.0	0.7	9.6	
64	削器	I-25	Ⅳ	(3.8)	(2.0)	0.8	5.3	
65	削器	F-40	Ⅲa	2.6	2.0	0.5	3.3	
66	削器	G-33	Ⅲb	2.4	1.6	0.4	1.7	
67	削器	E-41	Ⅲb	2.1	1.7	0.3	2.1	
68	削器	E-39	Ⅳ	(1.5)	(1.6)	0.4	1.1	
69	削器	C-6	Ⅲa	4.9	3.5	1.3	20.6	
70	削器	G-37	Ⅲb	3.2	3.0	0.7	5.3	
71	削器	F-38	Ⅳ	4.4	3.8	0.9	16.1	
72	削器	I-35	Ⅲa	2.3	2.8	0.7	4.3	
73	削器	I-34	Ⅳ	2.2	2.3	0.5	2.3	
74	削器	D-8	Ⅳa	4.8	3.0	1.1	15.0	
75	削器	F-40	Ⅳ	2.6	1.6	0.5	2.6	
76	削器	I-35	Ⅲb	(4.6)	3.2	0.6	5.6	
77	削器	E-38	Ⅲb	2.2	1.7	0.6	1.7	
78	削器	D-15	Ⅲb	5.2	8.2	1.1	45.8	
79	削器	G-36	Ⅲb	3.9	6.0	1.3	28.7	
80	削器	E-29	Ⅲb	4.7	6.8	1.0	36.0	
81	削器	H-36	Ⅳ	4.1	(5.8)	0.5	12.9	

第42表 出土石器観察表 (17)

挿図	番号	器 種	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
314	82	削器	H-26	Ⅲb	5.5	4.4	1.2	35.7	
	83	削器	H-39	V	2.9	2.7	0.7	5.6	
	84	削器	H-32	Ⅲb	4.8	5.2	0.9	18.2	
	85	削器	H-37	V	3.1	1.8	0.7	5.0	
	86	削器	E-34	Ⅲa	3.9	4.8	0.7	12.8	
	87	削器	F-39	Ⅳa	2.2	2.9	0.3	2.4	
	88	削器	H-33	Ⅲb	(2.9)	(4.7)	1.0	10.2	
	89	削器	E-40	Ⅲb	1.9	2.9	0.9	4.9	
	90	削器	H-31	Ⅲb	3.6	3.7	1.2	13.8	
315	91	削器	H-36	Ⅳ	(3.5)	(2.9)	0.6	6.7	
	92	削器	G-38	Ⅲb	(3.3)	4.9	1.4	23.1	
	93	削器	H-38	Ⅲb	2.0	1.8	0.4	2.0	
	94	削器	F-38	Ⅲa	4.2	3.5	0.8	16.8	
	95	削器	F-39	Ⅲa	2.1	3.4	0.5	3.9	
	96	削器	D-17	Ⅲa	(1.4)	(2.5)	0.4	1.3	
	97	削器	E-37	V	3.3	3.9	1.4	13.1	
	98	削器	D-8	Ⅳa	2.3	3.6	0.6	4.7	
	99	削器	H-33	Ⅲb	2.7	6.4	1.0	12.1	
316	100	削器	H-33	Ⅲa	0.1	5.0	0.9	10.0	
	101	削器	E-38	Ⅳ	2.1	1.3	0.3	0.9	
	102	削器	E-36	Ⅳ	1.4	2.1	0.5	0.9	
	103	削器	E-34	Ⅲb	3.8	(4.3)	0.8	14.5	
	104	削器	H-37	Ⅳ	1.1	1.5	0.2	0.5	
	105	削器	F-25	Ⅲa	2.3	3.5	0.6	3.9	
	106	削器	H-39	Ⅳ	2.9	2.0	0.5	3.6	
	107	削器	F-36	Ⅲb	2.3	1.7	0.7	3.1	
	108	削器	E-34	Ⅲa	2.3	3.6	1.1	7.2	
	109	削器	H-40	V	(1.6)	(2.2)	0.3	1.0	
317	110	削器	E-17	Ⅳ	6.3	5.2	1.6	35.0	
	111	削器	E-9	Ⅲb	2.7	3.2	0.8	4.5	
	112	削器	G-35	Ⅲb	2.5	2.1	0.7	3.7	
	1	石鏃	G-33	Ⅲb	4.2	2.7	0.7	4.4	
	2	石鏃	G-31	Ⅲb	3.0	2.0	0.6	2.5	
	3	石鏃	G-34	Ⅲb	(3.2)	(1.4)	5.5	2.2	
	4	石鏃	H-32	Ⅲb	2.6	2.1	0.6	2.4	
	5	石鏃	I-34	Ⅲa	(2.7)	2.0	0.6	2.3	
	6	石鏃	F-17	Ⅲa	2.7	1.9	1.1	3.6	
	7	石鏃	E-37	Ⅲb	(3.0)	1.1	0.4	1.0	
	8	石鏃	G-24	Ⅲa	1.9	1.4	0.7	1.4	
	9	石鏃	E-24	Ⅲa	2.4	1.3	0.6	1.6	
	10	石鏃	F-36	Ⅲb	2.8	2.0	0.7	2.9	
	318	11	石鏃	I-33	表	6.4	3.8	1.0	2.5
		12	石鏃	—	表	(5.2)	3.4	1.0	16.6
13		石鏃	F-33	Ⅲb	4.6	3.1	1.2	11.3	
14		石鏃	E-40	Ⅳ	4.5	1.4	1.0	3.3	
15		石鏃	E-28	Ⅲb	3.0	1.2	0.7	2.3	
319		1	石鏃	G-26	Ⅲa	12.0	6.3	2.0	142.0
	2	石鏃	F-37	Ⅲa	(8.9)	(5.0)	1.0	48.2	
	3	石鏃	I-29	Ⅲb	9.2	4.6	(1.7)	66.0	
320	4	石鏃	F-38	Ⅳ	5.4	4.1	1.7	32.0	
	5	石鏃	C-10	Ⅲb	6.4	3.4	1.2	22.4	
	6	石鏃	D-11	Ⅲa	4.6	3.6	1.1	18.0	

第43表 出土石器観察表 (18)

挿図	番号	器 種	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
321	1	楔形石器	G-42	I b	3.8	3.4	1.5	20.7
	2	楔形石器	G-28	Ⅲa	2.3	2.7	1.5	10.6
	3	楔形石器	G-42	I	3.5	4.0	2.2	29.6
	4	楔形石器	F-37	Ⅳ	2.9	2.8	1.3	11.2
	5	楔形石器	F-34	Ⅲa	2.6	2.6	1.8	10.2
	6	楔形石器	G-39	Ⅲb	2.8	2.8	1.5	11.3
	7	楔形石器	E-38	Ⅲa	2.5	2.2	0.9	5.3
	8	楔形石器	F-30	Ⅳ	2.8	(2.0)	0.7	4.3
	9	楔形石器	F-43	V	1.9	2.2	0.7	3.0
	10	楔形石器	E-39	Ⅲb	(2.3)	1.5	0.5	1.9
	11	楔形石器	E-37	Ⅲa	2.0	2.3	0.8	2.9
	12	楔形石器	H-32	Ⅲb	1.9	1.9	0.6	2.2
	13	楔形石器	E-37	Ⅲa	2.1	2.1	1.0	3.7
	14	楔形石器	H-33	Ⅲb	1.8	1.9	0.5	2.0
322	15	楔形石器	E-36	Ⅲa	2.4	2.1	0.7	3.4
	16	楔形石器	E-37	Ⅲb	2.3	1.8	0.9	3.5
	17	楔形石器	F-37	V	2.4	2.0	1.0	4.7
	18	楔形石器	G-37	Ⅲ	1.7	2.1	0.7	2.3
	19	楔形石器	H-36	Ⅲb	2.1	2.3	1.0	4.6
	20	楔形石器	E-35	Ⅲb	2.9	1.8	0.4	2.4
	21	楔形石器	H-33	Ⅲa	2.5	2.0	0.7	4.7
	22	楔形石器	F-39	Ⅲa	2.0	1.7	0.7	2.2
	23	楔形石器	H-36	Ⅲb	2.2	2.0	0.7	3.0
	24	楔形石器	H-38	Ⅲb	2.0	2.1	1.0	3.7
	25	楔形石器	H-36	Ⅳ	1.1	1.5	0.4	0.7
323	1	小型両面調整石器	D-28	Ⅲa	(3.4)	(2.6)	1.0	10.8
	2	小型両面調整石器	—	—	2.0	1.7	0.5	1.6
	3	小型両面調整石器	E-38	Ⅳ	1.4	1.0	0.5	0.7
323	1	石刷	G-36	溝中	5.7	5.1	0.7	31.0
	1	双角状石器	C-4	Ⅲa	13.8	5.2	1.6	141.0
	1	石鎌	E-33	Ⅲa	4.3	7.5	1.4	44.4
324	2	石鎌	F-28	Ⅲb	(6.5)	(3.7)	1.8	49.9
	1	礮器	F-43	Ⅳ	16.0	12.1	3.2	630.0
325	2	礮器	G-21	Ⅲb	15.4	12.0	1.7	380.0
326	3	礮器	F-46	Ⅲa	(11.3)	9.1	2.4	370.0
327	4	礮器	D-15	Ⅲb	13.5	11.4	2.1	420.0
328	5	礮器	H-33	—	(8.9)	(9.5)	1.0	110.0
	6	礮器	H-32	Ⅲa	11.6	7.2	1.3	127.9
329	7	礮器	E-32	Ⅲb	(11.6)	7.9	1.6	185.0
	8	礮器	I-24	Ⅲb	11.0	7.4	1.8	200.0
330	9	礮器	—	V	8.0	6.0	1.2	75.3
	10	礮器	D-20	Ⅲa	(9.2)	(7.4)	3.2	330.0
	11	礮器	H-35	Ⅲa	7.7	6.5	1.9	102.1
331	12	礮器	E-38	Ⅳ	(5.5)	(6.0)	1.7	54.3
	13	礮器	C-17	Ⅲa	(3.8)	(6.7)	1.1	35.0
332	1	異形石器	D-15	溝	6.7	2.8	1.1	5.1
	1	七ヶ孔礮	H-39	V	3.4	1.5	2.1	8.2
333	1	磨製石包丁未製品	E-36	溝	3.4	4.3	0.5	8.3

第44表 出土石器観察表 (19)

挿図	番号	器 種	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
334	1	加工痕・使用痕剥片	H-34	Ⅲb	5.3	7.5	1.4	58.6
	2	加工痕・使用痕剥片	H-38	Ⅳ	9.0	5.0	0.7	17.2
	3	加工痕・使用痕剥片	F-39	Ⅲb	2.7	3.4	0.8	6.4
335	4	加工痕・使用痕剥片	—	表	8.0	4.4	2.3	72.3
	5	加工痕・使用痕剥片	H-29	Ⅲa	7.2	4.6	0.5	18.0
	6	加工痕・使用痕剥片	H-35	Ⅲb	2.9	4.9	1.2	11.1
	7	加工痕・使用痕剥片	G-33	Ⅲb	3.1	6.5	1.9	38.6
336	8	加工痕・使用痕剥片	D-9	Ⅲa	3.9	6.2	1.3	29.2
	9	加工痕・使用痕剥片	E-37	Ⅳ	4.1	5.1	0.9	16.2
	10	加工痕・使用痕剥片	I-35	V	4.6	2.6	0.6	9.4
	11	加工痕・使用痕剥片	E-42	Ⅲa	3.2	2.7	1.5	11.2
	12	加工痕・使用痕剥片	G-23	Ⅲa	4.4	2.9	0.9	12.1
	13	加工痕・使用痕剥片	E-31	Ⅳ	2.7	2.3	1.1	6.7
	14	加工痕・使用痕剥片	D-7	Ⅲa	3.5	3.5	0.7	9.9
	15	加工痕・使用痕剥片	H-31	Ⅲa	2.0	3.6	0.9	5.5
	16	加工痕・使用痕剥片	E-29	Ⅲa	2.2	2.9	0.3	3.4
	17	加工痕・使用痕剥片	I-35	Ⅲb	2.3	2.8	0.7	3.6
	18	加工痕・使用痕剥片	F-26	Ⅲb	(2.3)	(2.7)	0.8	3.5
337	19	加工痕・使用痕剥片	H-39	Ⅳa	1.8	1.8	0.5	1.7
	20	加工痕・使用痕剥片	I-34	Ⅳ	2.3	2.5	0.5	3.4
	21	加工痕・使用痕剥片	E-36	Ⅲ	1.8	2.6	0.6	3.7
	22	加工痕・使用痕剥片	H-39	Ⅳ	(1.7)	(1.5)	0.5	1.4
	23	加工痕・使用痕剥片	E-39	Ⅲb	2.2	1.7	0.5	1.1
	24	加工痕・使用痕剥片	H-38	Ⅳ	(1.9)	(1.9)	0.6	2.2
	25	加工痕・使用痕剥片	H-36	Ⅲb	2.1	2.0	0.4	1.6
	26	加工痕・使用痕剥片	F-24	Ⅱ	1.3	2.3	0.5	1.5
	27	加工痕・使用痕剥片	E-39	Ⅳ	1.9	1.9	0.5	1.6
	28	加工痕・使用痕剥片	H-35	Ⅲa	2.3	2.2	0.7	3.1
	29	加工痕・使用痕剥片	D-7	Ⅲb	2.8	0.9	0.5	1.7
	30	加工痕・使用痕剥片	I-35	Ⅲb	(1.8)	(1.3)	0.4	0.8
	31	加工痕・使用痕剥片	F-41	V	0.9	0.5	0.1	0.1
338	1	石核	E-38	Ⅲb	4.9	1.9	3.6	51.4
	2	石核	G-40	Ⅲb	4.7	3.9	2.5	39.6
	3	石核	C-6	Ⅲb	5.1	3.1	1.6	23.1
	4	石核	F-42	Ⅳ	4.3	2.1	1.4	13.3
	5	石核	E-10	Ⅲb	2.2	2.8	1.2	9.6
	6	石核	E-25	Ⅲa	1.9	2.9	1.3	8.8
	7	石核	F-44	V	2.9	2.7	1.2	6.5
339	8	石核	F-39	Ⅲb	2.5	3.9	3.1	36.5
	9	石核	F-38	Ⅲb	2.3	3.7	2.1	25.7
	10	石核	E-38	Ⅲb	1.8	4.0	2.1	15.6
	11	石核	F-38	Ⅲa	4.8	3.7	4.2	34.2
	12	石核	F-24	Ⅲa	2.2	3.7	1.3	14.0
	13	石核	G-24	Ⅱ	1.5	2.6	1.4	6.5
	14	石核	E-44	V	3.8	3.8	2.7	56.8
340	15	石核	F-39	Ⅲa	4.4	3.8	3.0	71.4
	16	石核	E-29	Ⅲa	2.8	6.0	5.0	84.0
	17	石核	G-39	V	2.4	3.3	3.3	19.7
341	18	石核	H-38	V	4.8	7.0	8.3	315.5
342	19	石核	I-31	Ⅲb	8.6	8.0	5.4	470.0
343	20	石核	F-33	Ⅲb	6.4	6.5	4.0	194.1
344	21	石核	H-37	Ⅲa	3.4	7.2	2.7	50.0
	22	石核	C-13	Ⅲa	3.3	3.4	2.3	28.2

第45表 出土石器観察表 (20)

挿図	番号	器 種	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
345	23	石核	E-26	Ⅲa	2.9	4.8	2.7	90.0
	24	石核	F-41	Ⅲa	3.1	3.5	3.1	31.8
	25	石核	E-23	Ⅳ	3.4	4.3	2.5	36.0
346	26	石核	D-12	Ⅳa	4.8	4.5	5.8	150.0
	27	石核	D-9	Ⅲa	2.7	3.5	2.0	22.4
347	28	石核	F-47	Ⅴ	3.8	4.6	3.2	68.3
	29	石核	H-18	Ⅲa	4.3	3.4	2.1	20.6
	30	石核	D-10	Ⅲa	3.0	4.4	1.9	28.8
	31	石核	G-40	V	2.6	3.3	3.2	35.1
348	32	石核	E-44	V	2.2	2.9	3.2	24.5
	33	石核	C-5	Ⅲb	2.2	3.5	1.7	14.6
	34	石核	G-36	Ⅲb	2.3	2.2	2.7	10.6
349	35	石核	F-37	Ⅳa	1.8	3.2	2.8	17.2
	36	石核	H-33	Ⅲa	2.3	2.9	2.1	15.0
	37	石核	F-44	V	2.5	2.9	2.3	19.0
	38	石核	G-39	Ⅲa	2.4	2.4	2.1	10.1
	39	石核	H-19	Ⅲa	5.9	4.7	2.9	97.8
350	40	石核	F-47	V	2.4	3.6	2.2	29.4
	41	石核	E-39	Ⅲb	3.8	4.4	3.8	67.5
	42	石核	F-33	Ⅲb	1.9	1.7	2.7	8.9
351	43	石核	E-34	Ⅲa	2.5	2.2	2.3	18.9
	44	石核	C-8	Ⅳb	2.5	3.2	3.2	24.9
	45	石核	G-38	Ⅲa	1.8	3.3	1.5	8.5
	46	石核	E-33	Ⅳ	2.6	3.3	1.7	14.8
352	47	石核	D-10	Ⅲa	2.3	2.8	1.8	11.1
	48	石核	E-40	Ⅲb	2.1	4.3	1.7	19.7
	49	石核	F-30	Ⅴ	2.6	2.6	1.6	14.3
	50	石核	E-42	Ⅳ	2.0	3.1	1.7	8.1
	51	石核	G-24	Ⅲa	2.7	3.0	1.8	11.8
353	52	石核	F-40	Ⅳ	1.9	2.8	1.5	7.9
	53	石核	F-31	Ⅲa	2.5	2.4	2.5	16.3
	54	石核	—	表	2.3	1.6	2.0	7.5
	55	石核	D-29	Ⅲa	3.1	6.4	2.4	49.4
354	56	石核	D-8	Ⅲa	5.0	4.1	3.9	108.7
	57	石核	D-7	Ⅲb	2.2	3.6	1.5	11.8
	58	石核	E-41	Ⅲb	2.1	3.6	1.3	13.8
	59	石核	F-41	Ⅲb	2.5	3.6	1.9	20.7
	60	石核	E-37	Ⅲa	2.1	3.3	1.8	16.4
	61	石核	D-9	Ⅳa	3.3	3.1	1.6	21.0
	62	石核	F-40	V	(2.3)	(3.1)	(1.8)	14.6
	63	石核	F-35	Ⅲb	1.6	2.6	2.2	10.8
	64	石核	F-37	Ⅲa	2.5	2.1	1.8	11.4
	65	石核	F-39	Ⅲa	2.7	6.4	2.4	46.5
355	66	石核	E-37	Ⅲa	2.7	3.7	2.9	26.1
	67	石核	F-35	Ⅳ	1.8	2.3	1.1	4.6
	68	石核	D-7	Ⅲb	2.0	3.5	1.3	10.3
	69	石核	F-40	V	1.8	3.5	2.1	9.7
	70	石核	C-9	Ⅲa	1.9	2.4	1.1	5.9
356	71	石核	F-39	Ⅲa	4.9	5.2	3.2	104.8
	72	石核	D-6	Ⅲb	2.6	3.6	1.6	14.8
	73	石核	H-30	V	2.2	2.4	2.2	13.9
	74	石核	E-44	V	2.1	3.1	2.2	22.4
	75	石核	F-44	V	2.4	4.6	2.7	33.4
	76	石核	E-38	Ⅲb	3.8	4.2	2.0	39.1
	77	石核	C-9	Ⅲa	3.1	4.4	2.7	31.1

第46表 出土石器観察表 (21)

挿図	番号	器 種	出土区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)
357	78	石核	E-32	Ⅲb	2.1	3.4	3.6	36.0
	79	石核	E-39	Ⅲa	4.4	4.7	3.2	60.0
	80	石核	H-38	V	3.2	3.6	2.3	27.8
358	81	石核	F-37	Ⅲa	3.7	2.9	2.1	22.4
	82	石核	F-37	Ⅲb	2.9	3.5	2.4	21.8
	83	石核	F-30	Ⅵ	2.0	3.2	1.2	8.2
	84	石核	F-35	Ⅴa	2.7	2.5	1.5	9.4
359	85	石核	E-40	Ⅲb	2.3	5.1	2.3	35.5
	86	石核	G-43	Ⅴa	3.4	2.7	1.9	22.2
	87	石核	F-38	Ⅲa	2.1	3.0	1.7	12.5
	88	石核	D-25	Ⅲa	2.2	3.3	0.9	9.1
	89	石核	E-28	Ⅲb	1.6	2.0	1.8	5.5
360	90	石核	E-38	Ⅲa	6.6	4.9	2.8	90.0
	91	石核	E-8	Ⅲb	3.4	2.9	1.8	18.1
	92	石核	D-25	Ⅲb	3.7	3.6	1.5	25.4
	93	石核	F-33	Ⅲa	2.3	3.1	1.6	10.1
	94	石核	E-14	Ⅲa	3.3	2.3	1.4	10.1
	95	石核	E-47	Ⅲb	3.4	3.3	2.0	22.1
	96	石核	D-9	Ⅲb	2.9	3.0	1.5	11.7
	97	石核	D-8	Ⅲb	5.1	4.7	1.7	41.1
	98	石核	D-25	Ⅲa	4.5	3.7	2.1	29.7
	99	石核	D-8	Ⅲa	5.4	3.3	2.1	30.3
361	100	石核	D-7	Ⅲa	3.8	3.0	2.1	23.3
	101	石核	E-41	Ⅲb	3.4	3.5	2.1	23.1
362	1	三角埴形石製品	—	—	9.9	5.6	6.4	450.0

第47表 出土石器観察表(22)

揮図	番号	器種	出土区	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
369	1	砥石	E-36	Ⅲa	安山岩	9.5	5.0	3.0	2100	
	2	砥石	G-35	Ⅲa	安山岩	9.0	3.4	2.3	135.0	
	3	砥石	E-28	Ⅲb	安山岩	7.8	8.9	4.5	451.0	
	4	砥石	F-38	Ⅲb	安山岩	9.4	4.7	2.7	162.0	
	5	砥石	F-27	Ⅲa	粘板岩	5.1	2.8	0.5	12.3	
	6	砥石	J-33	Ⅲa	頁岩	1.9	2.5	0.4	2.8	提砥
370	1	石皿	E-34	Ⅲa	安山岩	22.8	15.8	6.5	2600	
	2	石皿	H-20	Ⅲa	砂岩	18.3	10.0	6.2	1200	
	3	石皿	F-34	Ⅲa	安山岩	22.1	24.6	6.7	4800	
	4	石皿	F-31	Ⅲa	砂岩	15.7	13.0	3.5	800.0	
	5	石皿	E-17	Ⅲb	砂岩	16.2	10.0	4.8	1000	
	6	石皿	G-34	Ⅲb	安山岩	16.3	9.6	4.5	1400	
371	7	石皿	C-7	Ⅲb	砂岩	44.7	25.6	15.5	31700	定形
	8	石皿	F-28	Ⅲb	安山岩	26.6	23.5	4.7	4600	
372	9	石皿	H-34	Ⅲb	安山岩	27.6	39.8	10.9	14200	
	10	石皿	H-36	Ⅲb	安山岩	33.0	30.7	8.5	11400	
373	11	石皿	G-33	Ⅲb	安山岩	30.4	39.0	5.3	10400	
	12	石皿	G-35	Ⅲb	安山岩	38.0	26.1	10.2	10600	
	13	石皿	E-29	Ⅲb	安山岩	12.4	10.1	4.2	780	
	14	石皿	G-37	Ⅲb	安山岩	28.3	32.0	4.4	5400	定形
374	15	石皿	I-33	Ⅲb	安山岩	41.8	21.7	5.1	7200	
	16	石皿	G-31	Ⅲb	安山岩	20.1	20.0	4.6	2310	
	17	石皿	H-36	Ⅲb	安山岩	35.0	19.5	10.0	8200	
375	18	石皿	G-34	Ⅲb	安山岩	24.8	17.6	6.5	4800	
	19	台石	G-37	Ⅲb	安山岩	24.1	17.5	13.5	7600	
376	20	石皿	G-36	Ⅲb	安山岩	25.6	23.0	4.7	3895	
	21	石皿	H-34	Ⅲb	安山岩	25.7	20.4	5.8	4800	
	22	石皿	H-36	Ⅲb	安山岩	29.3	25.0	4.5	4400	
	23	台石	G-35	Ⅳ	安山岩	20.3	10.8	8.4	2600	
377	24	石皿	E-27	Ⅳ	砂岩	55.0	35.0	9.0	20400	
378	1	磨石	G-37	Ⅱ	砂岩	8.5	7.0	3.8	305.5	
	2	磨石	F-34	Ⅲa	砂岩	10.2	7.5	3.9	466.0	
	3	磨石	I-33	Ⅲa	安山岩	11.0	7.7	4.7	590.0	
	4	磨石	E-9	Ⅲa	砂岩	8.9	4.9	3.5	206.0	
	5	磨石	F-34	Ⅲa	砂岩	10.5	9.6	4.5	172.0	
	6	磨石	F-38	Ⅲa	安山岩	6.3	5.1	2.7	136.0	
	7	磨石	E-38	Ⅲa	安山岩	8.1	7.1	2.1	220.0	
	8	磨石	F-39	Ⅲa	安山岩	11.0	7.0	4.2	492.0	
379	9	磨石	F-38	Ⅲa	安山岩	11.0	8.0	5.2	670.0	
	10	磨石	G-36	Ⅲa	安山岩	6.9	5.4	3.4	191.0	
	11	磨石	F-40	Ⅲa	砂岩	8.0	7.0	3.5	309.0	
	12	磨石	E-10	Ⅲa	砂岩	9.2	7.4	3.5	340.0	
	13	磨石	E-37	Ⅲa	安山岩	6.8	5.2	2.7	121.0	
	14	磨石	F-34	Ⅲa	安山岩	10.8	9.4	4.2	690.0	
	15	磨石	G-38	Ⅲa	砂岩	9.8	9.4	5.5	805.0	
	16	磨石	F-39	Ⅲa	安山岩	6.2	4.7	2.8	110.1	
380	17	磨石	E-39	Ⅲa	安山岩	10.8	5.3	3.8	265.0	
	18	磨石	E-37	Ⅲa	安山岩	5.5	5.3	3.3	139.0	
	19	磨石	F-39	Ⅲa	安山岩	7.7	5.7	3.2	193.0	
	20	磨石	G-36	Ⅲa	安山岩	10.4	8.1	4.8	595.0	
	21	磨石	F-37	Ⅲ	安山岩	11.7	8.9	4.6	660.0	
	22	磨石	G-25	Ⅲa	砂岩	4.1	3.8	2.9	66.8	
	23	磨石	H-39	Ⅲa	安山岩	9.2	8.0	2.7	310.0	
	24	磨石	I-34	Ⅲa	安山岩	9.0	7.2	4.0	376.0	
381	25	磨石	E-39	Ⅲa	安山岩	7.0	5.5	4.7	219.0	
	26	磨石	F-35	Ⅲa	砂岩	9.6	8.9	3.9	550.0	
	27	磨石	E-37	Ⅲb	安山岩	8.0	5.2	3.9	222.0	
	28	磨石	E-36	Ⅲb	安山岩	9.9	7.7	3.1	361.0	
	29	磨石	E-36	Ⅲb	安山岩	14.4	7.9	4.0	641.0	
	30	磨石	H-31	Ⅲb	安山岩	11.8	9.8	4.3	825.0	
	31	磨石	E-34	Ⅲb	安山岩	9.2	3.8	2.8	144.0	
	32	磨石	E-27	Ⅲb	安山岩	11.3	8.1	3.1	420.0	

第48表 出土石器観察表 (23)

揮回	番号	器種	出土区	層位	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
382	33	磨石	H-34	Ⅲb	安山岩	10.1	9.6	5.8	795.0	
	34	磨石	F-39	Ⅲb	砂岩	5.7	5.5	3.4	155.0	
	35	磨石	F-39	Ⅲb	安山岩	6.8	5.4	4.0	171.0	
	36	磨石	E-39	Ⅲb	安山岩	12.5	8.1	6.5	710.0	
	37	磨石	G-25	Ⅲb	安山岩	14.3	9.7	7.0	1474.0	
	38	磨石	F-30	Ⅲb	砂岩	6.8	5.2	2.5	121.0	
	39	磨石	G-25	Ⅲb	安山岩	9.5	6.7	3.6	384.0	
	40	磨石	G-32	Ⅲb	安山岩	11.1	9.7	5.0	828.0	
	41	磨石	F-38	Ⅲb	砂岩	7.3	5.1	3.2	161.0	
383	42	磨石	D-28	Ⅲb	安山岩	11.3	10.5	5.5	897.0	
	43	磨石	G-20	Ⅲb	安山岩	10.2	8.4	4.1	538.0	
	44	磨石	F-33	Ⅲb	安山岩	14.0	11.8	3.8	705.0	
	45	磨石	F-40	Ⅲb	安山岩	12.7	10.1	5.7	959.0	
384	46	磨石	E-28	Ⅲb	砂岩	9.7	8.6	4.4	555.0	
	47	磨石	J-33	Ⅲb	安山岩	9.5	9.3	6.2	855.0	
	48	磨石	E-28	Ⅲb	安山岩	8.7	7.5	4.5	590.0	
	49	磨石	I-34	Ⅲb	安山岩	10.8	7.7	5.4	664.0	
385	50	磨石	E-28	Ⅲb	砂岩	12.7	8.4	4.7	752.0	
	51	磨石	E-37	Ⅲb	安山岩	8.5	7.5	4.5	375.0	
	52	磨石	H-34	Ⅲb	安山岩	7.6	8.5	5.6	610.0	
	53	磨石	I-35	Ⅲb	安山岩	11.1	10.2	5.8	998.0	
386	54	磨石	E-32	Ⅲb	砂岩	10.6	8.2	6.7	829.0	
	55	磨石	I-35	Ⅲb	安山岩	10.0	9.6	5.1	731.0	
	56	磨石	E-33	Ⅲb	安山岩	9.6	8.7	5.6	697.0	
	57	磨石	G-39	Ⅲb	砂岩	8.9	6.2	5.0	355.0	
387	58	磨石	H-34	Ⅲb	安山岩	10.8	8.0	5.4	775.0	
	59	磨石	H-22	Ⅲb	砂岩	10.8	8.7	4.6	600.0	
	60	磨石	F-40	Ⅳ	安山岩	8.7	5.3	1.8	148.0	
	61	磨石	I-33	Ⅲb	安山岩	11.0	9.1	5.3	680.0	
388	62	磨石	F-29	Ⅲb	安山岩	9.1	9.3	5.0	670.0	
	63	磨石	I-26	Ⅳ	安山岩	11.8	10.4	4.9	945.0	
	64	磨石	I-33	Ⅳ	安山岩	13.6	9.9	4.6	889.0	
	65	磨石	E-39	Ⅳ	安山岩	9.4	6.2	4.0	293.0	
	66	磨石	F-37	Ⅳ	安山岩	9.0	9.1	4.1	516.0	
	67	磨石	E-39	Ⅳ	安山岩	8.4	8.0	3.3	190.0	
	68	磨石	G-40	Ⅳ	安山岩	13.0	9.9	5.6	1100.0	
389	69	磨石	H-39	Ⅳ	安山岩	10.3	6.1	3.4	237.0	
	70	磨石	E-31	Ⅳ	安山岩	10.4	8.3	4.9	614.0	
	71	磨石	C-9	Ⅳb	安山岩	9.3	7.2	4.4	413.0	
	72	磨石	D-24	Ⅳ	安山岩	7.2	7.4	2.2	180.0	
390	73	磨石	E-21	Ⅳ	安山岩	8.0	7.9	4.3	285.0	
	74	磨石	G-26	Ⅳ	安山岩	8.6	7.4	3.8	373.0	
	75	磨石	D-9	Ⅳ	安山岩	10.5	9.0	4.0	585.0	
	76	磨石	G-40	V	砂岩	8.3	5.1	5.1	577.0	
	77	磨石	F-30	V	安山岩	10.3	8.0	5.0	630.0	
	78	磨石	H-30	V	安山岩	8.5	6.8	3.3	305.0	
	79	磨石	E-36	溝中	安山岩	8.9	9.0	5.8	710.0	溝遺構埋土内
391	80	磨石	F-43	I	砂岩	6.1	5.1	4.4	184.0	
	81	磨石	F-36	溝中	安山岩	11.3	8.8	4.8	649.0	溝遺構埋土内
	82	磨石	E-29	Ⅲa	砂岩	11.5	8.7	4.5	710.0	
	83	磨石	F-34	Ⅲa	安山岩	6.0	5.6	3.3	145.0	
	84	磨石	E-31	Ⅲa	安山岩	9.0	7.6	4.2	426.0	
	85	磨石	E-34	Ⅲa	安山岩	8.1	4.8	3.1	205.0	
	86	磨石	H-26	Ⅲa	安山岩	10.9	9.2	5.4	866.0	
	87	磨石	D-28	Ⅲb	安山岩	7.4	5.7	3.1	209.5	
	88	磨石	F-20	Ⅲa	砂岩	6.3	14.8	5.3	470.0	
	89	磨石	F-47	Ⅲa	安山岩	10.0	8.8	6.4	780.0	
392	90	磨石	—	I	砂岩	6.7	5.0	3.4	150.2	
	91	磨石	E-22	Ⅲa	安山岩	8.6	7.1	4.5	360.0	
	92	磨石	H-37	Ⅲb	安山岩	9.0	8.1	4.9	526.0	
	93	磨石	C-7	Ⅲb	砂岩	13.0	12.6	6.2	1508.0	
	94	磨石	E-29	Ⅲa	砂岩	10.1	6.2	2.5	240.0	

第49表 出土石器観察表 (24)

揮図	番号	器種	出土区	層位	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
393	95	磨石	F-37	Ⅲ	安山岩	13.5	9.1	5.0	648.0	
	96	磨石	F-37	Ⅲa	安山岩	6.1	6.1	2.3	145.0	
	97	磨石	E-35	Ⅲb	砂岩	10.6	7.8	5.4	683.0	
	98	磨石	G-34	Ⅲb	安山岩	5.6	6.5	2.1	97.1	
	99	磨石	F-37	Ⅲb	安山岩	8.7	5.8	5.0	342.0	
	100	磨石	H-32	Ⅲb	安山岩	11.3	9.5	5.2	840.0	
	101	磨石	E-29	Ⅲb	安山岩	7.8	8.2	3.9	453.0	
	102	磨石	E-29	Ⅲb	砂岩	11.0	8.3	5.0	660.0	
	103	磨石	E-36	Ⅲb	安山岩	5.3	5.5	4.4	76.9	
	104	磨石	F-37	Ⅲb	安山岩	6.5	5.0	4.1	181.0	
394	105	磨石	C-16	Ⅲa	安山岩	11.1	9.3	4.0	570.0	
	106	磨石	F-17	Ⅲa	安山岩	6.9	5.6	2.8	160.2	
	107	磨石	G-37	Ⅲ	安山岩	10.7	8.6	4.5	640.0	
	108	磨石	F-37	Ⅲb	安山岩	12.6	11.0	3.5	589.0	
	109	磨石	F-26	Ⅲa	安山岩	10.9	9.1	5.1	890.0	
395	110	磨石	E-33	Ⅲb	安山岩	7.6	5.2	4.2	236.0	
	111	磨石	F-18	Ⅲb	安山岩	10.9	10.3	4.9	840.0	
	112	磨石	G-31	Ⅲb	安山岩	9.8	8.5	5.4	610.0	
	113	磨石	F-35	Ⅲa	安山岩	13.5	9.7	4.5	860.0	
	114	磨石	G-36	Ⅲb	安山岩	10.8	9.3	5.0	590.0	
396	115	磨石	H-30	V	安山岩	9.7	6.5	2.7	250.0	
	116	磨石	H-34	Ⅲb	安山岩	11.3	8.3	5.4	760.0	
	117	磨石	F-38	Ⅳ	安山岩	5.9	5.7	4.5	204.9	
	118	磨石	F-35	Ⅳ	安山岩	6.4	5.8	3.9	192.3	
	119	磨石	G-28	Ⅲb	安山岩	9.0	9.1	4.8	460.0	
	120	磨石	F-40	Ⅲb	安山岩	10.3	10.0	4.5	700.0	
	121	磨石	I-31	Ⅳ	安山岩	8.9	7.9	3.7	380.0	
	122	磨石	G-37	Ⅲ	安山岩	8.5	7.1	5.5	475.0	
397	123	磨石	F-39	Ⅳ	安山岩	5.9	4.2	3.3	118.7	
	124	磨石	C-7	Ⅳa	安山岩	14.7	9.6	7.3	1540.0	
	125	磨石	F-40	Ⅳ	砂岩	12.9	12.8	8.0	1945.0	
	126	磨石	H-37	Ⅳ	安山岩	13.1	9.9	4.8	1090.0	
	127	磨石	G-39	Ⅳ	安山岩	8.3	8.4	5.6	468.0	
398	128	磨石	G-32	Ⅳ	安山岩	15.7	9.5	6.1	1310.0	
	129	磨石	G-40	Ⅳ	花崗岩	8.5	7.3	4.5	540.0	
	130	磨石	J-31	Ⅳ	安山岩	11.7	9.5	4.3	630.0	
	131	磨石	H-32	Ⅲb	安山岩	9.8	7.8	4.6	470.0	
399	132	磨石	C-7	Ⅳa	安山岩	8.8	8.9	4.8	524.0	
	133	磨石	I-36	V	安山岩	8.9	5.3	2.2	161.0	
	134	磨石	H-37	Ⅳ	安山岩	13.3	8.8	3.8	710.0	
	135	磨石	J-33	V	安山岩	9.7	8.0	4.3	450.0	
400	136	磨石	E-47	Ⅵ	安山岩	7.1	6.9	3.2	203.5	
	137	磨石	F-39	Ⅲa	砂岩	8.8	6.7	3.7	292.1	
	138	磨石	F-30	Ⅲb	安山岩	10.8	8.9	4.8	700.0	
	139	磨石	I-30	V	安山岩	8.4	9.7	4.2	331.0	
	140	磨石	F-44	Ⅳ	安山岩	10.0	8.3	5.0	630.0	
	141	磨石	H-32	Ⅲb	安山岩	9.7	7.5	4.2	550.0	
	1	石錘	H-21	Ⅲb	砂岩	3.7	4.5	2.3	58.4	磨石転用
401	2	石錘	H-21	Ⅲb	砂岩	4.0	5.2	2.3	76.4	磨石転用
	1	礫石	F-30	Ⅲa	頁岩	(6.2)	(2.3)	1.1	276.6	
402	2	礫石	I-36	Ⅲb	泥岩	11.8	4.8	2.5	173.0	
	3	礫石	E-40	Ⅲb	泥岩	9.9	3.6	2.0	96.6	
403	4	礫石	H-36	遺跡	砂岩	9.4	6.7	2.8	340.0	遺構埋土内
	5	礫石	F-35	Ⅲb	砂岩	(8.8)	5.9	3.2	300.0	
404	6	礫石	G-33	Ⅲa	安山岩	9.8	5.5	1.9	120.0	
	7	礫石	F-40	Ⅳ	安山岩	9.4	6.6	1.7	120.0	

第50表 出土石器観察表 (25)

挿図	番号	器種	出土区	層位	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
405	8	礮石	F-39	Ⅲa	安山岩	8.1	4.3	3.7	155.0	
	9	礮石	E-37	Ⅲb	安山岩	8.0	4.1	3.6	160.0	
	10	礮石	F-28	Ⅲa	安山岩	8.6	4.9	4.0	233.6	
	11	礮石	E-26	Ⅲa	砂岩	6.2	4.3	3.1	130.0	
	12	礮石	E-28	Ⅲa	砂岩	3.2	2.5	2.8	20.8	
	13	礮石	D-16	Ⅱ	砂岩	5.5	4.2	2.1	79.7	
	14	礮石	F-33	Ⅲa	砂岩	6.5	4.0	3.2	130.2	
	15	礮石	E-27	Ⅲa	砂岩	7.5	4.4	2.2	148.0	
	16	礮石	E-28	Ⅲb	砂岩	6.6	4.3	3.2	143.0	
	17	礮石	J-33	Ⅲb	安山岩	5.2	4.2	1.7	51.8	
406	18	礮石	E-27	Ⅲb	砂岩	10.6	5.6	3.5	340.0	
	19	礮石	F-37	Ⅲb	安山岩	7.1	4.4	3.0	144.0	
	20	礮石	C-9	Ⅲa	頁岩	10.2	4.9	3.6	262.5	
	21	礮石	E-34	Ⅲb	石英	7.3	4.1	3.2	127.0	
	22	礮石	F-35	Ⅲa	安山岩	8.1	6.8	4.0	260.0	
	23	礮石	H-34	Ⅲa	安山岩	10.6	7.9	5.3	660.0	
	24	礮石	I-37	V	安山岩	7.6	9.1	6.1	530.0	
	25	礮石	E-29	Ⅲa	安山岩	11.2	9.7	4.1	700.0	
	26	礮石	F-39	Ⅲa	安山岩	5.4	5.4	3.9	164.0	
	27	礮石	F-40	Ⅲa	安山岩	6.3	5.4	3.8	174.0	
407	28	礮石	F-29	Ⅲa	安山岩	10.3	9.3	5.1	750.0	
	29	礮石	H-29	Ⅲb	安山岩	10.4	8.3	4.5	690.0	
	30	礮石	H-36	Ⅲb	安山岩	7.0	6.4	2.1	100.0	
	31	礮石	I-33	Ⅲb	安山岩	11.1	10.2	4.8	645.0	
408	32	礮石	D-21	Ⅱ	安山岩	11.5	8.6	3.4	450.0	
	33	礮石	E-36	Ⅲb	安山岩	7.5	6.0	2.8	113.2	
	34	礮石	G-27	Ⅲa	砂岩	8.7	7.3	4.5	450.0	
	35	礮石	H-38	V	安山岩	8.4	6.5	4.5	345.0	
	36	礮石	F-33	Ⅲb	安山岩	10.6	7.9	3.6	320.0	
	37	礮石	J-31	土坑 I	砂岩	13.9	11.0	5.5	1200.0	溝遺構埋土内
	38	礮石	F-39	Ⅲa	砂岩	5.7	4.2	2.4	84.4	
409	39	礮石	F-25	Ⅲa	安山岩	5.7	3.9	3.1	102.7	
	40	礮石	F-26	Ⅲa	安山岩	10.3	10.4	6.0	890.0	
	41	礮石	F-34	Ⅲb	安山岩	11.2	9.9	5.8	930.0	
	42	礮石	F-33	Ⅲb	安山岩	7.6	5.0	2.3	160.0	
	43	礮石	C-10	Ⅲa	砂岩	9.3	8.6	3.7	450.0	
	44	礮石	E-27	Ⅲa	安山岩	6.8	10.4	4.3	560.0	
	45	礮石	E-38	Ⅲb	安山岩	6.5	4.9	3.6	150.0	
410	46	礮石	H-33	Ⅲa	安山岩	5.7	4.5	3.3	117.3	
	47	礮石	F-34	Ⅲa	砂岩	10.0	8.6	6.5	789.0	
	48	礮石	E-37	Ⅲb	安山岩	12.0	10.0	3.9	680.0	
	49	礮石	E-27	Ⅲb	安山岩	6.2	4.7	2.9	126.0	
	50	礮石	E-33	Ⅲb	安山岩	14.6	9.6	3.7	730.0	
	51	礮石	E-10	Ⅲb	安山岩	10.9	7.2	4.8	465.0	
	52	礮石	F-28	Ⅲb	安山岩	6.2	4.4	2.5	120.0	
	53	礮石	E-40	Ⅲa	安山岩	7.0	6.6	4.3	277.0	
	54	礮石	E-40	Ⅲb	砂岩	10.1	7.9	4.2	530.0	
	55	礮石	I-33	Ⅲa	砂岩	9.6	8.3	4.0	470.0	
411	56	礮石	F-35	Ⅲb	安山岩	7.2	6.2	3.7	180.0	
	57	礮石	F-38	Ⅲb	砂岩	10.9	8.1	4.7	670.0	
	58	礮石	F-36	Ⅲa	安山岩	9.8	7.8	5.6	660.0	
	59	礮石	H-35	Ⅳ	安山岩	6.3	6.6	3.5	235.0	
	60	礮石	G-35	Ⅲb	砂岩	11.1	8.3	3.7	700.0	
	61	礮石	H-37	Ⅳa	砂岩	7.3	6.3	4.7	270.0	
	62	礮石	E-34	Ⅲa	砂岩	10.6	8.5	4.0	540.0	
	63	礮石	F-29	Ⅳ	安山岩	10.4	8.9	2.6	280.0	
	64	礮石	E-36	Ⅲa	安山岩	7.3	7.4	2.6	185.0	

第51表 出土石器観察表(26)

揮図	番号	器種	出土区	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	
413	65	敲石	E-36	Ⅲa	安山岩	11.1	9.2	5.0	7900		
	66	敲石	F-39	Ⅲa	安山岩	9.0	5.2	2.2	2000		
	67	敲石	E-24	Ⅲa	安山岩	8.1	6.0	2.7	1980		
	68	敲石	G-25	Ⅲa	花崗岩	10.5	8.6	4.3	5800		
	69	敲石	D-10	Ⅲa	石英	5.7	4.0	3.5	1220		
	70	敲石	D-12	Ⅲa	安山岩	9.3	8.4	3.9	4690		
	71	敲石	E-37	Ⅲa	安山岩	12.5	9.9	2.9	4650		
	72	敲石	E-40	Ⅲa	安山岩	6.2	5.8	2.9	1440		
	73	敲石	F-25	Ⅲa	安山岩	7.3	6.6	5.4	3500		
	74	敲石	E-36	Ⅲa	安山岩	7.7	5.8	1.7	93.2		
414	75	敲石	F-40	Ⅲa	安山岩	6.4	4.3	3.5	1410		
	76	敲石	F-31	Ⅲb	安山岩	12.7	10.2	4.2	6410		
	77	敲石	F-39	Ⅲb	安山岩	13.0	8.7	4.1	6320		
	78	敲石	F-24	Ⅲa	砂岩	2.9	2.7	2.2	25.6		
	79	敲石	F-26	Ⅲa	安山岩	5.7	5.1	2.4	112.5		
	80	敲石	G-38	Ⅲb	安山岩	5.1	7.5	7.8	4410		
	81	敲石	G-28	Ⅲb	安山岩	10.2	8.7	4.4	6060		
	82	敲石	E-37	Ⅲb	安山岩	7.9	6.5	1.8	1260		
	83	敲石	E-37	Ⅲb	安山岩	5.7	4.2	3.8	1270		
	84	敲石	E-32	Ⅲb	安山岩	9.5	8.6	3.3	4400		
415	85	敲石	H-32	Ⅲb	安山岩	10.6	8.9	3.6	5800		
	86	敲石	E-36	Ⅲb	安山岩	6.0	6.9	2.0	165.0		
	87	敲石	I-29	Ⅲb	安山岩	9.9	8.6	4.6	595.0		
	88	敲石	E-36	Ⅲb	安山岩	6.8	4.9	3.8	171.0		
	89	敲石	G-40	Ⅲb	花崗岩	9.8	8.1	3.9	5100		
	90	敲石	E-37	Ⅲb	安山岩	7.7	5.2	2.0	1260		
	91	敲石	D-30	Ⅲb	安山岩	7.7	8.4	2.1	225.0		
	92	敲石	H-34	Ⅲb	砂岩	10.0	7.3	4.1	455.0		
	93	敲石	F-44	Ⅳ	安山岩	7.4	5.5	4.0	231.0		
	94	敲石	E-36	Ⅳ	安山岩	8.3	7.6	5.0	4560		
416	95	敲石	G-39	Ⅴa	蛋白石	5.1	3.4	2.3	55.4		
	96	敲石	E-37	Ⅲb	砂岩	5.6	4.8	3.7	1440		
	97	敲石	D-6	Ⅳa	安山岩	10.8	10.9	6.6	8900		
	98	敲石	D-12	Ⅳa	安山岩	8.8	7.3	4.7	3600		
	99	敲石	F-37	Ⅲb	安山岩	6.0	4.4	2.7	110.7		
	100	敲石	E-42	Ⅲb	砂岩	4.6	3.9	3.0	74.4		
	101	敲石	G-35	Ⅳ	安山岩	8.4	6.8	3.8	2600		
	102	敲石	I-35	Ⅴ	安山岩	7.9	7.0	6.4	4600		
	103	敲石	H-31	Ⅳ	安山岩	16.3	12.4	5.3	18180		
	104	敲石	F-38	Ⅲb	安山岩	7.4	5.8	3.4	227.3		
417	105	敲石	G-34	Ⅲb	安山岩	7.6	5.3	4.6	2190		
	106	敲石	E-26	Ⅲa	安山岩	5.7	5.9	2.5	1270		
	1	凹石	E-36	溝中	安山岩	10.4	8.9	5.6	8000	溝遺構埋土内	
	2	凹石	E-43	Ⅲb	砂岩	6.4	3.3	3.4	115.0		
	3	凹石	E-36	Ⅲb	安山岩	10.6	9.3	3.8	7100		
	4	凹石	E-34	Ⅲb	安山岩	7.2	11.2	5.3	7000		
	419	1	軽石製品	G-34	Ⅲa	軽石	13.7	8.5	4.4	1600	
		2	軽石製品	F-37	Ⅲ	軽石	12.1	9.7	5.6	1000	穿孔
		3	軽石製品	E-36	Ⅲb	軽石	15.1	15.6	5.5	2600	穿孔
		4	軽石製品	E-18	Ⅲb	軽石	15.2	7.6	5.6	1000	
420	5	軽石製品	E-42	Ⅳ	軽石	14.7	13.7	5.7	4000	線刻	

第52表 弥生時代遺構内土器観察表

採掘番号	遺構	器種	部位	色 調		胎 土			調 整		備 考		
				外面	内面	石灰	長石	その他	内面	外面			
4	1 1号住居	甕形土器	底部	浅黄褐色	浅黄褐色	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ	
	2 1号住居	甕形土器	口縁部	橙	明赤褐色	○	○	○	火山ガラス-白片岩	良	ハケ目	ハケ目-ナデ	外面に炭化物付着
	3 1号住居	甕形土器	口縁部	黒褐色	黒	○	○	○	火山ガラス-白片岩	良	ハケ目	ハケ目-ナデ	外面に炭化物付着
	4 1号住居	甕形土器	口縁部	橙	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ハケ目	ハケ目-ナデ	外面に炭化物付着
	5 1号住居	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐色	黄褐色	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ	
5	6 1号住居	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐色	明黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	口縁部外面に工具痕
	7 1号住居	甕形土器	口縁部	浅黄褐色	浅黄褐色	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	8 1号住居	甕形土器	口縁部	黒褐色	黒褐色	○	○	○	火山ガラス-輝石	良	ナデ	ナデ	
	9 1号住居	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐色	明褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	10 1号住居	甕形土器	口縁部	浅黄褐色	明黄褐色	○	○	○	火山ガラス-白片岩	良	ナデ	ナデ	
	11 1号住居	甕形土器	口縁部	暗灰黄	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	12 1号住居	甕形土器	口縁部	橙	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ナデ	ナデ	
	13 1号住居	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	火山ガラス-輝石	良	ナデ	ナデ	
	14 1号住居	甕形土器	胴部	橙	明褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	内外面に炭化物付着
	6	15 1号住居	甕形土器	底部	橙	橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ
16 1号住居		甕形土器	底部	明黄褐色	—	○	○	○	輝石・白片岩	良	—	ハケ目	ハケ目
17 1号住居		高坏形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	火山ガラス-輝石	良	ナデ	ナデ	
18 1号住居		高坏形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	雲母-火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
19 1号住居		甕形土器	口縁部	明赤褐色	明赤褐色	○	○	○	雲母-火山ガラス	良	ハケ目	ハケ目-ナデ	ナデ・縮紋
20 1号住居		甕形土器	胴部	赤褐色	赤褐色	○	○	○	雲母-火山ガラス	良	ナデ	ナデ	内外面に赤色顔料塗布
21 1号住居		甕形土器	胴部	明赤褐色	明赤褐色	○	○	○	雲母	良	ナデ	ナデ	外面赤色顔料塗布
26 2号住居		甕形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	火山ガラス-輝石	良	ナデ	ナデ	
27 2号住居		甕形土器	口縁部	明褐色	明褐色	○	○	○	火山ガラス-輝石	良	ナデ	ナデ	口縁内部に漆点文
10		28 2号住居	甕形土器	底部	赤	明褐色	○	○	○	火山ガラス-輝石	良	ナデ	ナデ
	29 3号住居	甕形土器	口縁部	明褐色	橙	○	○	○	火山ガラス-輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	30 3号住居	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐色	明黄褐色	○	○	○	火山ガラス-輝石	良	ナデ	ナデ	ナデ
	31 3号住居	甕形土器	口縁部	赤褐色	明赤褐色	○	○	○	火山ガラス-輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	32 3号住居	甕形土器	口縁部	明黄褐色	明褐色	○	○	○	火山ガラス-輝石	良	ナデ	ナデ	内外面に炭化物付着
	33 3号住居	甕形土器	口縁部	黒褐色	黒	○	○	○	火山ガラス-輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	34 3号住居	甕形土器	口縁部	赤褐色	黒褐色	○	○	○	火山ガラス-輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	35 3号住居	甕形土器	口縁部	明赤褐色	明赤褐色	○	○	○	火山ガラス-輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	38 4号住居	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐色	橙	○	○	○	火山ガラス-輝石	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	16	39 4号住居	甕形土器	口縁部	明褐色	黄褐色	○	○	○	火山ガラス-輝石	良	ナデ	ナデ
40 4号住居		甕形土器	口縁部	赤褐色	橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
41 4号住居		甕形土器	口縁部	にぶい赤褐色	明赤褐色	○	○	○	火山ガラス-白片岩	良	ナデ	ナデ	
42 4号住居		甕形土器	口縁部	赤褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石	不良	ハケ目	ハケ目-ナデ	ナデ
43 4号住居		甕形土器	口縁部	赤	赤	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	口縁部後縁に穿孔
44 4号住居		甕形土器	口縁部	赤	赤	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	ハケ目
19	51 貝土坑	甕形土器	胴部	明黄褐色	黄褐色	○	○	○	輝石・茶粒	良	ハケ目	ハケ目	外面に炭化物付着
	52 貝土坑	甕形土器	底部	にぶい赤褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石-火山ガラス	良	ナデ	ナデ	ハケ目
	53 貝土坑	甕形土器	胴部	黒褐色	赤褐色	○	○	○	雲母-火山ガラス	良	ナデ	ナデ	ハケ目

第53表 弥生時代遺構内石器観察表

採掘番号	遺構	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
6	22 1号住居	磨石	安山岩	12.3	10.6	8.0	1680	
	23 1号住居	磨石	安山岩	11.9	10.0	5.3	1080	
	24 1号住居	石皿	安山岩	27.6	26.8	8.3	9000	
7	25 1号住居	磨石	安山岩	9.5	33.8	7.2	7000	
	36 3号住居	磨石	安山岩	13.6	9.4	7.0	742	
	37 3号住居	磨製石鏡	頁岩	3.7	2.1	0.2	2.3	
14	45 4号住居	石斧	頁岩	6.7	4.3	0.9	28.4	
	46 4号住居	磨製石鏡	頁岩	2.2	1.8	0.2	1.1	
	47 4号住居	磨製石鏡	頁岩	1.9	1.3	0.2	0.5	
	48 4号住居	磨製石鏡	頁岩	3.0	1.9	0.3	2.3	
	49 4号住居	磨製石鏡	頁岩	2.3	2.0	0.2	1.3	
	50 4号住居	磨製石鏡	頁岩	1.4	1.6	0.2	0.6	

第54表 弥生時代土器観察表(1)

採洞	層位	出土区	器種	部位	色調		胎土			調整		備考	
					外面	内面	石炭	長石	焼灰	その他	内面		外面
21	54	Ⅲa C-9	甕形土器	口縁部	黄褐色	黄褐色	○	○	○	火山ガラス白片岩	良	ナデ	
	55	Ⅲa C-9	甕形土器	口縁部	黒褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	火山ガラス白片岩	不良	ナデ	ケズリ後ナデ
	56	Ⅲa E-39	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ナデ	
	57	Ⅲa C-9	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	不良	ナデ	ケズリ後ナデ
	58	Ⅲb G-33	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐色	褐色	○	○	○	火山ガラス白片岩	良	ナデ	
	59	Ⅲa C-9	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ケズリ後ナデ
22	60	Ⅲa H-23	甕形土器	口縁～胴部	褐色	灰黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	外面に炭化物付着
	61	Ⅱ・Ⅲa E-25	甕形土器	口縁部	明赤褐色	褐色	○	○	○	火山ガラス	良	ナデ	
	62	Ⅲa E-22	甕形土器	口縁部	明赤褐色	赤褐色	○	○	○	火山ガラス	良	ナデ	内外面に炭化物付着
	63	Ⅱ・Ⅲa E-25	甕形土器	口縁部	明赤褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ケズリ後ナデ
23	64	Ⅲb E-33	甕形土器	口縁部	褐色	褐色	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ナデ	ヘラケズリ
	65	Ⅲa C-9-D-9	甕形土器	口縁部	にぶい褐色	褐色	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ナデ	外面に炭化物付着
	66	Ⅲa E-15	甕形土器	口縁部	にぶい褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	金雲母・輝石	良	ナデ	
	67	Ⅲa C-6	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい赤褐色	○	○	○	火山ガラス白片岩	良	ナデ	外面に炭化物付着
	68	Ⅲa F-35	甕形土器	口縁部	黄褐色	黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	外面に炭化物付着
	69	Ⅲa F-33	甕形土器	口縁部	にぶい褐色	黒褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ヘラケズリ	ケズリ後ナデ
24	70	表	—	甕形土器	褐色	褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ケズリ	
	71	表	—	甕形土器	口縁部	明褐色	灰黄色	○	○	輝石・火山ガラス	良	ケズリ後ナデ	外面に炭化物付着
	72	Ⅲa F-32	甕形土器	口縁部	明赤褐色	明赤褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	
	73	Ⅲa F-33	甕形土器	胴部	にぶい褐色	褐色	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	外面に炭化物付着
	74	Ⅲa E-27	甕形土器	胴部	にぶい褐色	灰褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	外面に炭化物付着
	75	Ⅲb G-29	甕形土器	胴部	褐色	にぶい褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	外面に炭化物付着
25	76	Ⅲa G-48	甕形土器	口縁部	褐色	褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	外面に炭化物付着
	77	Ⅲa F-33	甕形土器	口縁部	明赤褐色	明赤褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ケズリ後ナデ	外面に炭化物付着
	78	Ⅲ G-40	甕形土器	口縁部	灰褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	外面に炭化物付着
	79	Ⅲa D-3	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	
	80	Ⅲa D-24	甕形土器	口縁部	赤褐色	赤褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	
	81	Ⅲa D-25	甕形土器	口縁部	浅黄褐色	明黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	外面に炭化物付着
26	82	Ⅲa E-26	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐色	浅黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	外面に炭化物付着
	83	Ⅲb E-39	甕形土器	口縁部	にぶい褐色	褐色	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ナデ	外面に炭化物付着
	84	Ⅲa G-21	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐色	黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	外面に炭化物付着
	85	Ⅲb H-3	甕形土器	口縁部	黒褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	火山ガラス	良	ナデ	
	86	Ⅲa E-27	甕形土器	口縁部	にぶい褐色	褐色	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ナデ	外面に炭化物付着
	87	Ⅲa G-37	甕形土器	口縁部	にぶい褐色	褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	
27	88	Ⅲa C-48	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	内外面に炭化物付着
	89	Ⅲa E-20	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐色	明赤褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	
	90	Ⅲa G-37	甕形土器	口縁部	褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	金雲母・火山ガラス	良	ナデ	外面に炭化物付着
	91	Ⅲb G-32	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい褐色	○	○	○	火山ガラス	良	ナデ	
	92	Ⅲ G-40	甕形土器	口縁部	明黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	
	93	Ⅲ E-25	甕形土器	口縁部	にぶい褐色	にぶい赤褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ヘラケズリ	ヘラケズリ後ナデ
28	94	Ⅲb H-36	甕形土器	口縁部	明褐色	明褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	外面に炭化物付着
	95	Ⅲ E-24	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐色	褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	外面に炭化物付着
	96	—	—	甕形土器	口縁部	褐色	褐色	○	○	白片岩	良	ナデ	
	97	Ⅲa H-32	甕形土器	口縁部	褐色	にぶい褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ・指押え
	98	Ⅲb F-24	甕形土器	口縁部	黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	外面に炭化物付着
	99	Ⅲb H-32	甕形土器	胴部	褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	外面に炭化物付着
29	100	Ⅲa F-27	甕形土器	口縁部	褐色	明黄褐色	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ナデ	
	101	Ⅲa E-37	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	外面に炭化物付着
	102	Ⅲa E-23	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐色	明褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	不良	ナデ	
	103	V F-46	甕形土器	口縁部	にぶい褐色	にぶい褐色	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ナデ	
	104	Ⅲa E-27	甕形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい褐色	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	陶離	外面に炭化物付着
	105	Ⅲa H-32	甕形土器	口縁部	赤褐色	黒褐色	○	○	○	火山ガラス白片岩	良	ナデ	ケズリ後ナデ
106	Ⅲa G-34	甕形土器	口縁部	明褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ		

第55表 弥生時代土器観察表(2)

探跡番号	層位	出土区	器種	部位	色調		胎土				調整		備考		
					外面	内面	石炭	長石	陶器	その他	内面	外面			
29	107	Ⅱb	H-21	美形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	外面に炭化物付着
	108	Ⅱa	E-24	美形土器	口縁部	橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	外面に炭化物付着
	109	Ⅱa	D-26	美形土器	口縁部	褐灰	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	外面に炭化物付着
	110	Ⅱb	F-34	美形土器	口縁部	橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	
	111	Ⅱa	E-22	美形土器	胴部	明赤褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	外面に炭化物付着
	112	Ⅱa	F-21	美形土器	胴部	にぶい赤褐	黒褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	
	113	Ⅱa-Ⅱb	E-24	美形土器	口縁部	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	外面に炭化物付着
	114	Ⅱa	E-20	美形土器	口縁部	にぶい黄橙	明黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	外面に炭化物付着
	115	Ⅱa	E-21	美形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	外面に炭化物付着
	116	Ⅱa	F-25	美形土器	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナテ	ナテ	
30	117	Ⅱa	E-24	美形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	外面に炭化物付着
	118	Ⅱa	F-31	美形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	
	119	表	—	美形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	外面に炭化物付着
	120	Ⅱa	E-23	美形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	
	121	Ⅱa	E-25	美形土器	口縁部	明褐	明褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	
	122	Ⅱa	F-25	美形土器	口縁部	にぶい褐	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	
	123	Ⅱb	F-28	美形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	
	124	Ⅱa	D-26	美形土器	口縁部	明赤褐	明赤褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケズリナテ	ハケズリナテ	
31	125	Ⅱa	E-34	美形土器	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ハケ	外面に炭化物付着
	126	Ⅱ	E-25	美形土器	口縁部	黒褐	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	外面に炭化物付着
	127	Ⅱb	F-37	美形土器	口縁部	にぶい黄橙	明褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	外面に炭化物付着
	128	Ⅱa	E-37	美形土器	口縁部	暗赤褐	明赤褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	外面に炭化物付着
	129	Ⅱa	D-25	美形土器	口縁部	橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	内面に炭化物付着
	130	Ⅱa	H-25	美形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	外面に炭化物付着
	131	Ⅱa	D-26	美形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	
	132	Ⅱa	E-25	美形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	
32	133	Ⅱa	E-36	美形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	
	134	Ⅱa	F-47	美形土器	口縁部	にぶい橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	
	135	Ⅱa	D-27	美形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	
	136	Ⅱb	D-27	美形土器	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	
	137	Ⅱa	E-35	美形土器	口縁部	にぶい黄	にぶい黄	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ハケ後ナテ	外面に炭化物付着
	138	Ⅱa	G-25	美形土器	口縁部	黄褐	明黄褐	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	外面に炭化物付着
	139	Ⅱa	F-20	美形土器	口縁部	明黄褐	明黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	
	140	Ⅱa	F-28	美形土器	口縁部	にぶい赤褐	褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	外面に炭化物付着
33	141	Ⅱa	E-29	美形土器	口縁部	にぶい赤褐	黒褐	○	○	○	火山ガラス	良	ナテ	ケズリ後ナテ	内面に炭化物付着
	142	Ⅱa	E-36	美形土器	口縁部	橙	明赤褐	○	○	○	火山ガラス	良	ナテ	ナテ	ナテ
	143	Ⅱb	H-33	美形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	
	144	Ⅱb	G-32	美形土器	口縁部	黒褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	
	145	Ⅱb	F-29	美形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	外面に炭化物付着
	146	Ⅱa	E-34	美形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	
	147	表	G-32	美形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	
	148	Ⅱ	E-36	美形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい橙	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ナテ	ナテ	外面に炭化物付着
34	149	Ⅱa	G-23	美形土器	口縁部	にぶい黄橙	褐灰	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナテ	ナテ	
	150	Ⅱb	F-35	美形土器	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	
	151	Ⅱa	F-28	美形土器	口縁部	黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	外面に炭化物付着
	152	Ⅱ	E-24	美形土器	口縁部	にぶい褐	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	
	153	Ⅱa	F-24	美形土器	口縁部	橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ハケ後ナテ	外面に炭化物付着
	154	Ⅱa	E-27	美形土器	口縁部	にぶい赤褐	黒褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ後ナテ	ハケ後ナテ	
	155	Ⅱb	F-30	美形土器	口縁部	にぶい橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	工具ナテ	ナテ	外面に炭化物付着
	156	Ⅱa	G-33	美形土器	口縁部	にぶい赤褐	橙	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナテ	ナテ	外面に炭化物付着
	157	Ⅱb	H-33	美形土器	口縁部	明赤褐	明赤褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	
	158	表	E-29	美形土器	口縁部	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナテ	ナテ	
159	Ⅱa	F-29	美形土器	口縁部	明褐灰	にぶい褐	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ナテ	ナテ		
160	Ⅱ	G-31	美形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナテ	ナテ	外面に炭化物付着	

第56表 弥生時代土器観察表 (3)

探跡番号	層位	出土区	器種	部位	色調		胎土				調整		備考		
					外面	内面	石質	長石	焼灰	その他	焼成	内面		外面	
35	161	Ⅲa	E-33	甕形土器	口縁部	にぶい濁	明濁	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	162	Ⅲa	F-28	甕形土器	口縁部	濁	明赤濁	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	163	Ⅲa	D-27	甕形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	164	Ⅲa	F-24	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	内外面に炭化物付着
	165	Ⅲa	D-29	甕形土器	口縁部	濁	明赤濁	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ・ハラミガキ	外面に炭化物付着
	166	Ⅲb	E-28	甕形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外面に炭化物付着
	167	Ⅲa	H-25	甕形土器	口縁～胴部	濁灰	黒濁	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ後ミガキ	ナデ後ミガキ	
	168	Ⅲa	F-34	甕形土器	口縁～胴部	にぶい赤濁	にぶい赤濁	○	○	○	輝石・白片岩	良	ぬいけつ後ナデ	ぬいけつ後ナデ	外面に炭化物付着
	169	Ⅲa	H-34	甕形土器	口縁部	浅黄	灰黄	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	170	Ⅲa	E-26	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	金雲母・茶粒	良	ナデ	ナデ	
36	171	Ⅲa	F-34	甕形土器	口縁部	浅黄	浅黄	○	○	○	金雲母・輝石	良	ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ	
	172	Ⅲb	E-37	甕形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい濁	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	173	Ⅳ	E-29	甕形土器	口縁部	明黄濁	灰黄濁	○	○	○	輝石・茶粒	良	ナデ	ナデ	
	174	Ⅲa	H-32	甕形土器	口縁部	浅黄	浅黄	○	○	○	金雲母・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	
	175	Ⅲa	H-32	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ハケ後ナデ	外面に炭化物付着
	176	Ⅲa	H-32	甕形土器	口縁部	浅黄	浅黄	○	○	○	金雲母・茶粒	良	ナデ	ハケ後ナデ	
	177	Ⅲb	E-33	甕形土器	口縁部	明黄濁	明黄濁	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	
	178	Ⅲa	F-35	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	179	Ⅲb	F-32	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	180	Ⅲb	F-29	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒	良	ナデ	ナデ	
37	181	—	—	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	182	Ⅲa	H-33	甕形土器	口縁部	浅黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	183	Ⅲa	D-19	甕形土器	口縁部	橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	184	Ⅲa	E-31	甕形土器	口縁部	橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	185	Ⅲb	F-31	甕形土器	口縁部	灰黄	浅黄	○	○	○	金雲母・茶粒	良	ナデ	ナデ	
	186	Ⅲb	G-40	甕形土器	口縁部	橙	黄橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	187	Ⅲb	H-33	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	黄橙	○	○	○	茶粒・輝石	良	ナデ	ナデ	
	188	Ⅲb	H-34	甕形土器	口縁部	明黄濁	明黄濁	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	189	Ⅲa	F-34	甕形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	190	—	—	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
38	191	Ⅲb	E-33	甕形土器	口縁～胴部	灰黄濁	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着・ 内面黒面
	192	Ⅲa	E-32	甕形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	193	Ⅲa	G-34	甕形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	194	Ⅲb	F-29	甕形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	195	Ⅲa	G-33	鉢形土器	口縁部	にぶい濁	にぶい黄橙	○	○	○	火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	196	—	—	鉢形土器	口縁部	黒濁	にぶい赤濁	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	197	Ⅲb	E-33	鉢形土器	口縁部	灰濁	灰濁	○	○	○	赤片岩・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
	198	Ⅲb	F-32	鉢形土器	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○	○	火山ガラス・赤片岩	良	ナデ	ナデ	
	199	Ⅱ	E-25	鉢形土器	口縁部	黒濁	にぶい濁	○	○	○	茶粒・輝石	良	ミガキ	ミガキ	外面に炭化物付着
	200	Ⅲb	F-35	鉢形土器	口縁部	明黄濁	明黄濁	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハラミガキナデ	ナデ	外面赤色顔料塗布
39	201	Ⅲa・Ⅲb	F-34	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	
	202	—	—	甕形土器	胴部	黒濁	黒濁	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハラミガキ	ハラミガキ	
	203	Ⅲb	F-28	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	204	Ⅲa	E-34	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	205	Ⅲa	F-27	甕形土器	口縁～胴部	赤	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハラミガキ	ハラミガキ	内面に黒紅彩・外面に赤色顔料塗布
	206	Ⅲa	E-29	甕形土器	口縁部	黒濁	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハラミガキ	ハラミガキ	
	207	Ⅲb	E-37	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハラミガキナデ	
	208	Ⅳ	G-H-60	甕形土器	口縁部	明黄濁	明黄濁	○	○	○	金雲母・輝石	良	ハラミガキ	ハラミガキ	
	209	Ⅲa	E-29	甕形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	210	Ⅲa	H-32	甕形土器	口縁部	にぶい濁	濁	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハラミガキ	
211	Ⅲa	F-25	甕形土器	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハラミガキ		
212	Ⅲa	H-20	甕形土器	口縁部	明黄濁	明黄濁	○	○	○	茶粒・火山ガラス	良	ナデ	ナデ		

第57表 弥生時代土器観察表 (4)

探跡番号	層位	出土区	器種	部位	色調		胎土				調整		備考		
					外面	内面	石	炭石	灰石	その他	焼成	内面		外面	
39	213	Ⅲa E-25	壺形土器	口縁部	褐	褐	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハラミガキ	ハラミガキナデ	
	214	Ⅲa E-25	壺形土器	口縁部	明赤褐	褐	○	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
	215	Ⅲa E-25	壺形土器	胴部	橙	にぶい赤褐	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハラミガキ	ハラミガキ	
	216	表	—	壺形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハラミガキ	ミガキ後ナデ	
	217	Ⅲb E-34	壺形土器	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	218	Ⅲ H-36	壺形土器	胴部	にぶい赤褐	明赤褐	○	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ハラタケズリ	ケズリ後ナデ	
	219	Ⅲb J-31	壺形土器	胴部	にぶい赤褐	明赤褐	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	—	ミガキ	
	220	Ⅲa E-38	壺形土器	胴部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	弱焼	ミガキ	
	221	Ⅲa G-24	壺形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ミガキ	
	222	Ⅲa F-38	壺形土器	胴部	浅黄橙	灰黄	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	—	ナデ	
	223	Ⅲ G-29	壺形土器	胴部	浅黄	浅黄	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	—	ナデ	
	40	224	Ⅲb G-32	壺形土器	口縁部	黒褐	明褐	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	不良	—	ミガキ・ケズリ
225		Ⅲ H-37	壺形土器	胴部	にぶい橙	橙	○	○	○	○	輝石	良	ナデ	ナデ	
226		Ⅲa E-37	壺形土器	胴部	橙	橙	○	○	○	○	輝石・赤片岩	良	弱焼	ナデ	
227		Ⅲa D-25	壺形土器	胴部	にぶい黄褐	橙	○	○	○	○	金雲母・火山ガラス	良	ハケ	ハケ	
228		Ⅲa G-21	壺形土器	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
229		Ⅲa E-25	壺形土器	胴部	褐	褐	○	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
230		Ⅲa D-27	壺形土器	胴部	橙	にぶい橙	○	○	○	○	金雲母・輝石	良	ハケナデ	ケズリ後ナデ	
231		Ⅲb F-35	壺形土器	胴部	明褐	明褐	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	
232		Ⅲa F-25	壺形土器	胴部	褐	褐	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ミガキ	ミガキ	
233		Ⅲa E-25-26	高坏形土器	坏部	淡黄	淡黄	○	○	○	○	茶殻・茶殻	良	丁寧なナデ	丁寧なナデ	
41		234	Ⅲa H-21	壺形土器	底部	橙	橙	○	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ナデ	ケズリ後ナデ
		235	表	—	壺形土器	底部	にぶい橙	にぶい黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハケ後ナデ
	236	表 G-32	壺形土器	底部	明赤褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	237	Ⅲa H-33	壺形土器	底部	にぶい褐	橙	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	238	Ⅲa E-25	壺形土器	底部	にぶい黄褐	灰黄褐	○	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	239	一括 D-34	壺形土器	底部	にぶい褐	橙	○	○	○	○	火山ガラス	良	ナデ	ケズリ後ナデ	
	240	Ⅲa H-33	壺形土器	底部	にぶい褐	にぶい赤褐	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	241	Ⅲb H-34	壺形土器	底部	にぶい褐	橙	○	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	242	Ⅲa D-24	壺形土器	底部	にぶい赤褐	明褐	○	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	243	Ⅲa D-24-24	壺形土器	底部	明赤褐	橙	○	○	○	○	火山ガラス	良	弱焼	ケズリ後ナデ	
	244	Ⅲa E-33	壺形土器	底部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	245	Ⅲa F-37	壺形土器	底部	橙	橙	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ケズリ	
246	Ⅲa F-47	壺形土器	底部	明黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ナデ		
247	Ⅲa D-25-E-38	壺形土器	底部	明赤褐	浅黄	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	弱焼	ナデ		
248	Ⅲa E-34	壺形土器	底部	橙	橙	○	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ナデ		
249	Ⅲa F-26	壺形土器	底部	明赤褐	にぶい褐	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	弱焼多キナデ		
250	Ⅲa F-16	壺形土器	底部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハケ後ナデ		
251	Ⅱ E-25	壺形土器	底部	明褐	にぶい赤褐	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ		
252	Ⅲa・Ⅲb H-21-33	壺形土器	底部	にぶい赤褐	にぶい褐	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ		
253	Ⅲa・Ⅲb H-21-33	壺形土器	底部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	火山ガラス	良	ナデ	ナデ		
42	254	Ⅲa E-24	壺形土器	底部	橙	にぶい黄褐	○	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ナデ	ケズリ	
	255	Ⅲa G-26	壺形土器	底部	にぶい赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	弱焼	ケズリ後ナデ	
	256	Ⅲa F-47	壺形土器	底部	灰褐	にぶい橙	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ケズリ後ナデ	
	257	表	—	壺形土器	底部	褐	褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	258	Ⅲa G-35	壺形土器	底部	にぶい赤褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	輝石	良	ナデ	ハラミガキ	
	259	一括 D-34	壺形土器	底部	にぶい橙	にぶい黄褐	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ケズリ後ナデ	
	260	Ⅲb F-30	壺形土器	底部	にぶい褐	明黄褐	○	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	261	Ⅲa F-47	壺形土器	底部	にぶい橙	橙	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	262	Ⅲa E-24	壺形土器	底部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ケズリ後ナデ	
	263	Ⅲb G-34	壺形土器	底部	にぶい橙	橙	○	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ナデ	ハケ後ナデ	
	264	Ⅲa E-29	壺形土器	胴-底部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハケ後ナデ	
	265	Ⅲa F-G-23	壺形土器	底部	明褐	明褐	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
266	Ⅲa E-25	壺形土器	底部	浅黄橙	橙	○	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハラミガキ	ハケ		
267	V G-37	壺形土器	底部	にぶい橙	明黄褐	○	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ナデ	ハケ後ナデ		
268	Ⅲa F-22	壺形土器	底部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ナデ	ナデ		

第58表 弥生時代土器観察表 (5)

採回	番号	層位	出土区	器種	部位	色 調		胎 土				調 整		備 考	
						外面	内面	石	夾石	炭灰	その他	焼成	内面		外面
43	269	Ⅱa	E-38	甍形土器	底部	にぶい橙	褐灰	○	○	○	金雲母・輝石	良	ナデ	ハケ	内面に炭化物付着
	270	Ⅱa	D-27	甍形土器	底部	にぶい赤褐	褐灰	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハケ後ナデ	内面に炭化物付着
	271	Ⅱb	G-33	甍形土器	底部	橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ハケ	
	272	Ⅱb	G-31	甍形土器	底部	—	橙	○	○	○	赤片岩	良	—	ナデ	
	273	Ⅱb	D-29	甍形土器	底部	橙	褐灰	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	ハケメ・ナデ	
	274	Ⅱb	F-29	甍形土器	底部	橙	灰褐	○	○	○	輝石	良	ハケ後ナデ	ナデ	内面に炭化物付着
	275	Ⅱa	E-27	甍形土器	底部	にぶい橙	褐灰	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ケズリ	
	276	Ⅱb	H-29	甍形土器	底部	にぶい橙	褐灰	○	○	○	輝石	良	ナデ	ハケ	
	277	Ⅱa	H-35	甍形土器	底部	にぶい橙	にぶい褐	○	○	○	赤片岩・輝石	良	ハケ後ナデ	ナデ	
	278	Ⅱa	F-32	甍形土器	底部	にぶい褐	褐灰	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ	
	279	Ⅱa	E-24	鉢・甍形土器	底部	オリーブ褐	黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ヘラケズリ	
	280	Ⅱa	F-35	鉢・甍形土器	底部	にぶい橙	明黄褐	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	割離	ナデ	
	281	Ⅱa	D-8	鉢・甍形土器	底部	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ナデ	
	282	Ⅱb	H-31	鉢・甍形土器	底部	明褐	褐	○	○	○	茶殻・輝石	良	ナデ	ナデ	
	283	Ⅱ	G-24	鉢・甍形土器	底部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ケズリ後ナデ	
	284	Ⅱa	F-27	鉢・甍形土器	底部	褐	にぶい黄褐	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ナデ	ヘラギキナデ	外面に炭化物付着
	285	Ⅱa	H-25	鉢・甍形土器	底部	にぶい橙	灰黄	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	
	286	Ⅱa	H-25	鉢・甍形土器	底部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	287	—	—	鉢・甍形土器	底部	黄橙	黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	288	Ⅱa	G-35	鉢・甍形土器	底部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ケズリ後ナデ	

第59表 古墳時代遺構内土器観察表

陣別	番号	遺構	器種	部位	色 調		胎 土				調 整		備考		
					外面	内面	石炭	長石	燧石	その他	焼成	内面		外面	
47	1	1号住居	変形土器	口縁～胴部	明褐	にぶい赤褐	○	○	○	雲母・茶殻	良	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ	外面に炭化物付着	
	2	1号住居	変形土器	口縁部	明赤褐	赤	○	○	○	雲母・茶殻	良	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ		
	3	1号住居	変形土器	口縁部	明赤褐	橙	○	○	○	雲母・茶殻	良	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ		
	4	1号住居	変形土器	胴部	橙	明赤褐	○	○	○	雲母・茶殻	良	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ		
	5	1号住居	変形土器	舞台	にぶい黄橙	橙	○	○	○	雲母・火山ガラス	良	—	ハケ・ナデ		
	6	1号住居	変形土器	舞台	明黄褐	にぶい黄	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	—	ハケ		
49	8	2号住居	変形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	雲母・茶殻	良	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ		
	9	2号住居	変形土器	胴部	にぶい黄橙	浅黄	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ハケ	ハケ		
	10	2号住居	変形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	雲母・茶殻	良	ナデ	ナデ		
	11	2号住居	変形土器	口縁部	橙	にぶい褐	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ナデ	ナデ		
	12	2号住居	変形土器	舞台	明赤褐	明黄褐	○	○	○	雲母・茶殻	良	ナデ	ハケ		
	13	2号住居	埴形土器	完形	明赤褐	黒	○	○	○	雲母・茶殻	良	ハケ・ナデ	ナデ		
51	14	2号住居	変形土器	底部	明褐	明赤褐	○	○	○	雲母・茶殻	良	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ		
	15	3号住居	変形土器	口縁～胴部	橙	明黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ・ナデ	ハケ		
	16	3号住居	変形土器	口縁～胴部	黒褐	橙	○	○	○	雲母・輝石	良	ハケ	ハケ		
	17	3号住居	変形土器	口縁～胴部	橙	明黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ・ナデ	ハケ・ケズリ		
	18	3号住居	変形土器	胴部	にぶい橙	にぶい黄橙	○	○	○	雲母・火山ガラス	良	ハケ・ナデ	ハケ		
	19	3号住居	変形土器	胴部	にぶい赤褐	明赤褐	○	○	○	雲母・輝石	良	ハケ	ハケ		
52	20	3号住居	高坏形土器	胴部～底部	浅黄橙	浅黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ		
	22	4号住居	鉢形土器	口縁～底部	明赤褐	明赤褐	○	○	○	雲母・火山ガラス	良	ハケ・ナデ	ナデ		
	23	4号住居	埴形土器	完形	橙	橙	○	○	○	白片岩・火山ガラス	良	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ		
	24	4号住居	変形土器	胴部	明赤褐	にぶい赤褐	○	○	○	雲母・火山ガラス	良	ハケ後部5ス	ハケ		
	55	貝殻土坑	変形土器	胴部～底部	にぶい橙	明褐	○	○	○	雲母・白片岩	良	ハケ後部5ス	ハケ・ナデ		外面に炭化物付着

第60表 古墳時代遺構内石器観察表

陣別	番号	遺構	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
47	7	1号住居	磨石	安山岩	10.4	9.0	5.3	742.0	
52	21	3号住居	磨石	安山岩	8.7	6.7	4.4	350.0	

第61表 古墳時代土器観察表 (1)

陣別	番号	層位	出土区	器種	部位	色 調		胎 土				調 整		備考	
						外面	内面	石炭	長石	燧石	その他	焼成	内面		外面
56	26	Ⅲa	E-37	変形土器	口縁～胴部	明褐	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ハケ	ハケ	外面に炭化物付着	
	27	Ⅲa	G-34	変形土器	口縁部	明赤褐	明赤褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ	ハケ	外面に炭化物付着
	28	Ⅲa	F-34	変形土器	口縁部	明赤褐	灰黄褐	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外面に炭化物付着
	29	Ⅲa	H-34	変形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ・ナデ	ハケ	外面に炭化物付着
	30	Ⅱ	D-24	変形土器	口縁部	淡黄	淡黄	○	○	○	輝石・茶殻	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	
	31	Ⅲa	H-20-21	変形土器	口縁部	にぶい黄橙	明黄褐	○	○	○	輝石・茶殻	良	ハケ	ハケ	
58	32	Ⅲa	G-26	変形土器	口縁部	橙	黄橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハケ・ナデ	
	33	—	—	変形土器	口縁部	浅黄	淡黄	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ	ハケ	
	34	Ⅲa	H-21-22	変形土器	口縁～胴部	明黄褐	明黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ	ハケ・ナデ	
	35	Ⅲa	H-19	変形土器	口縁部	にぶい褐	橙	○	○	○	輝石・白片岩	良	ハケ	ハケ	
59	36	Ⅲa	B-27-21	変形土器	口縁～胴部	橙	黄橙	○	○	○	雲母	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	内外面に炭化物付着
	37	Ⅲa	E-37	変形土器	口縁部	明褐	灰黄褐	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハケ後ナデ	外面に炭化物付着
	38	Ⅲa	E-27	変形土器	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○	○	輝石・金雲母	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	
	39	Ⅲa	I-22	変形土器	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○	○	茶殻・金雲母	良	ハケ	ハケ	

第62表 古墳時代土器観察表(2)

碑号	層位	出土区	器種	部位	色調		胎土				調整		備考		
					外面	内面	石製	長石	灰岩	その他	焼成	内面		外面	
60	40	Ⅲa	G-25 壺形土器	口縁~底部	淡赤褐色	にぶい橙	○	○	○	火山ガラス・雲母	良	ハケ後ナデ	ナデ	内外面に炭化物付着	
	41	Ⅲa	D-27 壺形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	輝石・金雲母	良	ハケ	ナデ		
	42	Ⅲa	G-23 壺形土器	口縁部	明黄褐色	明黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ	ハケ	外面に炭化物付着	
	43	Ⅲa	B-21 壺形土器	口縁~胴部	明黄褐色	明黄褐色	○	○	○	輝石・茶殻	良	ハケ・ナデ	ハケ・焼印	外面に炭化物付着	
61	44	Ⅲa	E-26 壺形土器	口縁部	明赤褐色	明赤褐色	○	○	○	茶殻・金雲母	良	ハケ	ハケ		
	45	Ⅲa	E-25 壺形土器	口縁部	にぶい黄褐色	明褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ	ハケ		
	46	Ⅲa	F-35 壺形土器	口縁部	橙	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ	ハケ	内面に炭化物付着	
	47	Ⅲa	G-22-23 壺形土器	口縁部	橙	にぶい黄褐色	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外面に炭化物付着	
	48	Ⅲa	G-26 壺形土器	口縁~胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ハケ	ハケ	外面に炭化物付着	
	49	Ⅲa	G-21 壺形土器	口縁部	黄褐色	橙	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ナデ	ハケ	外面に炭化物付着	
62	50	Ⅲa	F-25 壺形土器	口縁~胴部	黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ	ハケ	外面に炭化物付着	
	51	Ⅲa	D-16 壺形土器	口縁~胴部	黒褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外面に炭化物付着	
	52	Ⅲa	F-G-24 壺形土器	口縁~胴部	浅黄褐色	浅黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ	外面に炭化物付着	
	53	Ⅳ	F-21 壺形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		
	54	Ⅲa	E-25 壺形土器	口縁部	黒褐色	黒褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハケ		
	55	Ⅲa	F-25 壺形土器	口縁~胴部	暗褐色	橙	○	○	○	火山ガラス	良	ハケ・指環押印	ハケ	外面に炭化物付着	
	56	Ⅲa	F-G-25 壺形土器	口縁部	にぶい橙	にぶい黄褐色	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外面に炭化物付着	
	57	Ⅲa	E-24 壺形土器	口縁部	黒褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	茶殻	良	ハケ・ナデ	ハケ	外面に炭化物付着	
	58	Ⅲa	G-26 壺形土器	口縁部	黄褐色	黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ	ナデ		
	59	Ⅲa	F-23 壺形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ		
65	60	Ⅲa	F-23 壺形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ		
	61	Ⅲa	G-25(中) 壺形土器	胴部~底部	橙	明赤褐色	○	○	○	金雲母・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ	内外面に炭化物付着	
	62	Ⅲa	F-25 壺形土器	胴部~底部	にぶい橙	橙	○	○	○	茶殻・白片岩	良	ナデ	ハケ		
	63	Ⅲa	F-G-25 壺形土器	胴部~底部	橙	明黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ	外面に炭化物付着	
	64	Ⅲ	G-24 壺形土器	底部	黄褐色	黄褐色	○	○	○	白片岩・金雲母	良	ナデ	ハケ後ナデ		
	65	Ⅲa	F-25 壺形土器	底部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ハケ		
	66	Ⅲa	H-25 壺形土器	底部	橙	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハケ後ナデ		
	67	Ⅲa	E-28 壺形土器	底部	橙	橙	○	○	○	茶殻・金雲母	良	ナデ	ハケ	舞台内に炭化物付着	
	68	Ⅲa	F-25 壺形土器	底部	灰黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ハケ		
	69	Ⅲb	E-29 壺形土器	底部	にぶい橙	にぶい赤褐色	○	○	○	白片岩・金雲母	良	ナデ	ハケ		
66	70	Ⅲa	E-37 壺形土器	底部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	白片岩	良	ナデ	ナデ		
	71	Ⅲ	C-2 壺形土器	底部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	ハケ		
	72	Ⅲa	G-24 壺形土器	底部	浅黄褐色	浅黄褐色	○	○	○	火山ガラス・白片岩	良	ナデ	ハケ		
	73	Ⅲa	E-36 壺形土器	底部	にぶい黄褐色	黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	指環押印		
	74	Ⅲa	F-25 壺形土器	底部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	ハケ	内面に炭化物付着	
	75	Ⅲa	F-24 壺形土器	底部	橙	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ		
	76	Ⅲa	G-22 壺形土器	底部	橙	橙	○	○	○	茶殻・金雲母	良	ハケ	ハケ		
	77	Ⅲa	E-19 壺形土器	底部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ハケ		
	78	Ⅲ	G-24 壺形土器	底部	橙	にぶい黄褐色	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ナデ	ハケ・ナデ		
	79	Ⅲa	E-20 壺形土器	口縁部	にぶい黄褐色	浅黄褐色	○	○	○	輝石・白片岩	良	ナデ	ナデ	春宮式丸蓋古墳群	
67	80	Ⅳ	F-36 壺形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		
	81	Ⅲa	H-21 壺形土器	完形	黄褐色	黄褐色	○	○	○	火山ガラス	良	ハケ	ハケ		
	82	Ⅲa	D-26 壺形土器	口縁部	明黄褐色	橙	○	○	○	火山ガラス	良	ハケ・ナデ	ハケ・ナデ		
	83	Ⅲa	H-20 壺形土器	完形	浅黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	粗いナデ		
	84	Ⅲb	G-40 壺形土器	口縁部	黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	外面に炭化物付着	
	68	85	Ⅲa	B-25(中) 壺形土器	胴部	にぶい黄褐色	明黄褐色	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	
		86	Ⅲa	H-25 壺形土器	胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	ハケ	
		87	Ⅲa	E-20-21 壺形土器	胴部	明赤褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	
		88	Ⅲa	H-21 壺形土器	胴部~底部	橙	黄褐色	○	○	○	茶殻・火山ガラス	良	指環押印	ハケ後ナデ	
		89	Ⅲa	G-25 壺形土器	胴部	浅黄褐色	浅黄褐色	○	○	○	火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ	
70	90	Ⅲa	G-26 壺形土器	胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	金雲母・火山ガラス	良	ナデ	ナデ		
	91	Ⅲa	E-26 壺形土器	胴部	にぶい黄褐色	明赤褐色	○	○	○	金雲母・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ		
	92	Ⅲb	H-26 壺形土器	胴部	橙	灰	○	○	○	火山ガラス・赤片岩	良	ナデ	ハケ・ナデ	外面に炭化物付着	
	93	Ⅲa	E-28 壺形土器	胴部	明黄褐色	橙	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着	
	94	Ⅲa	D-27 壺形土器	胴部	橙	橙	○	○	○	金雲母・茶殻	良	ハケ後ナデ	ハケ	外面に炭化物付着	
	95	Ⅲa	E-22 壺形土器	胴部	橙	明赤褐色	○	○	○	金雲母・火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		
	96	Ⅲa	G-25 壺形土器	胴部	橙	黄褐色	○	○	○	輝石・火山ガラス	良	刺刺	ハケ後ナデ		

第63表 古墳時代土器観察表 (3)

碑号	層位	出土区	器種	部位	色 調		胎 土				調 整		備考	
					外面	内面	石質	長石	灰質	その他	内面	外面		
71	97	Ⅱb	95-31-36 壺形土器	胴部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	火山ガラス-赤片岩	良	ナデ	ナデ	
	98	Ⅱ	E-26 壺形土器	胴部	明黄褐色	橙	○	○	○	金雲母-火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	
	99	Ⅲ	F-37 壺形土器	胴部	橙	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石-火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ	
72	100	Ⅲa	E-20 壺形土器	胴部	にぶい褐色	橙	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	ハケ	
	101	Ⅲa	E-34 壺形土器	胴部	橙	にぶい橙	○	○	○	茶殻-火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	
	102	Ⅲa	F-35 壺形土器	底部	橙	橙	○	○	○	火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ナデ	ナデ
73	103	Ⅲa	E-29 壺形土器	底部	橙	明赤褐色	○	○	○	金雲母-火山ガラス	良	ナデ	ハケ	
	104	Ⅲa	F-26/25 壺形土器	底部	橙	橙	○	○	○	輝石・赤片岩	良	ナデ	ハケ後ナデ	
	105	Ⅲa	E-35 壺形土器	胴部-底部	明黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	
74	106	Ⅲa	G-27 小形壺形土器	口縁-底部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石-火山ガラス	良	ハラミガキ	ハラミガキ	
	107	Ⅲa	E-22 小形壺形土器	胴-底部	灰	浅黄	○	○	○	火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	108	Ⅲa	F-26 小形壺形土器	底部	にぶい黄褐色	浅黄	○	○	○	輝石-火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	109	Ⅲa	H-20 小形壺形土器	底部	明黄褐色	明黄褐色	○	○	○	茶殻-火山ガラス	良	ナデ	ナデ・ケズリ	
	110	Ⅲa	G-25 小形壺形土器	口縁部	橙	橙	○	○	○	金雲母-火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	111	F-7	F-43 小形壺形土器	口縁部	明黄褐色	明黄褐色	○	○	○	輝石-火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	112	Ⅱb	F-35 小形壺形土器	胴-底部	橙	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石	良	ハケ・ナデ	ハケ	
	113	Ⅱa	E-30 小形壺形土器	胴-底部	明黄褐色	明黄褐色	○	○	○	輝石-火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	114	Ⅲa	G-24 小形壺形土器	胴-底部	明赤褐色	にぶい橙	○	○	○	輝石-火山ガラス	良	ハケ・ナデ	ミガキ	
	115	Ⅱb	E-29 小形壺形土器	胴-底部	にぶい橙	明黄褐色	○	○	○	輝石-火山ガラス	良	ナデ	ハケ後ナデ	
	116	Ⅱ	E-26 小形壺形土器	胴-底部	にぶい黄褐色	明黄褐色	○	○	○	輝石-火山ガラス	良	ナデ	ナデ	底部はケズリ
75	117	Ⅲa	E-25 鉢形土器	胴-底部	明黄褐色	橙	○	○	○	輝石-火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	118	Ⅲa	D-26 鉢型土器	口縁-底部	黄褐色	橙	○	○	○	金雲母-火山ガラス	良	ハケ後ナデ	ハケ	
	119	Ⅲa	E-26 鉢型土器	口縁部	にぶい黄褐色	黒褐色	○	○	○	金雲母-火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	120	Ⅲ	J-33 鉢型土器	口縁部	浅黄	浅黄	○	○	○	火山ガラス	良	指蓋押圧	指蓋押圧	
	121	一括	D-27 鉢型土器	完形	橙	橙	○	○	○	輝石-火山ガラス	良	ナデ	ハケ後ナデ	
	122	Ⅲa	D-27 鉢型土器	口縁部	橙	明黄褐色	○	○	○	輝石-火山ガラス	良	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	
	123	Ⅲa	D-24 鉢型土器	底部	明赤褐色	明赤褐色	○	○	○	輝石-火山ガラス	良	ナデ	ナデ-指蓋押圧	
	124	Ⅲa	E-24 鉢型土器	底部	明赤褐色	明赤褐色	○	○	○	輝石-火山ガラス	良	ナデ	ナデ-指蓋押圧	
	125	Ⅲa	E-25 鉢型土器	底部	にぶい黄褐色	褐色	○	○	○	輝石-火山ガラス	良	ナデ	ナデ-指蓋押圧	
	126	Ⅲa	F-24 鉢型土器	底部	にぶい橙	にぶい橙	○	○	○	火山ガラス-白片岩	良	ハケ後ナデ	ナデ-指蓋押圧	
76	127	Ⅱ・Ⅲa	F-24-25 高坏形土器	坏部	橙	橙	○	○	○	火山ガラス-白片岩	良	ナデ	ナデ	
	128	Ⅲa	F-26 高坏形土器	坏部	明黄褐色	明黄褐色	○	○	○	輝石-火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	129	—	— 高坏形土器	坏部	明黄褐色	明黄褐色	○	○	○	明黄褐色	良	ナデ	ナデ	
	130	Ⅲa	G-25 高坏形土器	坏部	にぶい黄褐色	明黄褐色	○	○	○	輝石-火山ガラス	良	ナデ	ミガキ	
	131	Ⅲa	F-26 高坏形土器	坏部	橙	淡黄	○	○	○	茶殻-火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	132	Ⅱ	G-25 高坏形土器	脚部	淡黄	淡黄	○	○	○	火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	133	Ⅲa	F-23 高坏形土器	脚部	明赤褐色	明赤褐色	○	○	○	輝石-火山ガラス	良	ケズリ・ナデ	ハラミガキ	
	134	Ⅲa	G-27 高坏形土器	脚部	淡黄	淡黄	○	○	○	赤片岩-火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	135	Ⅱb	G-29 高坏形土器	脚部	にぶい黄褐色	黒	○	○	○	茶殻-火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
	136	Ⅲa	G-25 高坏形土器	脚部	浅黄	浅黄	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	ナデ	
	137	Ⅲa	G-27 高坏形土器	脚部	明黄褐色	明黄褐色	○	○	○	輝石・茶殻	良	ナデ	ハケ・ナデ	
	138	Ⅲa	H-25 高坏形土器	脚部	明赤褐色	灰青	○	○	○	火山ガラス	良	ナデ	ミガキ	
	77	139	Ⅲa・Ⅱb	E-34-35 小形土器	口縁-底部	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	○	○	○	輝石-火山ガラス	良	ナデ	ハケ後ナデ
140		Ⅱ	E-24 小形土器	完形	赤	赤	○	○	○	輝石-火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
141		Ⅲa	H-21 小形土器	完形	橙	にぶい黄褐色	○	○	○	金雲母-火山ガラス	良	ナデ-指蓋押圧	ナデ-指蓋押圧	
142		Ⅲa	H-21 小形土器	口縁-底部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石-火山ガラス	良	ナデ	ナデ-指蓋押圧	
143		Ⅲa・Ⅱb	G-25/30 小形土器	口縁部	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	○	輝石-火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
144		—	— 小形土器	胴部	浅黄	浅黄	○	○	○	輝石・金雲母	良	ナデ	ナデ	
145		Ⅲa	F-26 小形土器	完形	橙	褐色	○	○	○	輝石-火山ガラス	良	ナデ	ナデ-指蓋押圧	
146		Ⅱ	F-25 小形土器	底部	にぶい黄褐色	黒	○	○	○	火山ガラス-白片岩	良	ナデ	ナデ-指蓋押圧	
147		包含層	D-26 小形土器	完形	黄褐色	オレンジ褐色	○	○	○	雲母-火山ガラス	良	ナデ	ナデ	
148		Ⅲa	E-23 小形土器	完形	浅黄褐色	明黄褐色	○	○	○	茶殻-火山ガラス	良	ハケ・ナデ	ナデ-指蓋押圧	外面に炭化物付着
149	Ⅲa	H-25 小形土器	胴部	にぶい黄褐色	褐色	○	○	○	輝石-火山ガラス	良	ナデ	ナデ		
150	Ⅲa	F-25 小形土器	底部	橙	橙	○	○	○	輝石-火山ガラス	良	ナデ	ナデ		
151	表	— 土製品	不明	橙	橙	○	○	○	白雲母・輝石	良	ナデ	ナデ		
152	Ⅲa	E-29 須恵器	口縁-胴部	灰白	黄灰	—	—	—	—	良	ナデ	ナデ		

第64表 古代・中世遺構内遺物観察表

採回 層号	遺構	種類	器種	部位	色調	胎土	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	調 整		備 考	
										内面	外面・底部		
87	1	溝1号	土師器	埴	底部	にぶい黄橙	精製	—	7.4	—	ナデ	ナデ	
	2	溝1号	白磁	碗	底部	灰白	堅緻	—	3.6	—	—	—	近世白磁
	3	溝2号	土師器	埴	底部	橙	精製	—	9.8	—	ナデ	ナデ	
	4	溝2号	土師器	埴	口縁部	明黄褐	精製	11.6	—	—	ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ	
	5	溝2号	土師器	埴	底部	にぶい黄橙	精製	—	7.0	—	横ナデ	横ナデ	内黒
	6	溝2号	土師器	埴	底部	にぶい黄橙	精製	—	7.0	—	横ナデ	横ナデ	内黒
	7	溝2号	土師器	坏	口縁部	にぶい黄橙	精製	—	—	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	8	溝2号	白磁	碗	口縁部	灰白	堅緻	—	—	—	—	—	
88	10	溝3号	須恵器	控鉢	口縁～胴部	灰	精緻	32.0	—	—	横ナデ	横ナデ	束腰帯系
	11	溝3号	瓦質土器	部鉢	胴部	灰	精製	—	—	—	ハケ目	ナデ	
	12	溝4号	土師器	埴	口縁部	にぶい黄橙	精製	—	—	—	横ナデ	横ナデ	
	13	溝4号	手捏土器	船壺	完形	にぶい黄橙	精製	2.1	—	—	ナデ	ナデ	
90	16	道跡	土製品	羽口	—	灰	精製	—	—	—	—	—	
	17	道跡	土製品	土鏃	—	浅黄橙	精製	—	—	—	—	ケズリ	
94	18	道跡	土師器	坏	底部	浅黄橙	精製	—	6.0	—	横ナデ	横ナデ	
	19	焼土跡5	土師器	埴	口縁部	にぶい黄	精製	14.2	—	—	横ナデ	横ナデ	内黒
	20	焼土跡5	土師器	埴	口縁部	明黄褐	精製	14.8	—	—	横ナデ	横ナデ	
	21	焼土跡5	土師器	埴	底部	にぶい黄橙	精製	—	8.6	—	ナデ	ナデ	
	22	焼土跡7	土師器	埴	口縁部	浅黄橙	精製	14.0	—	—	横ナデ	横ナデ	内黒
95	23	焼土跡7	土師器	甕	口縁部	にぶい黄褐	精製	—	—	—	ナデ	ナデ	
	24	焼土跡7	土師器	鉢	口縁～胴部	にぶい黄橙	精製	25.0	—	—	ナデ	ナデ	
	25	埋納土坑	土師器	甕	完形	にぶい黄褐	精製	9.0	6.8	1.4	横ナデ	横ナデ	糸切り
97	26	埋納土坑	土師器	甕	完形	淡黄	精製	9.3	7.0	1.7	回転ナデ	回転ナデ	糸切り
	27	埋納土坑	土師器	甕	完形	明黄褐	精製	9.1	7.4	2.0	ナデ	ナデ	糸切り
141	238	土坑①	部鉢	鉢	底部	灰褐	精製	—	—	—	—	回転ナデ	

採回 層号	遺構	種類	器種	色調	備考
87	9	溝2号	銭貨	照元造貨	—
88	14	溝5号	銅製品	不明	鉛オリーブ灰
	15	溝5号	銅製品	不明	鉛オリーブ灰

第65表 古代土器観察表(1)

埋蔵 層号	層位	出土区	種類	器種	部位	色調	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	調 整		備 考	
										内面	外面・底部		
98	28	Ⅲa	D-7	土師器	鉢	完形	暗茶褐	129	4.8	8.1	ナデ	ナデ	
	29	Ⅲa	D-7	土師器	埴	完形	橙	141	8.3	7.9	ナデ	ナデ	
	30	—	—	土師器	埴	口縁~底部	黄橙	149	8.2	7.3	ナデ	ナデ	
	31	Ⅲb	G-29	土師器	埴	完形	黄橙	141	7.4	6.5	ナデ	ナデ	
	32	Ⅲa	G-25	土師器	埴	完形	にぶい橙	121	5.7	5.7	ナデ	ナデ	
	33	Ⅲb	D-28	土師器	埴	口縁~底部	浅黄橙	128	5.2	5.2	横ナデ	横ナデ	充実高台
	34	Ⅲa	D-17	土師器	埴	完形	にぶい黄橙	124	6.8	5.5	横ナデ	横ナデ	
	35	Ⅲa	E-17-F-17	土師器	埴	口縁~底部	橙	137	7.3	6.0	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	36	Ⅲa	E-15	土師器	埴	口縁~底部	浅黄	118	7.4	7.3	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	37	—	—	土師器	埴	完形	灰黄褐	134	7.6	6.7	ミガキ	ナデ	内黒
100	38	Ⅲa	E-17	土師器	埴	口縁~胴部	浅黄	134	—	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	39	Ⅲa	E-17	土師器	埴	口縁~胴部	にぶい橙	126	—	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	40	Ⅲa	E-16	土師器	埴	口縁~胴部	にぶい橙	140	—	—	ミガキ	横ナデ	内黒
	41	Ⅲa	F-17	土師器	埴	口縁部	浅黄	156	—	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	42	Ⅲb	G-34	土師器	埴	口縁部	にぶい黄橙	150	—	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	43	Ⅲa	D-8	土師器	埴	口縁~胴部	にぶい黄橙	140	—	—	横ナデ	横ナデ	2次焼成
	44	Ⅲa	D-17	土師器	埴	口縁部	にぶい黄橙	131	—	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	45	Ⅲa・Ⅲb	G-C-F-G	土師器	埴	口縁部	明黄褐	164	—	—	横ナデ	横ナデ	内外面に炭化物付着
	46	Ⅲa	D-28	土師器	埴	胴部~底部	灰黄褐	—	9.4	—	横ナデ	横ナデ	
	47	Ⅲa	E-18	土師器	埴	口縁~胴部	浅黄橙	130	—	—	横ナデ	横ナデ	
101	48	Ⅲa	E-17	土師器	埴	胴部~底部	にぶい黄橙	—	7.0	—	横ナデ	横ナデ	
	49	Ⅲ・Ⅲa	D-16	土師器	埴	胴部~底部	にぶい黄橙	—	7.0	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	50	Ⅲa	C-5	土師器	埴	胴部~底部	にぶい黄橙	—	5.2	—	横ナデ	横ナデ	充実高台
	51	Ⅲa	C-17	土師器	埴	胴部~底部	にぶい黄橙	—	6.0	—	横ナデ	横ナデ	充実高台
	52	Ⅲa	E-17	土師器	埴	底部	にぶい黄橙	—	7.5	—	横ナデ	横ナデ	
	53	Ⅲa	D-21	土師器	埴	底部	明黄褐	—	6.6	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	54	Ⅲa	E-15	土師器	埴	胴部~底部	にぶい黄橙	—	8.0	—	横ナデ	横ナデ	
	55	Ⅲa	E-16	土師器	埴	底部	にぶい黄橙	—	—	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	56	Ⅲa	E-17	土師器	埴	胴部~底部	にぶい黄橙	—	7.8	—	横ナデ	横ナデ	
	57	Ⅲa	E-16	土師器	埴	底部	にぶい黄橙	—	7.6	—	横ナデ	横ナデ	
102	58	Ⅲa	F-16	土師器	埴	底部	浅黄	—	7.8	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	59	Ⅲa	E-16	土師器	埴	底部	浅黄	—	7.8	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	60	Ⅲa	F-16	土師器	埴	底部	にぶい黄橙	—	7.6	—	横ナデ	横ナデ	
	61	Ⅲa	F-17	土師器	埴	底部	橙	—	9.6	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	62	Ⅲa	E-16	土師器	埴	口縁部	浅黄	—	—	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	63	Ⅲb	F-35	土師器	埴	口縁部	暗灰黄	—	—	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	内黒
	64	Ⅲa	G-35	土師器	埴	底部	明黄褐	—	5.7	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	65	Ⅲa	G-16	土師器	埴	底部	明黄褐	—	7.4	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	66	Ⅲa	F-17	土師器	埴	底部	浅黄	—	6.8	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	67	Ⅲa	F-17	土師器	埴	底部	浅黄橙	—	7.0	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒

第66表 古代土器観察表(2)

採回 種別	番号	層位	出土区	種類	器種	部位	色調	口径 (cm)	器高 (cm)	器高 (cm)	調 整		備 考
											内面	外面・底部	
103	68	Ⅱa	C-7	土師器	坏	底部	にぶい黄橙	—	4.6	—	横ナデ	横ナデ	
	69	Ⅱ	G-47	土師器	坏	底部	赤	—	6.0	—	横ナデ	横ナデ	
	70	Ⅱa	E-19	土師器	坏	口縁～底部	にぶい黄橙	13.1	7.4	4.1	横ナデ	横ナデ	外面に炭化物付着
	71	Ⅱa	C-10	土師器	坏	底部	浅黄	—	10.6	—	横ナデ	横ナデ	2次焼成
	72	Ⅱa	G-47	土師器	坏	口縁～底部	明黄褐	13.2	7.8	3.2	横ナデ	横ナデ	
	73	Ⅱa	E-17	土師器	坏	口縁部	にぶい黄橙	14.0	—	—	横ナデ	横ナデ	
	74	Ⅱb-Ⅳ	E-28	土師器	坏	口縁部	明黄褐	15.0	—	—	横ナデ	横ナデ	
	75	Ⅱa	E-35	土師器	坏	口縁部	にぶい黄橙	15.0	—	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒
	76	Ⅱa	F-32	土師器	坏	口縁部	にぶい黄橙	12.0	—	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	内黒
	77	Ⅱa	F-34	土師器	坏	口縁部	明黄褐	14.6	—	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	内黒
104	78	Ⅱa	D-17E-17	土師器	鉢	口縁部	にぶい橙	10.0	—	—	横ナデ	横ナデ	
	79	Ⅱa	D-17	土師器	鉢	底部	にぶい黄橙	—	11.2	—	横ナデ	横ナデ	ケズリ
	80	Ⅱa	E-14	土師器	鉢	底部	浅黄	—	14.8	—	横ナデ	横ナデ	
	81	Ⅱa	D-17E-17	土師器	鉢	底部	にぶい黄褐	—	17.6	—	横ナデ	横ナデ	
	82	Ⅱa	D-16	土師器	鉢	底部	浅黄橙	—	14.6	—	横ナデ	横ナデ	
105	83	Ⅱa	G-47	土師器	甕	口縁部	灰黄褐	31.2	—	—	ナデ・ケズリ	ナデ	
	84	Ⅱa	G-47	土師器	甕	口縁部	浅黄	31.4	—	—	横ナデ	横ナデ	
	85	Ⅱa	D-17	土師器	甕	口縁部	黒褐	25.2	—	—	ナデ・ケズリ	ナデ	外面に炭化物付着
	86	Ⅱa	E-17	土師器	甕	口縁部	褐	30.4	—	—	ナデ・ケズリ	ケズリ	横ナデ
	87	Ⅱa	C-7	土師器	甕	口縁部	明赤褐	—	—	—	ナデ・ケズリ	ナデ	
106	88	Ⅱa	F-47	土師器	甕	口縁部	浅黄橙	—	—	—	ケズリ	ナデ	内外面に炭化物付着
	89	Ⅱa	E-16	土師器	甕	口縁部	黒褐	—	—	—	ナデ・ケズリ	ナデ	外面に炭化物付着
	90	Ⅱa	G-48	土師器	甕	口縁部	橙	27.2	—	—	横ナデ	横ナデ	外面に炭化物付着
	91	Ⅱa	G-47	土師器	甕	口縁～胴部	橙	30.4	—	—	ケズリ	ナデ	
	92	Ⅱa	E-16	土師器	甕	口縁部	にぶい褐	—	—	—	ナデ	ナデ	外面に炭化物付着
107	93	Ⅱa	E-17	土師器	甕	口縁部	黒褐	—	—	—	横ナデ	横ナデ	外面に炭化物付着
	94	Ⅱa	F-16	土師器	甕	口縁部	にぶい褐	—	—	—	ケズリ	横ナデ	外面に炭化物付着
	95	Ⅱa	G-47	土師器	甕	口縁部	橙	—	—	—	ケズリ	ナデ	
	96	Ⅱa	G-47	土師器	甕	口縁部	オリーブ褐	—	—	—	ナデ・ケズリ	ナデ	
	97	Ⅱa	G-47	土師器	甕	口縁部	橙	—	—	—	ケズリ	ナデ	
108	98	Ⅱa	G-47	土師器	甕	口縁部	橙	—	—	—	ナデ・ケズリ	ナデ	
	99	Ⅱa	G-47	土師器	甕	口縁部	橙	—	—	—	ナデ・ケズリ	ナデ	外面に炭化物付着
	100	Ⅱb	G-33	土師器	埴・坏	口縁部	にぶい黄橙	—	—	—	横ナデ	横ナデ	墨書
	101	Ⅱa	D-16	土師器	埴・坏	口縁部	にぶい黄橙	—	—	—	横ナデ	横ナデ	墨書
	102	Ⅱa	F-17	土師器	坏	口縁部	橙	—	—	—	横ナデ	横ナデ	内黒・墨書
	103	Ⅱa	E-16	土師器	埴	口縁部	橙	—	—	—	横ナデ	横ナデ	墨書
	104	—	—	土師器	坏	口縁部	にぶい橙	—	—	—	横ナデ	横ナデ	墨書
	105	Ⅱa	D-17	土師器	埴・坏	胴部	にぶい黄橙	—	—	—	横ナデ	横ナデ	墨書
	106	Ⅱa	E-17	土師器	埴・坏	胴部	にぶい橙	—	—	—	ヘラミガキ	横ナデ	内黒・墨書
	107	Ⅱa	E-16	土師器	埴・坏	胴部	にぶい橙	—	—	—	ミガキ	横ナデ	墨書
	108	Ⅱa	E-17	土師器	埴・坏	胴部	にぶい黄橙	—	—	—	横ナデ	横ナデ	内黒・墨書
109	Ⅱa	D-15	土師器	埴・坏	胴部	にぶい黄橙	—	—	—	横ナデ	横ナデ	墨書	
110	Ⅱa	E-17	土師器	埴	口縁～底部	にぶい橙	14.3	7.5	6.4	ナデ	ナデ	墨書・内外面に炭化物付着	
111	Ⅱa	D-13	土師器	埴	口縁～胴部	にぶい橙	13.4	—	—	横ナデ	横ナデ		

第67表 古代土器観察表 (3)

碑号	層位	出土区	種類	器種	部位	色調	口径 (cm)	口径 (高台径)	器高 (cm)	調 整		備 考	
										内面	外面・底部		
109	112	巨大土坑	D-21	須恵器	皿	口縁~底部	灰黄	140	9.6	1.8	横ナデ	横ナデ	
	113	表	G-40	須恵器	蓋	天井部	褐灰	32	—	—	ナデ	ナデ	
	114	Ⅲa	C-5	須恵器	甕	口縁部	灰白	15.8	—	—	ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ	焼成不良
	115	Ⅲa	D-16	須恵器	甕	胴部	にぶい黄	—	—	—	同心円アテ具	格子タタキ	外面自然釉
	116	Ⅲa	E-17	須恵器	甕	胴部	黄灰	—	—	—	同心円アテ具	平行タタキ	
	117	—	—	須恵器	甕	胴部	灰白	—	—	—	同心円アテ具	平行タタキ	焼成不良
	118	Ⅲa	F-15	須恵器	甕	胴部	にぶい赤褐	—	—	—	同心円アテ具	格子タタキ	
	119	Ⅲa	E-17	須恵器	甕	胴部	にぶい赤褐	—	—	—	平行アテ具	平行タタキ	
	120	表	—	須恵器	甕	胴部	灰オリーブ	—	—	—	同心円アテ具	平行タタキ	
	121	Ⅲa	D-16	須恵器	甕	胴部	暗灰黄	—	—	—	平行アテ具	平行タタキ	
	122	Ⅲa	F-17	須恵器	甕	胴部	黒褐	—	—	—	平行アテ具	平行タタキ	
	110	123	Ⅲa	E-39	須恵器	甕	胴部	黄灰	—	—	—	平行アテ具	平行タタキ
124		Ⅲa	E-17-18	須恵器	甕	胴部	オリーブ灰	—	—	—	平行アテ具	平行アテ具	
125		Ⅲa	E-17	須恵器	甕	胴部	褐灰	—	—	—	同心円アテ具	平行タタキ	外面自然釉
126		Ⅲa	E-17	須恵器	甕	胴部	黄灰	—	—	—	平行アテ具	平行タタキ	
127		Ⅲa	C-5	須恵器	甕	胴部	淡黄	—	—	—	同心円アテ具	格子タタキ	
128		Ⅲa	C-5	須恵器	甕	胴部	オリーブ黄	—	—	—	同心円アテ具	格子タタキ	
129		—	—	須恵器	甕	胴部	橙	—	—	—	平行アテ具	平行タタキ	
130		Ⅲa	E-17	須恵器	甕	胴部	暗赤褐	—	—	—	平行アテ具	平行タタキ	
131		Ⅲa	E-17	須恵器	甕	胴部	黄灰	—	—	—	平行アテ具	平行タタキ	
132		Ⅲa	E-17	須恵器	甕	胴部	灰褐	—	—	—	平行アテ具	平行タタキ	
133		—	—	須恵器	甕	胴部	灰	—	—	—	平行アテ具	平行タタキ	
111		134	表	—	須恵器	甕	胴部	灰褐	—	—	—	平行アテ具	平行タタキ
	135	Ⅲa	E-17	須恵器	甕	胴部	灰オリーブ	—	—	—	平行アテ具	平行タタキ	外面自然釉
	136	—	—	須恵器	甕	胴部	淡黄	—	—	—	同心円アテ具	平行タタキ	焼成不良
	137	Ⅲa	G-26	須恵器	甕	胴部	橙	—	—	—	平行アテ具	平行タタキ	
	138	—	—	須恵器	甕	胴部	褐灰	—	—	—	平行アテ具	平行タタキ	
	139	Ⅲa	G-47	須恵器	甕	胴部	灰褐	—	—	—	格子アテ具	平行アテ具	
	140	—	—	須恵器	甕	胴部	灰	—	—	—	平行タタキ	同心円アテ具	
	141	—	—	須恵器	甕	胴部	暗青灰	—	—	—	平行アテ具	格子タタキ	
	142	Ⅲa	E-17	須恵器	鉢	口縁部	にぶい橙	14.0	—	—	ナデ	ナデ	
	143	—	—	須恵器	甕	胴部	灰	—	—	—	ナデ	ナデ	

第68表 中世土器観察表 (1)

碑号	層位	出土区	種類	器種	部位	色調	口径 (cm)	口径 (高台径)	器高 (cm)	調 整		備 考	
										内面	外面・底部		
113	144	—	—	土師器	碗	底部	黒	—	6.6	—	ヘラムガキ	ヘラムガキ	両足
	145	表一括	—	土師器	坏	口縁~底部	にぶい黄橙	13.8	12.6	2.9	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	146	Ⅲa	E-35	土師器	坏	口縁~底部	にぶい橙	13.4	9.3	2.4	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	147	表一括	—	土師器	坏	口縁~底部	浅黄橙	13.2	8.2	2.2	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	148	表一括	—	土師器	坏	口縁~底部	にぶい橙	11.8	9.4	3.1	横ナデ	横ナデ	
	149	Ⅲa	H-34	土師器	坏	底部	橙	—	10.4	—	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	150	表	—	土師器	坏	底部	にぶい橙	—	12.8	—	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	151	Ⅲa	E-35-G-26	土師器	坏	底部	明黄褐	—	8.2	—	横ナデ	横ナデ・糸切り	
	152	表一括	—	土師器	坏	底部	浅黄橙	—	6.8	—	横ナデ	横ナデ・糸切り	

第69表 中世土器観察表(2)

採回	番号	層位	出土区	種類	器種	部位	色調	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	調 整		備 考
											内面	外面・底部	
114	153	表一括	—	土師器	坏	体部~底部	にぶい黄橙	—	11.4	—	横ナデ	横ナデ・赤切り	
	154	表一括	—	土師器	坏	底部	にぶい橙	—	7.4	—	横ナデ	横ナデ・赤切り	
	155	Ⅲa	F-26	土師器	坏	体部~底部	にぶい黄橙	—	8.0	—	横ナデ	横ナデ・赤切り	
	156	Ⅲa	G-26	土師器	坏	底部	にぶい橙	—	6.4	—	横ナデ	横ナデ・赤切り	
	157	Ⅱ	G-25	土師器	坏	体部~底部	にぶい黄橙	—	8.0	—	横ナデ	横ナデ・赤切り	
	158	Ⅱ	I-25	土師器	坏	底部	明黄褐	—	8.2	—	横ナデ	横ナデ・赤切り	
	159	—	—	土師器	皿	口縁~底部	浅黄	5.8	3.8	1.5	横ナデ	横ナデ・赤切り	
	160	Ⅲa	D-19	土師器	皿	口縁~底部	にぶい黄橙	7.0	5.4	1.7	横ナデ	横ナデ	
	161	表一括	—	土師器	皿	口縁~底部	にぶい橙	6.4	4.8	2.3	横ナデ	横ナデ・赤切り	
	162	表	—	土師器	皿	口縁~底部	灰黄	7.2	6.2	2.5	横ナデ	横ナデ・赤切り	
	163	表一括	—	土師器	皿	口縁~底部	浅黄	6.8	5.0	2.0	横ナデ	横ナデ・赤切り	
	164	—	G-27	土師器	皿	口縁~底部	にぶい橙	6.8	4.8	2.0	横ナデ	横ナデ・赤切り	
	165	表一括	—	土師器	皿	口縁~底部	にぶい黄橙	7.0	5.4	2.0	横ナデ	横ナデ・赤切り	
	166	Ⅲa	E-26	土師器	皿	口縁~底部	にぶい橙	7.8	5.6	1.8	横ナデ	横ナデ・赤切り	
	167	Ⅲa	F-24	土師器	皿	口縁~底部	にぶい黄橙	7.4	5.2	1.8	横ナデ	横ナデ・赤切り	
	168	表一括	—	土師器	皿	口縁~底部	にぶい橙	7.4	6.6	2.0	横ナデ	横ナデ・赤切り	
	169	Ⅱ	C-18	土師器	皿	口縁~底部	浅黄	7.4	6.4	1.4	横ナデ	横ナデ・赤切り	
	170	表一括	—	土師器	皿	口縁~底部	にぶい橙	7.6	6.4	1.3	横ナデ	横ナデ・赤切り	
171	Ⅲa	E-35	土師器	皿	口縁~底部	にぶい黄橙	7.6	4.8	1.7	横ナデ	横ナデ・赤切り		
172	表一括	—	土師器	皿	口縁~底部	にぶい黄橙	7.8	6.4	2.0	横ナデ	横ナデ・赤切り		
173	表	—	土師器	皿	口縁~底部	にぶい黄橙	8.4	6.9	2.5	横ナデ	横ナデ		
174	表一括	—	土師器	皿	口縁~底部	にぶい黄橙	8.6	6.6	1.6	横ナデ	横ナデ・赤切り		
175	Ⅲb	F-36	土師器	皿	口縁~底部	浅黄橙	8.6	6.6	1.5	横ナデ	横ナデ・赤切り		
176	Ⅲa	D-19	土師器	皿	口縁~底部	にぶい黄褐	8.8	6.2	2.1	横ナデ	横ナデ		
177	Ⅲa	E-35	土師器	皿	口縁~底部	にぶい橙	9.2	7.3	1.4	横ナデ	横ナデ・赤切り		
178	Ⅲa	D-15	土師器	皿	口縁~底部	浅黄橙	10.4	9.6	1.1	横ナデ	横ナデ・赤切り		
179	Ⅲa	C-18	土師器	皿	口縁~底部	灰白	9.2	7.8	2.1	横ナデ	横ナデ		
180	表一括	—	土師器	皿	底部	にぶい黄橙	—	4.8	—	横ナデ	横ナデ・赤切り		
181	Ⅲa	H-34	土師器	皿	底部	にぶい黄橙	—	6.0	—	横ナデ	横ナデ		
182	Ⅱ	G-24	土師器	皿	底部	にぶい黄橙	—	5.2	—	横ナデ	横ナデ・赤切り		
183	表一括	—	土師器	皿	底部	にぶい黄橙	—	5.0	—	横ナデ	横ナデ・赤切り		
184	Ⅲb	E-25c-26	須恵器	斐	口縁部	灰	—	—	—	ナデ	平行タタキ	東播磨系・土師質	
185	Ⅱ	E-26	須恵器	斐	口縁部	灰	—	—	—	ナデ	ナデ・平行タタキ	東播磨系	
186	Ⅲa	G-33	須恵器	斐	頸部	灰	—	—	—	ナデ	ナデ・格子目タタキ	摩方支系	
187	—	—	須恵器	斐	頸部	灰白	—	—	—	ナデ	ナデ・平行タタキ	東播磨系	
188	Ⅲa	E-26	須恵器	斐	頸部	灰白	—	—	—	ナデ	ナデ・平行タタキ	東播磨系	
189	表	—	須恵器	斐	胴部	灰白	—	—	—	ナナメハケ目	平行タタキ	東播磨系	
190	Ⅲa	E-26	須恵器	斐	胴部	明黄褐	—	—	—	ナデ	格子目タタキ		
191	Ⅲa	G-25	須恵器	斐	胴部	にぶい橙	—	—	—	ナデ	平行タタキ		
192	Ⅲa	H-34	瓦質土器	搾鉢	口縁~胴部	黄灰	30.0	—	—	ナデ	ナデ		
193	巨大土坑	D-21	瓦質土器	搾鉢	口縁部	浅黄橙	—	—	—	ナデ・ケズリ	ナデ・ケズリ		
194	Ⅲa	F-33	瓦質土器	搾鉢	口縁部	灰白	—	—	—	ナデ	ナデ	内面の剥落多い	
195	—	—	瓦質土器	搾鉢	口縁部	灰白	—	—	—	ナデ	ナデ	焼成不良	
196	Ⅱ	G-24	瓦質土器	搾鉢	口縁部	灰オリーブ	—	—	—	ナナメハケ目	縦ハケ目横ナデ		
197	巨大土坑	D-21	瓦質土器	搾鉢	底部	にぶい黄褐	—	—	—	ナデ	ナデ	内面使用による磨減	
198	—	—	須恵器	搾鉢	底部	灰	—	—	—	ナデ	ナデ	東播磨系	
199	Ⅱ	G-24	瓦質土器	搾鉢	口縁部	にぶい黄	—	—	—	ナデ	ナデ	摩方支系	
200	表	—	瓦質土器	搾鉢	口縁部	灰	—	—	—	ナデ	ナデ	摩方支系	
201	—	—	瓦質土器	搾鉢	口縁部	灰	—	—	—	ナナメハケ目	ナデ	摩方支系・内外面剥落	
202	Ⅲa	E-31	瓦質土器	搾鉢	胴部~底部	灰白	—	—	—	ナナメハケ目	縦ハケ目	焼成不良	
203	巨大土坑	D-21	瓦質土器	火鉢	口縁部	灰	—	—	—	ナデ	ナデ	外面に花文スタンプ	
119-204	Ⅱ	C-13	備前焼	搾鉢	底部	にぶい赤褐	—	19.0	—	ナデ	ナデ	内面使用による磨減	

第70表 中世磁器観察表

検出番号	出土区	層位	種類	器種	胎土	輪(蓋)	生産地	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備考
205	E-36	Ⅲa	青磁	碗	精緻	灰オリーブ	龍泉窯系	15.6	—	—	
206	F-38	Ⅲa	青磁	碗	精緻	灰オリーブ	龍泉窯系	—	5.8	—	割花文、登付・高台内露胎
207	H-34	Ⅲa	青磁	碗	精緻	灰オリーブ	龍泉窯系	—	6.8	—	割花文、登付・高台内露胎
208	E-36	Ⅲa	青磁	碗	精緻	灰オリーブ	龍泉窯系	—	8.4	—	割花文、登付・高台内露胎
209	D-21	巨大土坑	青磁	碗	灰白	オリーブ黄	龍泉窯系	—	5.6	—	
210	E-37	Ⅲa	青磁	碗	精緻	灰オリーブ	龍泉窯系	—	—	—	
211	E-36	Ⅲa	青磁	碗	精緻	灰オリーブ	龍泉窯系	—	—	—	
212	E-26	Ⅲa	青磁	碗	精緻	灰オリーブ	龍泉窯系	—	—	—	
213	G-25	Ⅱ	青磁	坏	精緻	緑灰	龍泉窯系	12.0	—	—	編蓮弁文
214	G-28	Ⅲa	青磁	坏	精緻	緑灰	龍泉窯系	—	—	—	口縁部輪花
215	E-26	Ⅲa	青磁	坏	精緻	灰オリーブ	龍泉窯系	11.6	—	—	口縁部輪花
216	D-21	巨大土坑	青磁	皿	茶粒・白粒	オリーブ灰	龍泉窯系	14.1	—	—	
217	D-16	Ⅲa	青磁	皿	精緻	オリーブ灰	龍泉窯系	—	—	—	
218	D-21	巨大土坑	青磁	碗	灰白・黒色粒	オリーブ灰	龍泉窯系	—	—	—	
219	—	表	白磁	碗	精緻	灰白	—	8.0	3.0	3.5	高台内面に墨書
220	F-34	Ⅲa	白磁	碗	精緻	灰白	—	—	—	—	
221	D-21	巨大土坑	青花	皿	灰白・黒色粒	灰オリーブ	漳州窯系	—	4.4	—	登付きに重ね焼跡

第71表 中世土製品観察表

検出番号	出土区	層位	種類	器種	胎土	輪(蓋)	備考
222	F-26	Ⅱ	土製品	土鉢	—	にぶい黄橙	
223	H-33	Ⅲa	土製品	土鉢	—	にぶい橙	
224	E-31	Ⅲa	土製品	土鉢	—	にぶい黄橙	
225	C-18	Ⅲa	土製品	土鉢	—	にぶい橙	外面に赤色顔料塗布
226	G-27	Ⅱ	土製品	土鉢	—	暗灰黄	2次焼成
227	E-36	Ⅲa	土製品	土鉢	—	浅黄	
228	D-28	Ⅲb	土製品	土鉢	—	浅黄	
229	—	イモ穴	土製品	土鉢	—	にぶい黄橙	
230	H-34	Ⅲb	土製品	不明	—	にぶい橙	用途不明
231	D-28	Ⅲb	土製品	不明	—	にぶい黄橙	用途不明
232	D-21	巨大土坑	土製品	輪の羽口	—	にぶい黄橙	外面にガラス質物質が附着
233	D-21	巨大土坑	土製品	輪の羽口	—	にぶい橙	先端部が被熱変色

第72表 中世石製品観察表

検出番号	器種	出土区	層位	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
234	石鍋	H-37・38	—	滑石	8.2	8.9	1.8	161.0	
235	石鍋	F-34	Ⅲa	滑石	4.1	3.9	2.2	73.0	
236	石鍋	E-36	Ⅲa	滑石	—	—	—	39.2	
237	石鍋	E-36	Ⅲ	滑石	7.0	5.8	1.0	51.0	直径12cm

第73表 近世陶磁器観察表

陣号	番号	出土区	層位	種類	器種	釉(薬)	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	備 考
152	1	表探一括	—	陶器焼	碗	明黄釉	—	4.6	—	蛇の目輪筋有
	2	表探一括	—	陶器焼	碗	黒釉	—	5.0	—	底付に目跡
	3	表探一括	—	陶器焼	瓶	瓶口	6.8	4.8	5.6	底部外側露胎
	4	表探一括	—	陶器焼	土瓶の蓋	灰オリーブ	9.2	7.1	—	—
	5	表探一括	—	陶器焼	土瓶の蓋	黒釉	7.0	—	—	梅花花
	6	表探一括	—	陶器焼	土瓶	黒釉	—	—	—	—
	7	表探一括	—	陶器焼	壺	灰黄釉	10.6	—	—	—
	8	表探一括	—	陶器焼	德利	黒釉	4.2	7.2	21.6	—
	9	表探一括	—	陶器焼	德利	灰オリーブ	—	6.4	—	—
	10	F-27	Ⅱa	陶器焼	鉢	暗オリーブ灰	—	—	—	—
153	11	表探一括	—	陶器焼	壺	オリーブ灰	16.0	—	—	—
	12	表探一括	—	陶器焼	鉢・德利	オリーブ黒	—	13.4	—	—
	13	表探一括	—	陶器焼	播鉢	オリーブ黒	26.6	—	—	—
	14	表探一括	—	陶器焼	播鉢	暗オリーブ釉	—	13.0	—	—
154	15	表探一括	—	陶器焼	播鉢	灰釉	—	11.8	—	—
	16	表探一括	—	陶器焼	片口	黒黄釉	—	—	—	—
	17	表探一括	—	陶器焼	壺	灰釉	—	9.0	—	線不明
	18	表探一括	—	陶器焼	壺	灰	26.3	—	—	—
	19	表探一括	—	陶器焼	壺	黄灰	24.8	—	—	—
	20	表探一括	—	陶器焼	壺	オリーブ黒	29.0	—	—	—
155	21	表探一括	—	陶器焼	壺	明赤灰	26.6	18.6	12.8	—
	22	表探一括	—	陶器焼	壺	黒オリーブ	28.0	20.0	9.1	—
156	23	表探一括	—	陶器焼	壺	灰白	—	—	—	—
	24	表探一括	—	陶器焼	壺	黒釉	37.0	—	—	—
	25	表探一括	—	陶器焼	壺	灰オリーブ	—	15.6	—	—
	26	表探一括	—	陶器焼	壺・壺の耳	オリーブ黒	—	—	—	—
157	27	表探一括	—	磁器	管状磁製品	灰白	—	—	—	用途不明
	28	表探一括	—	陶器焼	椎状陶製品	黒黄釉	—	—	—	—

第74表 近世陶磁製品観察表

陣号	番号	出土区	層位	種類	器種	釉(薬)	備 考	
158	29	表探一括	—	陶器転用品	メンコ	黒釉	—	
	30	表探一括	—	陶器転用品	メンコ	菊灰黄	—	
	31	表探一括	—	陶器転用品	メンコ	オリーブ黒	—	
	32	F-43	V	陶器転用品	メンコ	黒釉	—	
	33	表探一括	—	陶器転用品	メンコ	菊緑灰	—	
	34	G-35	Ⅱa	陶器転用品	メンコ	灰オリーブ	—	
	35	イモ穴	—	陶器転用品	メンコ	灰釉	—	
	36	I-39	Ⅳ	陶器転用品	メンコ	灰釉	—	
	37	表探一括	—	陶器転用品	メンコ	オリーブ黒	—	
	38	G-27	Ⅱa	陶器転用品	メンコ	オリーブ黒	—	
	39	表探一括	—	陶器転用品	メンコ	菊灰黄	—	
	40	表探一括	—	陶器転用品	メンコ	オリーブ黒	—	
	41	表探一括	—	陶器転用品	メンコ	灰	—	
	42	表探一括	—	陶器転用品	メンコ	菊灰	—	
	43	表探一括	—	陶器転用品	メンコ	菊灰	—	
	44	表探一括	—	陶器転用品	メンコ	黒釉	—	
	45	表探一括	—	陶器転用品	メンコ	灰	—	
	46	表探一括	—	陶器転用品	メンコ	黒	—	
	47	表探一括	—	陶器転用品	メンコ	灰黄釉	—	
	48	H-38	Ⅳ	陶器転用品	メンコ	オリーブ黒	—	
	49	表探一括	—	陶器転用品	メンコ	菊灰	—	
	50	H-35	V	陶器転用品	メンコ	黒釉	—	
	51	表探一括	—	陶器転用品	メンコ	菊灰	—	
	52	表探一括	—	陶器転用品	メンコ	オリーブ黒	—	
	159	53	F-27	Ⅱa	陶器転用品	メンコ	灰赤	—
		54	G-27	Ⅱa	土器転用品	メンコ	黒	—
		55	表探一括	—	陶器転用品	メンコ	灰赤	—
		56	表探一括	—	陶器転用品	メンコ	菊灰	—
57		表探一括	—	陶器転用品	メンコ	にふい釉	—	
58		表探一括	—	陶器転用品	メンコ	暗赤釉	備前焼	

第75表 近世銭貨観察表

陣号	番号	出土区	層位	銭貨名	初鑄年	径 (cm)	重さ (g)	備 考
160	59	F-38	I	寛永通宝	1636	2.3	1.92	—
	60	表探一括	I	寛永通宝	1636	2.3	2.06	—
	61	E-37	I	寛永通宝	1636	2.2	2.17	—
	62	表探一括	I	寛永通宝	1636	2.4	2.04	一部欠損
	63	表探一括	I	寛永通宝	1636	2.3	2.48	—
	64	表探一括	I	寛永通宝	1636	2.3	2.09	—
	65	表探一括	I	寛永通宝	1636	2.4	1.05	—
	66	表探一括	I	寛永通宝	1636	2.2	2.21	一部欠損
	67	表探一括	I	寛永通宝	1636	2.5	2.58	一部欠損

第 XI 章 発掘調査のまとめ

第 1 節 旧石器時代

1 ナイフ形石器文化期

この時期の遺物は、ナイフ形石器の 2 点だけである。一つは鉄石英の、もう一つは西北九州産の黒曜石の横長剥片を用いている。第 1 章第 1 節でも述べたように、この 2 点は、素材となった剥片に共通する特徴がある。再度ここで記述しておこう。

礫皮面打面で、木口面を作業面とする盤状の石核から剥離される横長剥片を素材とする。この石核では、加撃軸方向の長さは木口面の高さとなり、横幅は木口面の幅以内に規制されるので、このような規格の剥片が定量的に生産されることになり、その剥片を用いることで斉一性のあるナイフ形石器の量産が可能となる。この遺跡を残した人は、この規格へのこだわりがあったようであり、鉄石英と黒曜石と異なった石材であっても、ほぼ同じ大きさの製品を作り出している。

また、素材から製品への加工にしても、ほぼ同じような調整剥離を行っており、あたかも同一人物の手になるかのようである。

2 細石刃文化期

148 個の細石刃核、同母核が A～F の六つのブロックとまばらな環状分布、およびその周囲に散在するように出土している。

さて、148 個の細石刃核を型式に分けると、福井型、船野型、野岳・休場型となるが、第 2 章第 2 節では次のように分類しながら記述したところである。A：福井型、B：傾斜打面の船野型、C：平坦打面の船野型、D：楔形への指向が強い野岳・休場型、E：細かくなった分割礫素材で下縁調整等のない野岳・休場型、以上の 5 分類した。

ここで、ブロックごとにこの 5 類がどのように出土しているかを確認したい。

A ブロック：A 類、C 類、D 類

B ブロック：A 類、D 類、E 類

C ブロック：A 類、B 類、C 類、D 類、E 類

D ブロック：A 類、B 類、C 類、D 類、E 類

E ブロック：B 類、C 類、D 類、E 類

F ブロック：C 類

環状分布内：A 類、B 類、C 類、D 類、E 類 ブロック外：A 類、B 類、C 類、D 類、E 類

以上のような結果である。従来は細石刃核の型式の違いでもって、時期差を論じる傾向があったが、このような出土状況を見る限りでは、時期差を考えるのは困難ではないかと思う。

では、何が型式の違いを生じさせているのであろうか。「7 環状分布内およびブロック外」の項で簡単に触れたが、この 5 類は大きさが違うのである。大きい順に並べると A 類・B 類・C 類・D 類・E 類となる。A 類と B 類はほぼ同じ大きさである。

ところで、東アジアの細石刃文化は楔形細石刃核を中心に論じられてきた。楔形細石刃核は規格を維持したうえで定量的生産のために生まれたのだといわれる。このことと先の大きさのことを考え合わせると、次のようなことが考えられる。両面調整の母核を作れる大きさの剥片が得られれば、西海技法を用いて A 類を作り、船底型石器様の母核を作れるだけの大きさの剥片、もしくは分割礫が得られれば B 類を作り、それらが作れるほどの素材が得られないと D、E 類を作る。つまり、型式の違いは素材の大きさによるのである。

(富田逸郎)

第2節 縄文時代

1 遺構

縄文時代において、確実に該期の遺構として捉えられるものは、集石遺構のみであった。各層毎の検出数は、Ⅰ層が7基、Ⅱ層が14基、Ⅲ層が4基、Ⅳ層が1基の計7基が検出されている。

これらの検出数と土器の出土量を比較すると縄文時代早期中葉から後葉に特に塞ノ神式土器の時期に盛んに集石による調理が行われたものと考えられる。

2 土器

本遺跡からは、非常に豊富な多種に渡る縄文土器の出土が見られた。便宜上、2類に分類して報告した。ただし、縄文早期後葉の条痕文系土器、前中期の条痕文系土器は多岐に渡り分類が混乱してしまった感がある。

・1類土器は、その特徴から岩本式土器である。ただし口唇内面の稜の弱い平坦に近いものなどは、
- a類に近い関係のものである可能性が高い。また、レイアウト図面にはないが、図版(PL-52)の下端中央の破片には口縁内面に赤色顔料が塗られており、科学分析の結果、ベンガラであることが判明した。

・2類土器はa・b・cの3タイプに分類した。2-a類は、口縁部にヘラや貝殻その他の工具による連続文様を施し、胴部に斜位の条痕による調整を施すもので、前平式土器である。

2-b類は、口縁部に横位や縦位の連続的な刺突を行い、胴部には地文の上から縦位、斜位、直線や流水文などの刺突や条痕を施すもので、近年において志風頭タイプと言われるものである。

2-c類土器は、口縁部に横位や縦位の連続的な刺突を行い、その直下に模貼付文を施すものと施さないものがある。胴部は地文である斜位の条痕の上から縦位の貝殻刺突文を基本とするもので、加栗山タイプである。

・3類土器は、胴部の調整が施文が押し引きを基本とするもので、吉田式土器である。

・4類土器は、胴部の調整が綾杉状の条痕を基本とするもので、石坂式土器である。

・5類土器は、平底の底部から内湾しながら口縁部へと至る基本的に大型土器で、胴部には櫛描状の沈線文を密に施すもので、桑ノ丸式土器である。

・6類土器は、肉厚で内外面にヘラ状の調整が観察され、口縁部は貝殻復縁の連続刺突が廻るもので、県内でも中尾田遺跡など数例の出土例があるのみの土器で、大分県政所遺跡出土の政所式土器に酷似するものである。

・7類土器は、条痕文系の土器で、横位に近い櫛描状のものと、板状のヘラ状工具による縦位・横位の調整の2種がある、a・bとしたが、別系統の土器で独立した分類が出来る可能性もある。

・8類土器は、楕円・山形の施文原体を転がす、押型文土器である。

・9類は口縁部が大きく外反し、頸部でくびれ、胴部中央部で張り出して屈曲しながら底部へいたる器形であり、外面及び口縁内面に山形や曲線状の押型文が施されるもので、手向山式土器である。

・10類土器は、数点の破片の出土である。胴部の結節縄文から平栴式土器と思われるものである。

・1類土器のa類は、円筒形の胴部にラッパ状に開いた口縁部を有するもので、口縁部に幾何学文や刺突文を施し、胴部に捩糸文系の縄文を施す塞ノ神式A式土器である。b類は口縁部に貝殻等による連続刺突を施し、やや張る胴部に貝殻や櫛状工具による条線を施すもので塞ノ神B式土器であ

る。また、c類は当該期の無文土器と思われる。

- ・ 1類土器は、1個体のみ出土で、浜式土器である。
- ・ 1類土器は、最大径が口縁部にあり、緩やかに内湾しながら底部へと至る。口縁部に刻みを施し、外面には、板状のヘラ状工具による幾何学的調整を、内面はナデ調整を基本とするもので、右京西式土器である。
- ・ 1類土器は、縄文時代早期の土器の底部で帰属時期の不確かなものである。
- ・ 19類土器は、1類土器に類似した器形を呈するものであるが、1類土器との大きな違いは、内外面の調整が粗い条痕であり、48㍉のように口縁の内外面に曲線状の条痕が施されているところである。16類と近い関係のものであると考えられる。
- ・ 16類土器は、鹿屋市神野牧遺跡で出土したような垂下状の突帯を有するものと、口縁部に数条の密なミミズバレ状の突帯を施すものなどで、轟式B式土器である。ただし、胴部みの破片では、19類が混入している可能性がある。
- ・ 1類土器は、柳描き状の幾何学文を器面全面に施すもので、曾畑式土器である。文様帯の構成によりa・b・cの3類に分類した、第1文様帯に連続刺突文、第2文様帯に横位短沈線文を施すものが古いタイプと言える。
- ・ 18類は、広義の深浦式土器で、貝殻による連点文を主とするa類が日木山タイプ、微細突帯・刻目突帯・相交弧文等の文様を施し、比較的薄手のbタイプが鞍谷タイプである。また、該期及び該期に近い時期の無文・条痕文・不安定な突帯に粗い刻みを施す土器などを一括してc類とした。
- ・ 19類土器は、4脚または5脚の脚部を有し、外面に縄文を施すもので、竹崎（鷹島）式である。
- ・ 20類土器は、船元式土器である。a類が船元式土器であり、本遺跡の式土器はその胎土に特徴がある。黒色の砂粒が多く混入しており、これらは、他の土器では見られないものであることから、搬入品の可能性が高い。また、式土器についても、その出土量が少ないこと、本県でもあまり出土例がみられないことから式と同様に搬入品の可能性が高い。
- ・ 2類土器は、縄文時代中期後半の土器群で、数点の出土であったために、一括して扱った。阿高式土器系や南福寺式土器系等の土器である。
- ・ 2類土器は71㍉から72㍉までであり、縄文時代後期の土器群である。718は2本の凹線を単位とする文様を施すもので指宿式土器である。719は、口縁断面が三角形を呈するもので、市来式土器である。720・721は口縁部の沈線間に磨消縄文を施すもので、西平式土器である。722～725は内外面にミガキによる調整を行うもので、三万田式土器である。726・727はやや内湾する口縁部に2条の沈線を施すもので、御領式土器である。
- ・ 2類は縄文時代晩期の土器を一括した。728～73㍉までは入佐世田式土器で、728～73㍉は深鉢形土器733～73㍉は浅鉢形土器である。738から76㍉までは入佐式土器で、738～749は深鉢形土器、746～75㍉は浅鉢形土器、マリ状の形態を呈する土器等である。758～76㍉は深鉢形土器、浅鉢形土器等の中間形態である。また、762～764は、該期の底部である。特質すべきものとして、765から768がある。波状口縁を呈するもので、口縁部の沈線には、科学分析により、ベンガラが塗られていることが判明し、胎土等から搬入品と考えられるものである。（鶴田静彦）

3 石器

第 3 章第 3 節石器の項で述べたように、本遺跡では層位が不安定であり、層位による時期区分が不可能な状況にあった。南九州においては、通常アカホヤ火山灰の上下によって、少なくとも縄文時代早期と前期以降の層位的区分は明瞭であるが、本遺跡ではいずれも不可能な状況にあった。型的には縄文時代早期の土器が層、層からも出土し、その破片が層、層の破片と接合するというような状況があったのである。第 3 章第 3 節で述べたように出土した石器もまた、その出土層位によってその帰属時期、土器型式を決定できない状況であったので、縄文時代から古墳時代にかけての石器をすべて一括して叙述したのである。

そこで、縄文時代以外に帰属する石器を抽出してみたい。

はじめに磨製石斧であるが、第 3 章第 3 節でも述べたように、12, 14は弥生時代の大型蛤刃石斧の蓋然性が強い。

次に石錘であるが、11-13が弥生時代の攻玉用の石錘である蓋然性が強い。

石錘では、あきらかに2点の切目石錘は弥生時代、古墳時代の所産であろう。

磨石、凹石、敲石、石皿、砥石、軽石製品では縄文時代のそれらと同様の形態、使用痕等を持つ石器が、古墳時代成川式土器にともなって出土する事例が、少なからずある。特に、他地域では見られない古墳時代の凹石は橋牟礼川遺跡等でよく見受けられる。筆者も、成川式土器を持つ住居跡で炭化した堅果類と共に凹石が出土したのを経験している。この6器種では、個々の石器の帰属時期を、その形状によって縄文時代、弥生時代、古墳時代のいずれとは決しがたい。

磨製包丁未製品は弥生時代以降の所産である。

三角橋型石製品については、東北・北陸地方のそれは縄文時代後期から晩期にかけての所産であるらしい。第 3 章第 3 節において、本遺跡の三角橋型石製品と東北・北陸地方のそれとの類縁関係について、形態的類似はあるものの、別器種として判断した。特に、東北・北陸のそれに文様が施されているのに比べ、本遺跡のそれには文様はなく、使用の結果による研磨であることを論証したつもりである。従って、その帰属時期も不明といわざるを得ない。

以上をのぞく石器が縄文時代の所産であろうと判断できる。煩雑ではあるが、ここに列挙してみよう。磨製石斧（大型蛤刃石斧をのぞく）、打製石斧、石匙、石槍、組合式石鈎、石鏃、搔器、彫器、削器、石錐（大形をのぞく）、筒状石器、楔形石器、小形両面調整石器、石鋸、双角状石器、石鏃、礫器、異形石器、穿孔礫、使用痕剥片、加工痕剥片、石核、以上の2器種となる。これに、石錘、磨石、凹石、敲石、石皿、砥石、軽石製品の7器種も全ての個体ではないが、本遺跡の縄文文化の石器に加わるであろう。合計2器種が、本遺跡の縄文時代石器として捉えられる。

次に、本遺跡の縄文石器を検討してみたい。

まず時期区分であるが、先に述べたように層位による区分は不可能であり、他遺跡の類例によって類推するほかない。ここで参考したいのが霧島市国分の上野原遺跡第10地点の石器群である。この遺跡は塞之神式、平橋式の時期の二つの土器形式にまたがるものの、早期後葉に限定されており、少なくとも、本遺跡石器群を早期とそれ以外の時期に区分する手がかりとなる。

上野原石器群にない器種は組合式石鈎、双角状石器、石鏃である。この3器種は早期の所産では

ないと判断できるであろう。組合式石鋸は後期、市来式土器の頃に出土する例が多いようであり、本遺跡例も同様に捉えて間違いはないであろう。双角状石斧は第 3 章第 3 節で述べたように枕崎市鞍谷遺跡に種類があり、前期のものとされている。本遺跡例も同じ時期と捉えて間違いはないであろう。石鎌は、西日本では後期に出土例が多いようであり、本遺跡例も同時期と捉えて間違いはないであろう。

次に、本遺跡石器群と上野原石器群に共通する器種ではあっても、形態的、製作技法的に相違を見出せないだろうか。

磨製石斧では、本遺跡の 26, 27 は乳棒状石斧ではないかと思われる。完形ではないので、乳棒状石斧と断定するのに若干躊躇するが、乳棒状石斧は上野原石器群には含まれておらず、早期の所産ではないと判断できる。それ以外の磨製石斧は第 3 章第 3 節でも述べたように、上野原石器群と共通する形態、製作技術である。

打製石斧は、黒色磨研土器段階以降の出土例が多いようであるが、上野原石器群にも 2 点の石鋸のような打製石斧が出土している。同報告書中第 6 図 70, 71 がそれである。ただし、この資料はおそらく折損しており、完形ではないので、黒色磨研土器段階の石鋸と同一形態であると断定できない。また、大きさにおいても若干小さいようであり、土掘具としての機能・用途があったとしても、黒色磨研土器段階の石鋸とはやや異なっていると思われる。

石匙では、本遺跡石器群に合って上野原石器群にないものがある。それは粗製大形の石匙であり、本遺跡では第 26 図 30 や第 26 図 88 のように、縦型、横型ともに粗製大形の石匙があるのに比べ、上野原石器群には 1 点も見あたらない。おそらく、早期までの石匙と前期以降の石匙との違いであろう。また、小形のものであっても、粗製のものが多いのも本遺跡石器群の特徴であろう。ところで、この粗製石匙と削器との違いは何か。機能においては、その刃部形状を見る限り、何らの違いもない。おそらく、「切る」「削る」機能であろうことは一般に言われているとおりである。違いは、ただ一点、二つの挿入で作られる「つまみ」があるか、ないかである。このことは、石匙という器種の用途を考える上で重要なことであろう。通常、「つまみ」は「紐かけ」のためと説明されるが、そのとおりであるなら、「紐をかける」ことこそが削器との違いになる。何のための「紐」なのか、今後の課題にしたい。

石槍は本遺跡石器群と上野原石器群とでかなり様相が異なる。本遺跡の石槍は 1 点だけであるが、丁寧な周縁加工が施された半両面調整の細身の木葉形石槍であり、上野原石器群の石槍は、ラフな器面調整と周縁加工が施された両面調整の木葉形石槍と丁寧な器面調整、周縁調整が施された柳葉形石槍の 2 種類がある。本遺跡のような石槍は南九州では草創期、早期前葉に多いようであり上野原遺跡例との違いは、その時期差ではないかと考えられる。

石鏃では、さほど顕著な差異は見られない。本遺跡石器群の 240, 251, 277, 287, 等の、脚部もしくは側縁の一部が強く張り出す、いわば有肩石鏃とでも言うべき形態のものは上野原石器群には見当たらない。前期以降に作られるようになるのであろう。他の形態の石鏃・有茎鏃・小形剥片鏃・鋸齒縁鏃・鍬形鏃・粗製大形のいわゆる「石鋸」等 - は上野原石器群と共通するものである。

搔器、彫器にはまったくといっていいほど差異がない。ただし、彫器は前期以降の出土例が見当たらないので、早期の所産であると考えられる。

削器にはやや違いがある。本遺跡石器群には丁寧な刃部加工が施された削器がないのに、上野原石器群には多様な形状でかつ丁寧な刃部加工を持つ削器が目立つ。これは、時期差と捉えるよりも、遺跡の性格の違いが反映された結果と考えたほうが妥当ではないかと思う。なぜなら、上野原遺跡は「祭祀の場」として機能していたことが指摘されており、本遺跡はふつうの居住域であったと思われる。祭祀で使われる刃物と日常生活で使われる刃物との違いと想定したい。

石錐、筒状石器、楔形石器、小型両面調整石器、石鏃の5器種にも差異が見られない。

礫器も同じく差異は見られないが、上野原遺跡では733点にも及ぶ大量の礫器があるのに比べ、本遺跡では13点を数えるにすぎない。これも遺跡の性格の違いであろうか。なお、第3章第3節でも指摘したように、礫器のなかには、土振り具としての打製石斧と同じような使用痕を持つものがあること、木を割る際の楔として使用されたと想定できるものがあることに留意しておきたい。本遺跡で出土した異形石器は、上野原遺跡例と同一のものである。上野原遺跡の細分類にあてはめるならば、A類に相当する。これは、体部と叉状部が一体化したうえで、体部が長大化し、両側縁に複数の抉入が入るものである。

磨石、凹石、敲石、石皿、砥石、使用痕剥片、加工痕剥片にも差異は認められない。

石核も同様に差異は認められない。素材礫の木口面や板目面を作業面にする石核、頻繁な打面転移を持つ石核、盤状石核のいずれもが本遺跡石器群にも上野原石器群にも入っているのである。剥片剝離技術は、石核を見る限り、早期後葉と前期以降では差異がないということになる。

以上を要約する前に、今一度次のことを確認しておきたい。それは、上野原石器群は早期後葉、塞之神式土器・平格式土器段階のものであり、本遺跡石器群は縄文時代早期から晩期までの時期にわたるものである。

さて、上野原石器群と本遺跡石器群とを比較した結果、次のようなことが言える。

本遺跡石器群にあって上野原石器群にない器種は組合式石鋸と双角状石器と石鏃の3器種のみである。このことは、縄文時代の石器の器種構成は早期後葉でほぼ完成されるということである。

また、各器種内での形態的な違いは次の通りであった。磨製石斧では乳棒状石斧が前期以降に付加される。石匙では粗製大形の縦型・横型が前期以降に付加される。石鏃では有肩鏃が付加される。

いうまでもなく、磨製石斧、石匙、石鏃は縄文時代の石器を代表するものであるが、これらもまた、早期後葉段階でほぼ全ての形態のものが出そろい、前期以降になってから現れるのは、乳棒状石斧、粗製大形石匙、有肩石鏃の3種類のみである。

南九州における縄文時代の石器構成は、早期後葉段階でほぼ完成し、前期以降に出現するのは、組合式石鋸、双角状石器、石鏃、乳棒状石斧、粗製大形石匙、有肩石鏃である。

本遺跡では出土していない前期以降の石器はまだまだ多いものと思われるが、今後このような比較、検証を重ねることで南九州の縄文石器の様相を明らかにできるであろう。本遺跡石器群によって、ここまで明らかにすることができた。

(富田逸郎)

第3節 弥生時代

1 遺構

竪穴住居跡4軒と貝層を含む土坑1基が検出されている。その他に弥生時代の土坑・ピット群・石器類もあったことが当然想定されるが、第 章で記述したように、遺構内遺物を伴わず、かつ土層の堆積が薄く安定を欠くことから、土坑・ピット群は第 章に、石器類は第 章に一括して掲載してあるので、ここでの記述は竪穴住居跡と貝溜り土坑にとどめたい。

これら竪穴住居跡と貝溜り土坑遺構内の出土遺物からこれらは弥生時代中期のものと考えられる。竪穴住居跡の平面プランは円形のもので3軒で、方形のもので1軒である。1号住居跡からは入来 式土器、須玖式土器、黒鬘式土器、絡縄突帯文土器等多種類の土器が出土している。

中村直子氏によると弥生・古墳時代の住居跡一括資料の性格として、

火災などによって当時の生活道具を残したまま住居を廃棄した、もしくはたまたま残ったもの。

住居を廃棄する時に祭祀等の目的で意図的に土器を残したもの。

使用されなくなった住居跡がくぼ地となり、周辺で使用した土器を意図的に廃棄したもの。

住居跡のくぼ地に自然に周辺から流れ込んだもの。

を想定し、特に と考えられる事例が多いことを指摘している。このことを1号住居跡にあてはめると遺物の出土レベル差がわずかにみられるものの、入来 式土器、須玖式土器、黒鬘式土器、絡縄突帯文土器が同時期あるいはきわめて近い時期に使用されていたことが考えられる。また丹塗壺も出土しているが南九州での弥生時代中期の丹塗土器は薩摩半島西海岸側を中心に出土例が報告されているものの、きわめて少なく北部九州や中部九州で製作されたものと推察される(中園 1998)。

いわゆる松菊里タイプの住居とは円形の掘込みで床面中央に炉跡があり、その両脇にピットを有するものであるが、南九州では弥生時代前期から中期(入来 式期)の遺跡でみられるものである。本遺跡の2・3号住居跡はその時期に該当し、形状より松菊里タイプの住居であると考えられる。これと同様と考えられる住居跡は隣接する市ノ原遺跡第2地点と桜ヶ丘団地遺跡・魚見ヶ原遺跡(共に鹿児島市)で報告されている。また住居内埋土から見た場合、1～3号住居は鬼界カルデラ起源の通称アカホヤ火山灰の単一層であった。このことから同時期に住居が使用されていたことが想定される。住居内遺物で特筆すべきは、2号住居跡のすぐ横で出土した壺形土器の口縁部(27)上面には管状の工具で刺突した連点文を有し、弥生時代中期の在地の壺形土器にはあまり見られないものであることから、人の移動に伴う他地域からの搬入品であることが考えられる。また打製石鏃の出土は無く、3号住居跡に隣接するピット(P17)と4号住居跡からは頁岩の磨製石鏃が出土している。このことは住居跡から打製石鏃が出土し、この時期まで打製石鏃の使用が確認されている市ノ原遺跡4地点の弥生時代前期の竪穴住居跡との時期差を現すものであると考えられる。

本遺跡の集落の性格としては、広い面積の調査にもかかわらず、4軒の住居跡しか検出されていないということから小規模で継続性があまりない短期廃絶型集落であったのが、あるいはさらに調査区外の北東方向に継続的に営まれた集落がひろがっていたかもしれない、という二つが考えられる。いずれにせよ遺跡が所属する台地全体から集落の位置づけを検討していく必要があると考える。

貝溜り土坑は古墳時代の竪穴住居跡(2号)に隣接する地点で検出されたので、古墳時代の遺構である可能性が当初は考えられたが、土坑内貝殻の放射性炭素年代測定を行った結果、2561 ± 32と

いう結果が出ている。貝種は沿岸の岩礁域に生息するものの割合が高かった。また土坑内からは入来 式土器の鉢形土器 (51) も出土している。2561 32は入来 式土器の使用時期のひとつの基準になりえるものであると考えられる。

この他、G - 3区に小規模な貝の散布域がみられ、このことは、第 3章古墳時代に記載してあるが、同じく放射性炭素年代測定を行った結果、2702 30という結果が出ているので弥生時代の遺構とみなすのが妥当であろう。これらの貝類は本遺跡の南西方向に直線で約 18m先にある東シナ海の海岸よりもたらされたものと考えられる。

2 遺物

本遺跡での弥生土器の出土状況は甕形土器の出土量が多く、次いで壺形土器がくる。鉢形土器・高杯の出土量は非常に少なく、また蓋形土器は小片で見落としているかもしれないが、確認されなかった。これは南九州の弥生時代の遺跡の傾向とだいたい一致するようである。時期は弥生前期から中期に及ぶ。甕形土器は形状・調整をもとに1～10類に分類し、さらに12に細分した。1～4類は弥生時代前期、5～10類は弥生時代中期の土器である。出土量より中心を占めるのは1～4類であるが、竪穴住居跡と貝溜まり土坑より出土した甕形土器はいずれも弥生時代中期の土器の5・7・8・9類である。なお、この分類は基本的には中園聡氏の編年案(中園 1997)によって行うこととしたい。

1類～4類は現在大雑把に夜臼式土器・板付式土器・高橋式土器と呼ばれている土器群である。

1類～3類は刻目突帯文を持つ甕形土器で、4類は高橋貝塚で河口貞徳氏が高橋 式とした如意状口縁部を有する甕形土器である。1類は口唇部からわずかに下がったところと屈曲部に刻目の入った断面三角形の突帯を貼り付けるもので2・3類は口唇部の外側と胴部の屈曲部付近に刻目の入った断面三角形の突帯を貼り付ける。一般的に口唇部からわずかに下がったところ貼付けられているものが、口唇端部に貼付けられるものより古いとされる。また、3類土器になると胴部の屈曲がかなり緩やかになっており、砲弾形にすぼまる形状に変化してきている。4類土器は如意形の口縁部を有するもので、弥生時代前期中頃に位置づけられるものではないか考える。

5類より後は、弥生時代中期の土器である。5 - A類 入来 式土器、5 - B類 入来 式土器、6類 吉ヶ崎式土器、7類 一の宮式土器のような絡縄突帯を有するものである。口縁部断面が厚く、一の宮式の祖形になるものではないかと思われるが、資料が2点しか確認されないため詳しくは不明である。他地域からの搬入品の可能性も考えなければならぬだろう⁽¹⁾。8類 須玖 1・2式土器、9類 黒髪 1・2式土器に比定される、10類は5～9類のいずれにも該当しないもので、南九州の弥生時代中期(入来 式期)の遺跡で報告数は少ないが、見かける甕形土器である。ところで黒髪式土器は九州中部の肥後地方を中心に出土が見られる土器型式であるが、南九州では黒髪式土器が後期に松木園式土器へ変化していったことが指摘されている。本遺跡では松木園式土器が出土していないことから、弥生時代後期には人々の定住が見られなかったものと考えられる。壺形土器に関しては完形復元できたものが無く、全体形状は不明である。肩部にヘラ描きの沈線で数条の直線文・鋸歯文・重弧文等が施されているものは弥生時代前期のものである。口縁部内面に突帯が二条貼り付けられているもの(213-215)は弥生時代中期のものである。その他甕形土器と壺形土器以外の器種がほとんど出土しないのは、前述したように南九州の遺跡で一般にみられる傾

向であり、本遺跡にもそれはあてはまる。特に高環形土器と確認されたものは小片で判断できないものを除くと1点(233)のみであり、これは弥生時代中期(甕形土器8類の時期)のものである。

磨製石鏃は住居内と住居に隣接するピットから出土しているものの、包含層での出土はみられなかった。打製石鏃は第 3 章第 3 節に掲載されたもののなかに弥生時代のものも含まれていると考えよう。

水はけの良い台地上に位置する本遺跡は、第 3 章に掲載したように水田耕作をおこなう上で必要な石器はきわめて少なく、縄文時代以来の打製石斧・磨石・石皿が数多く出土している。このことから、本遺跡の弥生時代前期から中期の人々の生業は水田耕作に依存したのではなく、縄文時代以来の狩猟・採集と畑作あるいは栽培に依存した生活を行っていたのではないかとということが窺える。ただし、畑作・栽培に伴う石器とされる打製石斧は出土層の堆積が不安定であるため、弥生時代のもとの断定できないことも附言しておきたい。(抜水茂樹)

第4節 古墳時代

1 遺構

竪穴住居跡4軒と貝溜り土坑1基が検出されている。その他に弥生時代と同様に土坑・ピット群・石器類もあったことが当然想定されるが、第 3 章で記述したように、遺構内遺物を伴わず、かつ土層の堆積が薄く安定を欠くことから、土坑・ピット群は第 3 章に、石器類は第 4 章に一括して掲載してあるので、ここでの記述は竪穴住居跡と貝溜り土坑にとどめたい。1・2号竪穴住居跡の検出位置は弥生時代の竪穴住居跡とほぼ隣り合う場所であり、3・4号竪穴住居跡はややはなれた場所に位置するものの、本遺跡の古墳時代における生活の中心地域は1・2号竪穴住居跡の周辺であると考えられる。

竪穴住居跡の平面プランは円形のものが2軒で、方形のものが2軒である。1・2号住居跡は弥生時代の竪穴住居跡と形状が似ており共に床中央部に炉跡と考えられる凹みがみられる。3・4号住居跡は非常に小規模な住居跡で、1・2号とは時期差や用途の違いがあるのではないかと考えられる。住居内遺物として甕形土器、鉢形土器、小形丸底壺、高環形土器、磨石が出土している。このなかで3号住居跡から出土した高環形土器が胎土と形状より他地域からの搬入品であると思われる。住居内出土土器の特徴から1号～4号住居跡は古墳時代前半期の東原式土器の住居であると考えたい。貝層を含む土坑より出土した貝種は弥生時代の貝種と同様に沿岸の岩礁域に生息するものの割合が高かった。遺構内の脚台がはずれた甕形土器は竪穴住居跡内の甕形土器と同じ東原式土器であるので、やはりこの時期の遺構であると考えたい。

2 遺物

出土範囲は4軒の竪穴住居跡とだいたいにおいて一致する。器種の特徴を甕形土器でみると、弥生時代終末期～古墳時代前期の中津野式土器、古墳時代前半期の東原式土器、古墳時代後半期の篋貫式土器の3型式がみられ、このなかで主体をなすものは東原式土器である。このほか器壁が薄く、口縁部内面に稜を作るほど強く外反する布留式の甕形土器も出土しており、他地域と交流があったことが伺える。(抜水茂樹)

第5節 古代・中世

1 遺構

本遺跡で検出された古代・中世の遺構は、掘立柱建物跡19棟、溝5条、道跡2条、焼土跡10區、土師皿埋納土坑1基である。

掘立柱建物跡については、切り合い関係にあるものはなく、建物の方向などから何棟かは同一時期に建てていた事が予想される。ただ、それぞれが非常に接近しあっているため、同時に19棟全部が建てていたとは考えにくい。これらの建物群の性格については、共伴遺物がないことから、古代から中世の具体的にはどの時期に建てられた建物であるということは不明である。

溝は、a・b層の上面で5条検出され、底面が平坦もしくは丸みもち、ゆるやかに立ち上がるのが特徴である。埋土からは、土師器・内黒土師器の塊、東播磨系須恵器の捏鉢、古墳時代の手捏土器などが出土した。白磁の碗や銅製品も出土しているが、おそらく近世のある時期に埋土に紛れ込んだものであろう。また、唐銭の「開元通寶」(初铸年62年)も出土しているが、これも古代から中世の時期に使用されていたものか、あるいは後の時代に混入したものかは、定かではない。道跡は南北に直線状にのびており、埋土からは土製品、土師器の坯底部、土錘等が出土した。検出層位や埋土状況により、古代から中世の時期に使用された道路跡と判断した。

焼土跡については、著しい痕跡が認められるもの10か所とし、遺構内からは土師器の塊、内黒土師器の塊もしくは坯、土師器の甕、鉢等が出土した。焼土跡の断面を観察すると全体的に底面はほぼ平坦でゆるやかに立ち上がるものが多く、遺構内遺物はあまり多く確認されなかった。

土師皿埋納土坑は、長軸約86cmの二層土を埋土とする楕円形の土坑で、遺物は糸切り痕のある土師皿である。調査時の不手際により遺構の一部が切られ、全体形状は不明であるが、中世の土坑墓として捉えてよいのではないだろうか。

2 遺物

古代の遺物は、主に a・b層を包含層として、土師器の鉢・塊・坯・甕、内黒土師器の塊・坯、墨書土器、麗書土器、須恵器の皿、蓋、甕、鉢、壺などが出土した。墨書土器の中には「万」「万万」と解読できるものがあり、同様に解読できる墨書土器が出土した市ノ原遺跡第1地点との関連性が窺える。市ノ原遺跡第1地点では405点の墨書土器が報告されており、遺跡の性格として「建物跡や遺物などから寺院またはこの地方の豪農の居宅かと推定され、寺院・豪農の居宅のいずれであっても、文字の使用を頻繁に行う階層の人(々)がそこに生活していたことは事実であり、それは薩摩国司が直接間接かは不明としても管轄する場所であったことが想定される。」としている。そして、第3地点の遺跡範囲でも墨書土器が出土していることから、何らかの関わりがあったであろうことが推察できる。しかし、第1地点に比べると全体的に古代の遺物量、特に墨書土器の出土量は少なく、単純に第1地点と同様に捉えることはできない。前述したように、掘立柱建物跡でも決め手となるような共伴遺物は確認されず、建物群の定義付けも困難である。よって本遺跡は、あくまでも第1地点が中心となる施設群の周辺部としての位置付けを考えるのが妥当であると考えられる。

中世の遺物は土師器、須恵器、瓦質土器、備前焼、輸入磁器(青磁・白磁・青花)、土製品、滑石製品等が出土している。このなかで土師器は碗、坯、皿で、須恵器と瓦質土器は九州北部の埴万

文(倭番城)系と東播磨系の広域流通品である甕、摺鉢・捏鉢等である。東播磨系須恵器の鉢・甕は12世紀後半から15世紀前半にかけて西日本に広く流通しており、南九州の中世前半期の遺跡でもよくみかけるものである。青磁は全て15世紀に編年される龍泉窯系のものである。

九州西部では中国陶磁器の輸入量は13世紀から14世紀前半期に最盛期を迎え、一部庶民階層にまで需要は及んでいる。本遺跡の中世の出土遺物は概ね14世紀中頃から16世紀前半の遺物でしめられており、この時期に該当するといえる。(市村哲二、抜水茂樹)

第6節 近世

本文中にもたびたび記述している通り、本遺跡は以前、圃場整備事業が行われたり、本来なら近世の主な包含層である・層は部分的にしか見られなかったため、近世と判断できる遺構は検出されず、掲載遺物も表探のものが大半である。本遺跡の南東部に隣接する市ノ原遺跡第4地点では本遺跡寄りの調査区内西側で近世の街道(出水筋)跡とされる道路遺構及び街道沿いに位置したと考えられる集落とされる遺構(掘立柱建物跡、溝状遺構、竈跡、遺跡等)が確認されているにもかかわらず本遺跡で同時期に該当する遺構が検出されなかったわけであるが、そのおもな理由として道路遺構や集落からややはずれた場所に本遺構が位置していることと、先に述べた圃場整備等の事業で遺構が削平されてしまったことなどを可能性として挙げたい。ただし、出土遺物は17世紀後半～19世紀後半にかけての肥前系陶磁器・在地区陶磁器と椀型滓が他の時代と較べると極めて少量であるが出土していることから、本遺跡及びその周辺で近世の時期に生活の営みがあったことを伺い知ることができる。特筆すべきは徳利(8・9)、片口(16)、蓋(18～20・22)、甕(23・24)等で、これらは初期の薩摩焼(苗代川焼)の様相を有するものであることから、本遺跡より南東方向に直線で4km強に位置する堂平窯かその周囲の窯で製作されたものと考えられる。なお製作時期については堂平窯跡報告書(埋文センター2006)に基づく下記の通りである。

- ・ 期(17世紀前半)

期(1620～1630年代)

期(1630～1650年代)

- ・ 期(17世紀後半)

このなかで本遺跡出土の遺物は 期に該当するものである。これらのものは製作地である苗代川より、出水筋等の経路を経て本遺跡に持ち込まれたと考えられる。また同時に本遺跡を含み周辺地域でも17世紀後半には堂平窯製の薩摩焼が広く流通していたことが伺える。(抜水茂樹)

注

(1) 中國聡氏の指摘による。

【引用・参考文献】

中國聡 1997「九州南部地域弥生土器編年」 『人類学研究第』9号 人類学研究会

中國聡 1998「丹塗精製器種群盛行の背景と性格 東アジアの中の須玖 式土器」 『人類学研究第』10号人類学研究会

- 河口貞徳 1981 『一の宮遺蹟報告』 『河口貞徳先生古稀記念著作集』 上巻
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2003 『市ノ原遺跡第1地点』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(49)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2006 『堂平窯跡』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(106)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2008 『上水流遺跡2』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(121)
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター 2008 『市ノ原遺跡第4地点・第2地点』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(130)
- 佐賀県教育委員会 2008 『西畑遺跡1』 佐賀県文化財調査報告書17巻
- 三日月町教育委員会 2005 『戊,赤司,赤司東,深川南,土生遺跡』 三日月町文化財調査報告書 第16巻
- 亀井明徳 1986 『日本貿易陶磁史の研究』 同朋舎出版
- 『一湊山遺跡』1996 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(19)
- 『上野原遺跡(第10地点)』2001 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(28)
- 『城ヶ尾遺跡』2003 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(60)
- 『桐木耳取遺跡 一』2005 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(91)
- 『堂園平遺跡』2006 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(104)
- 『前原遺跡』2007 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(107)
- 『向柗城跡』2008 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(129)
- 『中尾田遺跡』1981 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(15)
- 『中ノ原遺跡 一』1989 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(48)
- 『前畑遺跡』1990 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(52)
- 『上水流遺跡』1998 金峰町埋蔵文化財発掘調査報告書(9)
- 鹿児島大学考古学研究室25周年記念論集刊行会編 2006『Archaeology from the south 鹿児島大学考古学研究室25周年記念論集』 鹿児島大学考古学研究室25周年記念論集刊行会
- 小林 達雄 2008 『総覧 縄文土器』 編アム・プロモーション

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(140)
南九州西回り自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(XIX)

市ノ原遺跡(第3地点)【第Ⅲ分冊】

発行日 2009年3月

編集 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号
電話番号 0995-48-5811

印刷 ㈱イースト朝日
〒891-0122 鹿児島県鹿児島市南栄3丁目30-7
電話番号 099-266-5522